

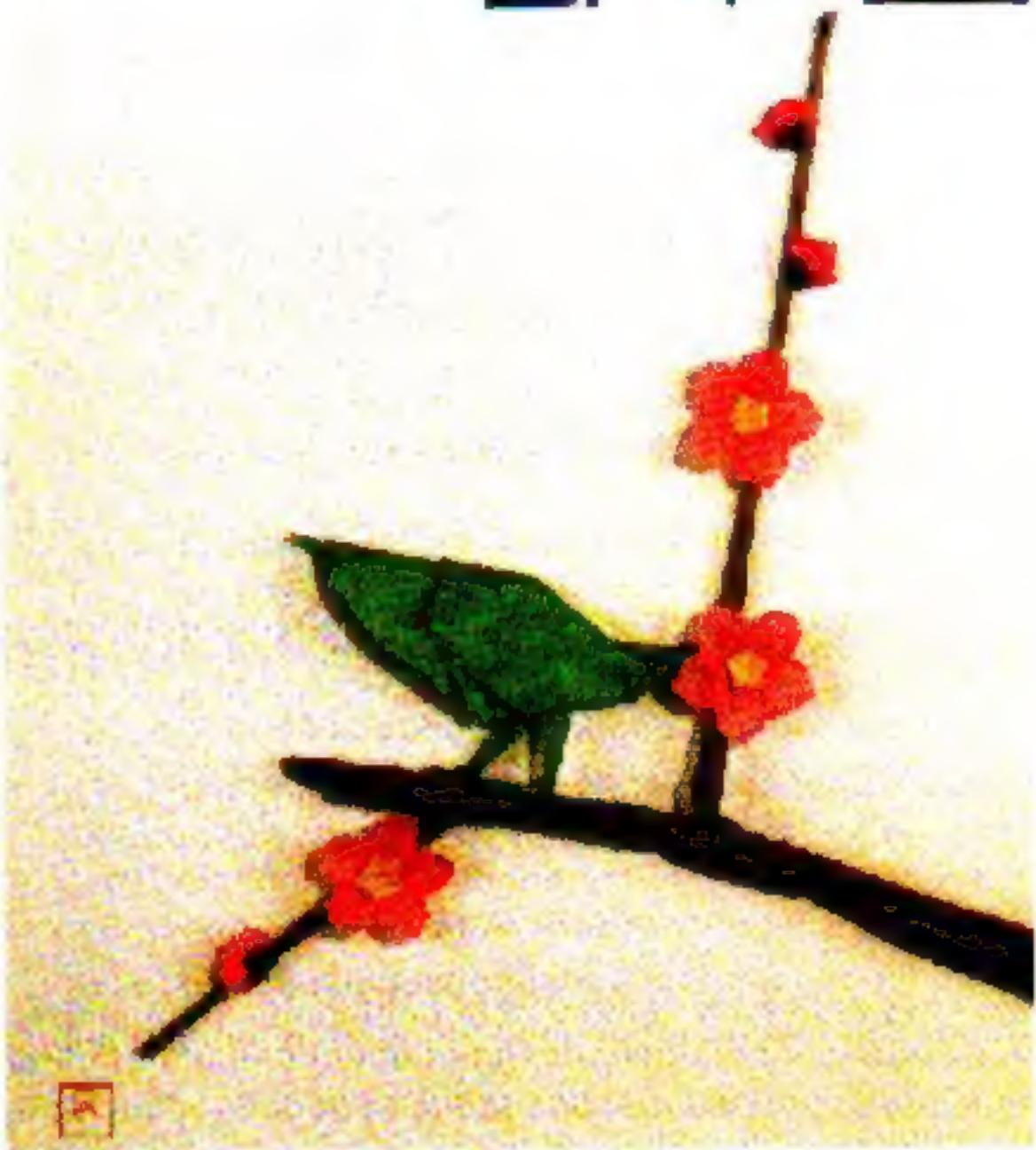
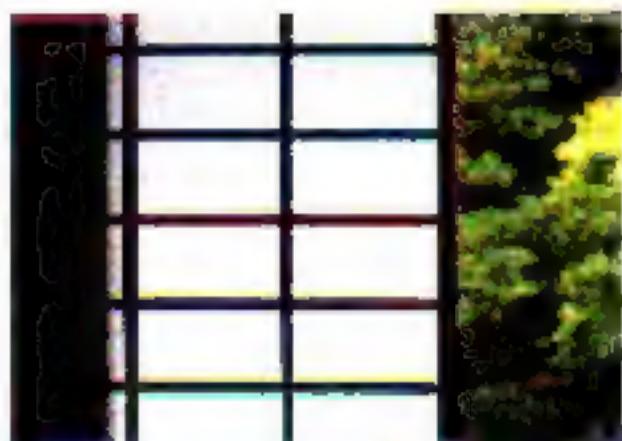
かえる

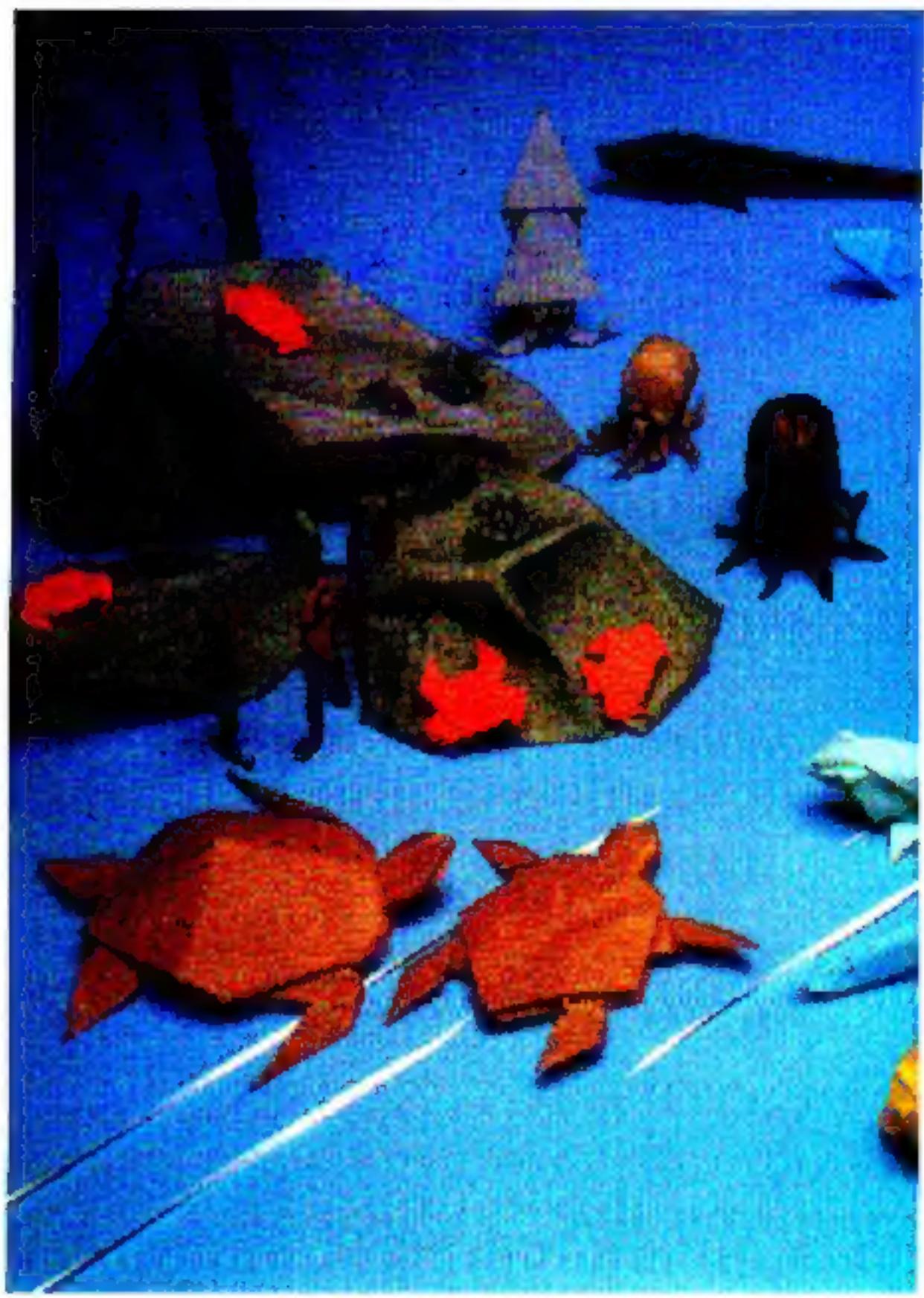
「かえる」の本節に並んで、他の歌がいくつも、この小川の歌詞がとてもよく似た歌があり。でもその歌の歌詞を手本として書かれてあるから、このように歌詞を手本で覚悟をとることでいい。歌詞は歌詞だけ、歌のCDが日本語で入っていることをぜひ覚えて。



梅にうぐいす

梅の花をめぐらすうぐいすの声。うぐいすの歌。うぐいすの花。うぐいすの聲。うぐいすの香。





虫

お下り物うつててくとろがしていあれは
じ通のたるる者でうべ。そして、そんづ
はいた。あるかど。國主やもかへて。御者
ひきりしの御内へ。之に不破を御子御は一木
もあつていたいと。うけ我おびとん。



ひまわり

ひまわりの花言葉は「太陽を愛する心」

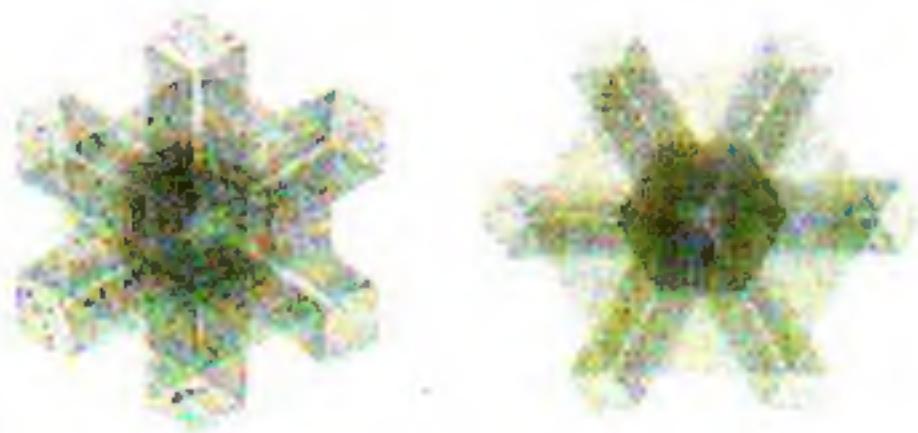
太陽を愛する心をもつて





はなの四季





折り方の記号

山線 ----- 細部は 外にして折る

谷線 ----- 細部は 内にして折る

-----³ 数字の順に折る

-----やわらかく曲げる

→ 表に折る

← 裏に折る

→→ 矢の方向が縦紙

裏返す

卷き折り

→ 引き出す・押し込む

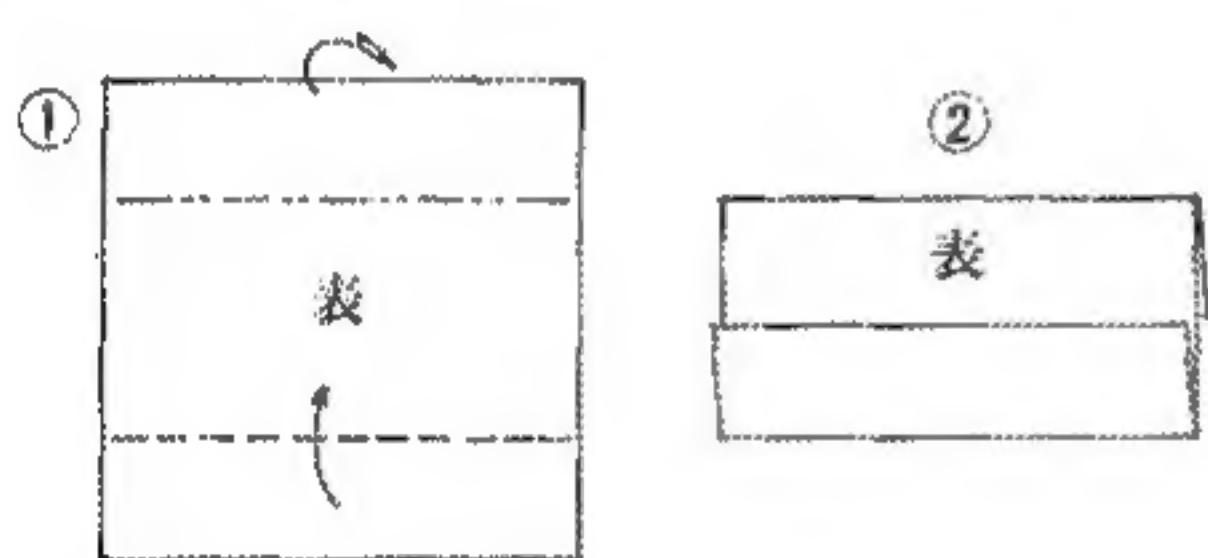
→ 途中から製図拡大

凹凸 四面・凸面に使う

----- 中心線

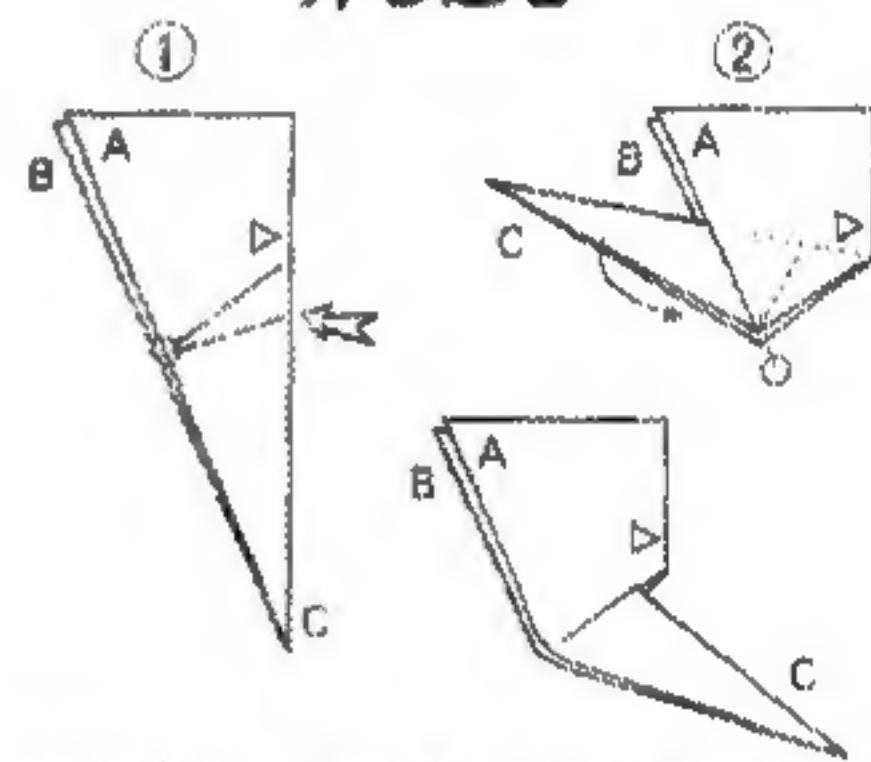
----- 切り線

折る

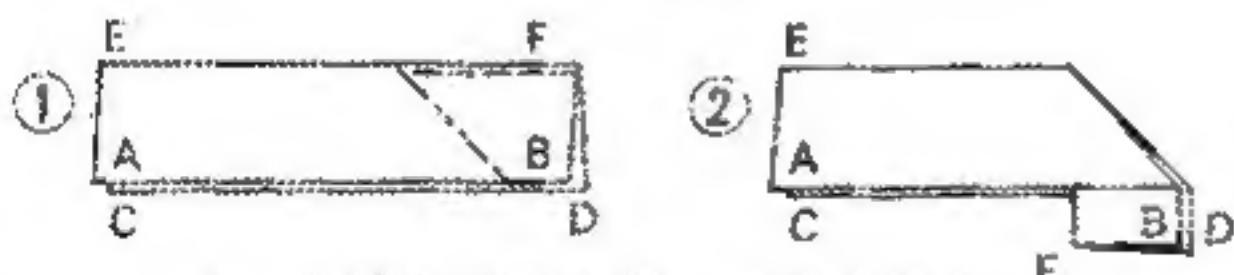


折り方例

押し込む



折り込む



F の谷線はすでに折ってある折り目を折り返すので普通省略する。

● 数字の順に折る。

● 製図に紙の表や裏の記号はつけないが、普通一回折って紙の表が外になるように折る。

● 重なっているところは表にだけ記号をつけてある。

● 途中まで同じ折り方は同じ部分を省略。

● 製図だけで判るものは説明文を省略した。

● カドや面に ABC や O□△をつけたり、そのほ

△印をもち、○印のところに折り目をつけないように注意して親指で押し込み、斜めに段をつけ、C を引き出す。

鳥の胸や動物の関節などの折り方に使う。

か適当な記号をつけてある。

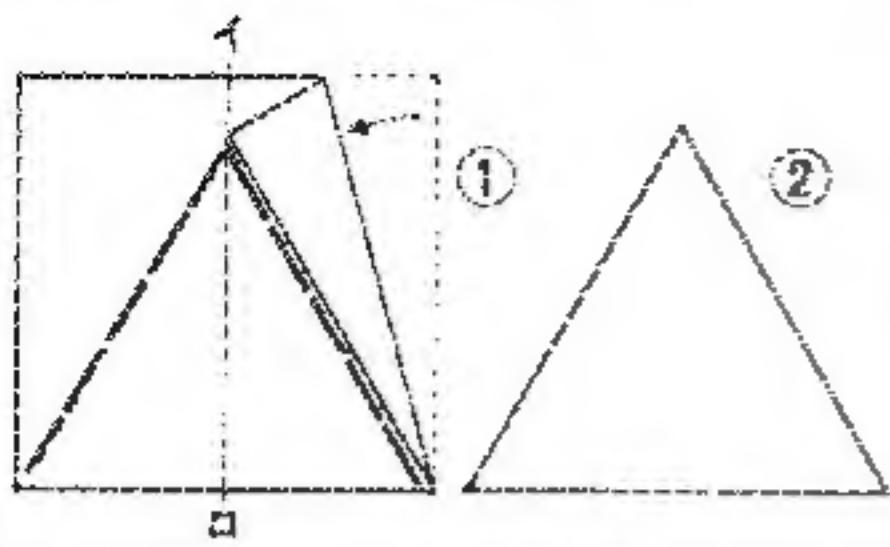
● 角度を合わせながら折れるように、小さい部分は折り線を長くしてある。

※ 折り方の記号は折り紙の図解に大変重要である。紙という素材に最も適した記号として私の考案したものが世界に普及されてきている。

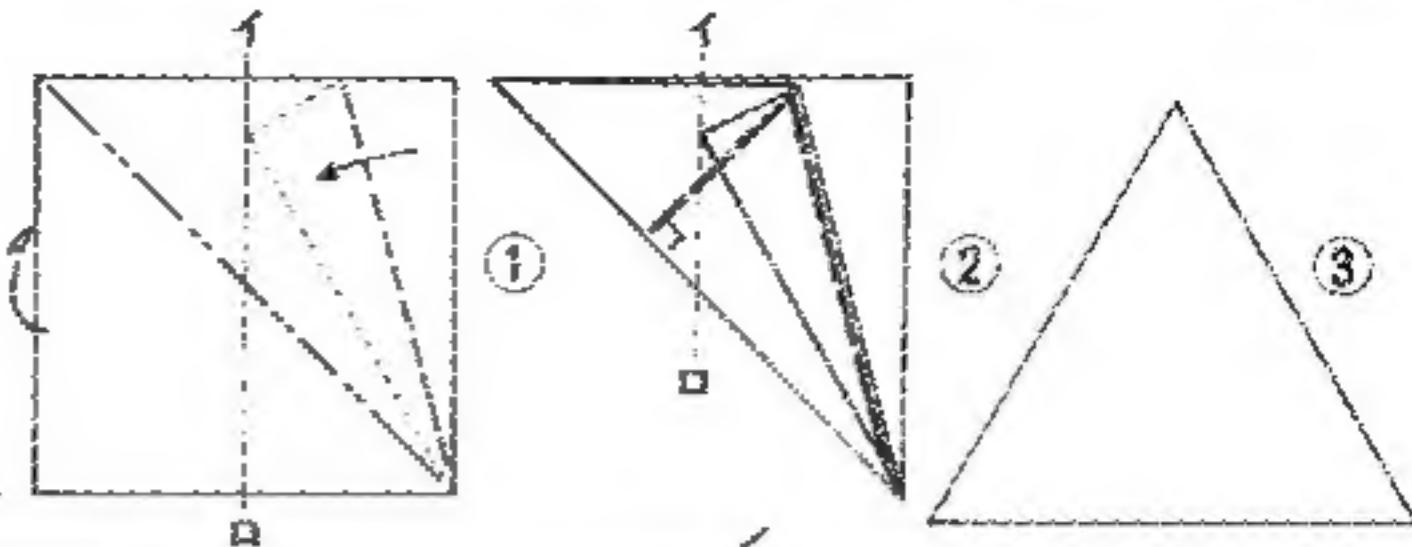
折り方例はごく一部で、実際に折る場合はさまざまな技法を用いることになる。

原形の作り方

(1) 正方形の紙から三角形



(2) 正方形の紙から三角形

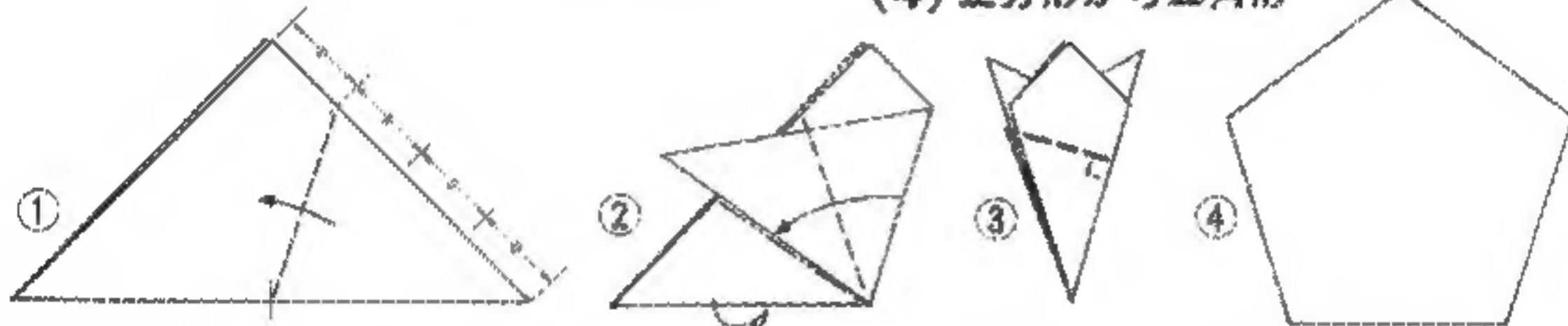


(1)正三角形 中心の垂線を縦にして紙どりをすると実際に使いやすい。垂線の折り目は頂点のあたりにだけつける。
 (2)は(1)の方法よりも大きめの三角形が出来る。
 (3)菱形は(1)(2)と同じ系統の折り線による。

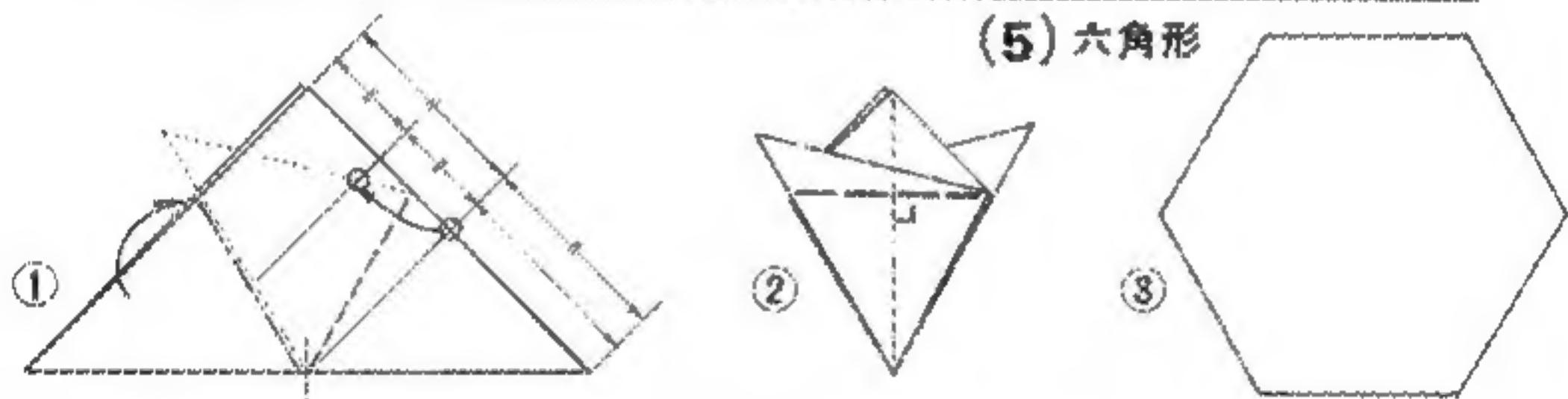
(3) 菱形



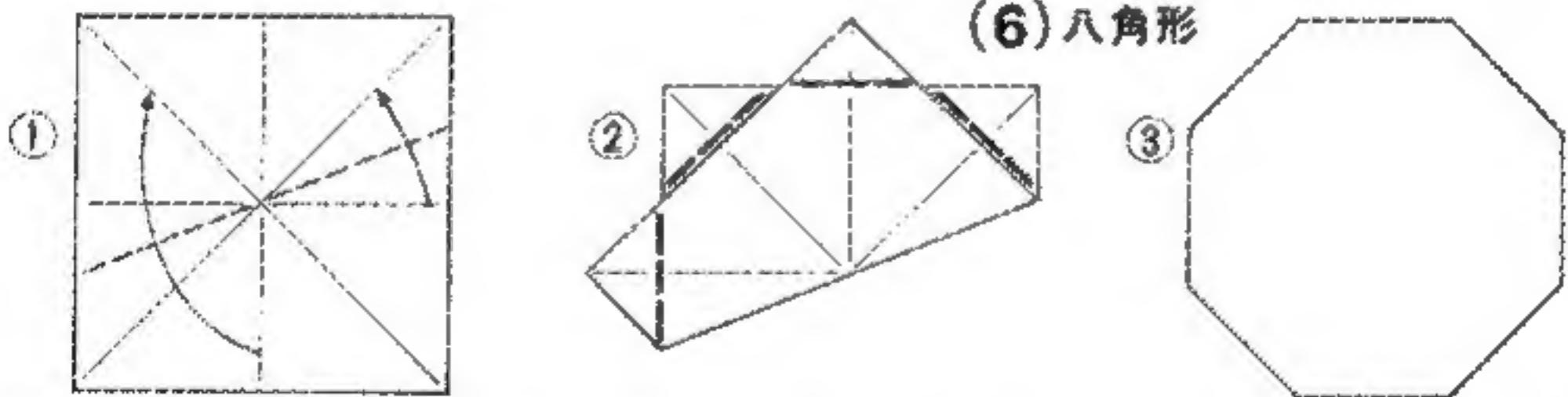
(4) 正方形から五角形



(5) 六角形



(6) 八角形



直角二等辺三角形は正方形の対角線を切って作ることが出来る。

(4)五角形 これは近似値であるが、他の正五角形を作る方法にくらべて、中心から放射線の折り目がつくだけなので、折り紙の用紙で作るにはよい。

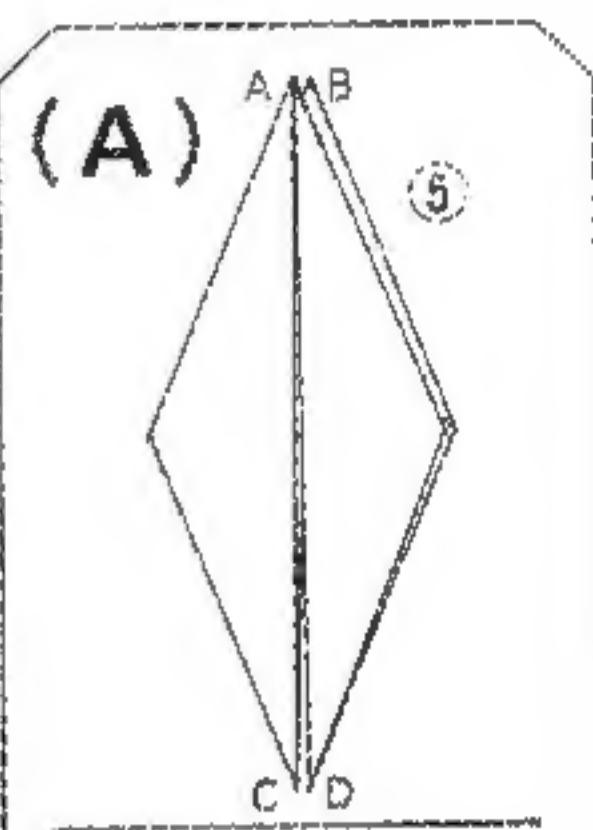
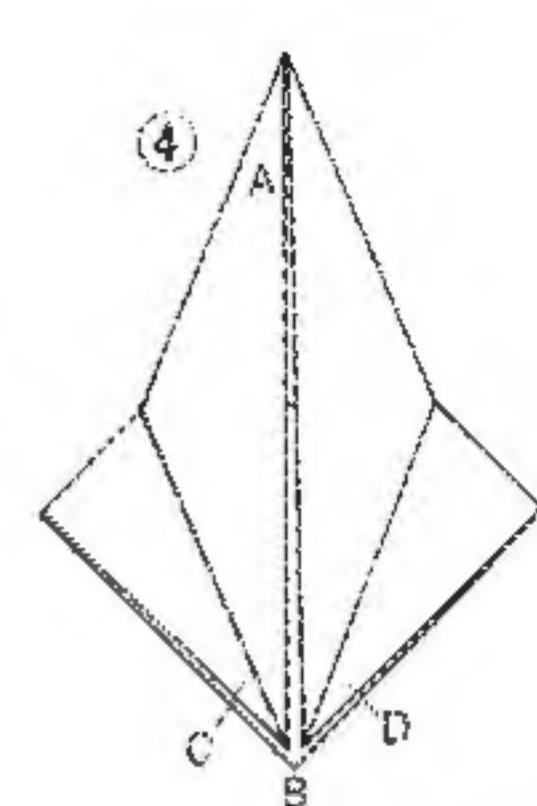
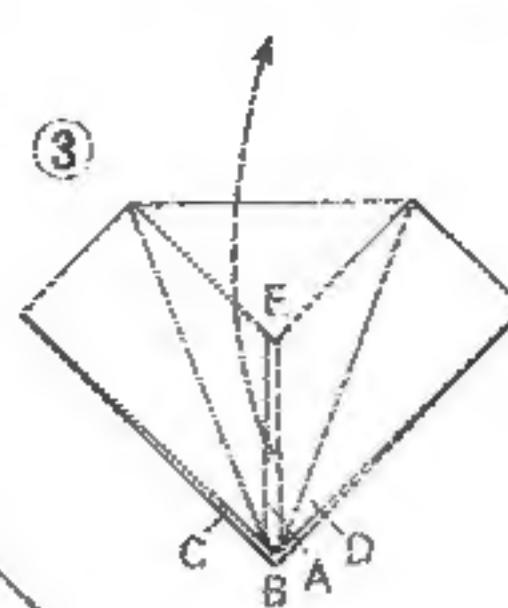
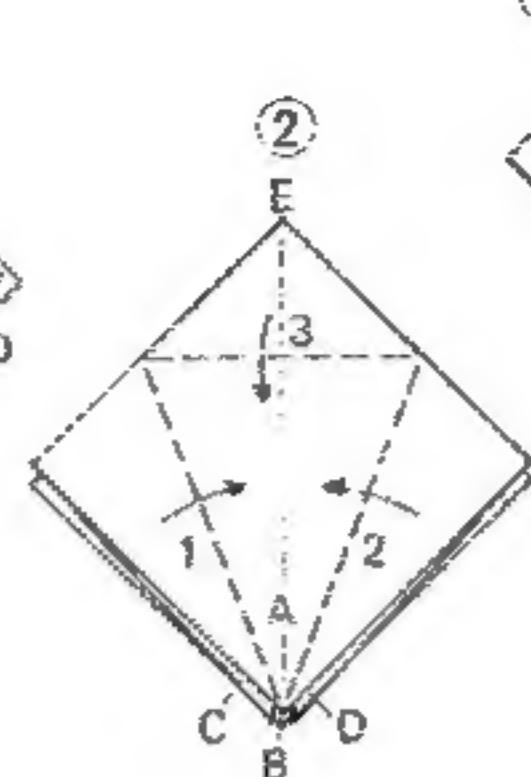
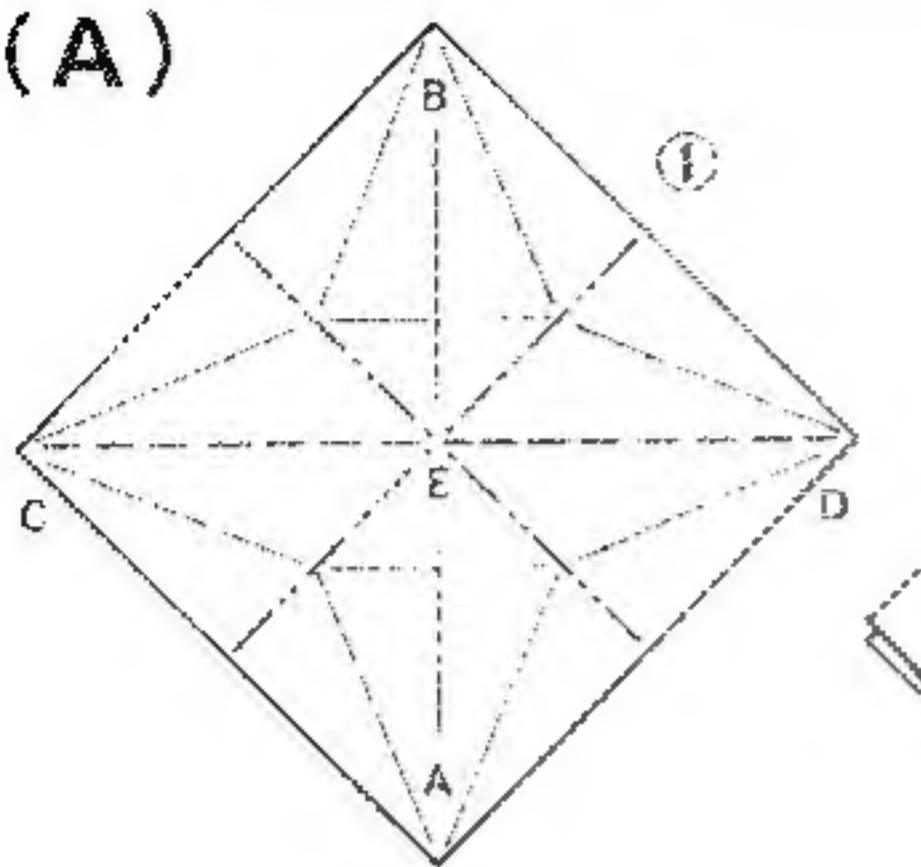
(5)六角形 正方形を直角二等辺三角形に折って底辺を 60° に分割して作る方法である。

(6)八角形 紙の中心を通る4本の線を基本にして作る。

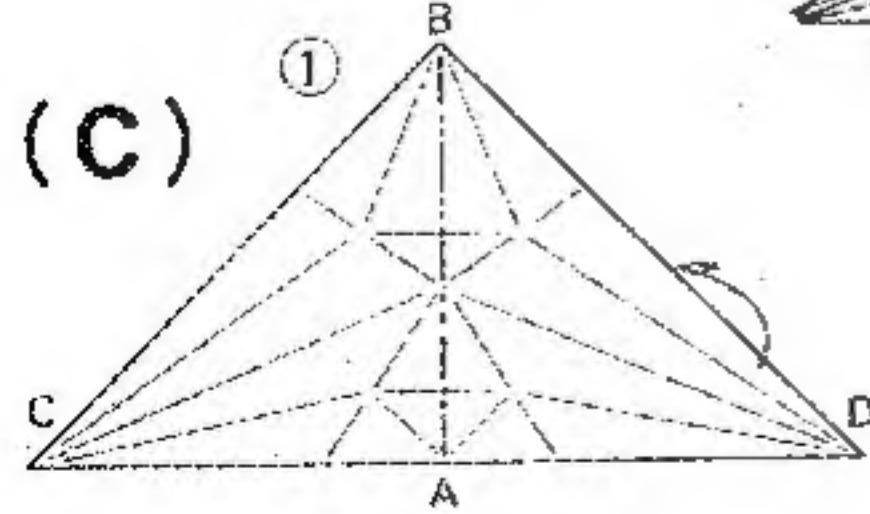
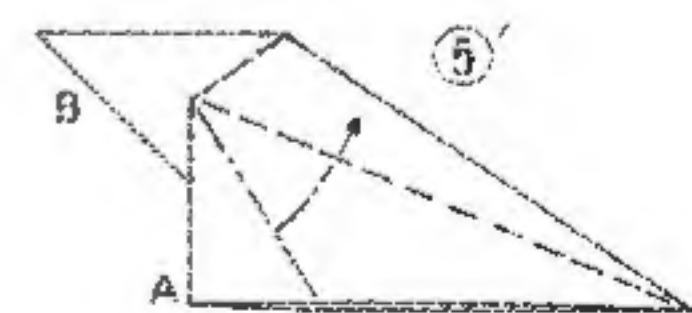
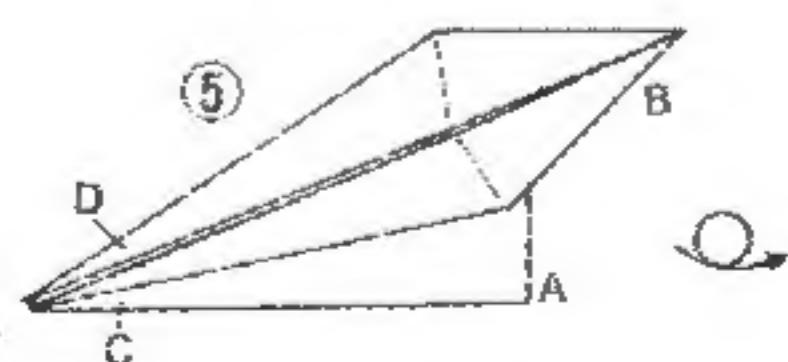
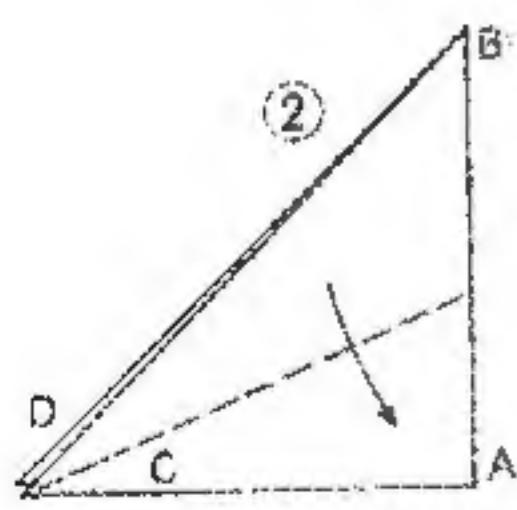
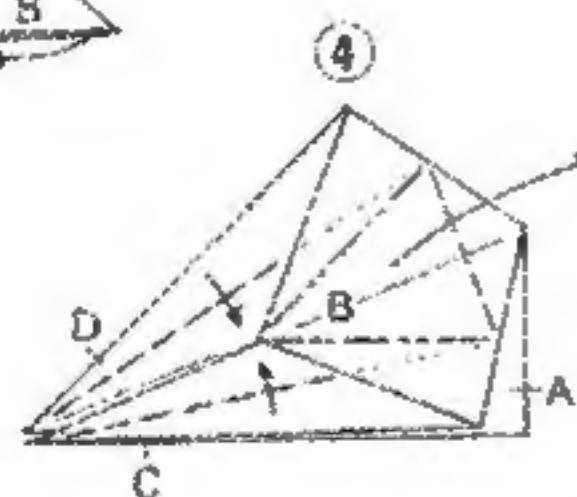
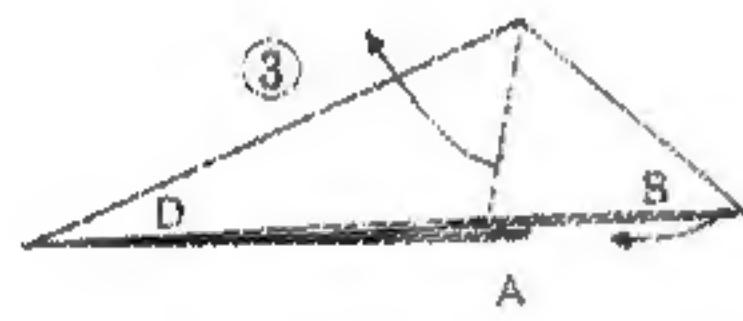
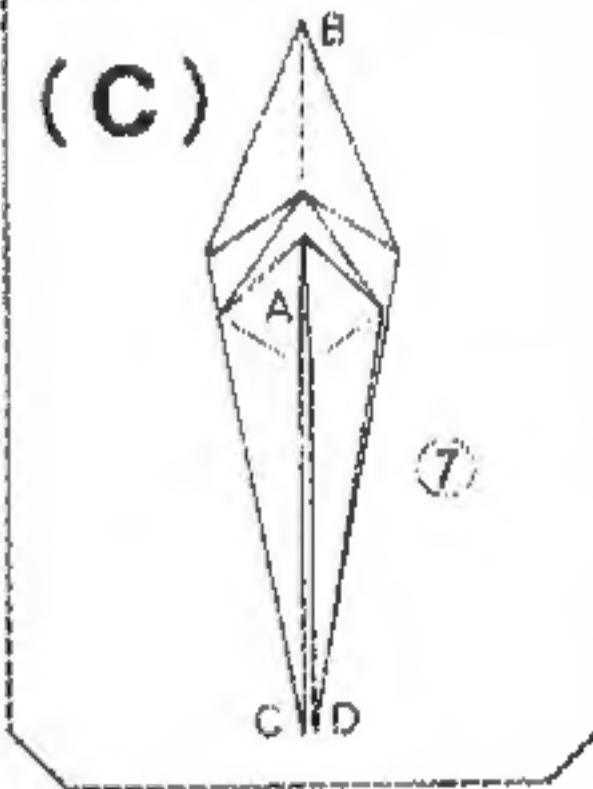
一般には折り紙は正方形の紙からと考えるので、ここでは正方形から用紙の原形を作る説明にした。

基礎折り

(A)

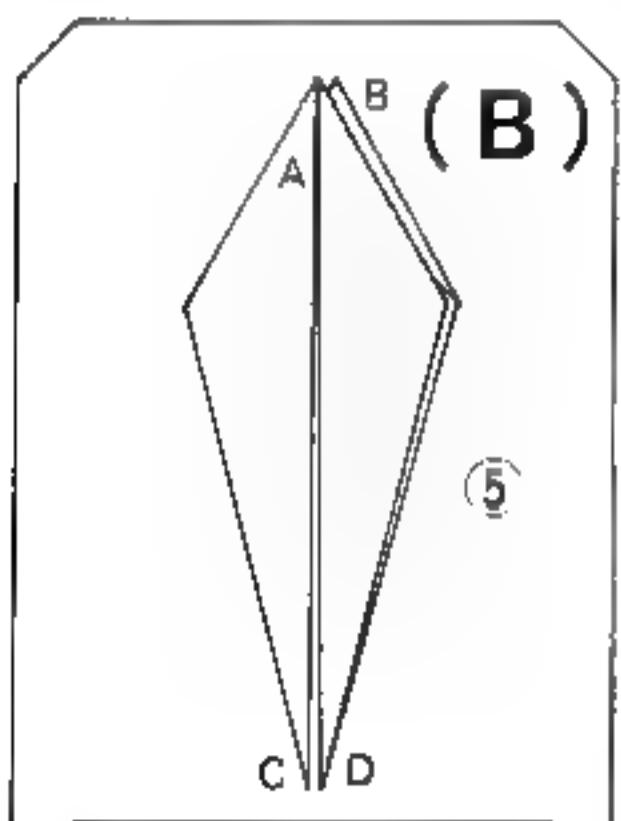
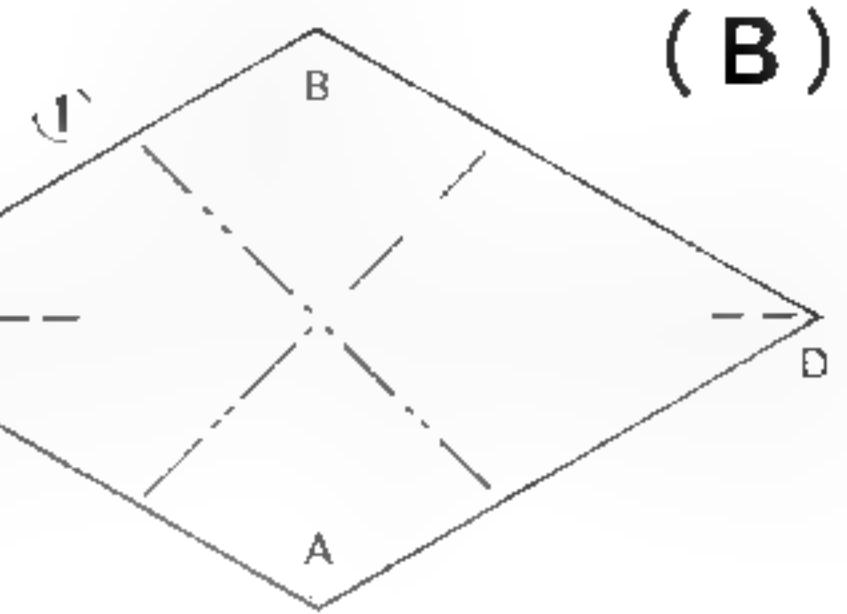
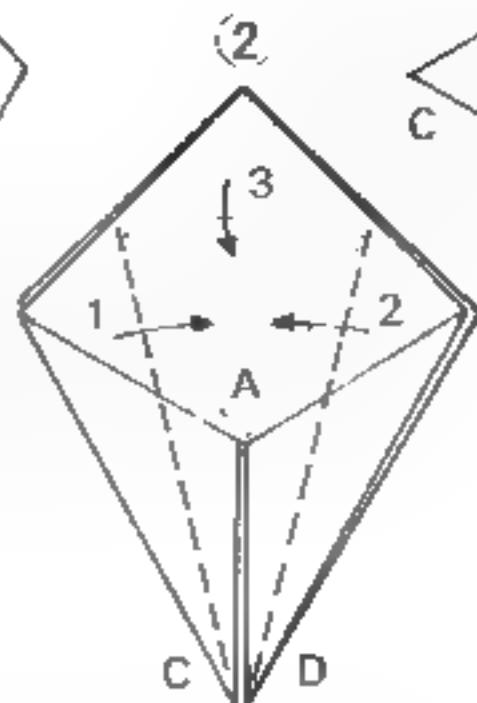
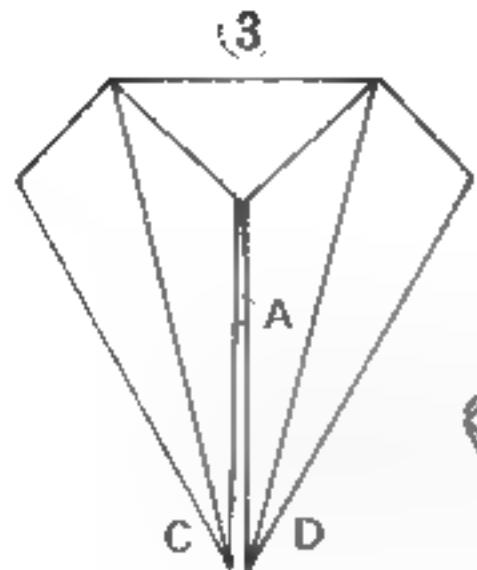


①正方形の紙を山線と谷線で②のように折る。②③④の順に折り目をつける。③Aを④のように開き出す。④裏側のBもAと同様に折る。⑤基礎折り(A)。



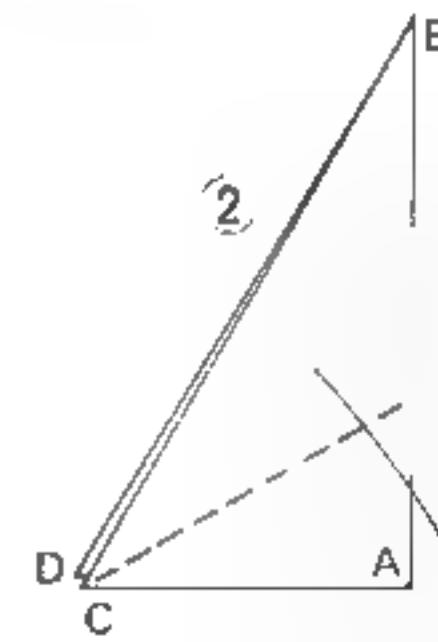
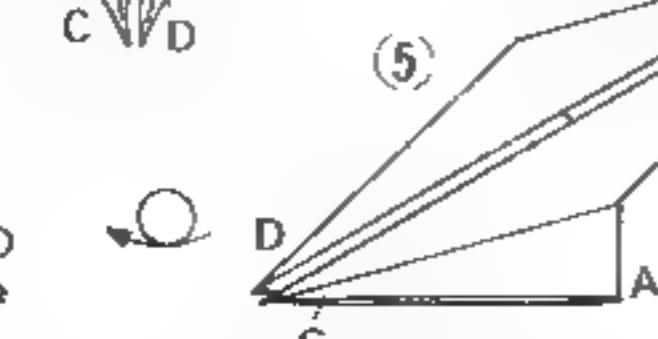
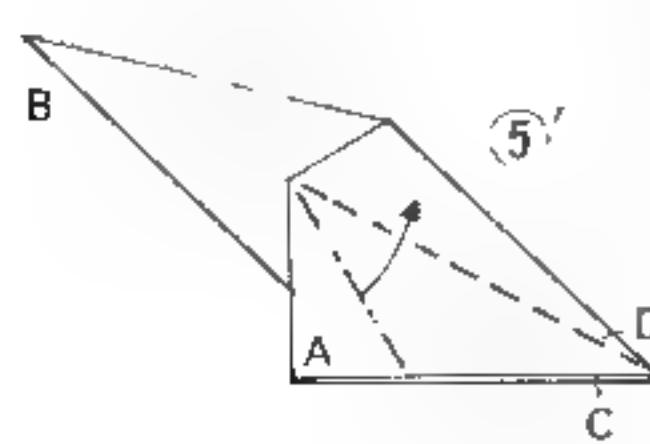
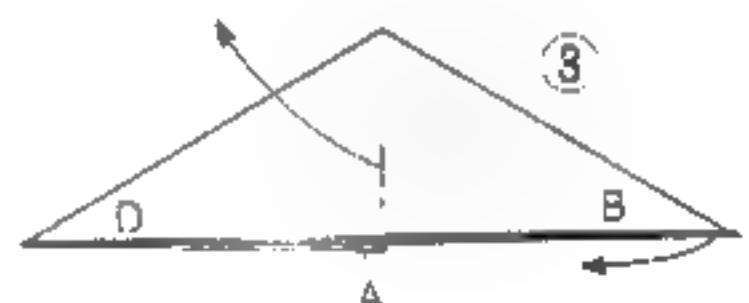
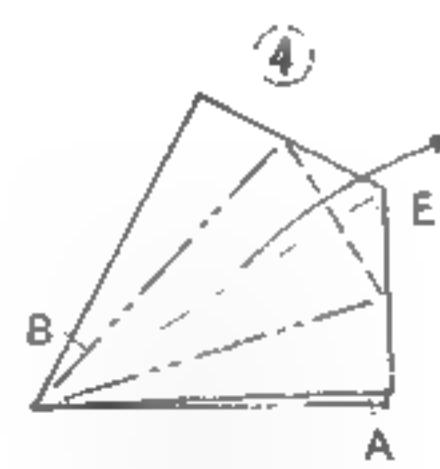
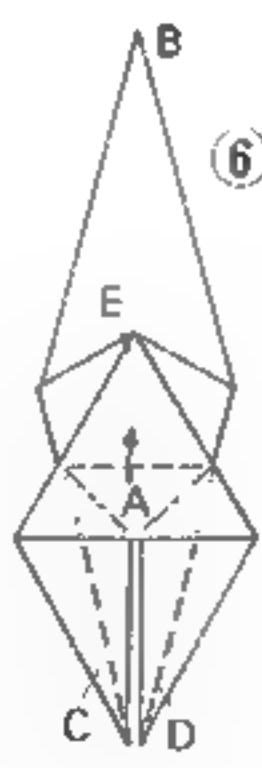
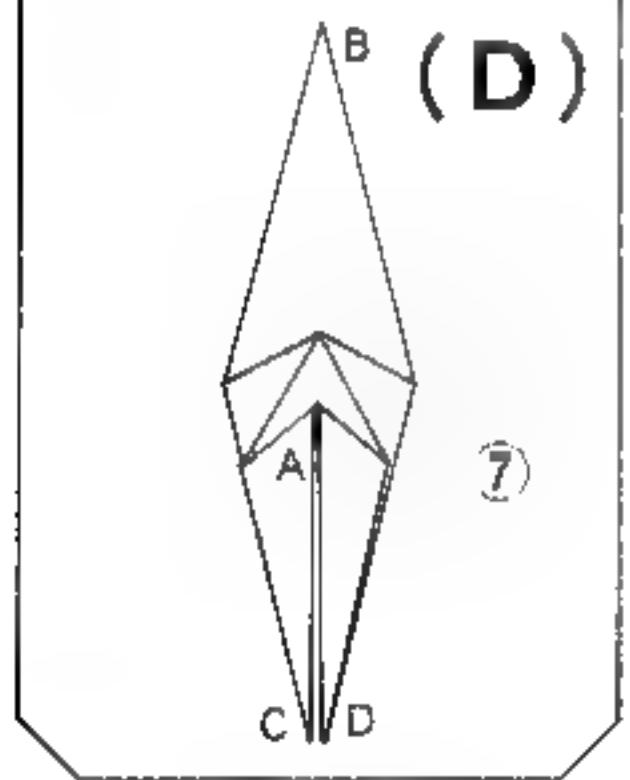
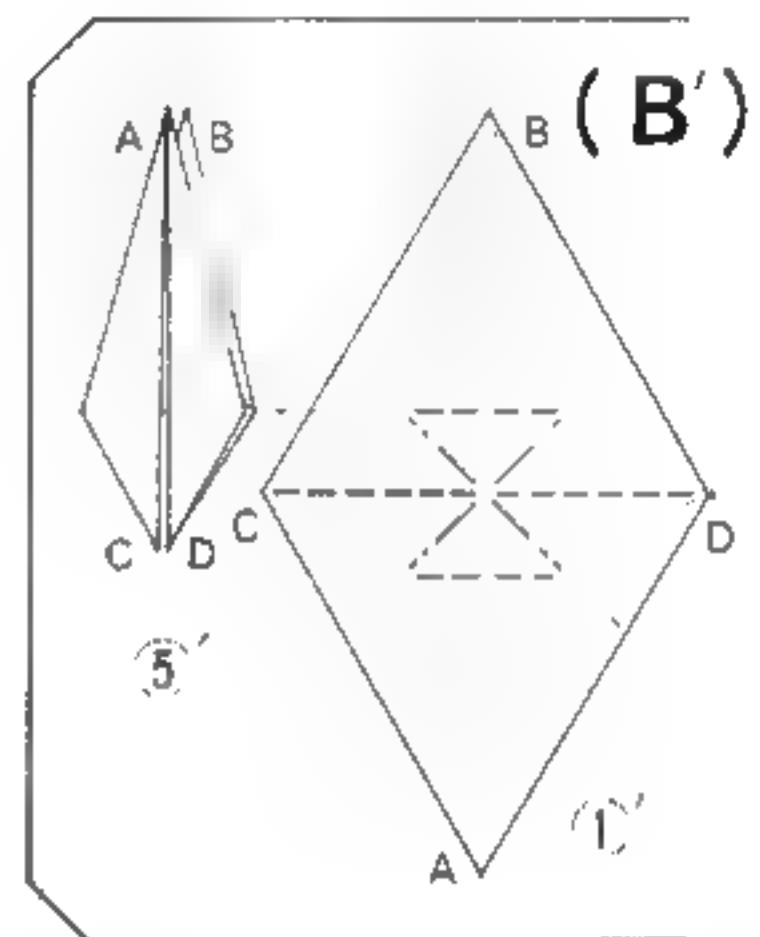
直角二等辺三角形の紙を①②と折る。③Bの袋を開く。④山線と谷線でBを矢印に折り出す。⑤裏返す⑤'。⑥山線と谷線でBを折り上げる。⑦基礎折り(C)。

共通した構造をもつ異なった原形によるもの

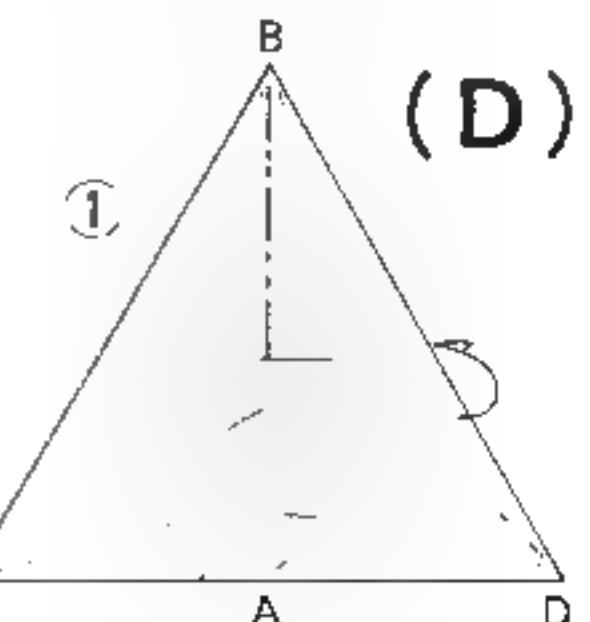


(1)菱形の紙を山線と谷線で(2)のように折る。(2)1 2 3の順に折り目をつける。(3)Aを中心から開き出す。(4)裏側のBをAと同様に折る。(5)基礎折り(B)。

(1)'菱形の紙を山線と谷線で折り、同様の折り方で折る。(5)'基礎折り(B')。

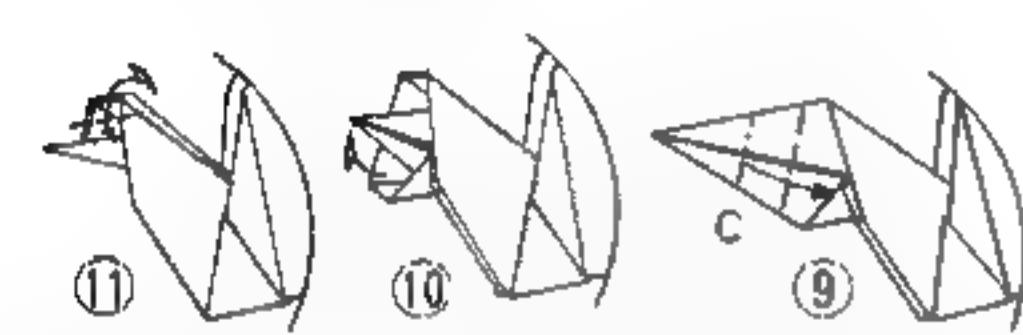
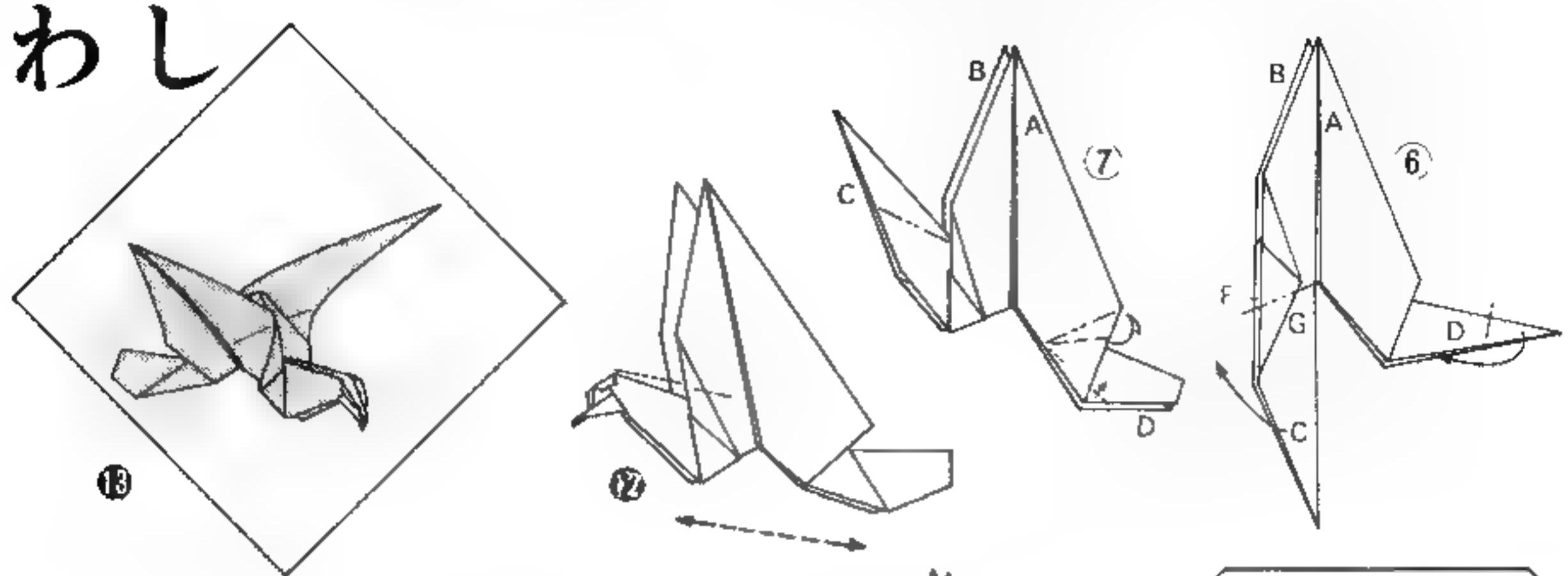


正三角形の紙を(1)(2)と折る。(3)Bの袋を開いて折る。(4)谷線と山線でBを折り出す。(5)裏返す。(5)'Aを開く。(6)Aを折り上げる。(7)基礎折り(D)。

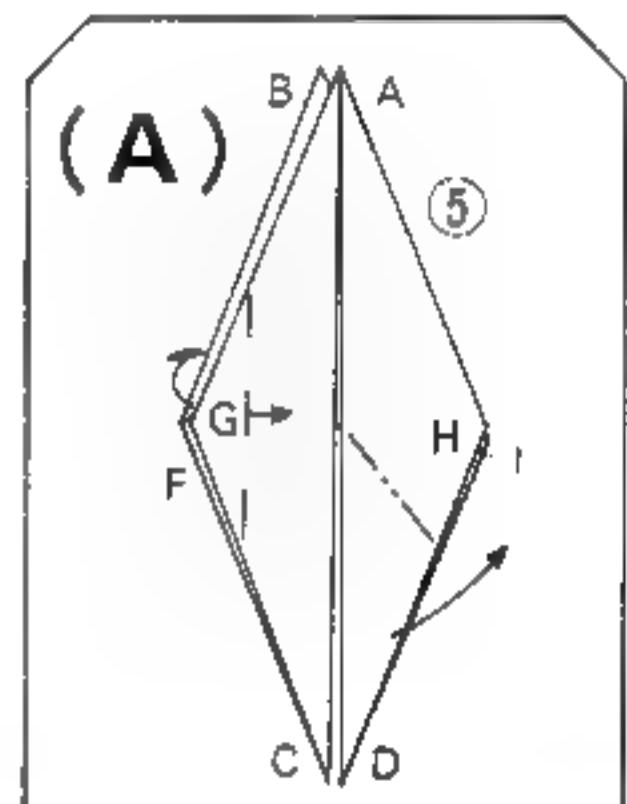


基礎折りの応用—鳥の羽ばたく姿

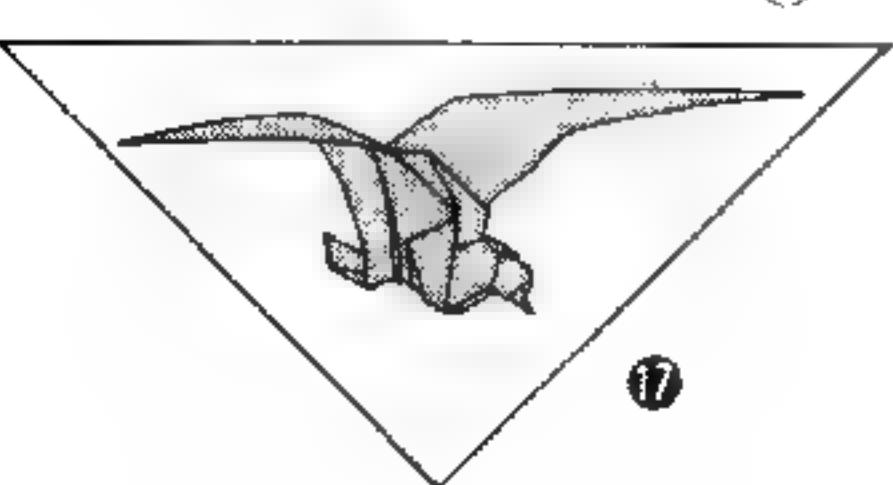
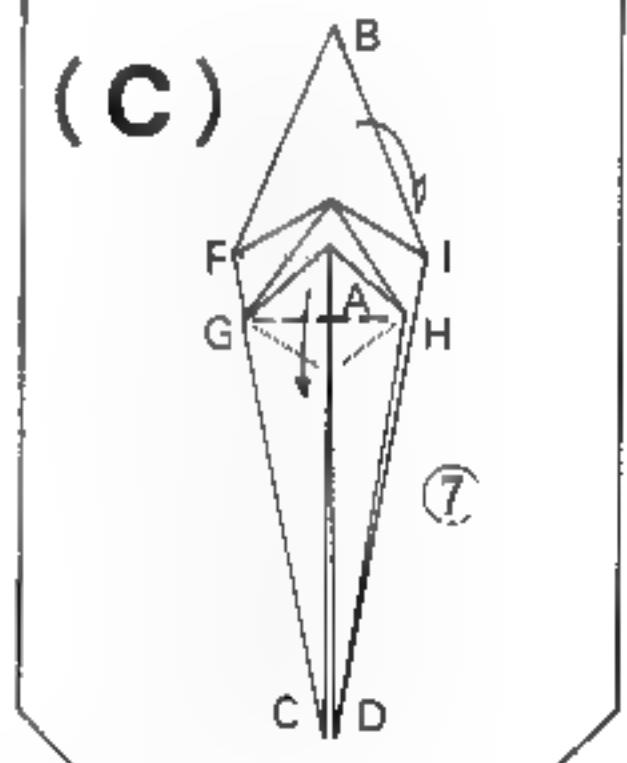
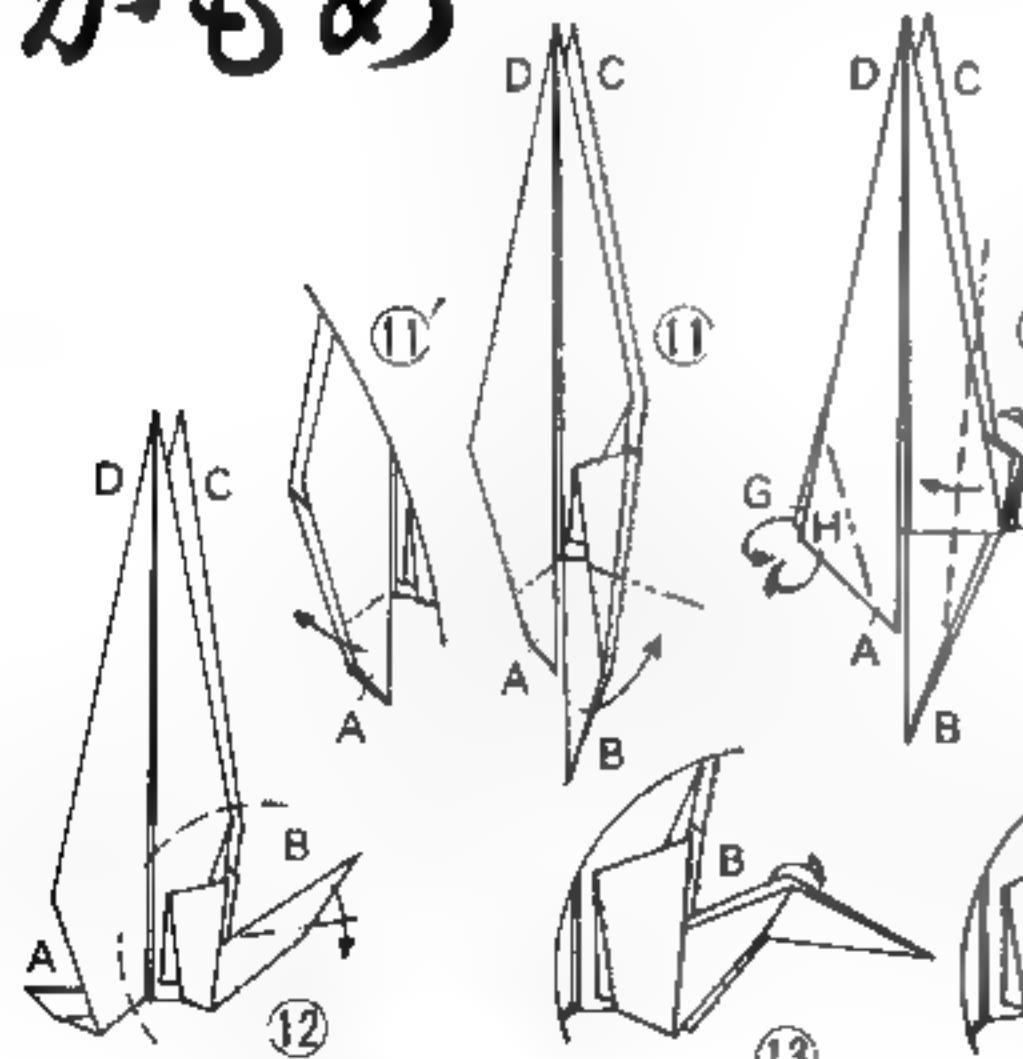
わし



基礎折り(A)から折る。⑤Fを裏へ、Gを表に折り、DをH Iの間へ折る。⑥CをF Gの間へ折り、Dの先を中へ入れる。⑦それぞれ矢印に折る。⑧⑨⑩⑪⑫頸を作り、形をととのえる。⑬出来上がり。



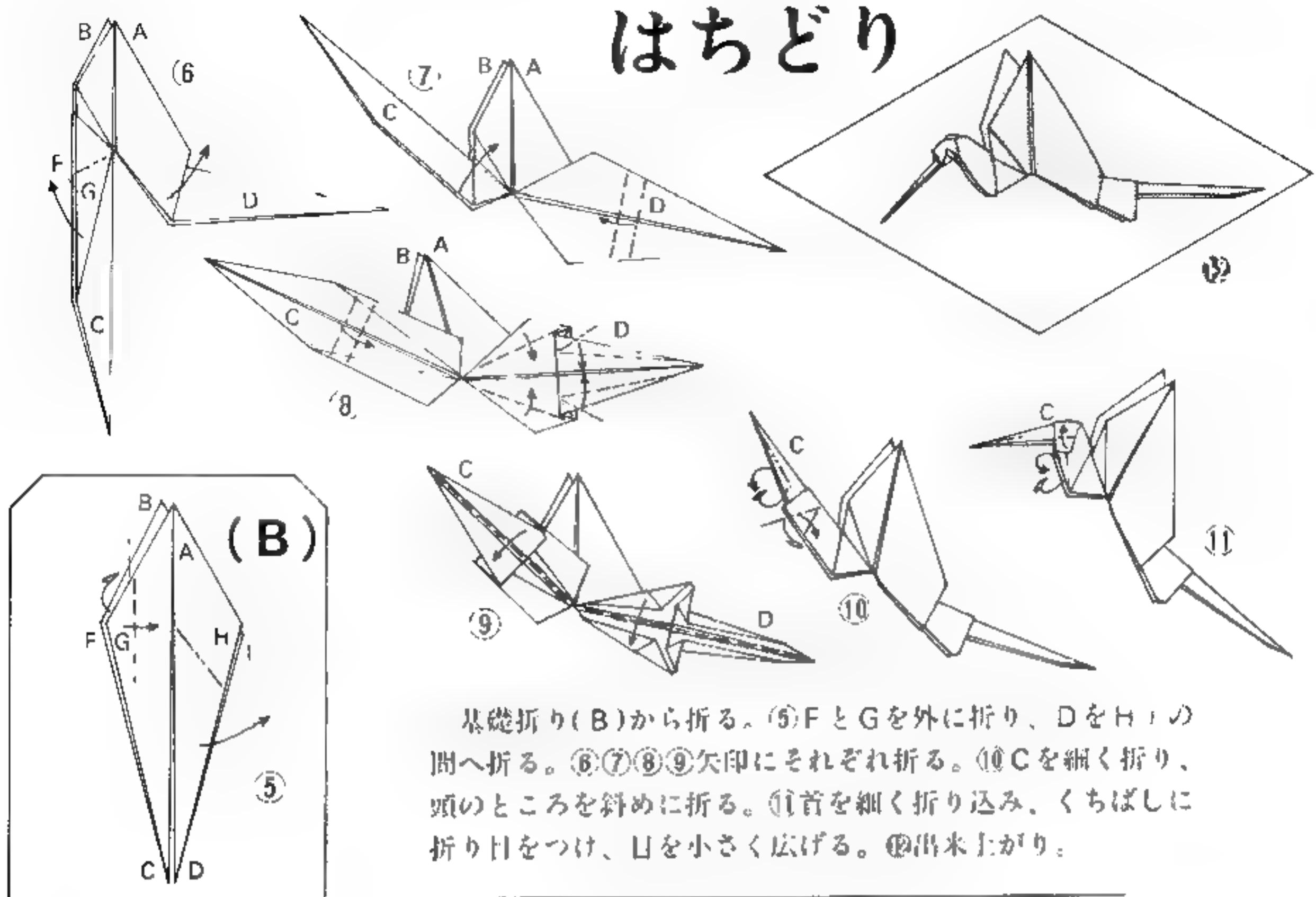
かもめ



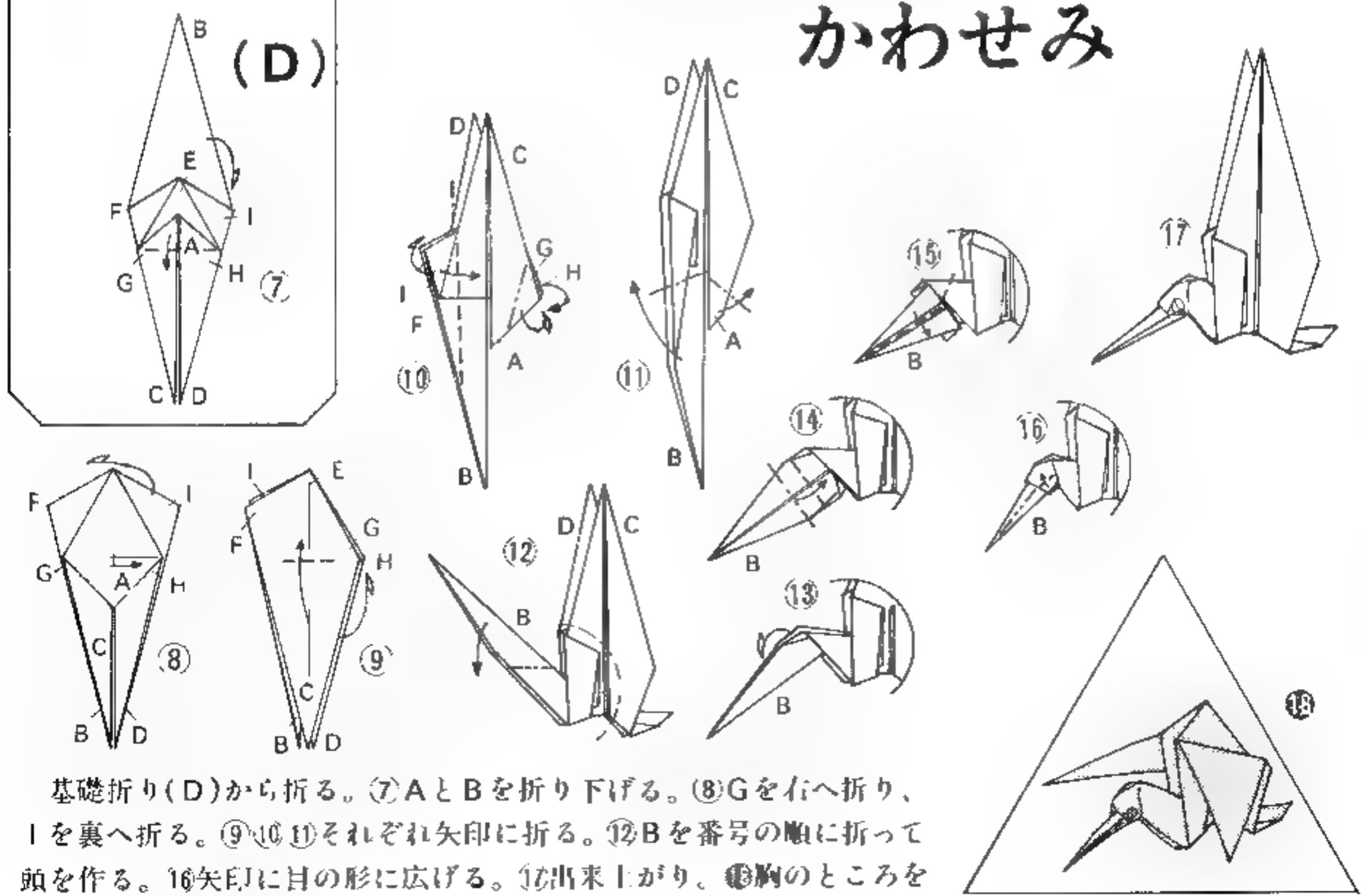
基礎折り(C)から折る。⑦ABを折り下げる。⑧FをIの裏へ、Hを左へ返す。⑨CとDを折り上げる。⑩F Iを外へ折り、G Hを中へ折る。⑪⑫ABを矢印に折る。⑬Bを番号の順に折って頭を作る。⑰出来上がり。

主題に適した原形の選び方

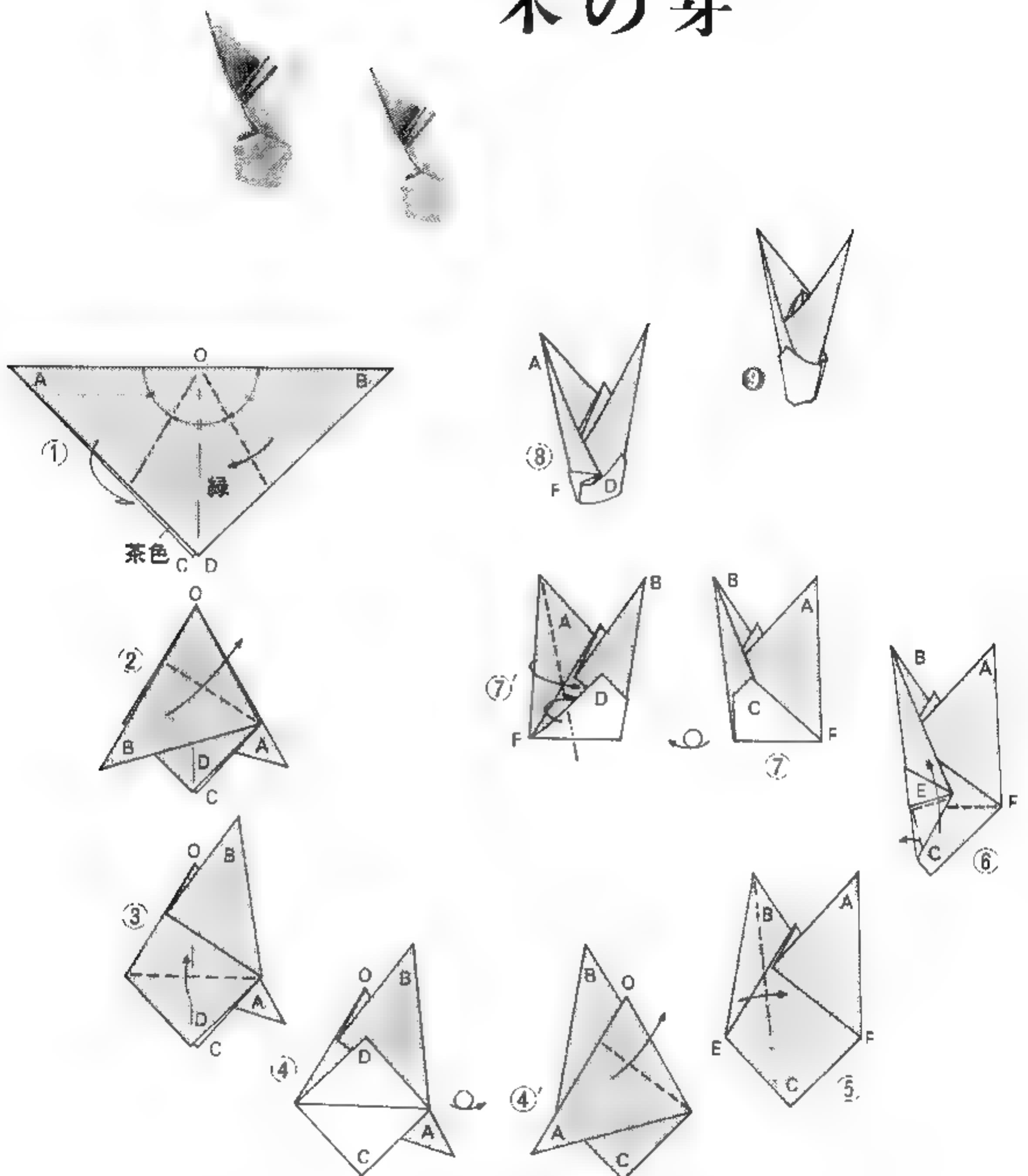
はちどり



かわせみ



木の芽



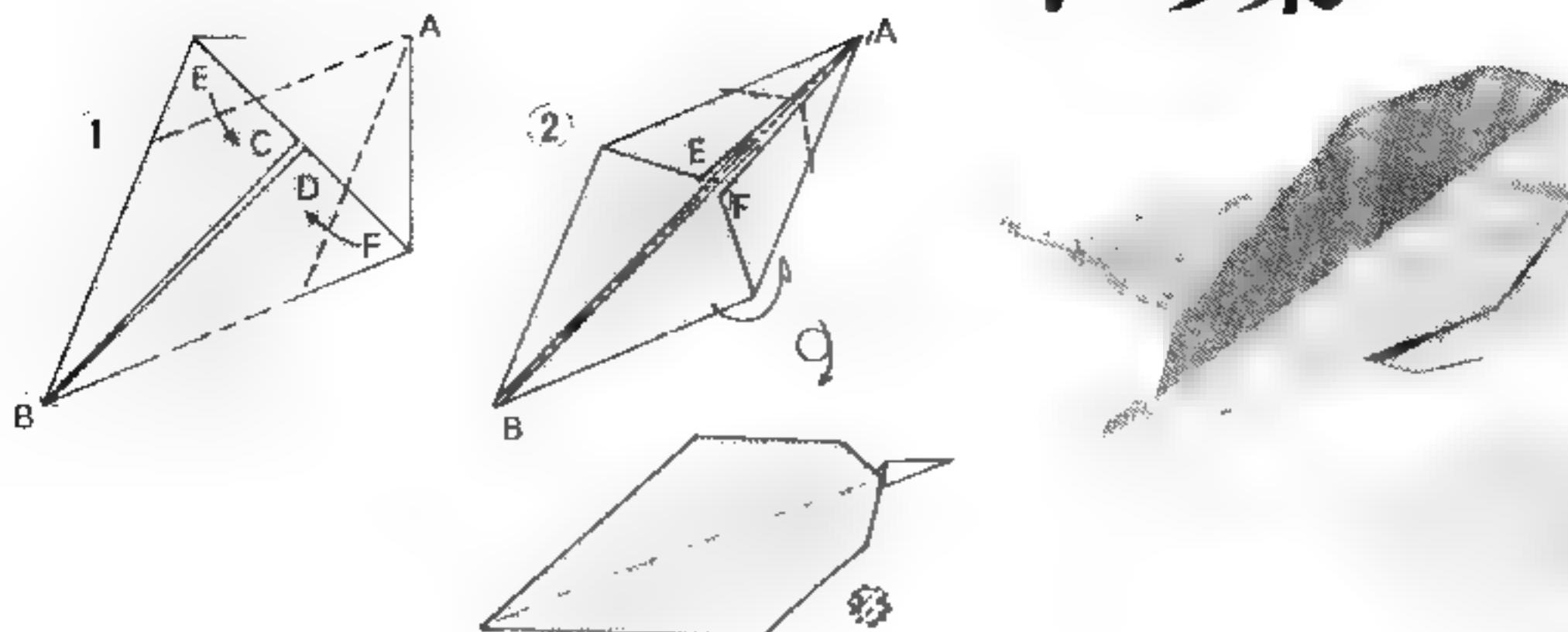
緑（または木の芽出しの色）と茶色の薄手の和紙を重ねて折る。

正方形の紙を対角線に折って1、ABの中点Oを支点として、Aを裏へ、Bを表に折る。(2)-(3)矢印に折る。(4)裏返す。(4)-(5)矢印に折る。点線の部分はきつく折らないようにする。(6)Cの左

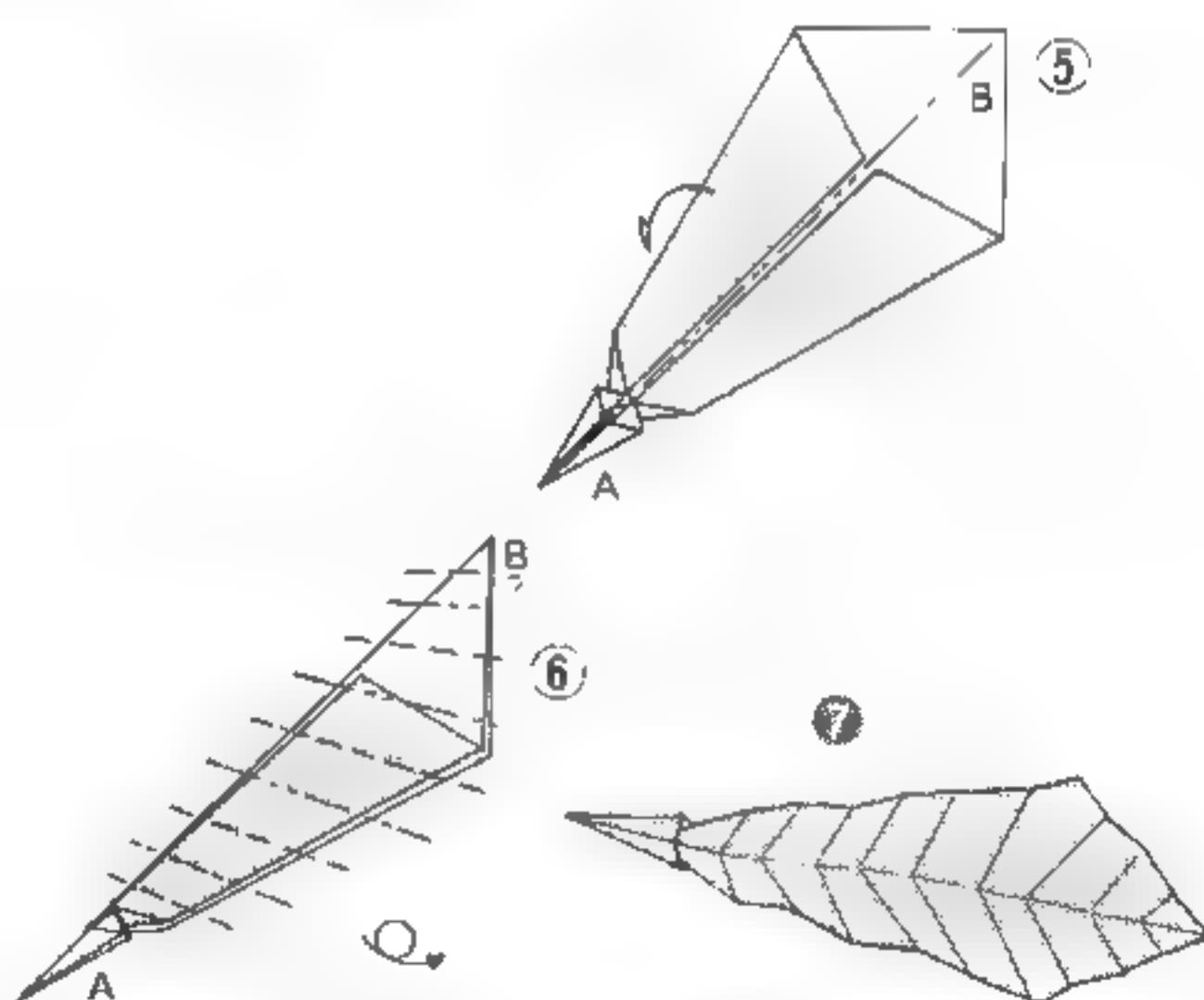
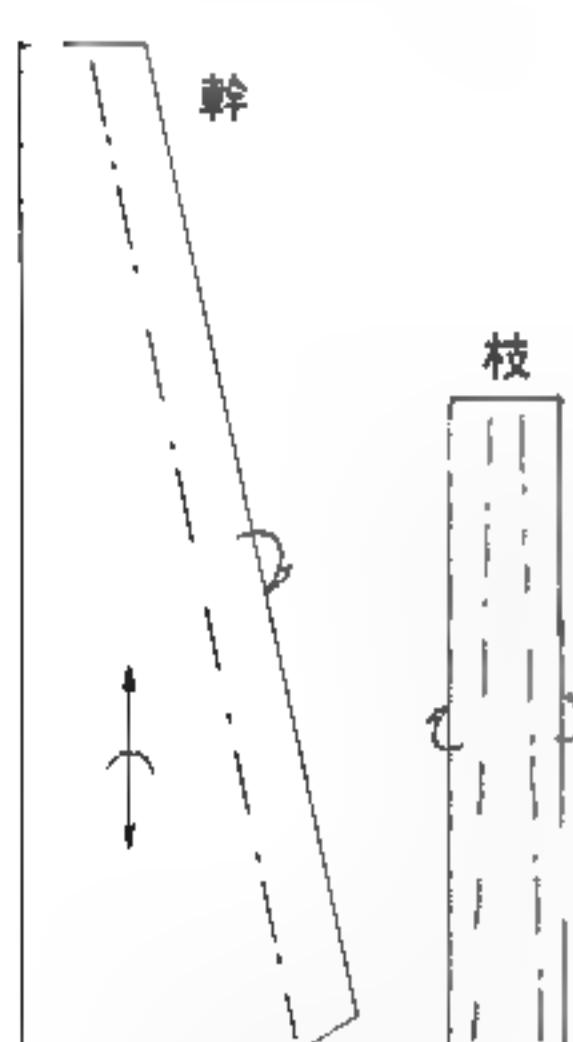
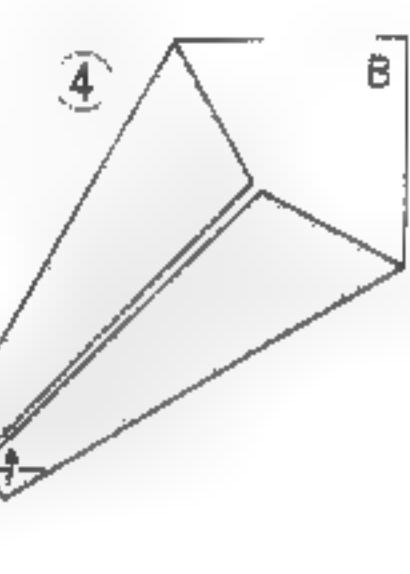
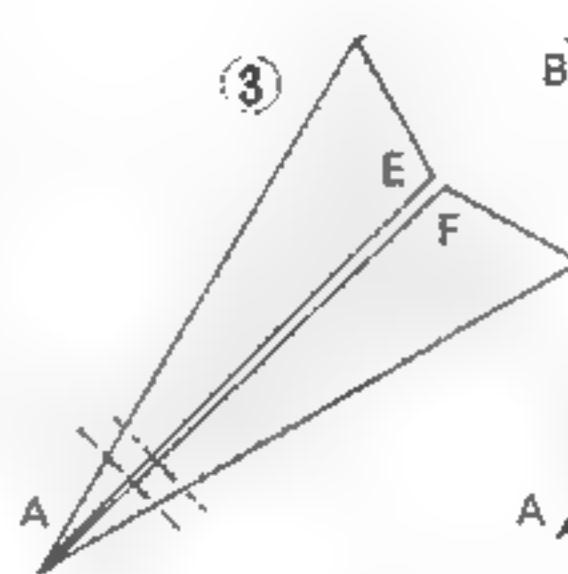
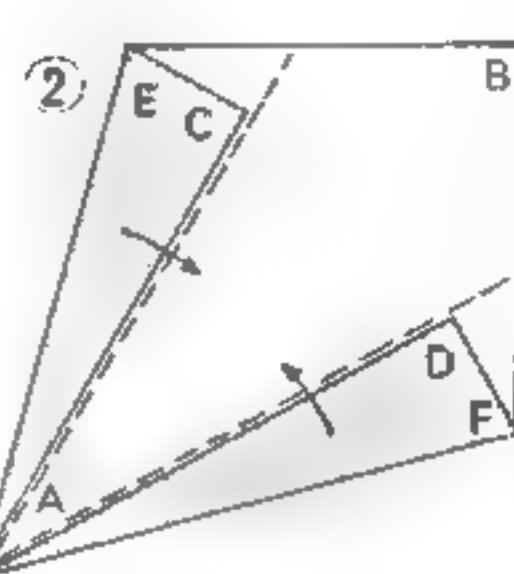
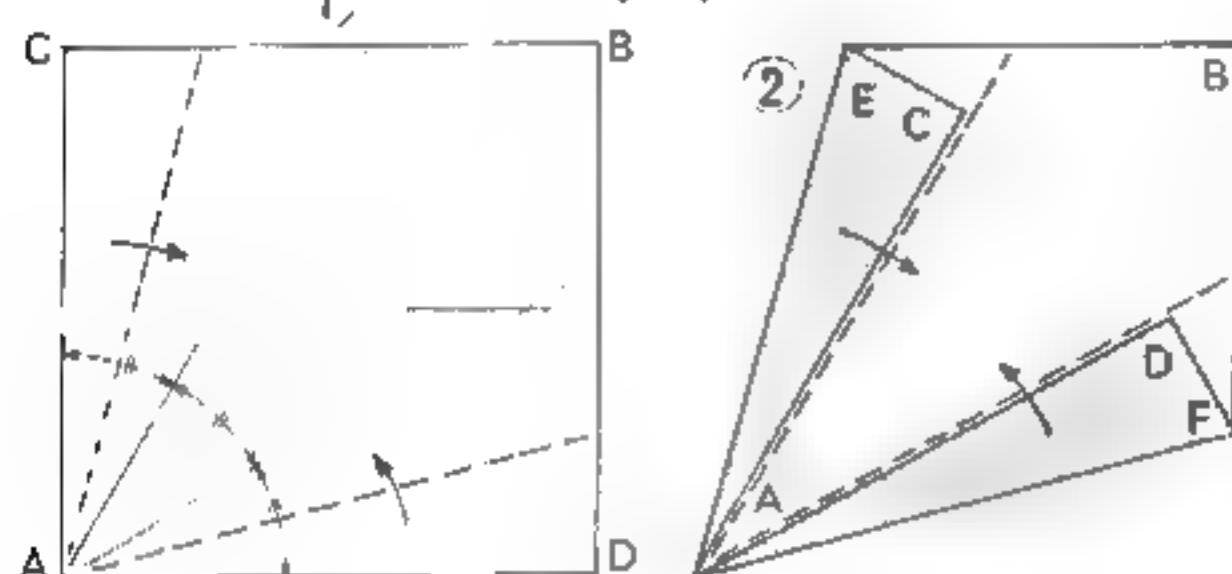
側を開きながら折り上げる。(7)裏返す。(7)(8)Aの谷線を折りながらFをDの内側へ折り込んで形をととのえる。(9)出来上がり、AB、CDそれぞれ対称形に仕上げるので、Aの折り目も(5)と同様の折り方で、はじめに折り目をつけておいてから組み込むとよい。

(A)

木の葉



(B)



幹と枝

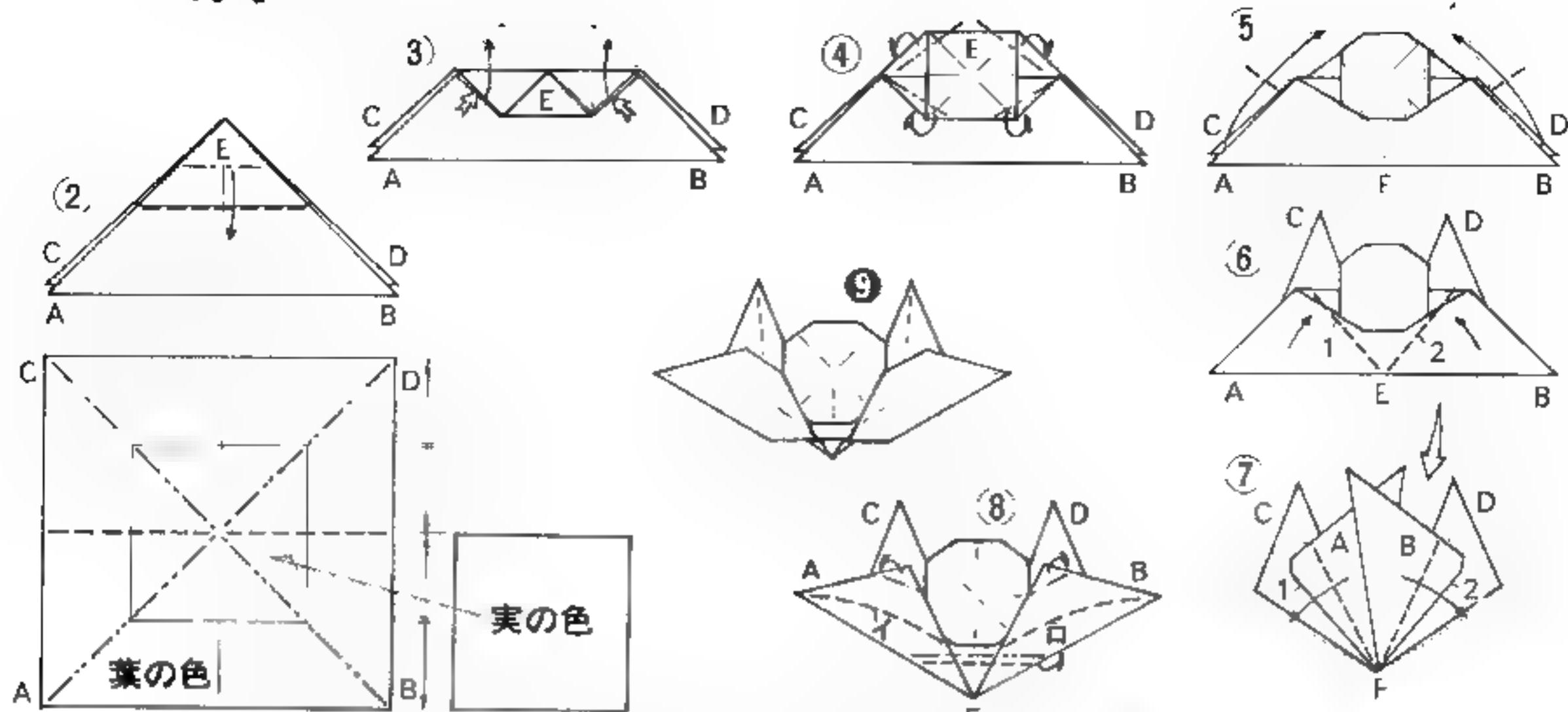
木の葉の折り方はごく自然な折り方であるが、これまでになかったものである。この折り方を基本として中脈や側脈をつけ、いろいろの種類の木の葉に変化させることが出来て、応用範囲が広い。りすに木の葉、栗と落葉などにして飾るとよい。

(B)は1正方形の紙のAのカドを二等分の折り目をつけてから折る。(6)山線と谷線に側脈の折り目をつけて広げる。

色紙にみみずくを構図する場合(口絵19ページ)などに用いる。

木の幹に合った色の紙を選んで、色紙の寸法に合わせて紙を切る。曲げやすいほうを縦紙とし、少しぬらして幹や枝の樹皮の感じを出してはる。枝は幹の下に少し差し込んではる。ぬれタオルで紙の裏から軽く湿り気を与えると、紙がやわらかくなって扱いやすい

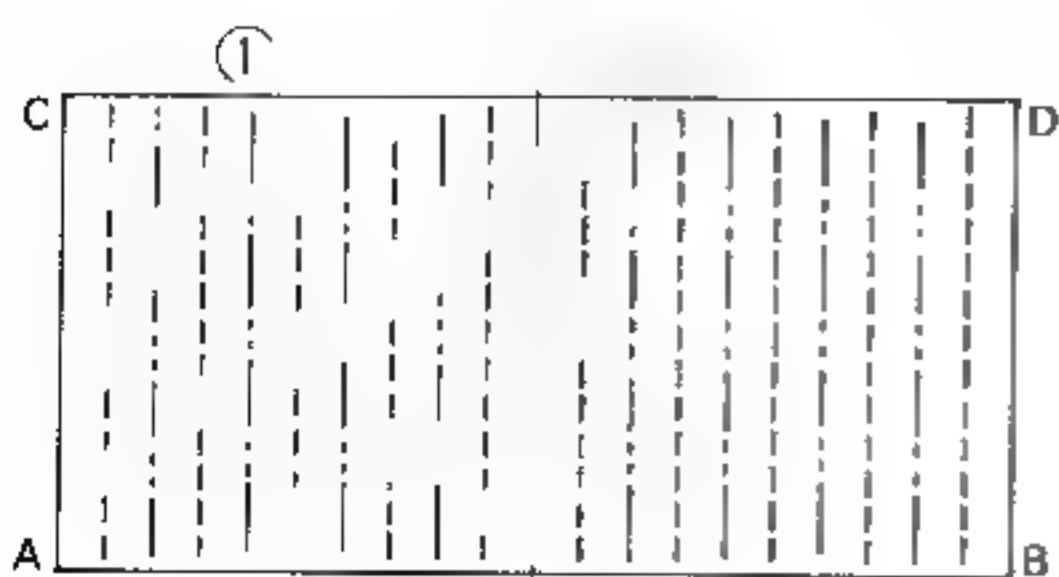
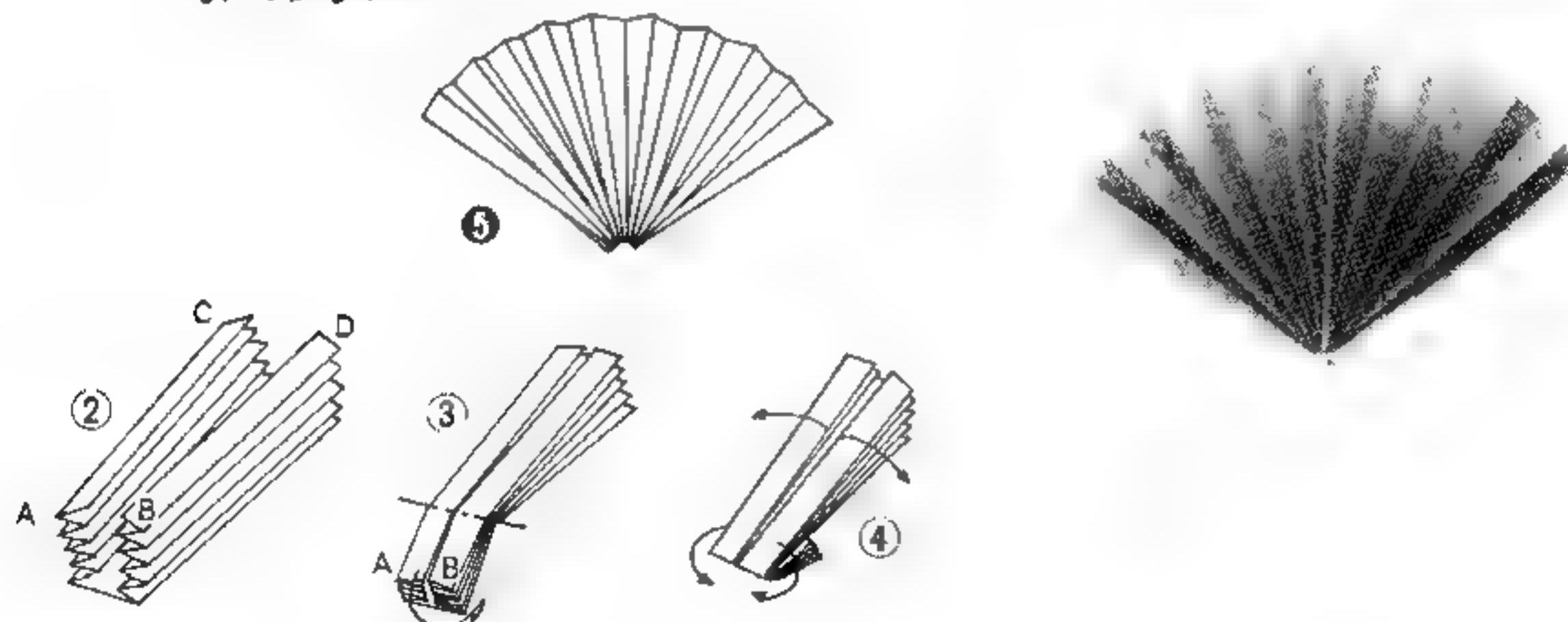
橘



- ① 薄手の和紙の緑と黄色の紙を重ねて折る。正方形の紙を①②と折る。③Eの左右から両手の親指を深く入れて点線へ開く。④カドを折る。⑤CDを間へ折る。⑥1、2の順に折る。⑦ABを折る。⑧ABの内側のカドを間へ折り、Fに段をつけ、イロの谷線に折り目をつけて葉の中脈の感じを出す。⑨出来上がり。

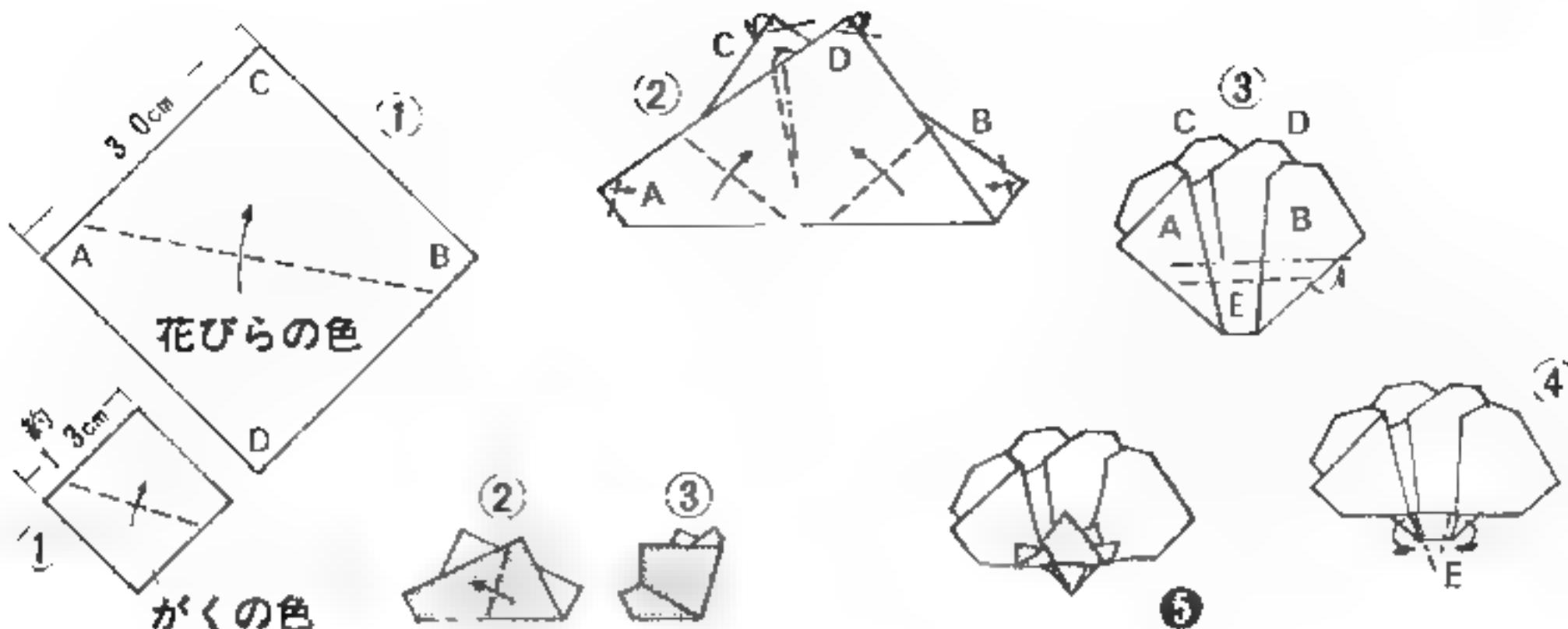


松葉



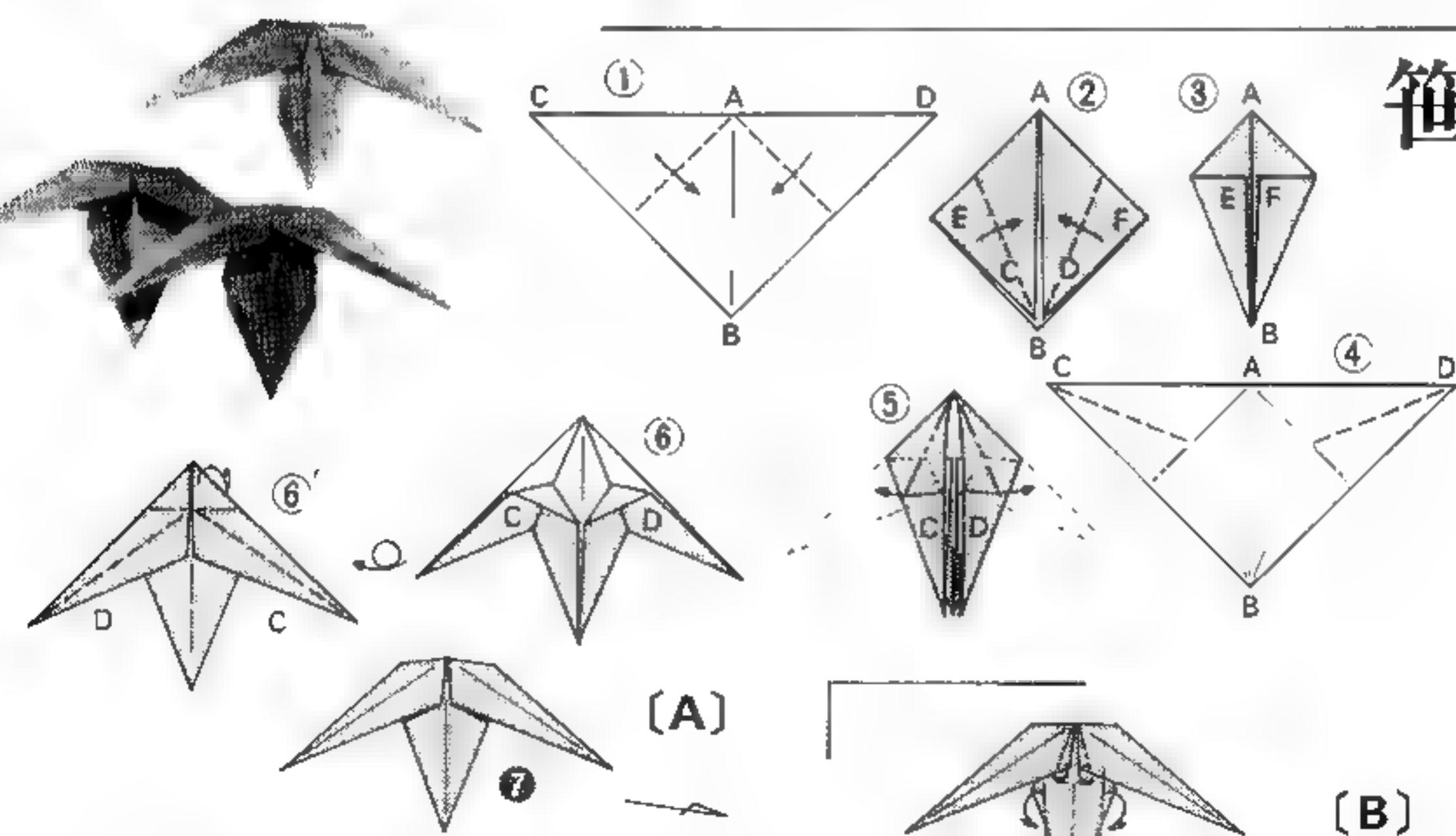
- ① 1 : 2 の長方形の紙を半分、半分に折って折り目をつけてから、山線と谷線に折り直して②③のように折りまとめる。③下のほうを裏へ折る。④矢印に折り返して上のほうを扇のよう開いて形をととのえる。⑤出来上がり。

桃の花

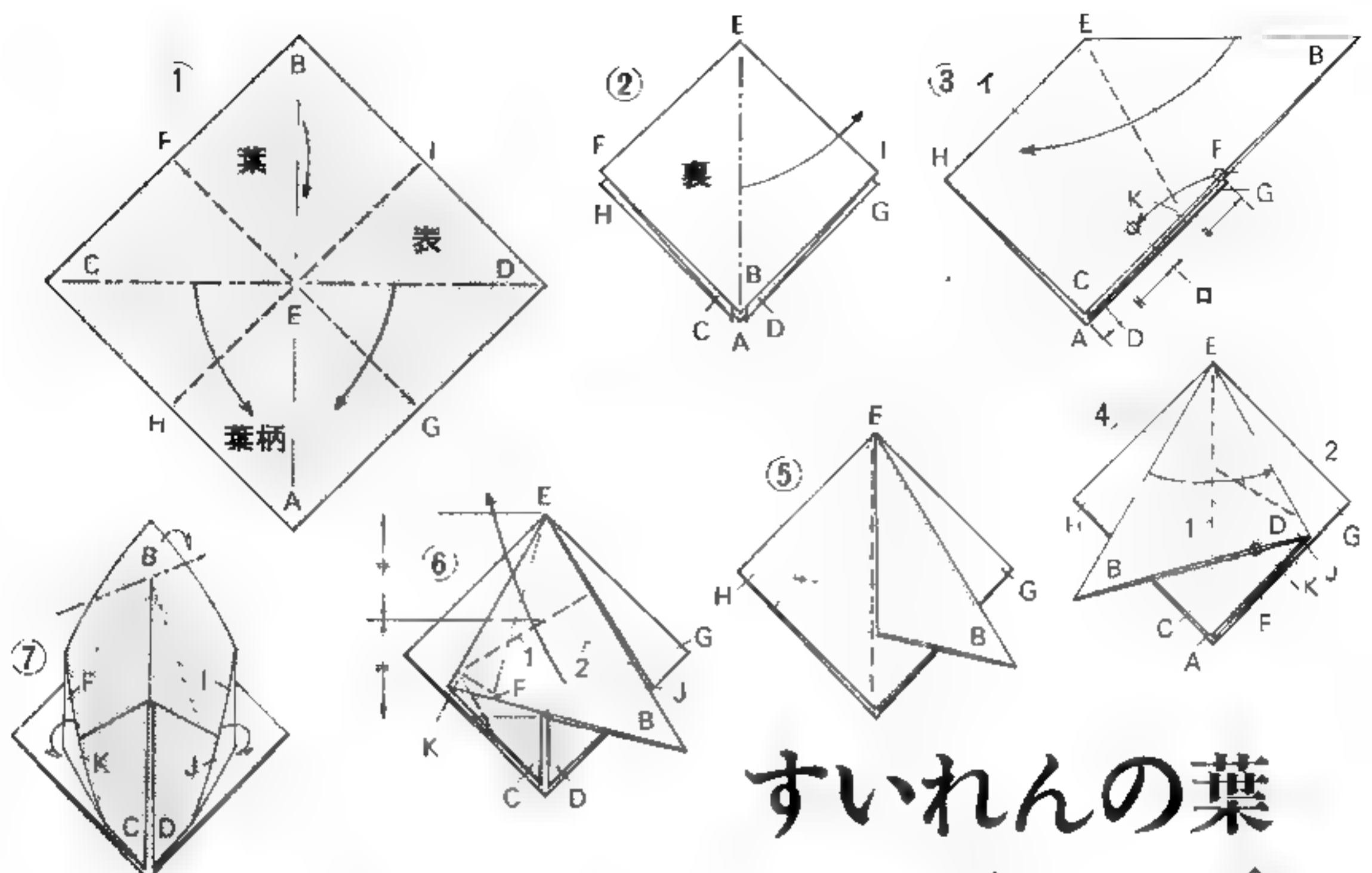


①正方形の紙を斜めに折る。②Dの一枚だけに細長いひだをよせてからABを折り上げ、それぞれのカドを花びらの形に折る。③Eに段をつける。④Eの左右を裏へ折る。⑤まで折ってから③までもどし、がくを⑧まで折って花びらの上へ重ねて、元の折り目で形をととのえる。
⑨出来上がり。

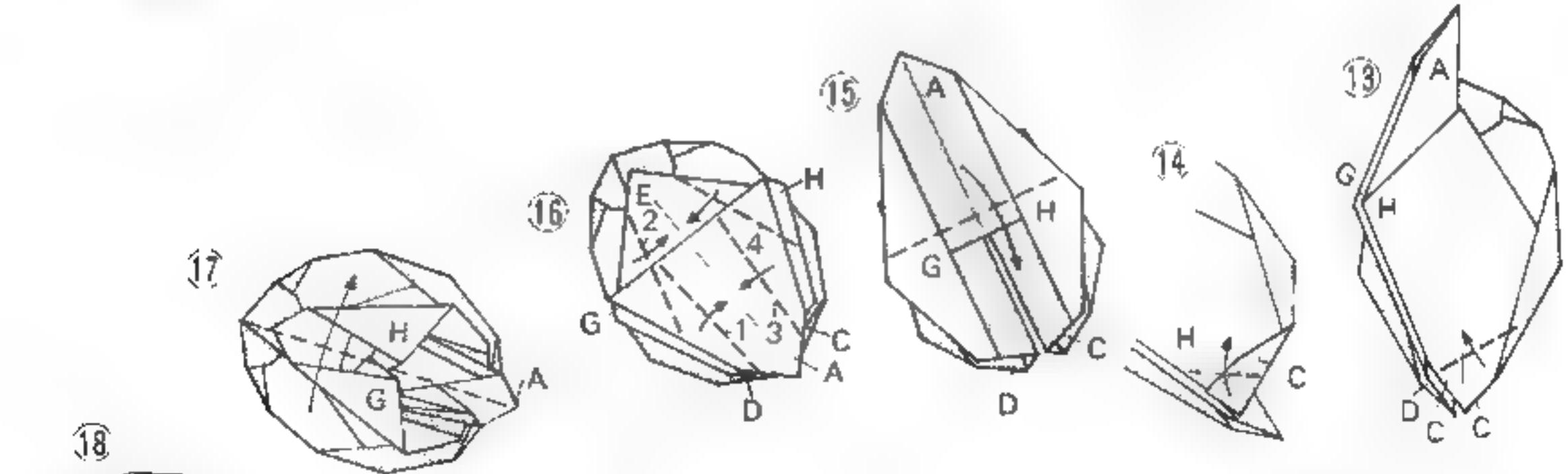
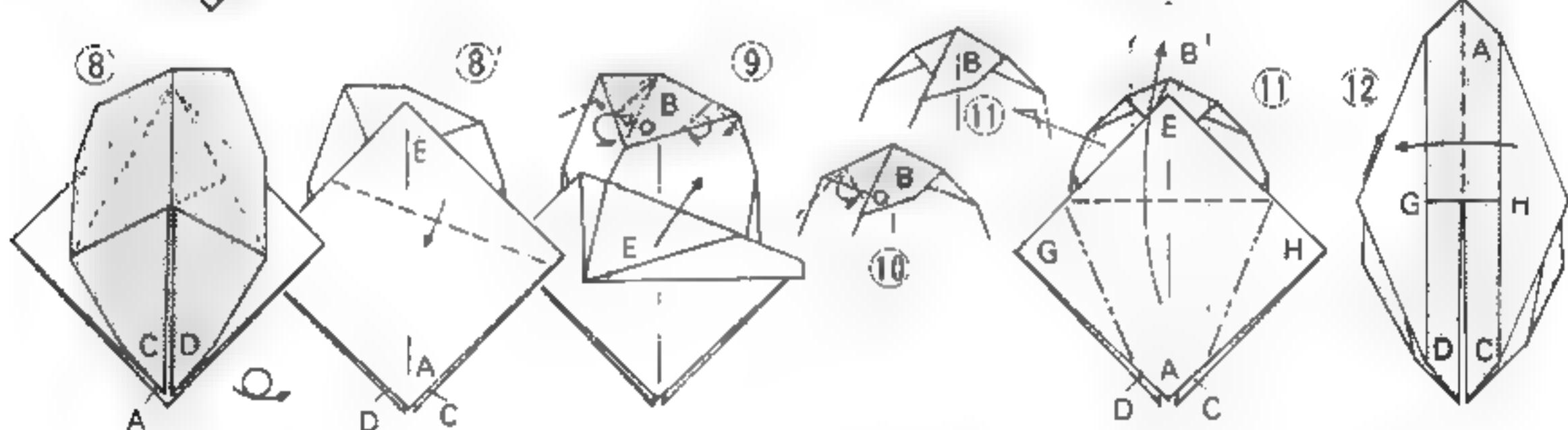
笹



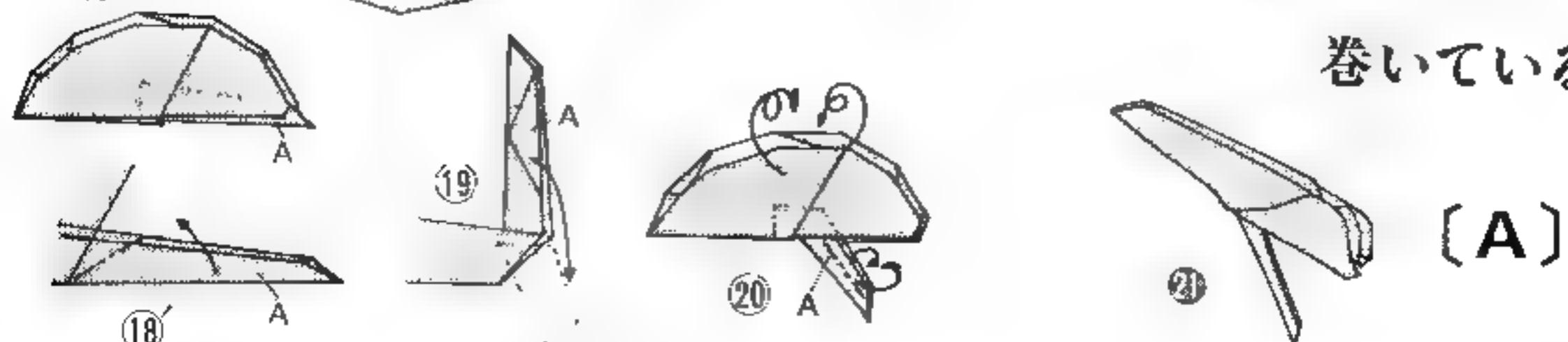
(A) 正方形の紙を対角線に切って直角二等辺三角形を作る。①CDを折り下げる。②EFを折る。④開いて折り目をつけ直して折る ⑤CDを点線へ開く。⑥裏返す。⑦Aを裏へ折ってから谷線に折り目をつける。⑧出来上がり。
(B) ⑦(A)の出来上がりからそれぞれのカドを折って葉を細くする。⑨出来上がり。



すいれんの葉



巻いている葉

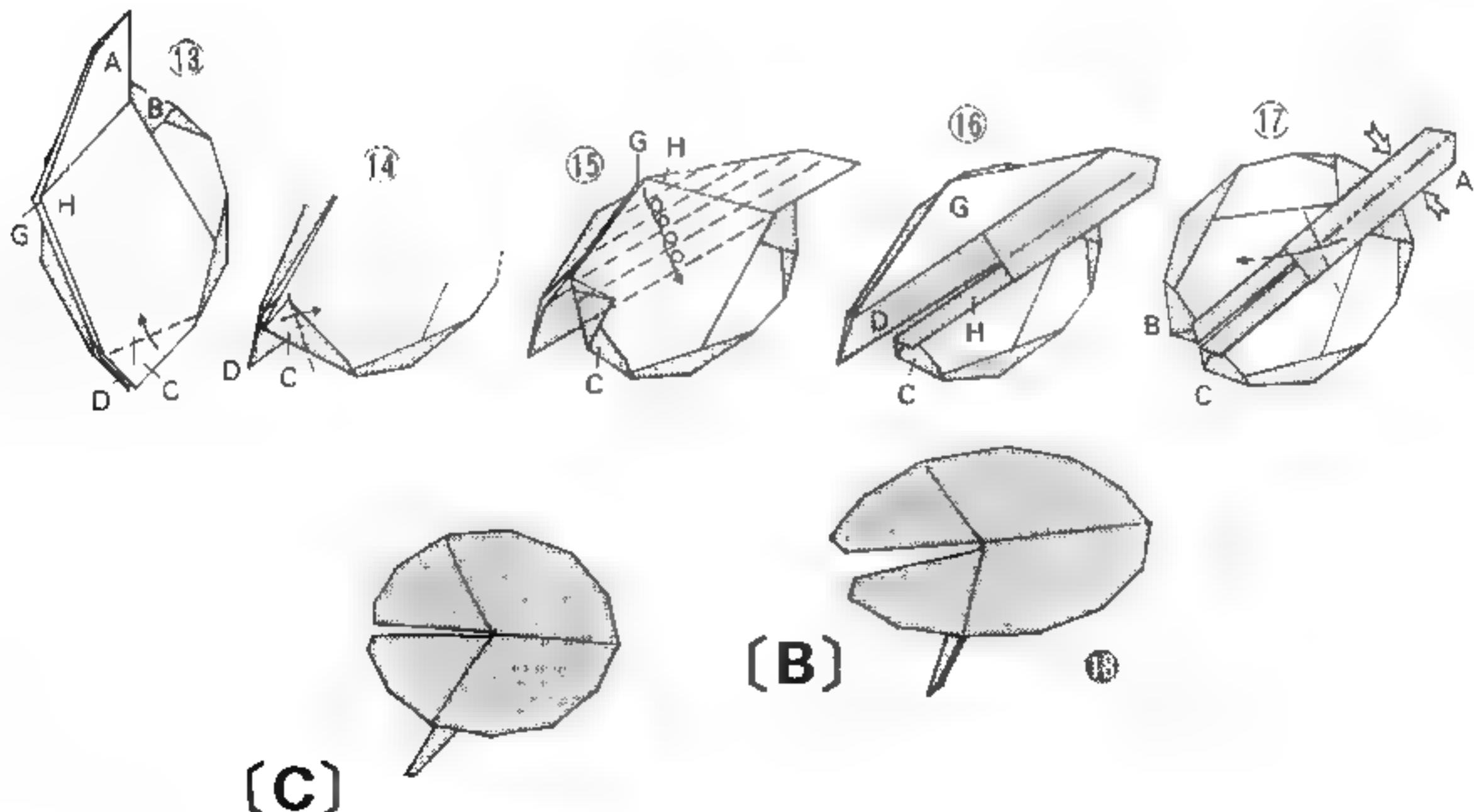


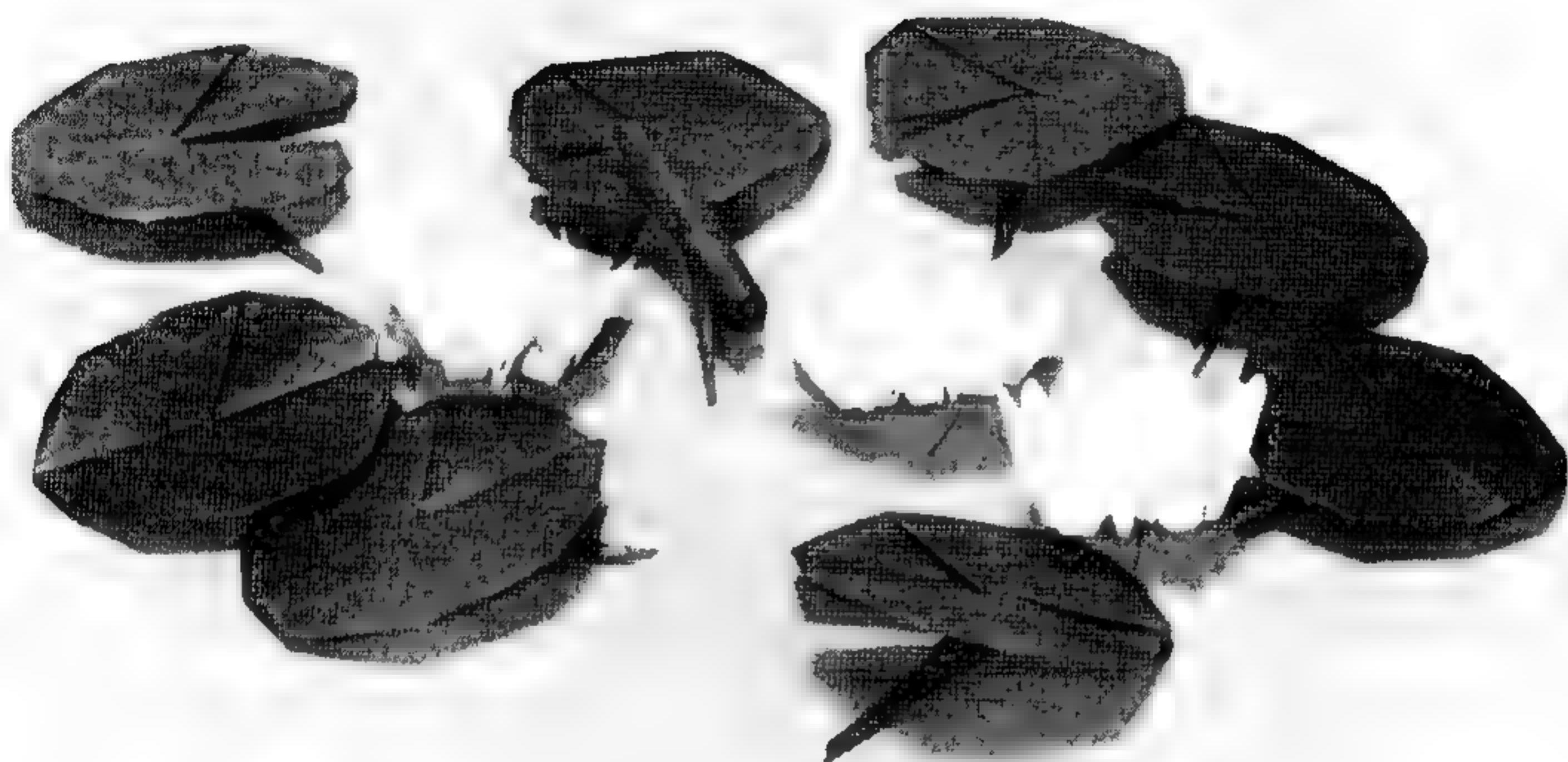
緑色の正方形の紙を用いる。

[A] ①山線と谷線で折る。②Bを引き出す。③Eを支点として、Fの折り目をイロの線上(一印)に合わせて、Bを点線へ折る。④①の谷線でBを折り返す(②の谷線は6で折る)。⑤Bの内側からK(④のJの内側)を点線へ引き出す。⑥Bの上側だけ谷線↑を折って開きながら、Bの裏側になっているもう一つのカド、つまり④のJの谷線を折って、Bを皿形に広げる。⑦Bの先を裏へ折り、FKと↑Jを、静かに裏返す。⑧裏返す。⑨Eを谷線から折る。⑩⑪Bの△印を△印の間へ折り込み、カドをそれぞれ丸印に折ってから、Eをもどす。⑫Aを谷線と山線で折り上げる。⑬矢印に返す。⑭⑮Cのカドを矢印に折って、Hを戻し、DのカドもCと同様に折る。⑯Aを谷線から、折り下げる。⑰⑱⑲⑳1、2、3、4の順に折って、Aを葉柄にする準備として、細く折る。⑳二つに折る。⑳Aを葉の外側に出して葉柄にする。この場合、⑰のG Hはそのままにして、葉の内側でAだけを⑳⑳のように折って先を外へ出す。㉑Aを細く折り込んで葉柄を作り、葉を内側に卷いて形をととのえる。㉒出来上がり。

[B] [A]の折り方で㉒まで同じに折る。㉓Cのカドを斜めに折る。㉔㉕と折って、Cの部分を丸やかにしてから、Hを巻き折りにする。㉖GとDもCHと同様に折る。㉗Aをつまみ上げて矢印に返し、葉柄を作り、形をととのえる。㉒出来上がり。

[C] [B]の折り方の応用で、各部分の角度や分量を加減して丸やかに仕上げる。





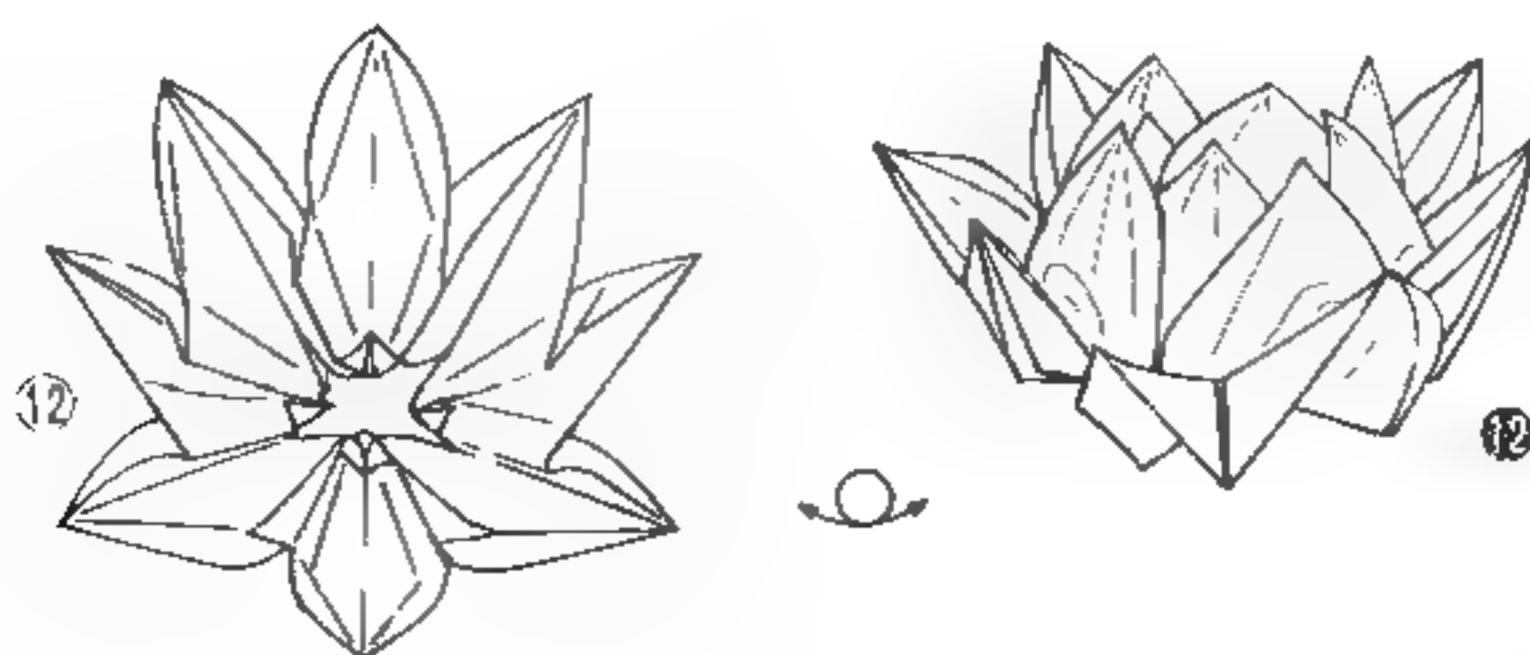
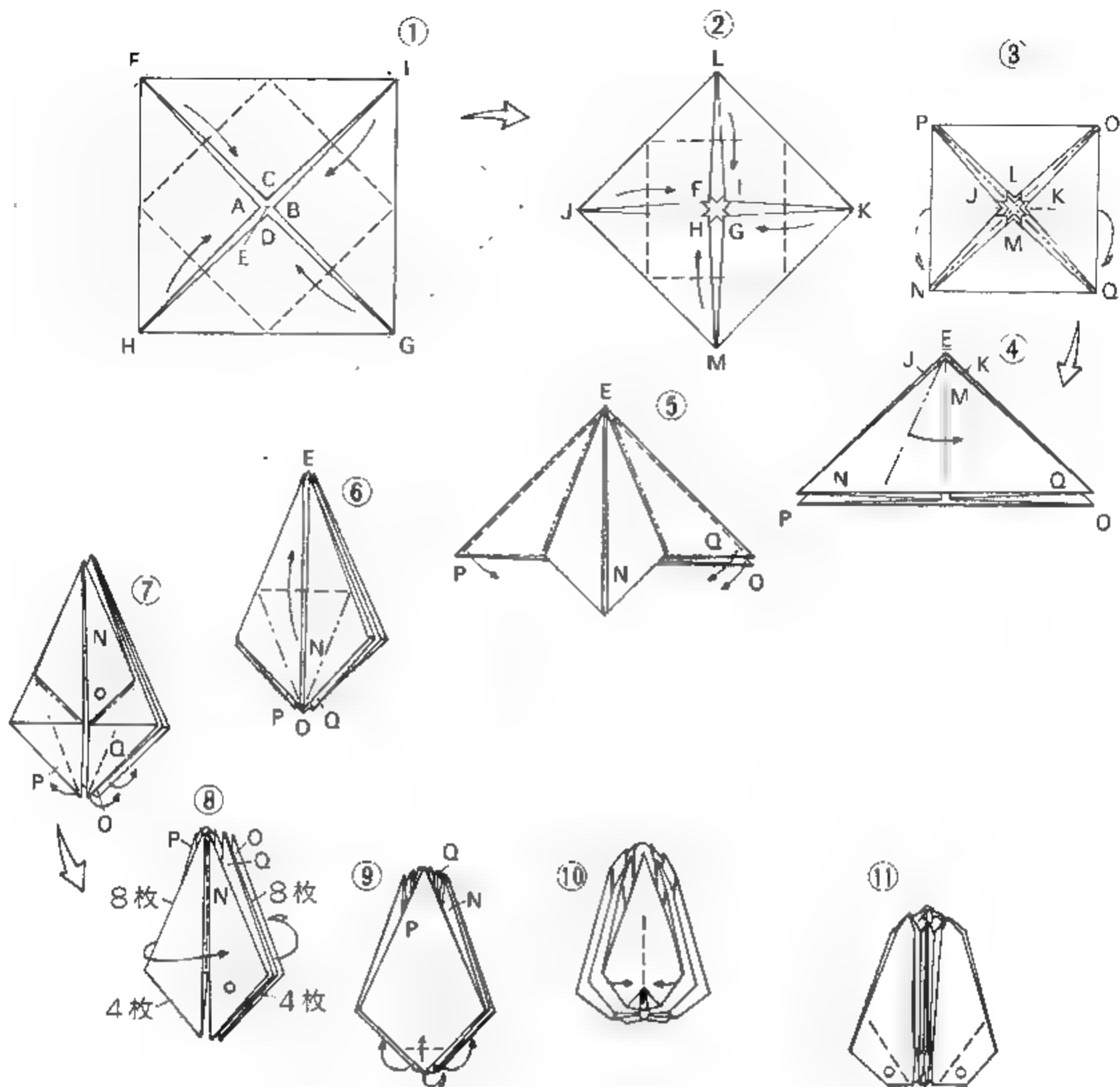
すいれんの花の色に合った薄手の和紙で折る。折り重なる分量が多いので、20cm以上の大きさがよい。

① 正方形の紙の中心Eに、印をつけてから、それぞれのカドを中心に折る。
 ③ 山線と谷線で④のように折る。(4) (製図拡大) Nの袋を広げて中心へ押しつぶす。5 O P QもNと同様に間へ折る。(6) Nを谷線と山線で矢印に折り上げる。(7) O P QもNと同様にそれぞれ間へ折り上げる。(8) (製図拡大) 左側の一枚と右側の後ろの一枚を矢印に返す。(9) 下のカドをそれぞれ折り返す。(10) (9)で折り返したカドが浮き上がらないように、それぞれ

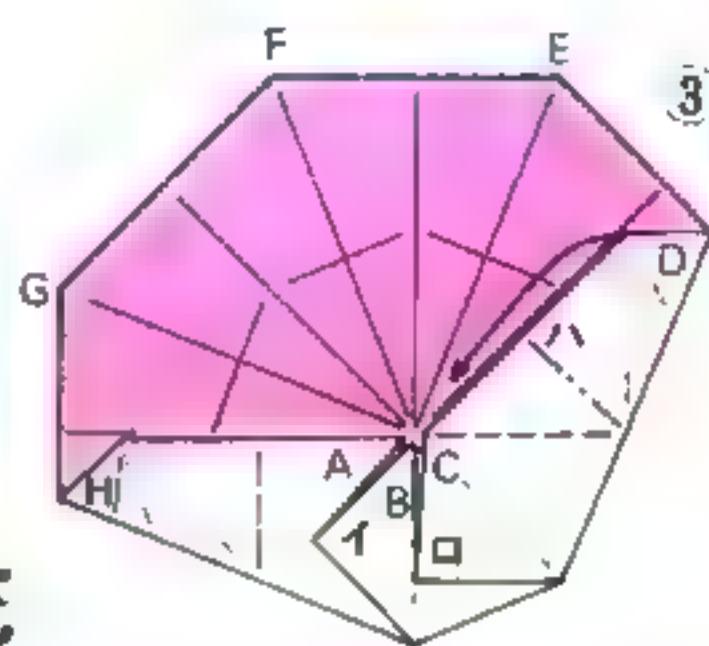
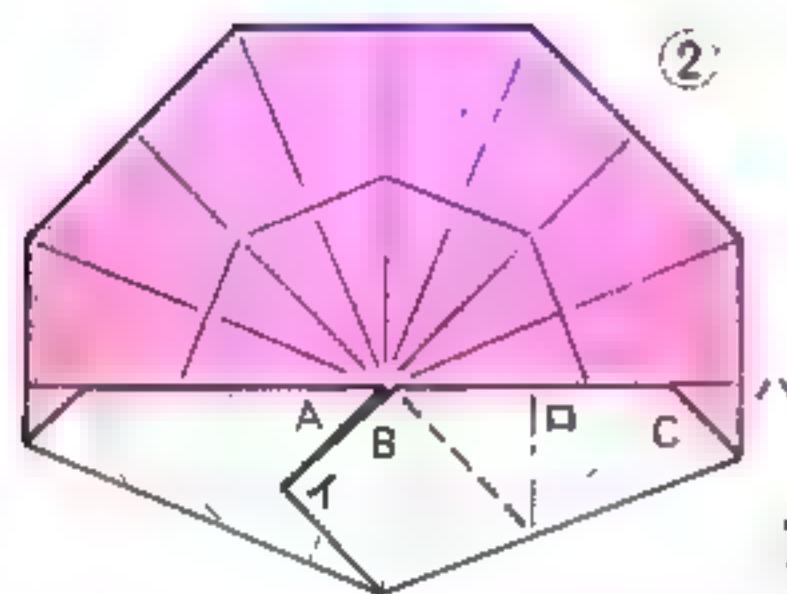
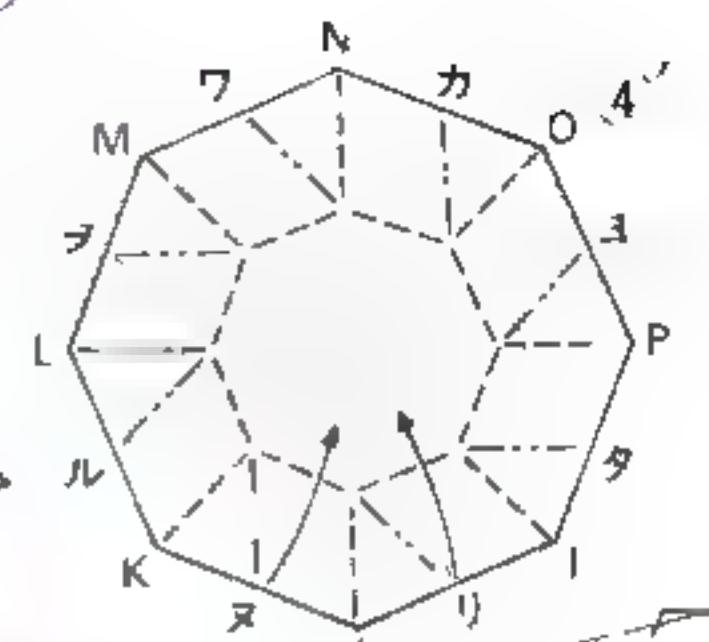
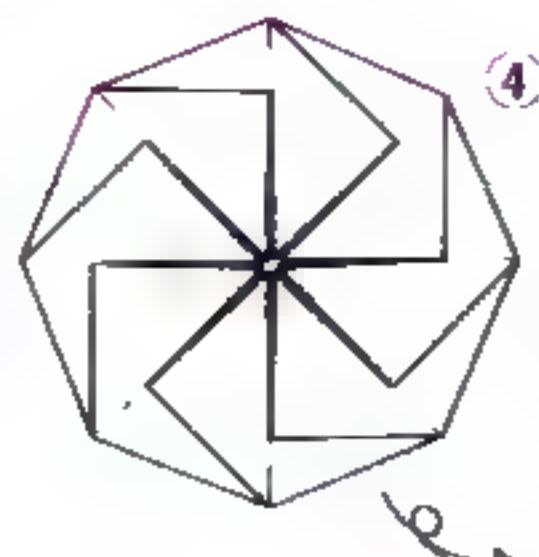
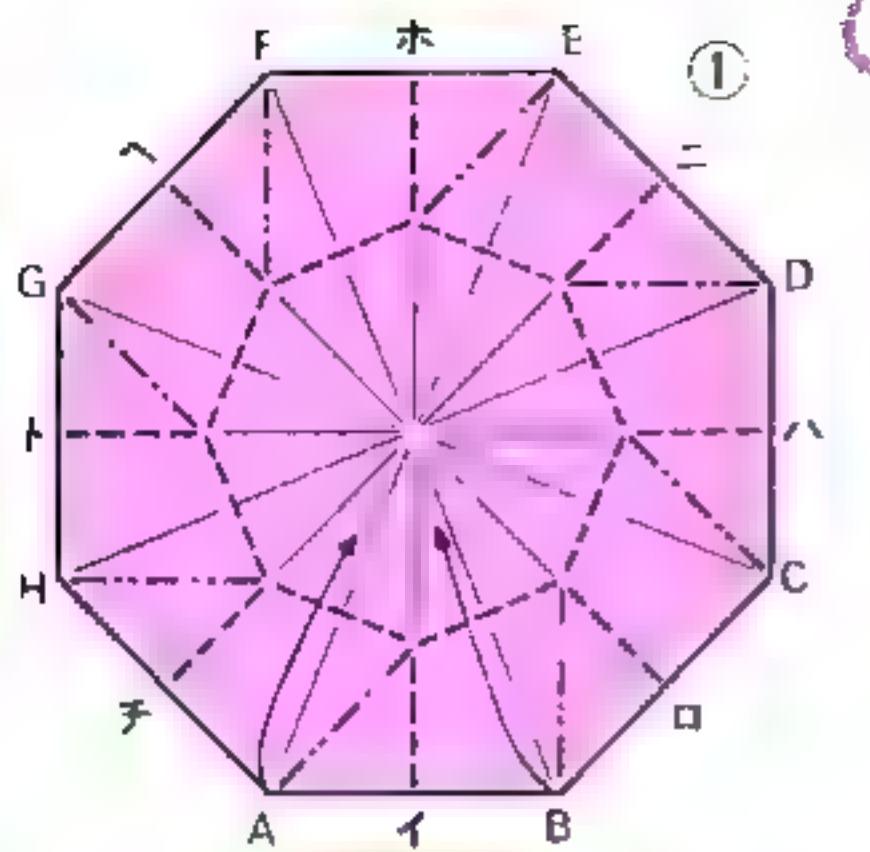
矢印に閉じて固定する。(11) 谷線の位置をそれぞれに折り目をつけてから、一部のところを一つずつ持つて、花びらのカドを傷つけないように、静かに花びらの先のほうに軽く引っ張るようにして、順々に少しずつ開いて開花させる。12開いた花を下から見た図(12)出木上がり。

製図によって折り線構造を理解すれば、もちろん、花の形を完成することが出来ます。さらに、絵や彫刻と同じように、折り紙の技術が熟練してから折れば、生きている花の美しさを表現するむずかしさもわかり、自然に気品を出せるようになります。

すいれんの花

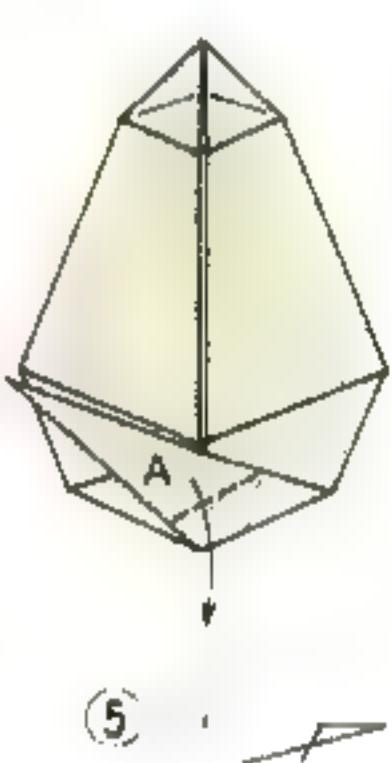
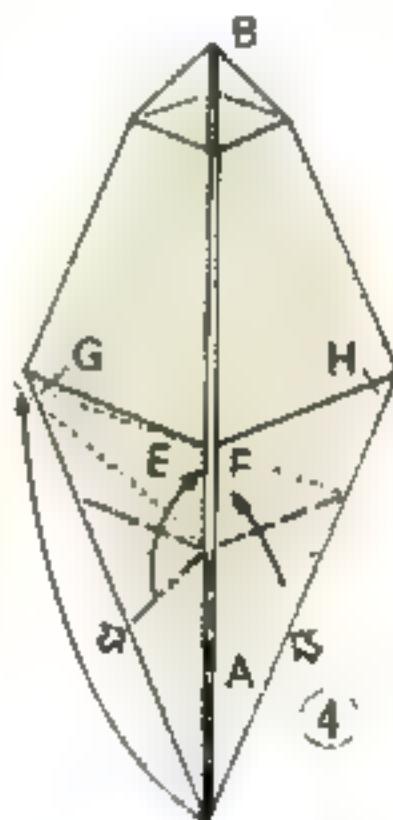
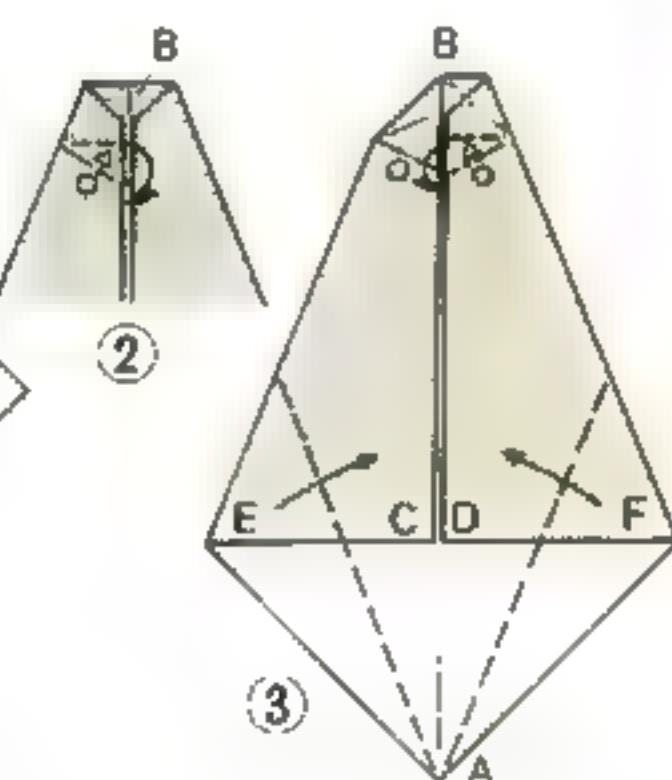
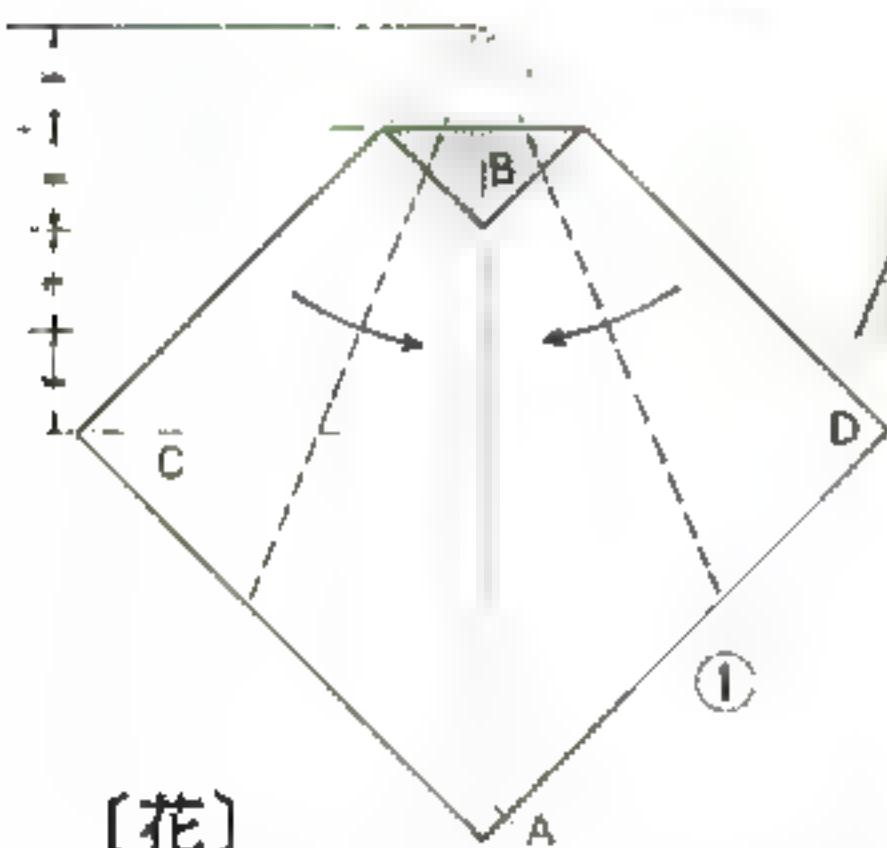


ひまわり



花

葉

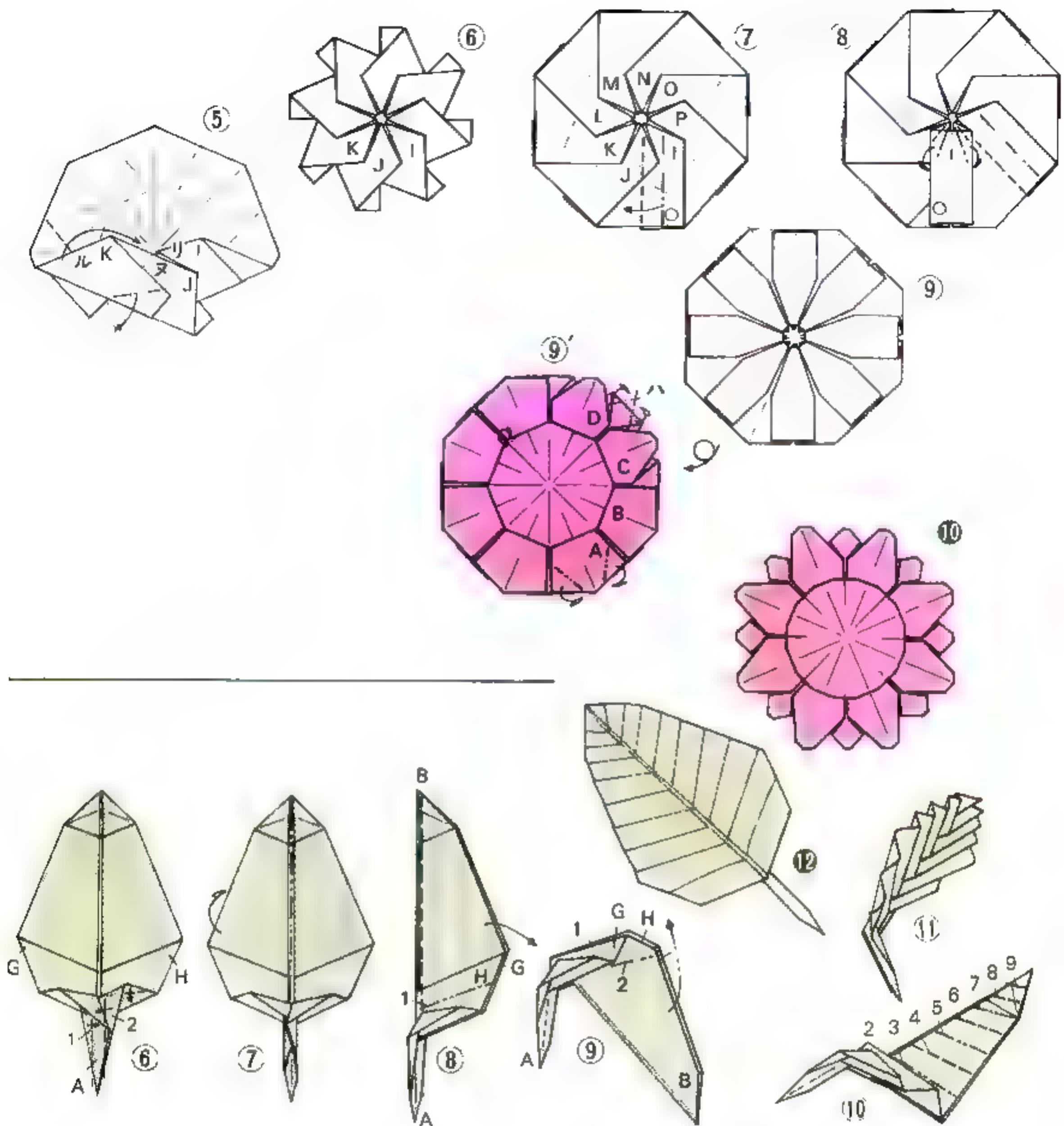


〔花〕

八角形の紙を用いる（用紙の作り方は37ページ参照）。各部分に記号を書き入れて折れば、折り線がわかりやすい。

①それぞれの対角線を折って中心に印をつけ、さらにイホ、ロヘ、ハト、ニチの谷線に折り目をつける。つぎに、カドを中心に合わせて、内側の八角形の折り目をつけ、AとBのカドを中心にはわせ、イを外側につまんで、左へたおす。②Cのカドを中心に合わせ、ロをつまみ出す。③Dのカドを中心に合わせ、ハをつまみ出す。Eまで折ってから、ABCを開

いてFGHに同様に折り口をつけ、④のように折りまとめる。④裏返す。④' I-Jの中点りを中心にあわせ、谷線に折り目をつけ、他も同様に折って、内側の八角形の折り目をつけろ。リスを中心に合わせてJをつまみ出す⑤。⑤ルを中心に合わせてKをつまみ出す。全部折って⑥のようにする。⑥裏側を開き出して⑦。⑦谷線を折ってIを引き起こし、山線の位置に折り目をつけて、袋状に広げてつぶす。⑧カドを折り込み、それぞれ同様に折る。⑨裏返す。⑩'Aのように矢印に折り込んでCDの



ようにしてから、ハの矢印のように折って裏側の花びらを作る。全部を折ってから、花びらをもって内側の八角を少しずつ引き出して、カドを小さく折り込む。⑩出来上がり。

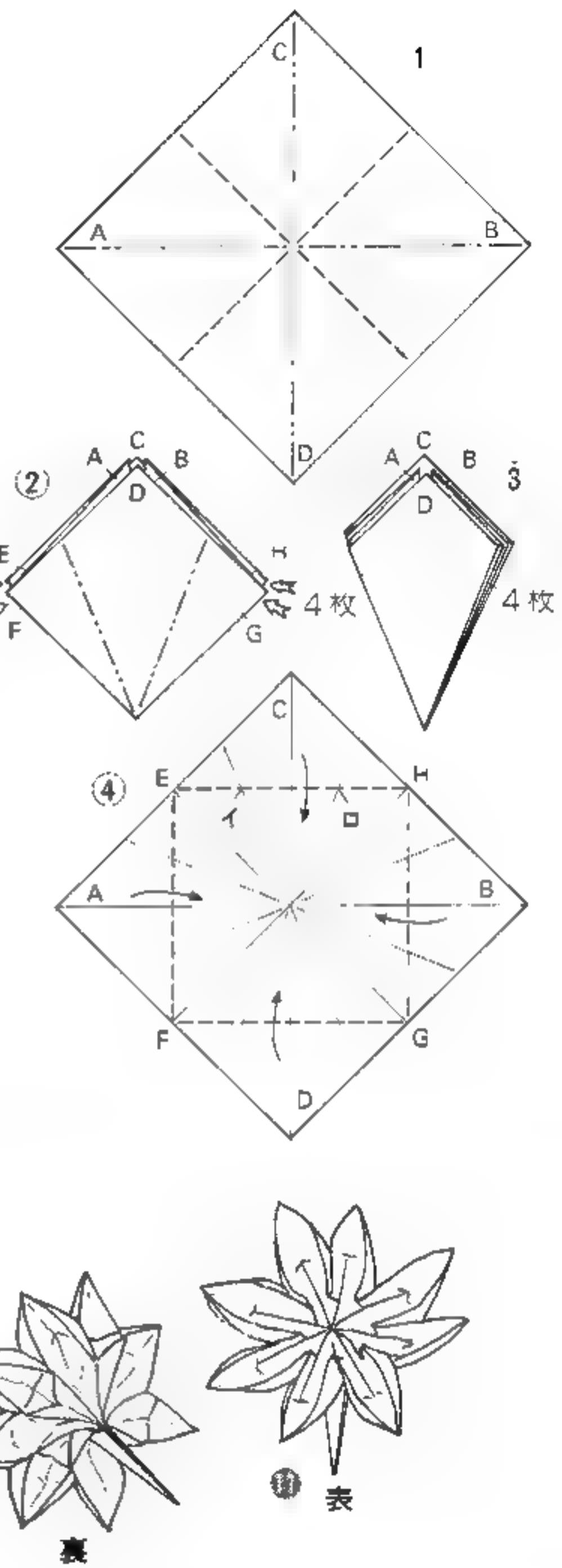
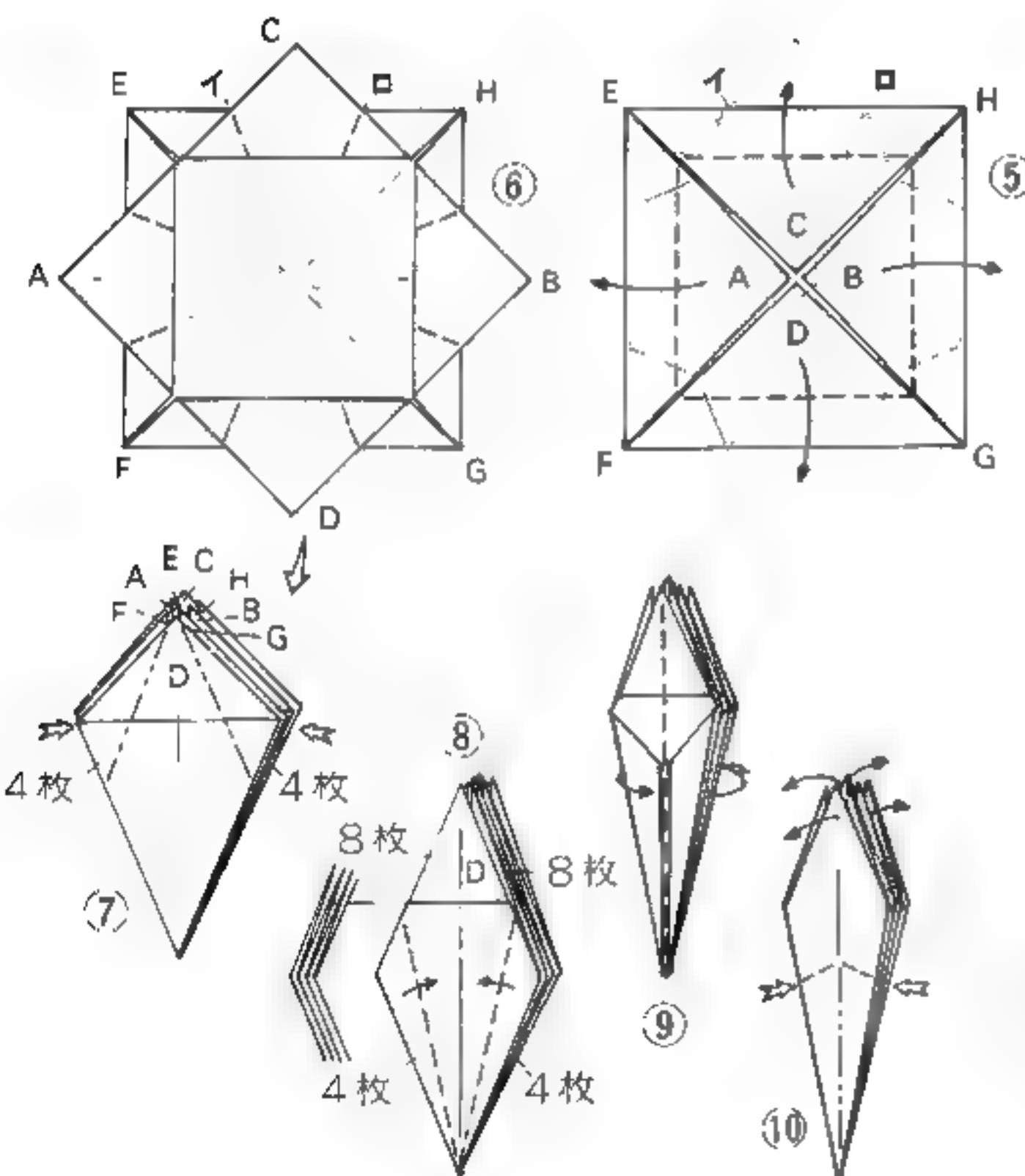
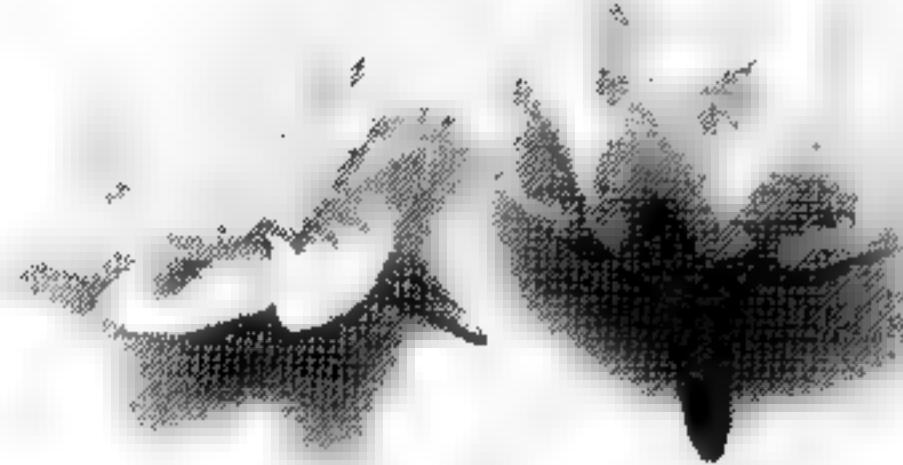
[葉]

①正方形の紙のABの中心に折り目をつけ、Bを図の割合に折ってから、CDを折る。②△印を○印の下へ折る。③Bの右側も同様に折り、EFを折る。④Aを矢印につまみあげて点線へ折る。⑤Aを折る。⑥Aをそれぞれ

矢印に細く折る。⑦二つに折る。⑧ABの中心の線に平行に、細く折り目をつけて主脈を作り、1の山線の位置からGHを広げてBを中心へ入れる。⑨GHを広げて、Bを2の山線から折り返す。⑩、⑪⑫の折り方と同様に山線で折り込み、谷線で折り返して、主脈をさかいにして斜めに側脈の畝折り（角度に注意して）を作る。⑪広げて、葉の形にとのえる。⑫出来上がり。

菊

菊の節句という行事もあり、古から菊は秋の高貴な花とされてきました。

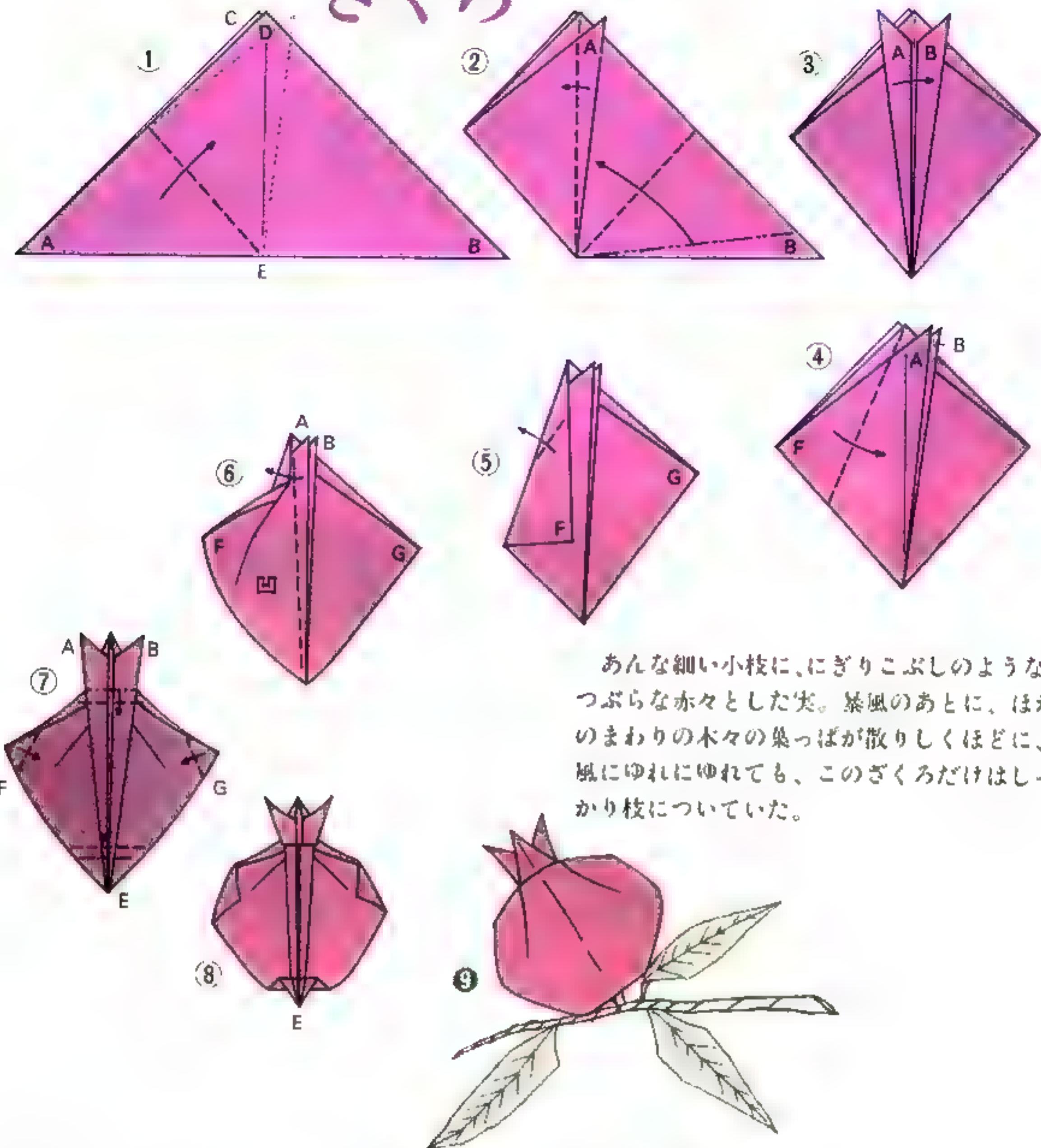


1 正方形の紙を山線と谷線で(2)のようにする(CDの対角線は折り目をつけるだけ)。
2 山線の位置からそれぞれ折り込む。(3)平らに広げる。④ABCのカドを中心にして折る。
5 Cを放射線の折り目のイ、ロに合わせながら点線へ折り、ABDも同様に折る。(6)前の折り目にしたがって折る。(7)山線の位置からそれぞれのカドを間へ折る。(8)四枚重なって

いる上の一つずつを矢印に折り、開きかえて全部同じように折る。(9)表の右側の一枚を左に、裏の左側の一枚を右に返す、(10)久印につまみ、花柄を作り、上のカドを開いて、化びらの形にととのえる。(11)出来上がり。

写真左は少し小さい花を作り、花柄をもう一つの花の中に差し込んで仕上げたもの

ざくろ



和紙の朱赤でどうきのきいたいろ紙を用いる。
①のように、正方形の紙を対角線に折ってから、
ABのカドを合わせて、E点に小さく印をつけて、
Aを点線へ折る。②Aを谷線から折り返し、Bも
Aと同様に折る。③AをBの上に重ねる。④Fを
久印に折る。⑤Fを谷線から折って(6)のようにく
ぼみを作る。⑥Aを矢印に返して、右側のBGも
左側と同様に折る。⑦それぞれ矢印に折る。⑧E
を細くして表に返す。⑨出来上がり。

色紙や短冊にざくろの一枝を構図してたのしむ
こともできる。

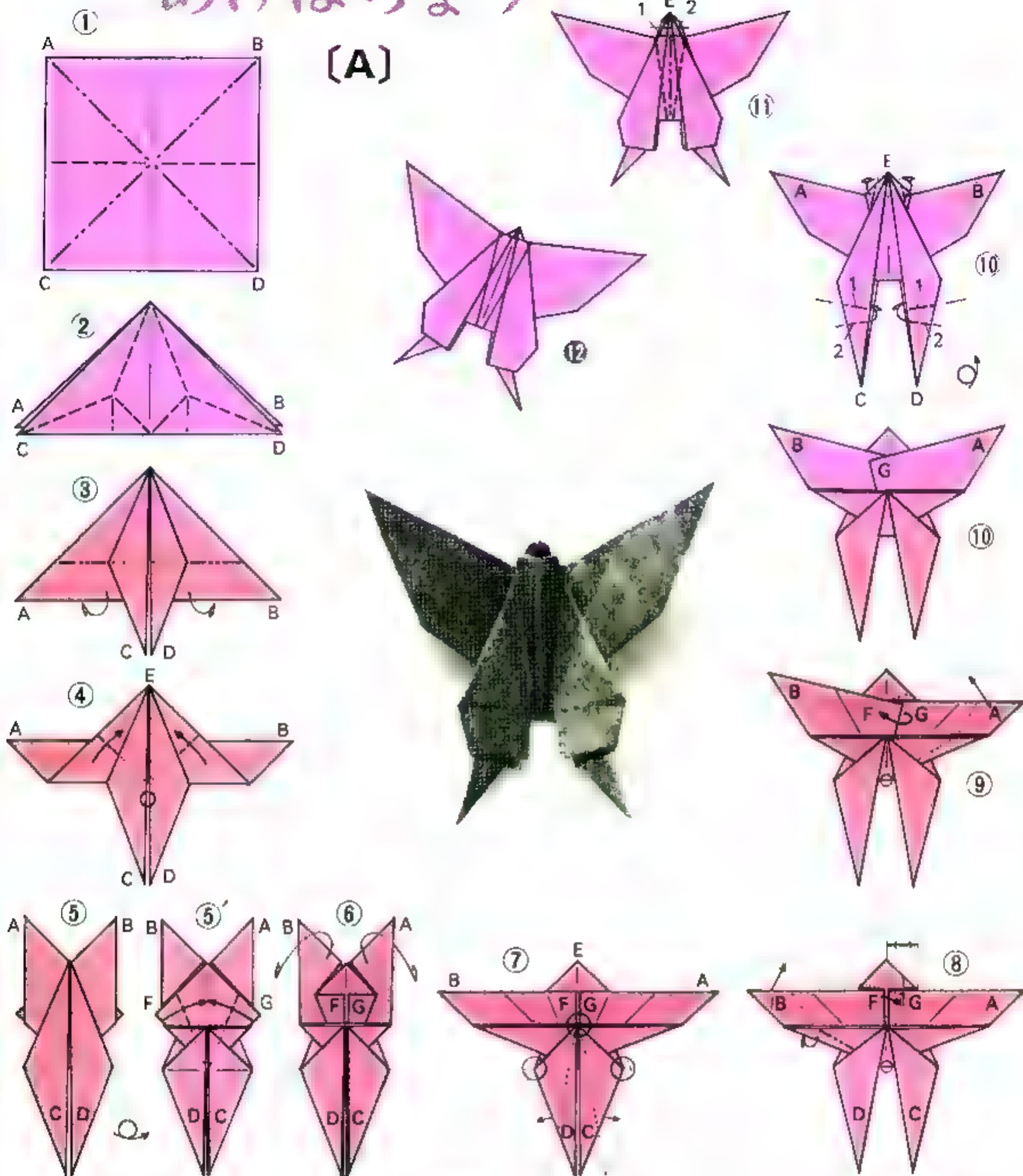
葉は細長い菱形に折って作り、小枝は茶色の雲

あんな細い小枝に、にぎりこぶしのような、
つぶらな赤々とした実。暴風のあとに、ほか
のまわりの木々の集っぱが散りしくほどに、
風にゆれにゆれても、このざくろだけはしつ
かり枝についていた。

巻紙などを綿紙に細長く切って、はじめに左より
のこよりで好きな長さにまでしたところで、折り
返して逆に巻きつけて、その部分をかたくよって、
小枝の先の部分にする。芯になじませてなるべく
細く巻きつけ、だんだん太くして小枝らしい形に
してから、巻きじまいを筒状にして、つま揚子な
どで切り口らしい形に内側へ押し込んで作る。

ざくろと葉のつけ方は、こよりの巻き重ね口か
ら口打ちの先を、紙に傷つけないように注意して
差し込んで穴を作り、ざくろと葉を組み合せて
形をととのえる。

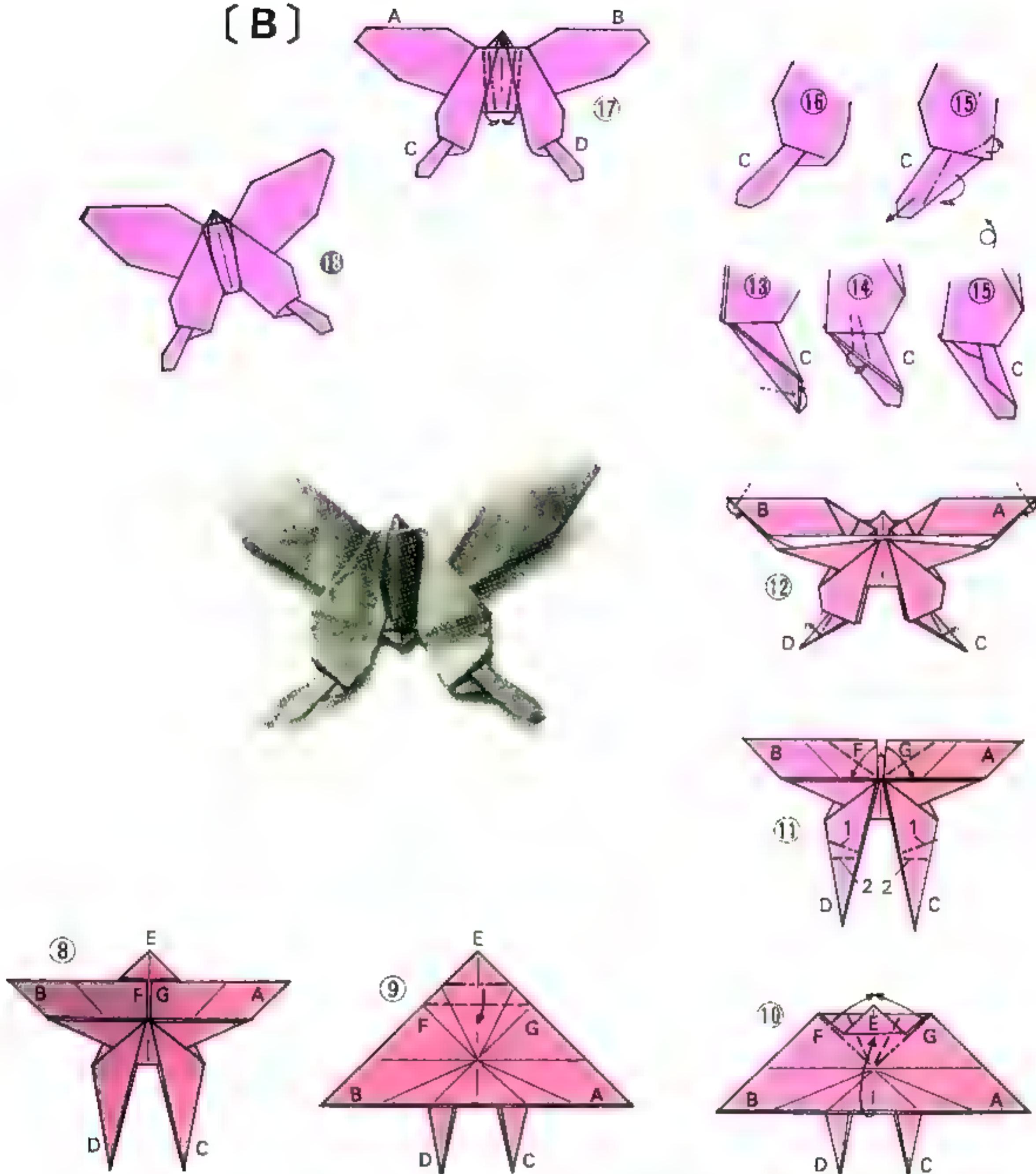
あげはちよう



正方形の紙を①②と折る。③ABを裏側へ折り上げる。④ABを矢印に折り上げる。この場合、○印を持ってABを引っぱりながら、谷線を延長した点線は袋の内側で折る。⑤裏返す。⑤'FGを中へ折る。谷線を延長した点線は袋の内側で折る。⑥ABを左右に開く。⑦FGのところの○印を持って、CDの上の左右のカドを指でつまんで点線へ静かに引き出す。この場合、指で軽く押さえながら左右

に引き出せば、たやすく出来る。⑧印の内側を支点として、BFを点線へずらす。⑨Gを引き出してFの上に重ね、印を支点として、AGを点線へずらす。⑩裏返す。⑩'Eの左右のカドを小さく裏へ折り込み、CDを1の山線で中へ折ってから、2の谷線で折り返す。⑪Eに段をつけてから、中心の山線で二つに折ってから谷線で左右に折り返して形をととのえる。⑫出来上がり。

[B]

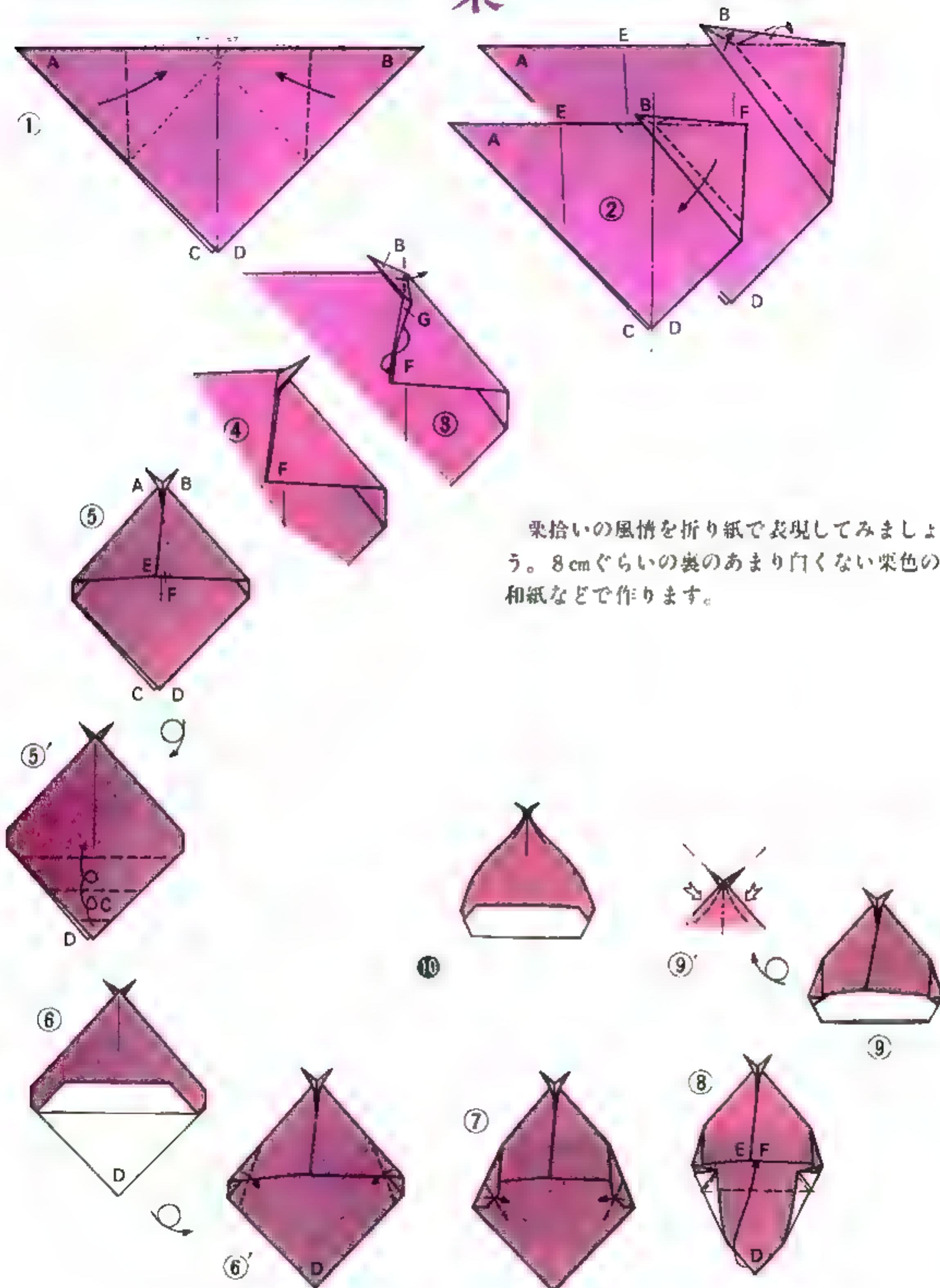


(A)の⑧まで同様に折る。⑨を⑩の形に広げる。⑩Eに段をつける。10元の折り目で、FGを中心へ折り、ABを折り上げる。⑪FGを折ってカドを袋の中へ差し込み、CDを山線と谷線で内側へ段をつける。⑫ABのカドを折り込み、CDの先を斜めにずらして点線へ折り、⑬のようにする。⑭先を折り込む。⑮上側だけ山線と谷線で中へ折り込む。⑯裏返す。⑰山線の位置から裏印に裏へ折りなが

ら、先を少し引っぱって⑯のようになる。DもCと同様に折る。⑯山線と谷線に折り目をつけてからだを作り、裏側の袋状になっているところを左右にのばして平らにして、形をととのえる。⑰出来上がり。

(A)はミヤマカラスアゲハのおおらかな感じを出し、(B)はオナガアゲハの特徴を出しました。この折り方から、その他いろいろのちょうになります。

栗

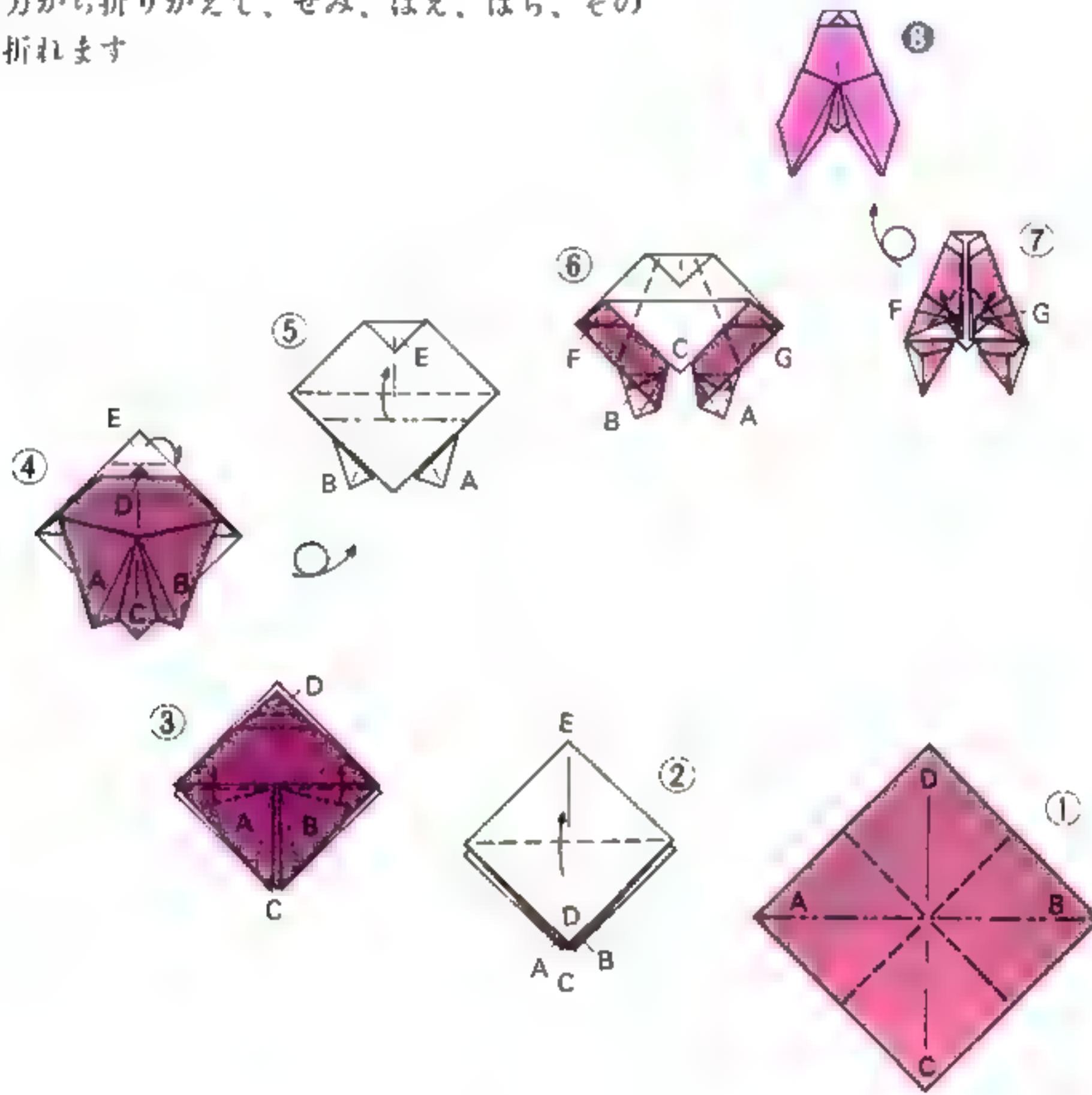


あぶ

裏の白いグレーなどの紙を用い、大きさは5cm四方ぐらいがよい

3回のDに段をつける場合、山線の位置をもっと下のほうにすれば、背が小さくなつてよい形になる。(7)でF Gを折り返すとき、体が前へ倒れないように、角度に注意して折る

この折り方から折りかえて、せみ、はえ、はち、その他いろいろ折れます



〔栗〕

正方形の紙を対角線に折って①。①を二つに折って中心に折り目をつけてから、ABを点線に折り、Aだけのはす。②Bを山線と谷線で拡大図のように折る。③GをFの袋に入れて④のようにする。AもBと同様に折って⑤のようにEのカドをFの袋に差し込む。⑥裏返す。⑦Cを折る。⑧裏返す。⑨(7)(8)の順に折って、DをEFの内側へ差し込む。⑩裏返す。⑪の先をつまんで形をととのえる。⑫

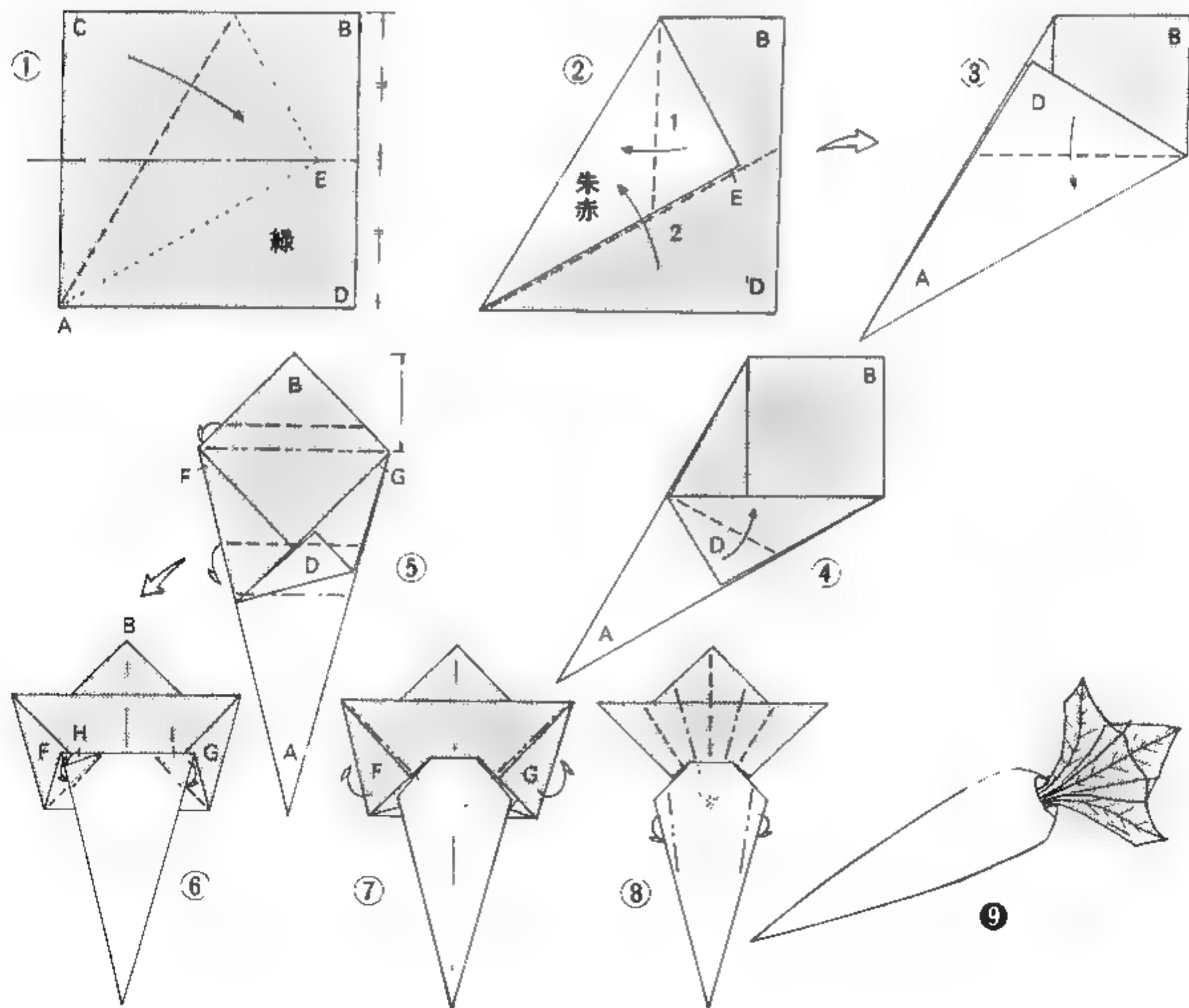
出来上がり。中からほどよく押し出してふくらみをもたせ、京花紙などを軽くつめて仕上げる。

〈飾り方〉 同じ大きさのものばかりでなく、少し小さめのものを2、3個ませて7、8個作り、荒削りの木の板や小さい箕などに何げなく粒栗がころがっているような感じに飾ります。7cmぐらいの紙で、木の葉を色どりよく折って添えるのも風情があります。

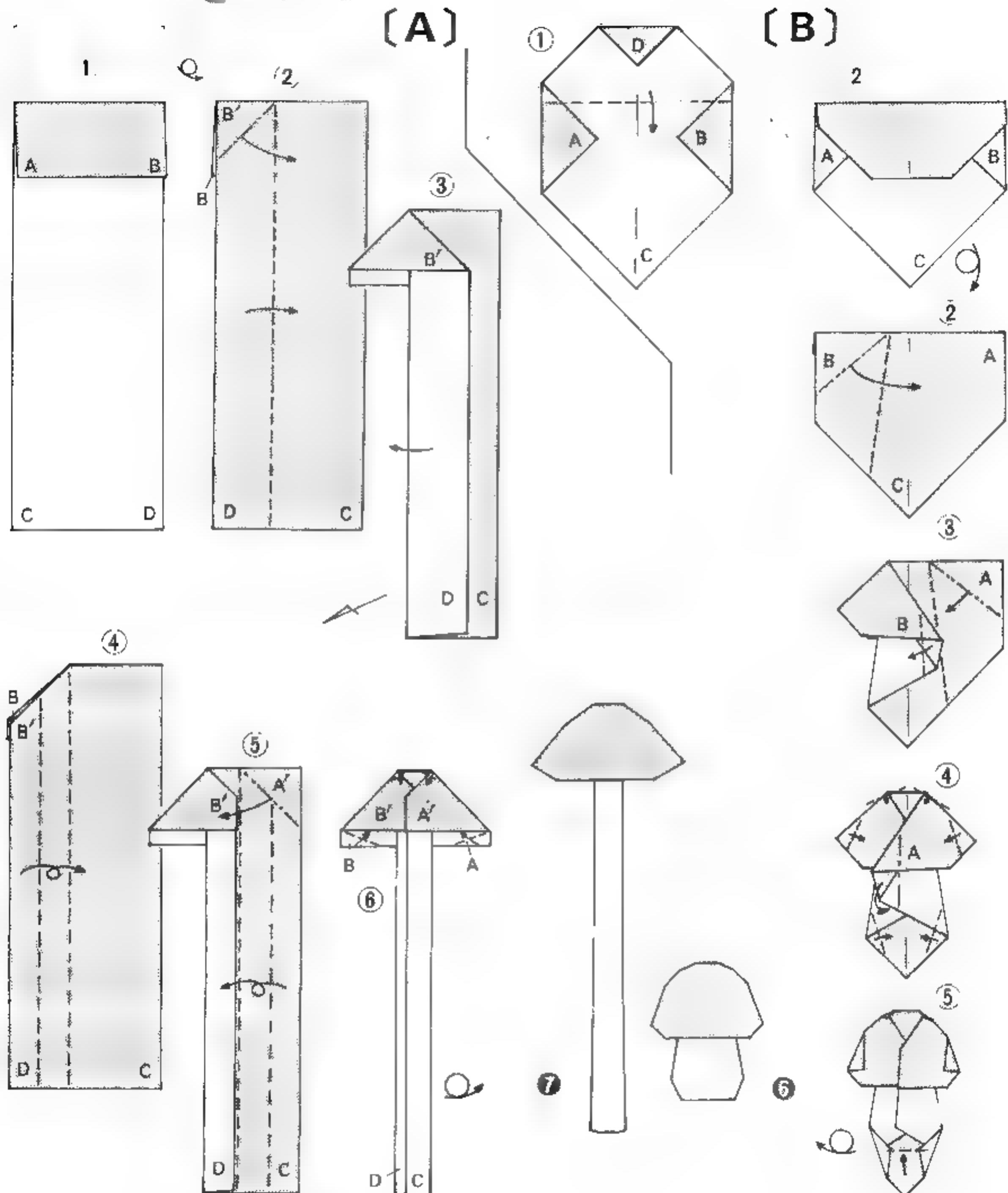
にんじん

朱赤と緑の正方形の紙を重ねて、Aのカドを二等分して根の部分を作り、Bの部分で葉を作る。

- ① Aのカドを四のよにして二等分する。
- ② 1、2の順に折る。3、4を折る。5山線と谷線でそれぞれ段をつける。6H-Iを間へ折る。7F-Gを裏へ折る。8山線と谷線で放射線状に折りたたんでから、あっさりともんでも葉の感じを出す。木の葉のように畝折りにしてもよい。⑨出来上がり。



きのこ



きのこ[A] 1 長方形の紙（縦横の割合は自由）の幅の $\frac{1}{2}$ くらいを折り返してから、裏返す。2 B の袋を用きながら谷線を折って③のようにする。③Dを矢印に返す。④谷線を二回折る。⑤右側も左側と同様に折る。⑥それぞれ矢印に折ってから、軸の上のはうを押し

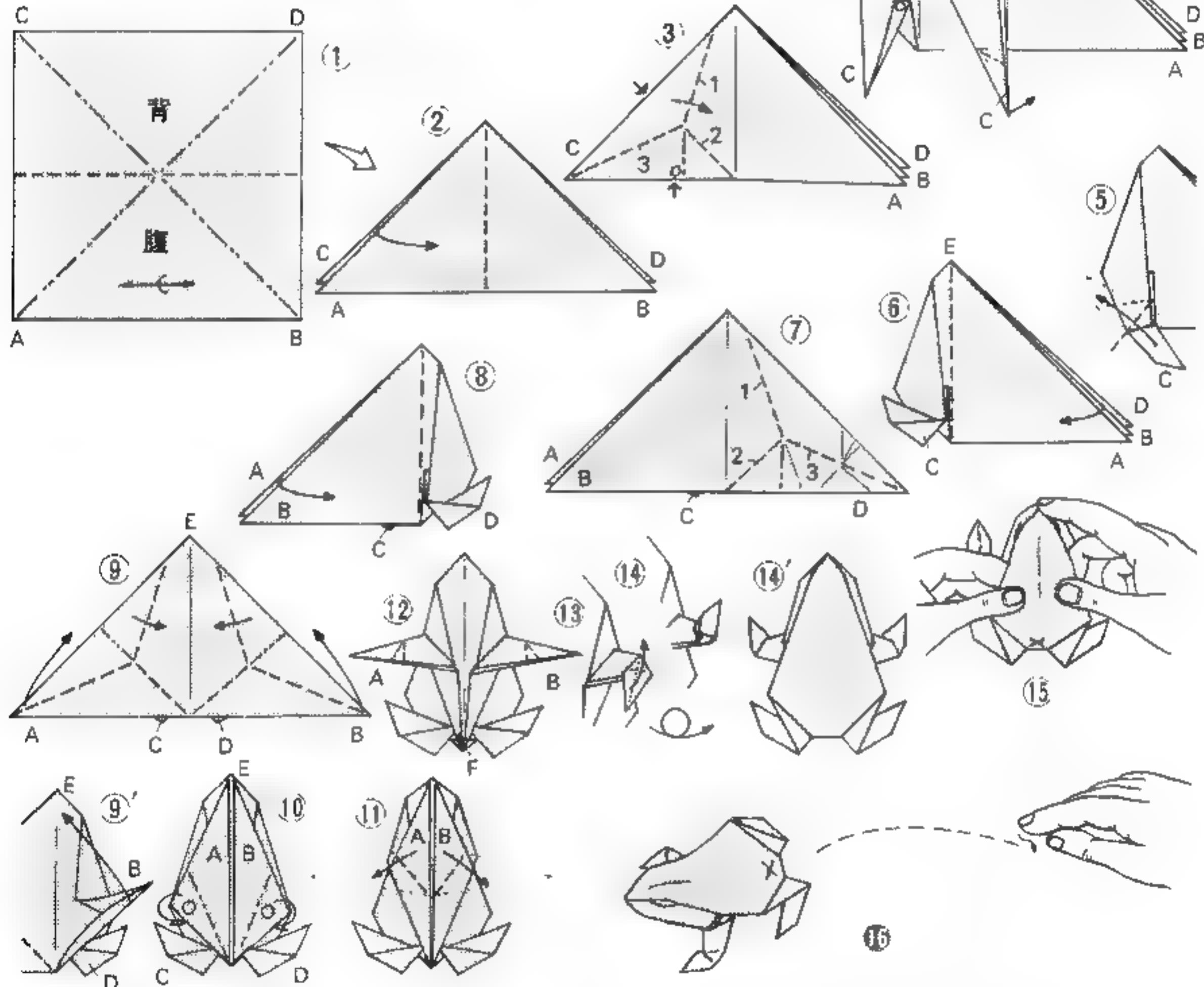
つぶして、丸やかに形をととのえる。⑦出来上がり。

きのこ[B]は正方形の紙から[A]と対照的に、小さく丸やかに仕上げる

かえる



紙には和紙にも洋紙にも、軽く曲げてみて弾力の強いほうと弱いほうがあり、曲げやすいほうを縮紙といいます。1のようにして縮紙を使うと、弾力でよくはねます。紙の大きさと、厚さの割合を工夫して折れば、体の5~6倍はねます。

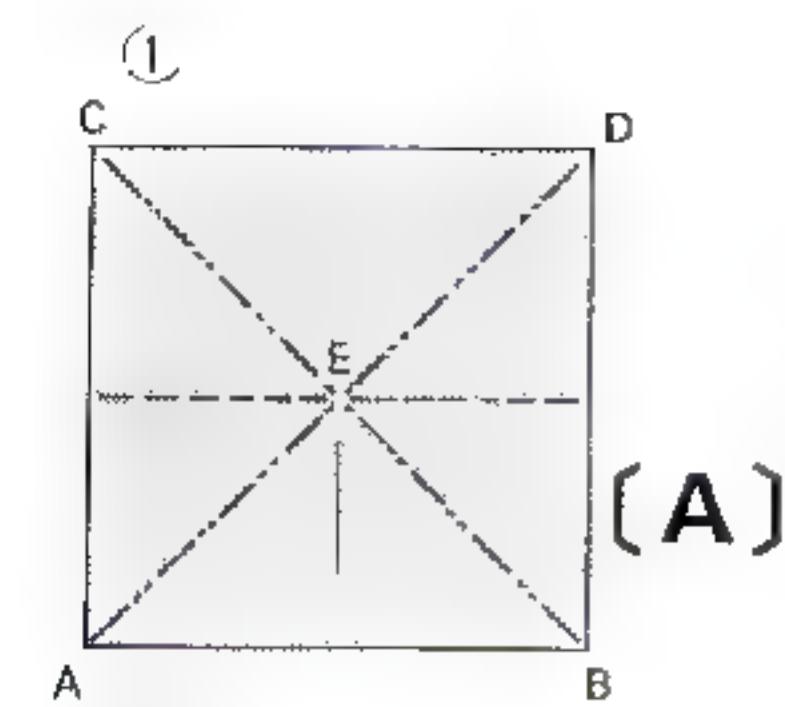


[はねがえる]

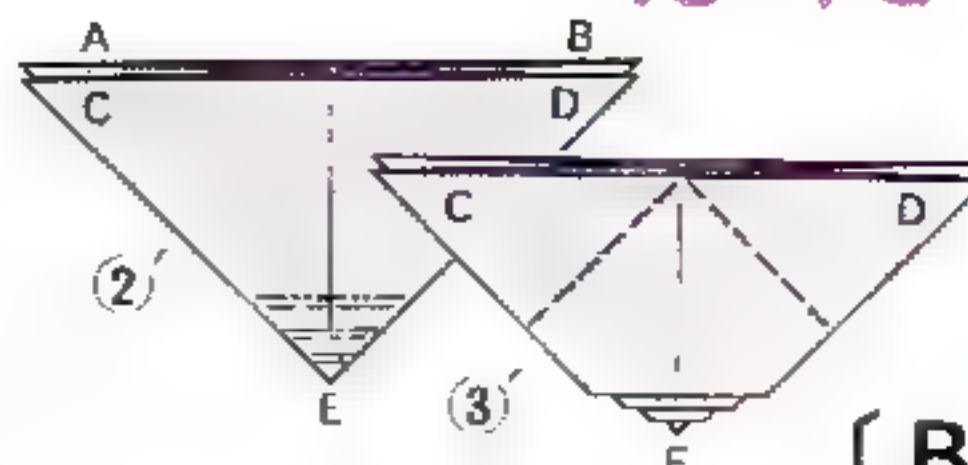
1 正方形の紙を山線と谷線の折り目をつけて、2のようにして、Aを返す。3・3'かえるの背の形を考えながら1を折り、しりの形を考えながら2を折り、3の谷線を折る。4 Cを点線のように折る。5 Cを点線のように折って、右の後ろ足が出来る。6 AとBを返す。7 DをCと同様に折る。8 Bを返す。9 Bを

9'のようにして、カドをEに合わせる。Aも同様に折る。10 X印を間へ折る。11 AとBを点線へ折る。12 Fを折り、AとBを13・14のように折ってから、表へ返す。14'を15のようを持って机の上に押しつけ、体の前半分を上にそらし、頭を人さし指で押さえて少しふくらませる。16出来上がり。X印を指で押さえてすべらすと、びょんとはねる。

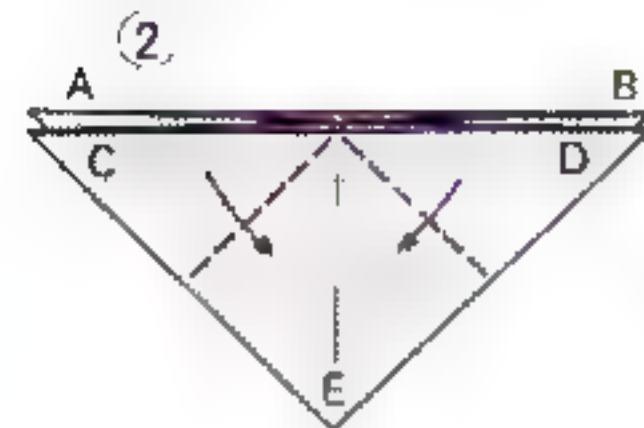
ほたる



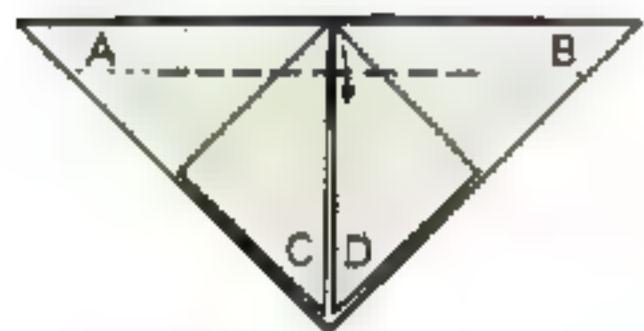
[A]



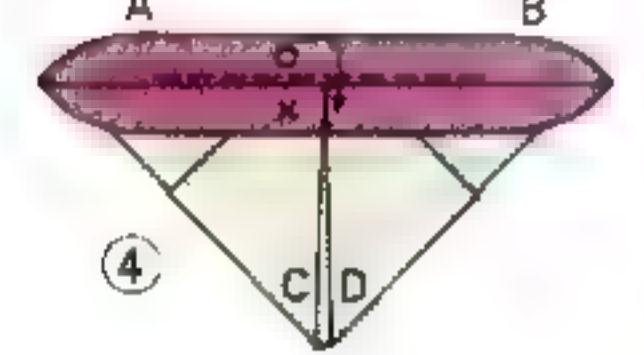
[B]



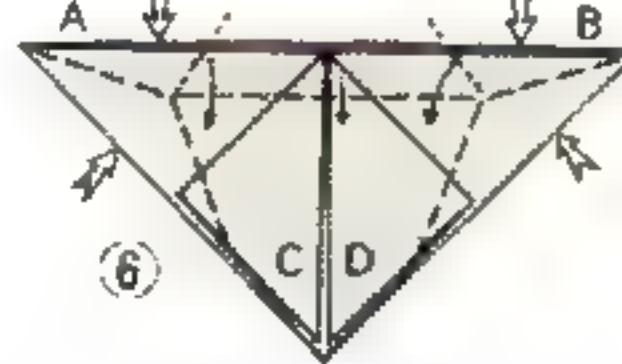
(3)



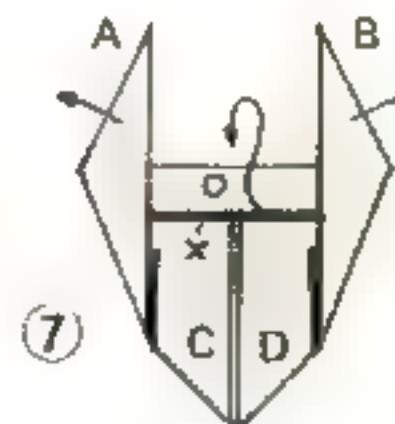
(4)



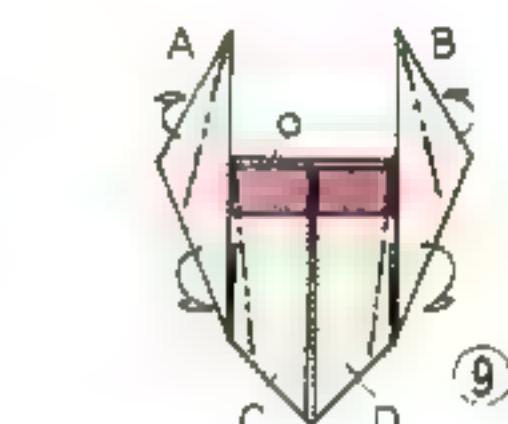
(5)



(6)



(7)



(8)

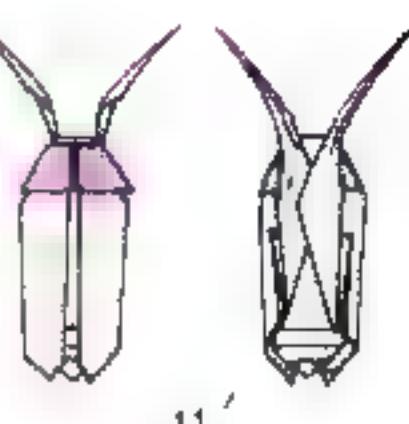
薄手の紙で小さく作る。色は黒い片面染めの裏を赤く染めて用いる。

ほたる[A] (1)正方形の紙を山線と谷線で折り目をつけて(2)のように折りまとめる。(3)C-Dを折り下げる。(4)矢印に折る。(5)-(6)は(3)で折った折り目の外側を少しあけて折り目をつけ、ABをもどす。(6)ABを谷線と山線で矢印につまんで折り上げ、(7)のようにする。(7)は(8)のように半開きにして、印のついた一

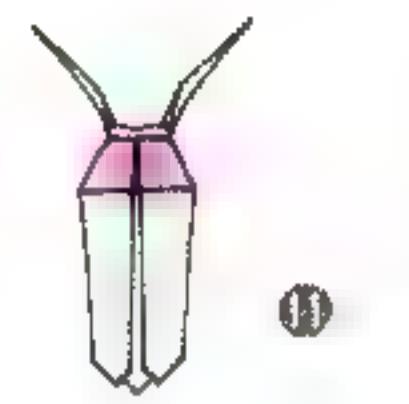
枚だけを×印の下側へ差し込んで、(9)のように折り口をなじませる。(9)-(10)それぞれ折り線の角度に注意して折る。(11)出来上がり。(○印のずらした部分は出来上がりの口になっている。

飛んでいる姿にするには、羽を左右に広げる。ほたる[B]は[A]の折り方に従って折り、Eに細く段をつけて腹の感じを出したもの。

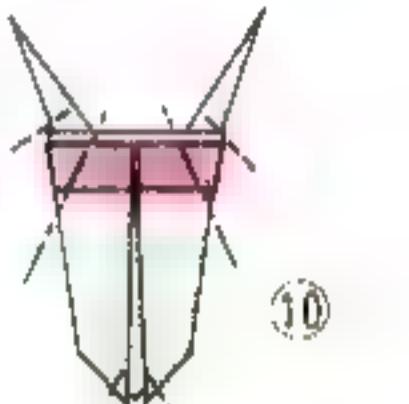
緑の紙で平行葉脈の葉を作って、ほたるを止まらせ飾るとよい。



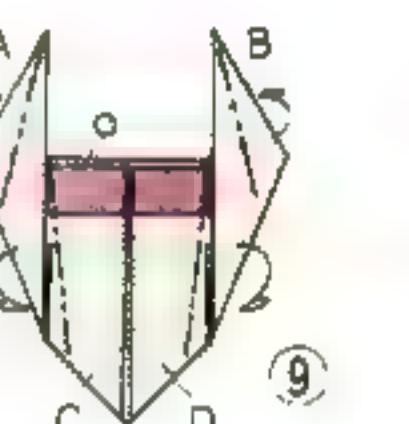
11



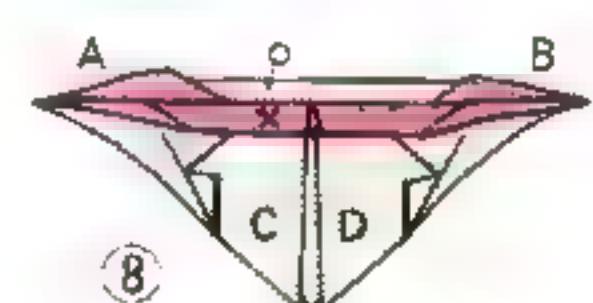
(11)



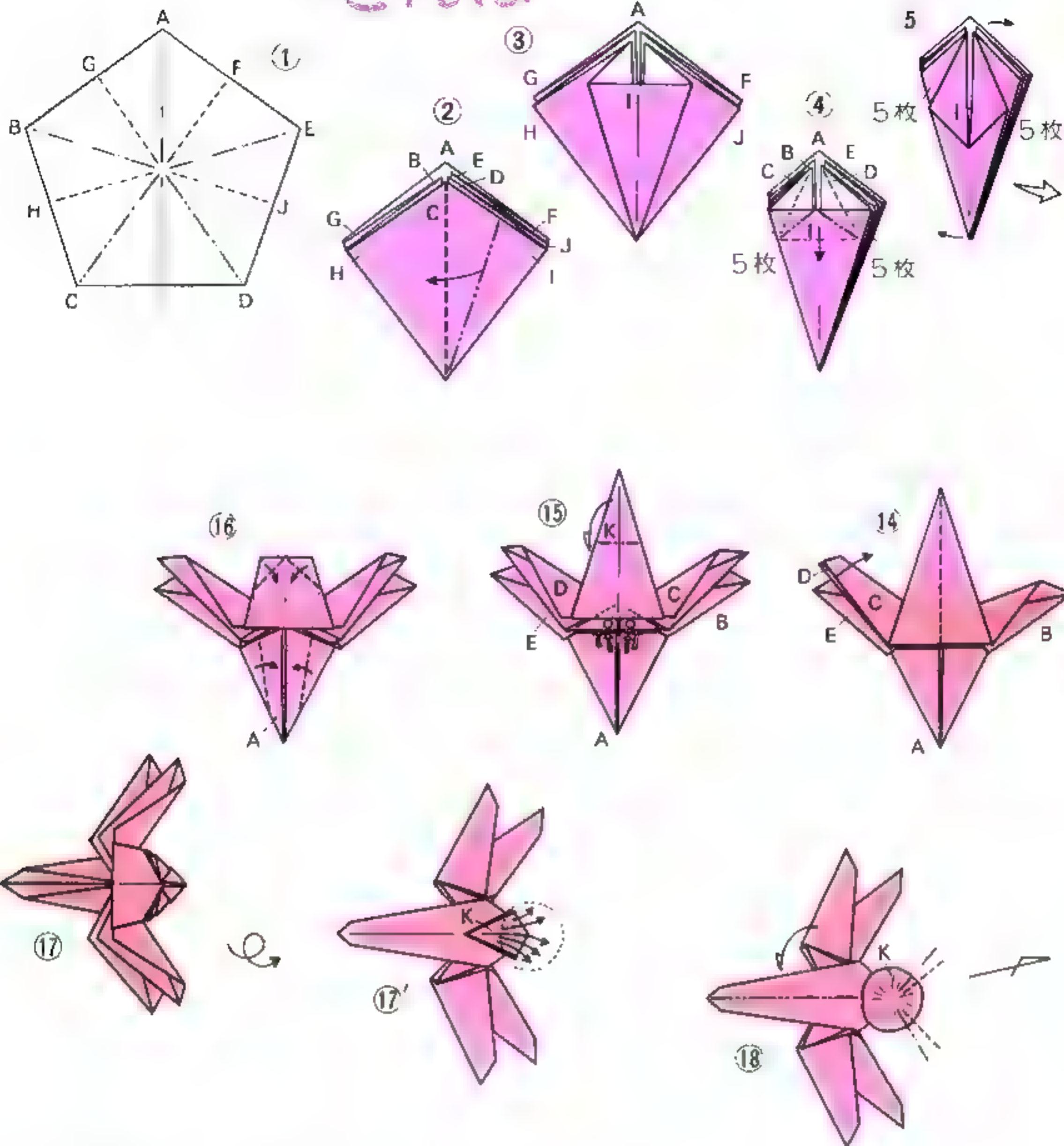
(10)



(9)



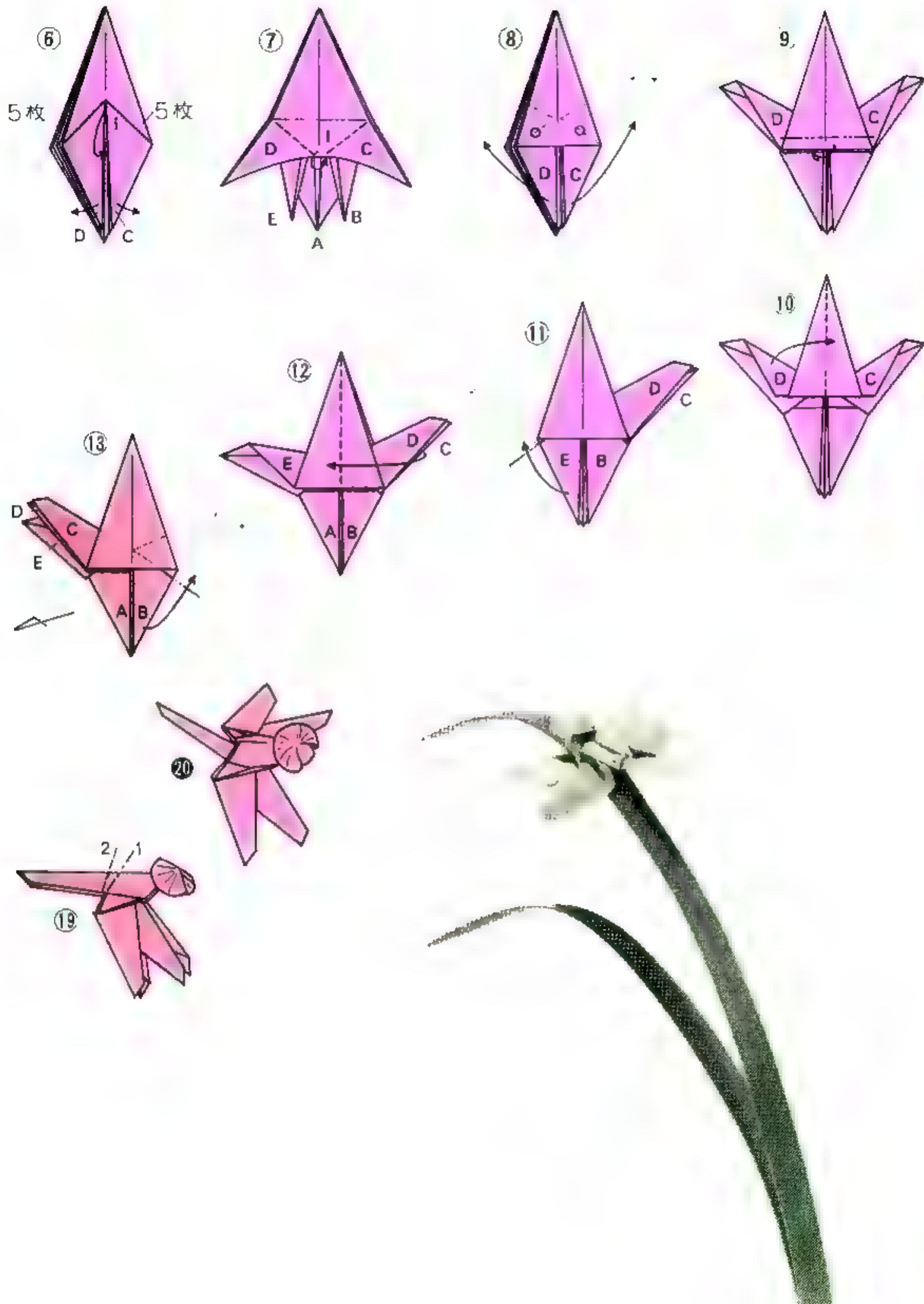
とんぼ

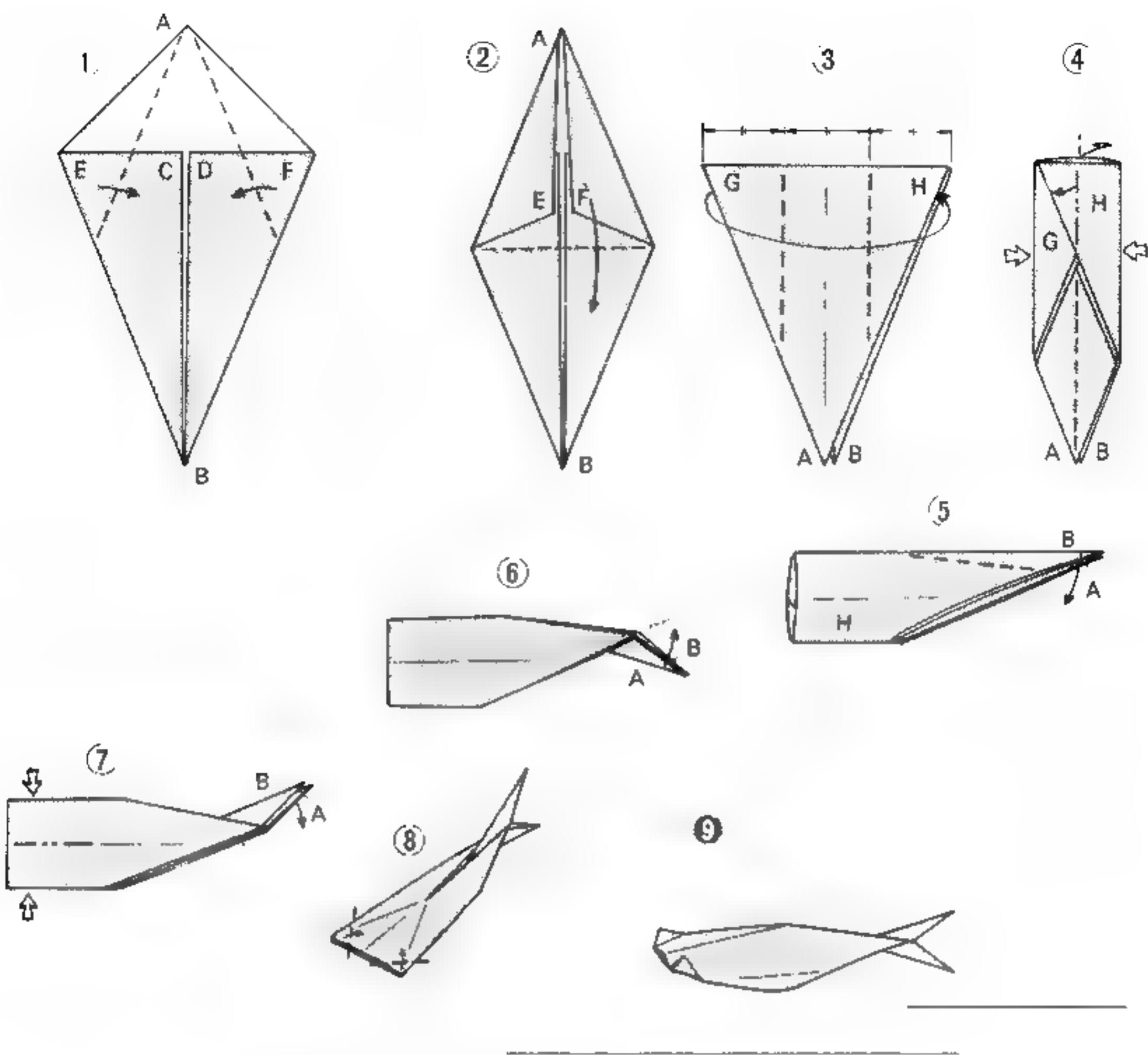


五角形の紙を用いる（用紙の作り方は37ページ参照）。

五角形の紙を①のように折り目をつけて②のように折りまとめる。②の袋を折り広げる。③GHJFも①と同様に折る。④山線と谷線でIを開き出す。⑤、③で折ったGHJFをIと同様に折ってから、上下の向きをかえる。⑥CDを⑦のように引き出し、Iを内側へ折り込む。GHJFもIと同様に折る。⑧CDを○印の内側で点線の位置から、それぞれ少しねじって点線へ折る。⑨矢印に折り込む。⑩Dを右へ返す。JEをねじるようにし

て点線へ折る。この場合、CDの前羽に対して、Eを後羽の位置に折る。⑪CDを左へ返す。⑫BをEと同様に、後羽の位置へ折る。⑬Cだけ右へ返す。⑭Kを裏へ折り、○印の部分をそれぞれ羽の間へ斜めに折り込む。⑮上の矢印のカドを折り、Aの谷線の上のはうは点線の裏側で折る。⑯裏返す。⑰'Kを点線へ丸やかに開き出す。⑱Kの山線と谷線に段をつけて口を作り、縦に二つに折る。⑲AをIの山線で折り込み、2の谷線で折り返し、形をととのえる。⑳出来上がり





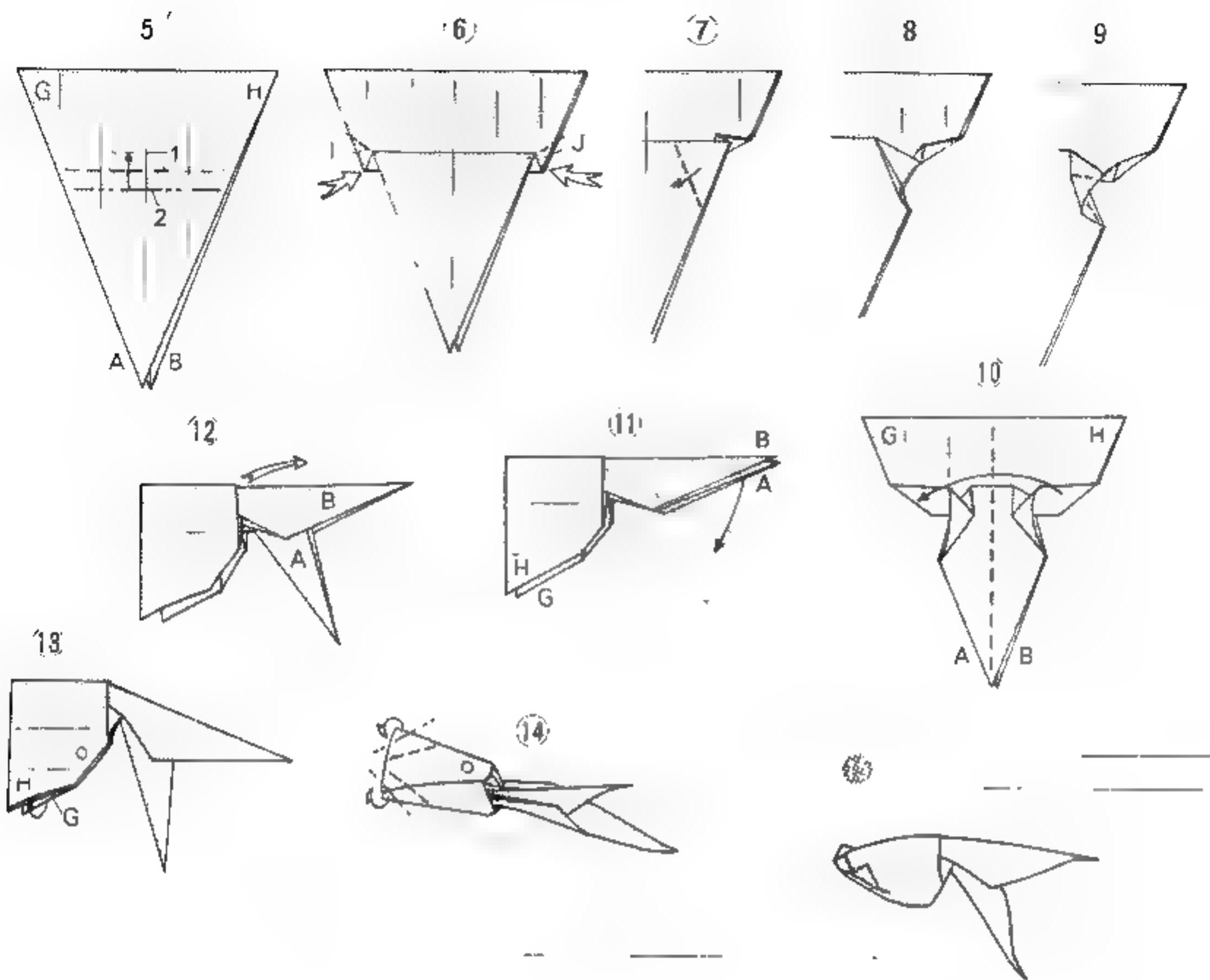
めだか

グレーか薄い朱赤の薄口の和紙を小さく切って、丁寧にすっきり仕上げます。

正方形の紙を①②のように折る。③三等分の折り目をつけてから、Hの袋にGを差し込む。④上から指を入れて、HとGがはずれないように持ちながら、左右から押しつぶす。⑤ABを重ねたまま間へ折る。⑥ABを重ね

たまま点線の内側で折り返す。⑦Aを点線へ引き出して尾の形にととのえ、中を筒状にして山線を折って、頭と尾を引っぱり、紙に小じわを入れないように注意し、頭のほうだけ平らにする。⑧目の部分を小さく折り上げて形をととのえる。⑨出来上がり。

でめきん



赤または黒の和紙で優しい感じに仕上げます。めだかの5まで折って広げ、(5)谷線と山線で段をつける。(6)JのカドをA(9)のようにして折り込む。(10)二つに折る。(11)Aの一枚となるべく元のほうから折り出す、(12)尾を静かに引き出してから、付け根と腹の部分を押しつぶす。(13)腹に指を入れてふくらませ、Hの

袋にGを差し込む。14頭はめだかと同様に折り、胸の谷線に折り目をつけ、尾を指でしごいて、うすく、やわらかい感じを出す。(15)出来上がり。

GとHを組み合わせないで、外側に折り目して胸びれにすることも出来る

たつのおとしご

みずくさ の作り方

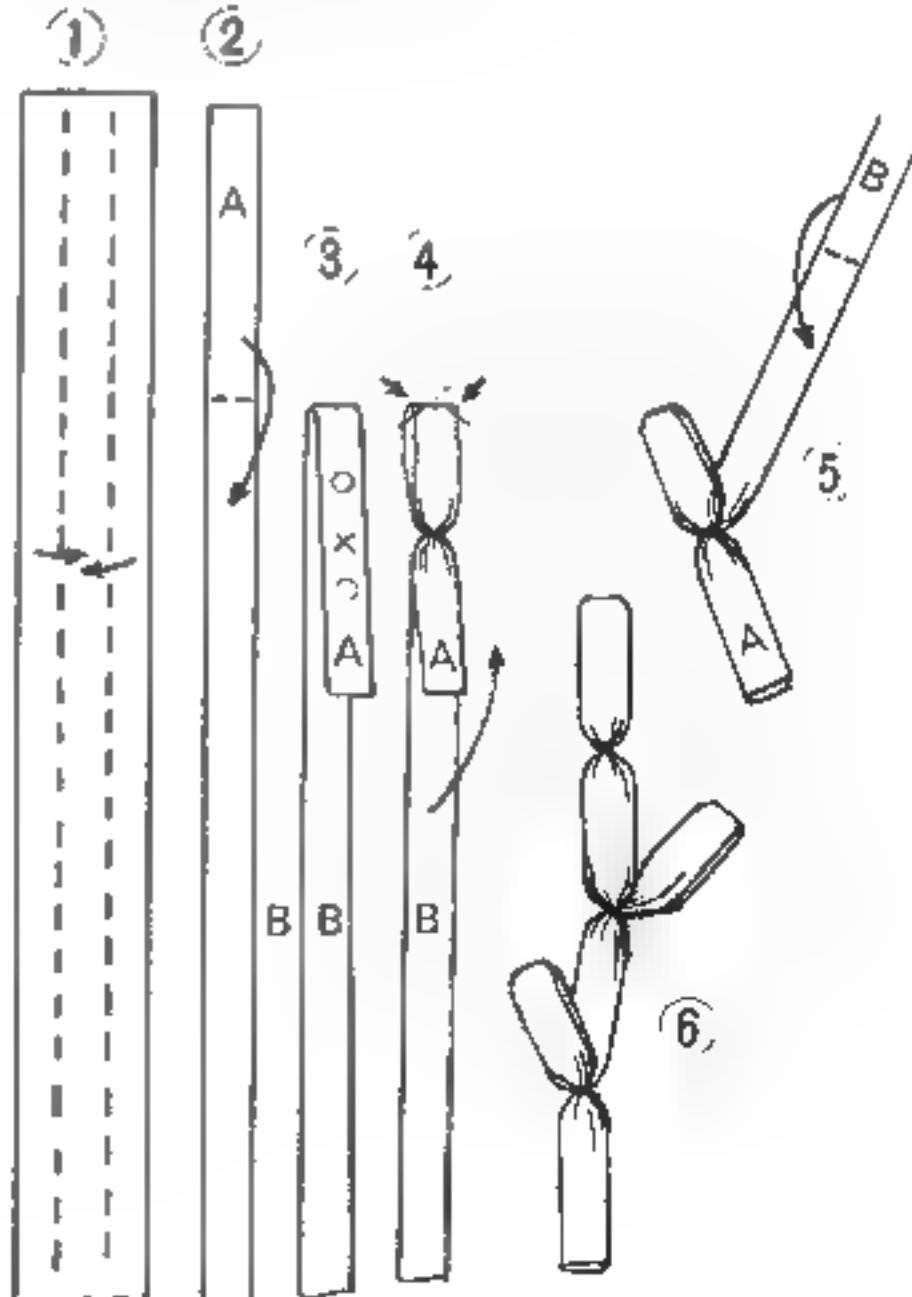
縦系統の薄い紙やセロハン紙を3cm幅に長く切って、二つ折りにしてから③のように曲げ、○口をつまんで×印のところをねじる。④のLのカドを小さく折り込んでからBを引

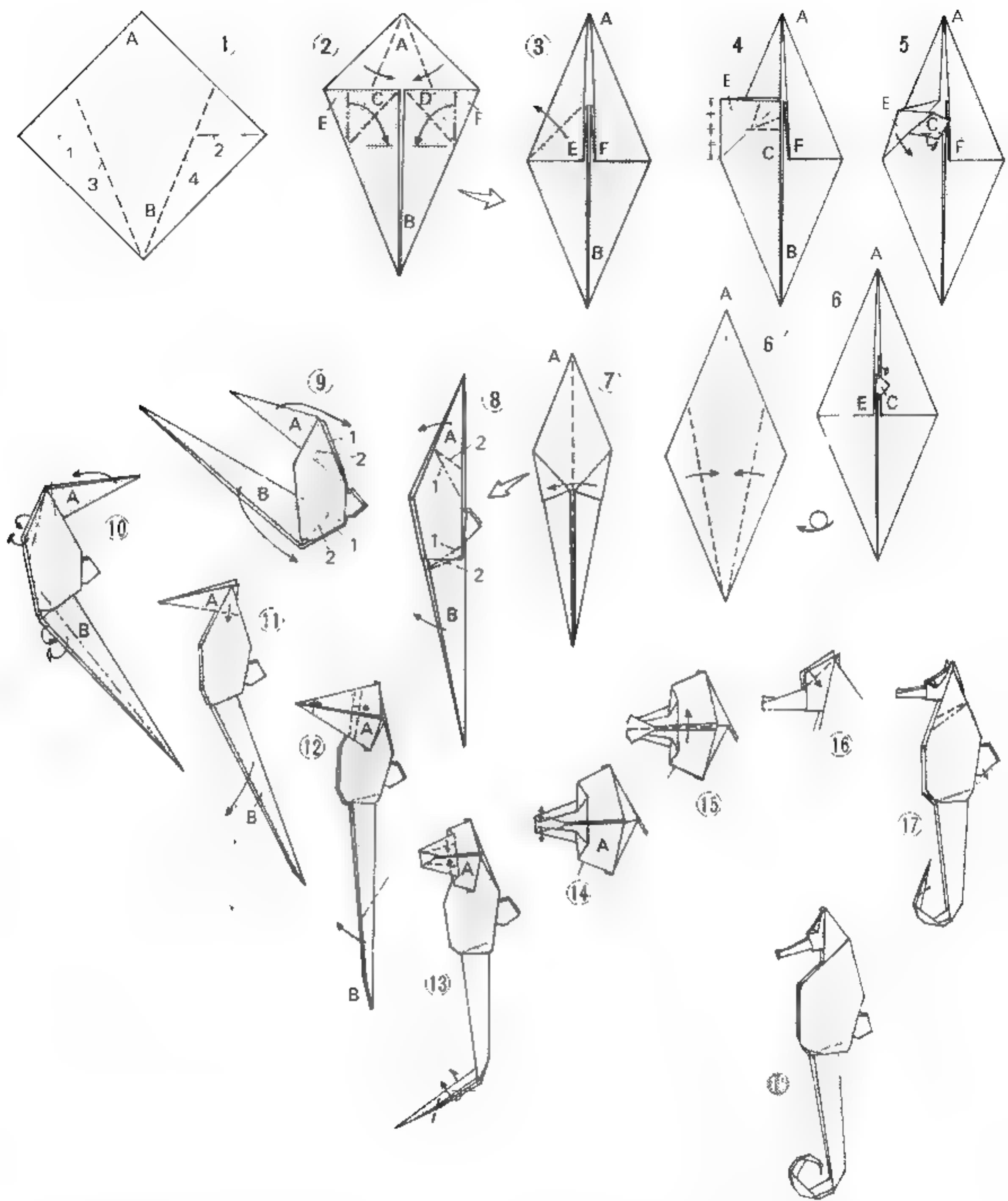
長手折り紙で動物を折っていて、つくづく思うことは、命こそ形、形のないところに命は存在しないということです。それにしても生き物の形のまことに不思議で、想像もおよばないような形に出会うことがあります。

それらの生き物を観察すると、その形がもともと自然な形に見えてくるものです。雄の腹に育児嚢をもっている「たつのおとしご」などは、おもしろいというより不思議な形です

この折り方は頭、胸と腹、尾の三つの部分に分離する事がたやすくできるので、いろいろな姿に折りかえることが出来ます。

き起こし、⑤で、またBと同じように繰り返して、変化のある形を作る。また、もっとシンプルな形が必要なときは、ところどころねじってアクセントをつけただけでもよい。

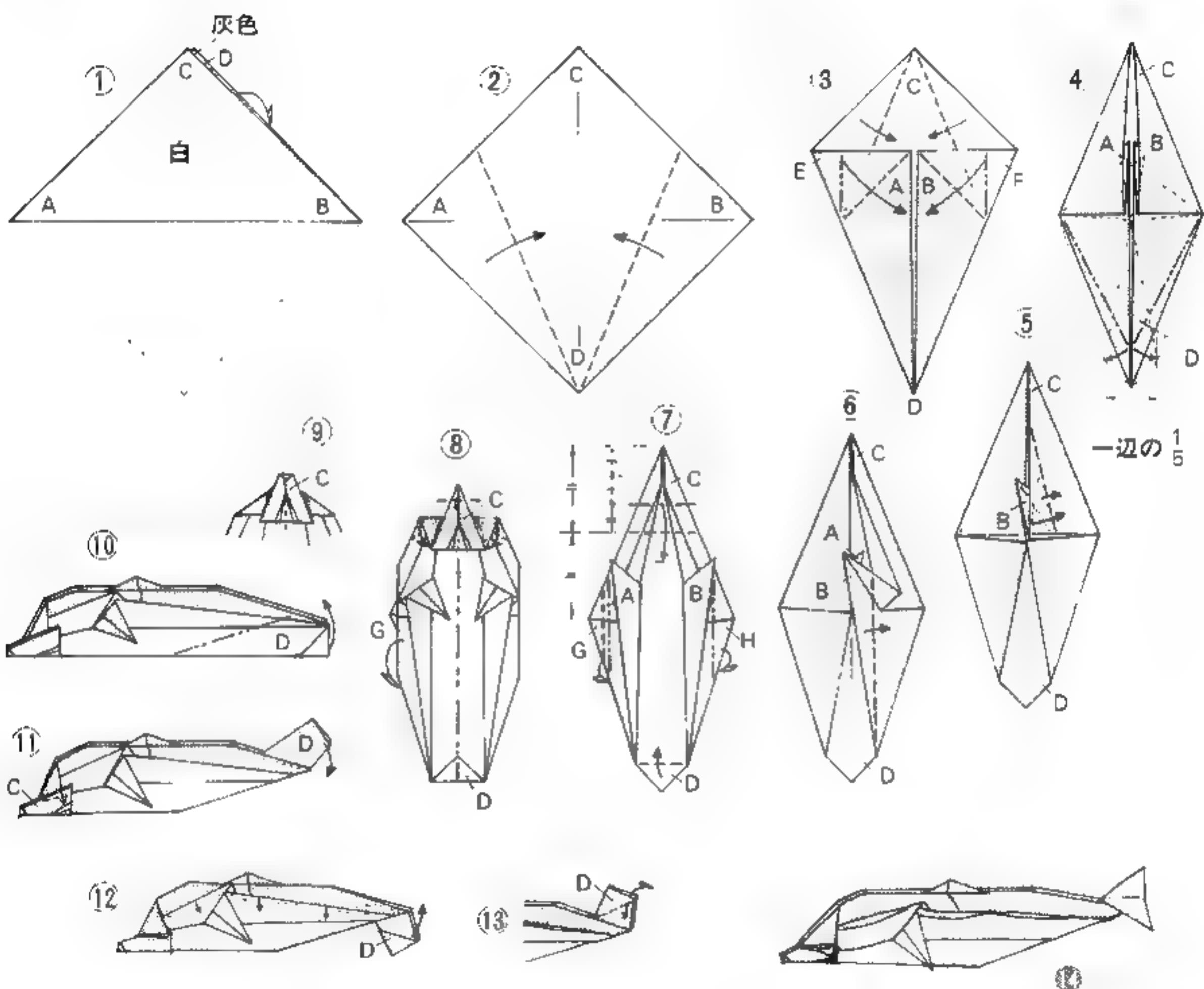
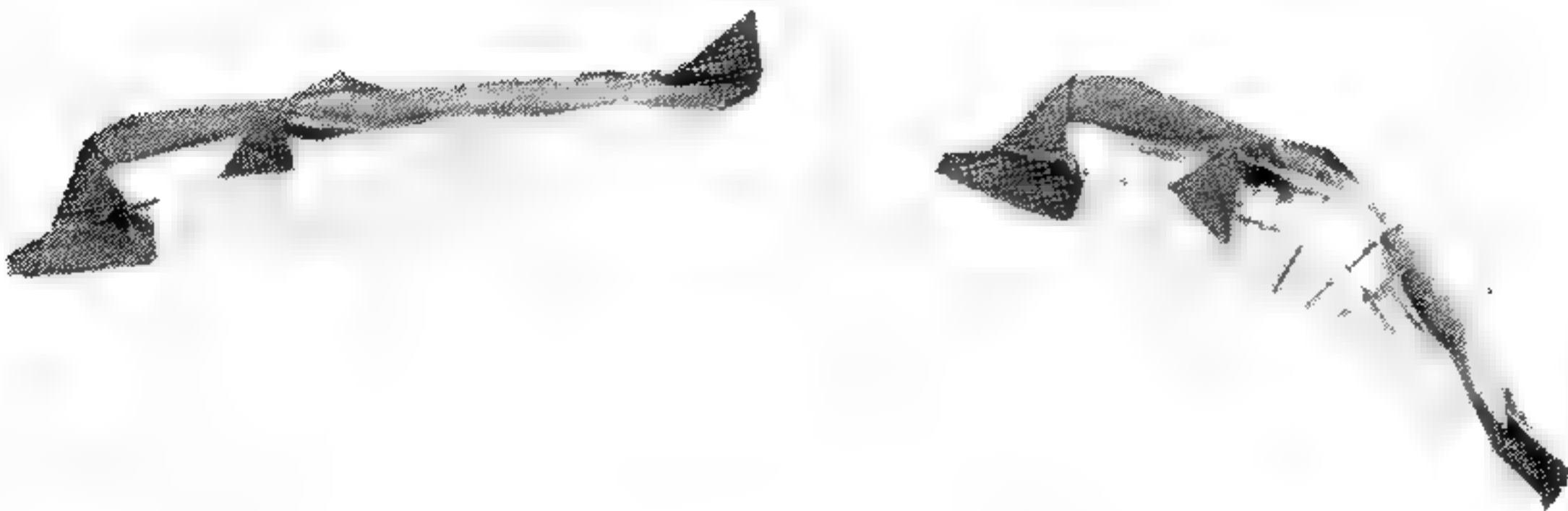




①正方形の紙に1、2の山線に折り目をつけていはし、3、4の谷線を折る。②それぞれ久印に折る(CDの谷線は①でつけた折り目の裏)。③Eを折り上げる。④⑤⑥Cをつまみ出して上と下のカドを小さく折り込み、反対側のDもCと同様に折ってから裏返す。⑦⑧⑨1の山線の位置からABをそれぞれ折り込み、2の谷線の位置から折り返

す。⑩Aを久印に折り返してから、そのトとBを折り込む。⑪Bを点線へ静かに引き出し、Aの上側だけ開く。⑫から⑯まで部分図のように折って頭を作り、尾を順に折ってまるめる。⑰首をつまんで中へ押し込み、ひれを引き下げて形をととのえる。⑯出来上がり写真のようし、みずくさを添えて色紙につければ、涼しそうな室内飾りになります。

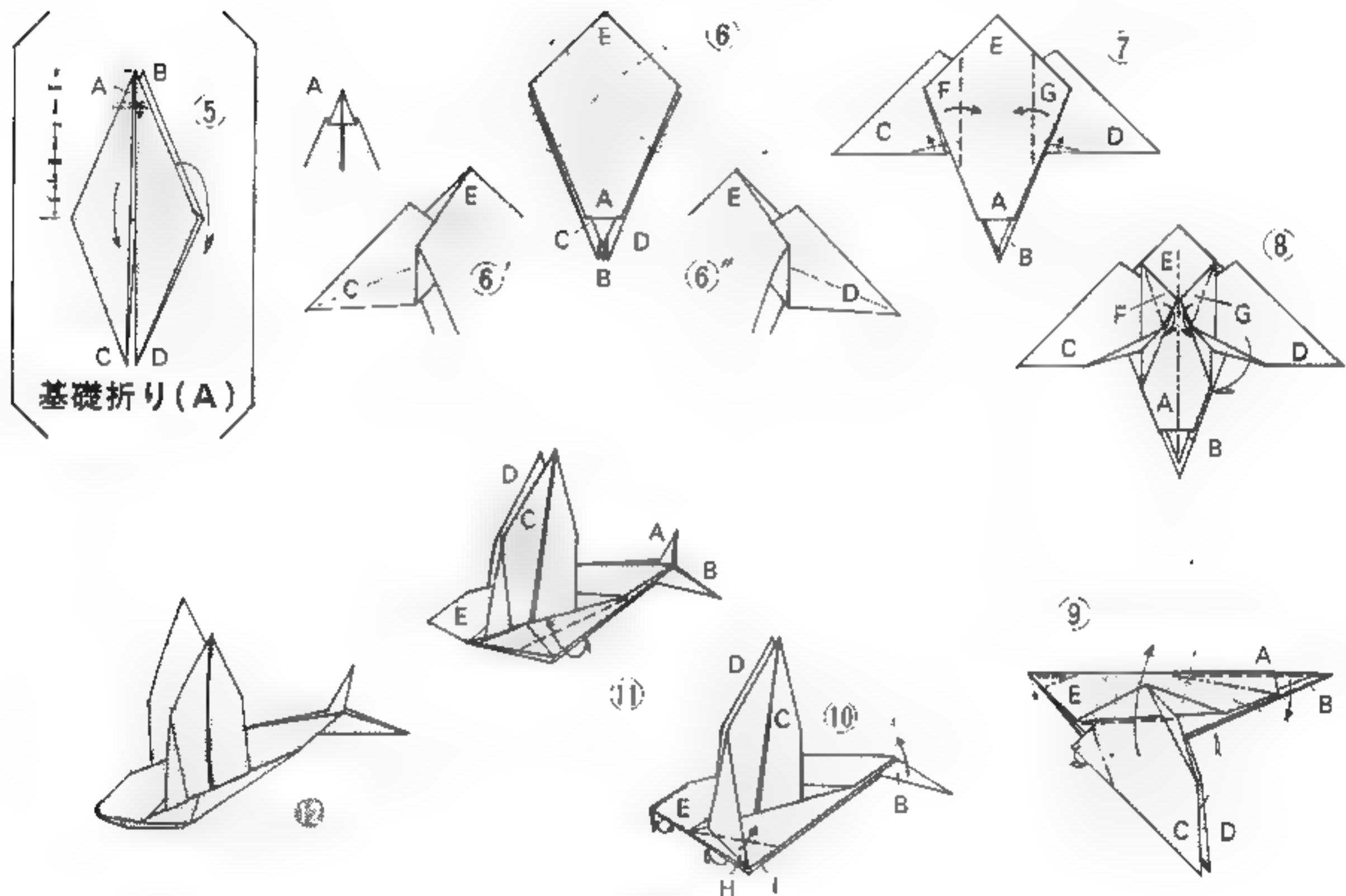
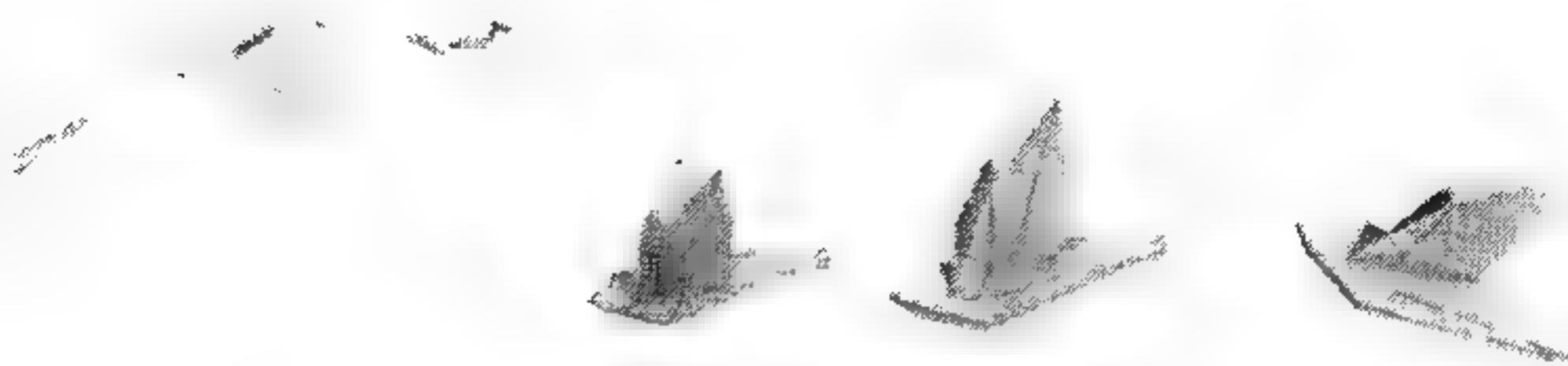
いるか



用紙は裏の白い灰色の紙で折る。①正方形の紙を対角線に折り、ABのカドのほうにだけ折り目をつけ、Dを裏へ聞く。②矢印に折る。③AとBを1でつけた折り目を折りながら、矢印にそれぞれ折って④のようにする。⑤AとBをCの袋の中から引き出し、Dを点線へずらして(用紙の一边の長さの約 $\frac{1}{5}$ ぐらい)⑤のようにする。⑥矢印に返す。(6)矢印に折り、

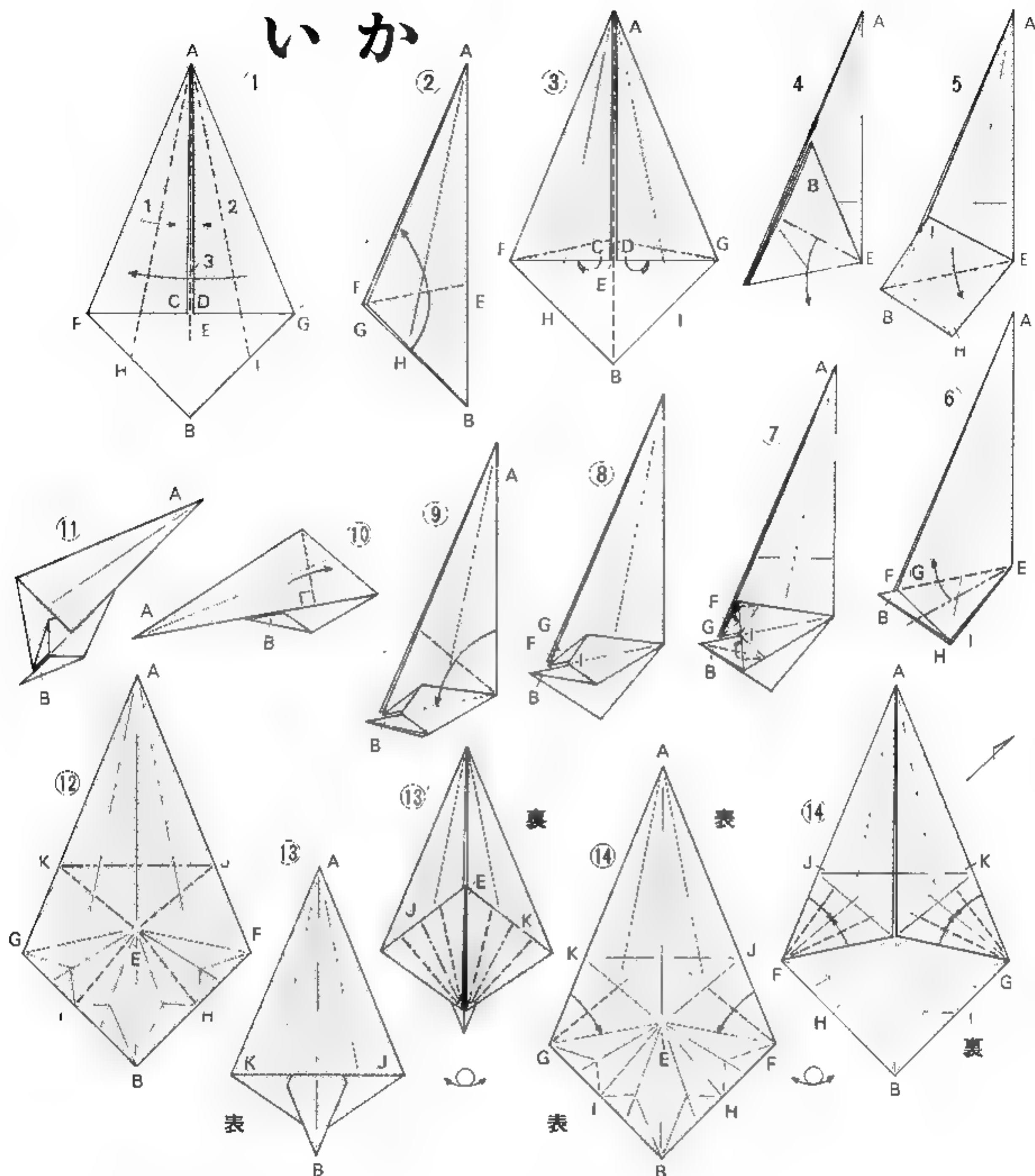
左側も同様に折る。(7)それぞれ矢印に折る。Gは折り返して背びれにする。BCの先を小さく折り込んで(9)のようにしてから、二つに折る。(10)Dを間へ折り上げる。(11)Cの矢印に折って目を作り、Dを折り下げる。(12)(13)Dを折って尾を作り、(12)の点線の部分に曲線をつける。(14)出来上がり。

とび魚



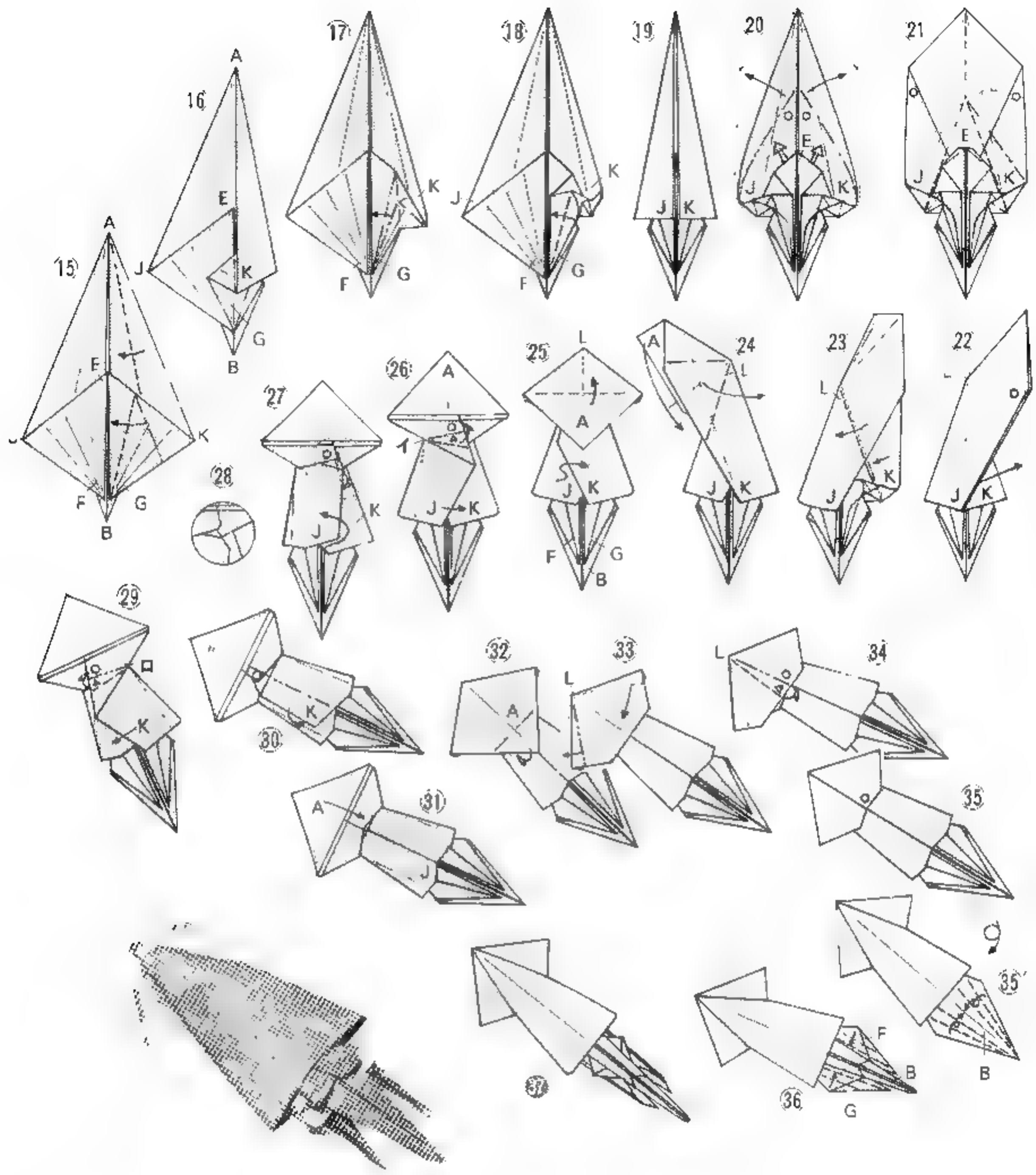
基礎折り(A)から折る。⑤Aの先に四の割合に小さく段をつけてから折り下げる。⑥C Dを内側でそれぞれねじるようにして点線へ折る。⑦F Gを折る。この場合、左右の小さい矢印の部分がしぜんに折れる。⑧F Gを折り込んでから一つに折る。⑨Eを折り込み、ABを重ねたまま点線へ折り込み、CDを折り上げる。⑩⑪Bの内側からAを引き出して尾をつくり、E、H Iを矢印にそれぞれ折って形をととのえる。出来上がり。

い カ



正方形の紙を1のようく折ってから、1、2の折り目をつけてのばし、3を折る、②谷線を折り、いったん広げる。③CDを②でつけた折り目で間へ折ってから、(4)のように折る。4 5 6矢印に沿る。アGとBの上側を折り、カドを1の裏へ折る。(8)裏側も同様に折る。⑨⑩⑪を折って折り目をつけて⑫の形に広げる。⑫の折り目で⑬のようく折りまとめる。⑯裏返す。⑭の折り線を⑯と⑰のようく

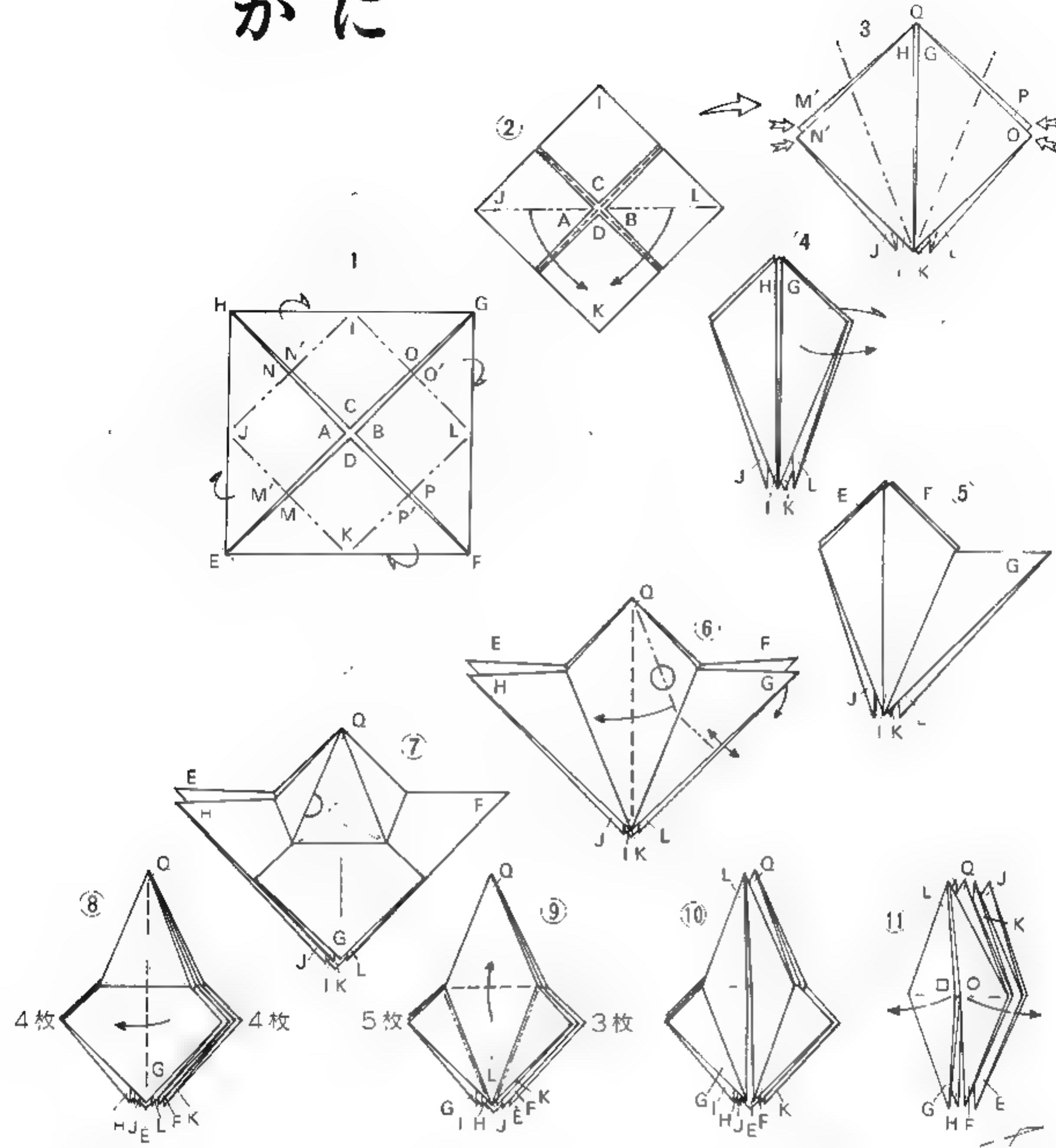
広げて折り目をつけて折りまとめる(H1はBとFGの間にかかる)。⑮G側の谷線と山線で、Kを左に返しながら、Aの谷線の下のほうを少しあけて、折りなしませる。⑯KとGを少し開いて⑯⑰のようにして、順に放射線状に畳折りにしてKを重ね、左側も同様に折る。⑯上のはうを半開きにする。⑯Eの裏側から引き出し、山線の位置を折って点線へ開き出す。⑯Eの左右の谷線は、元のほうを



志にして、一角の頂点を求めて、山線の位置を折って点線へ開き出す。(22)Kを点線へ引き出して、右側の一部分を(21)のようにする。(23)は(21)でつけた折り目で左へ折って、Kを折りまとめる。(24)谷線と山線でAを(25)のように開く。(25)Jを引き出してKの上にする。(26)イを支点として山線と谷線で矢印にずらして、○印の裏へ△印を重ねる。(27)ひれの下のカドを(28)のように間へ折り、静かに開いてKをJの

上に重ねる(ひれの裏側のほうも)。(29)ロを支点として、それぞれ紙をずらして折る。(30)Kを間へ折る(上のほうはひれの裏側で折る)。(31)32)矢印に折る。(33)Lのカドを支点として、紙の上側だけずらす。(34)印の下へ△印を差し込む。(35)裏返す。(35')Bを左右から細く二回ずつ折る。(36)F Gを山線と谷線でBの下へはさんで固定し、左右のカドを日の感じに仕上げる。(37)出来上がり。

かに

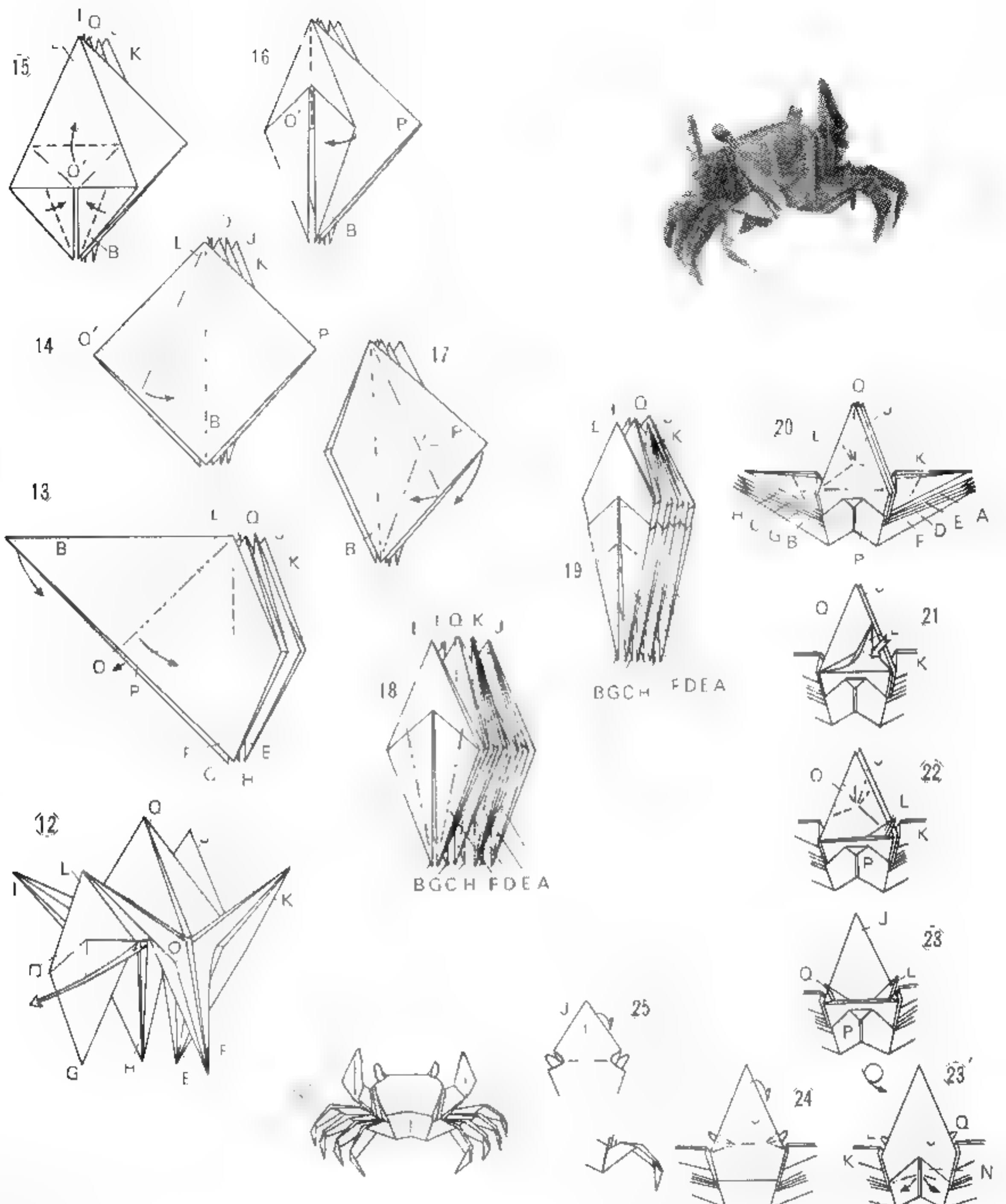


複雑な折り方でも仕上げのやさしいものと、簡単な折り方でも仕上がりが芸術的でむずかしいものとがあります。「かに」の折り方は複雑ですが、手順と製図に工夫がしてありますから、図をよく見て折れば、よい形に仕上げることが出来ます。

折り方を見るまでは、両手の大きめの紙を用い、製図と同じ記号をつけて折ってください。

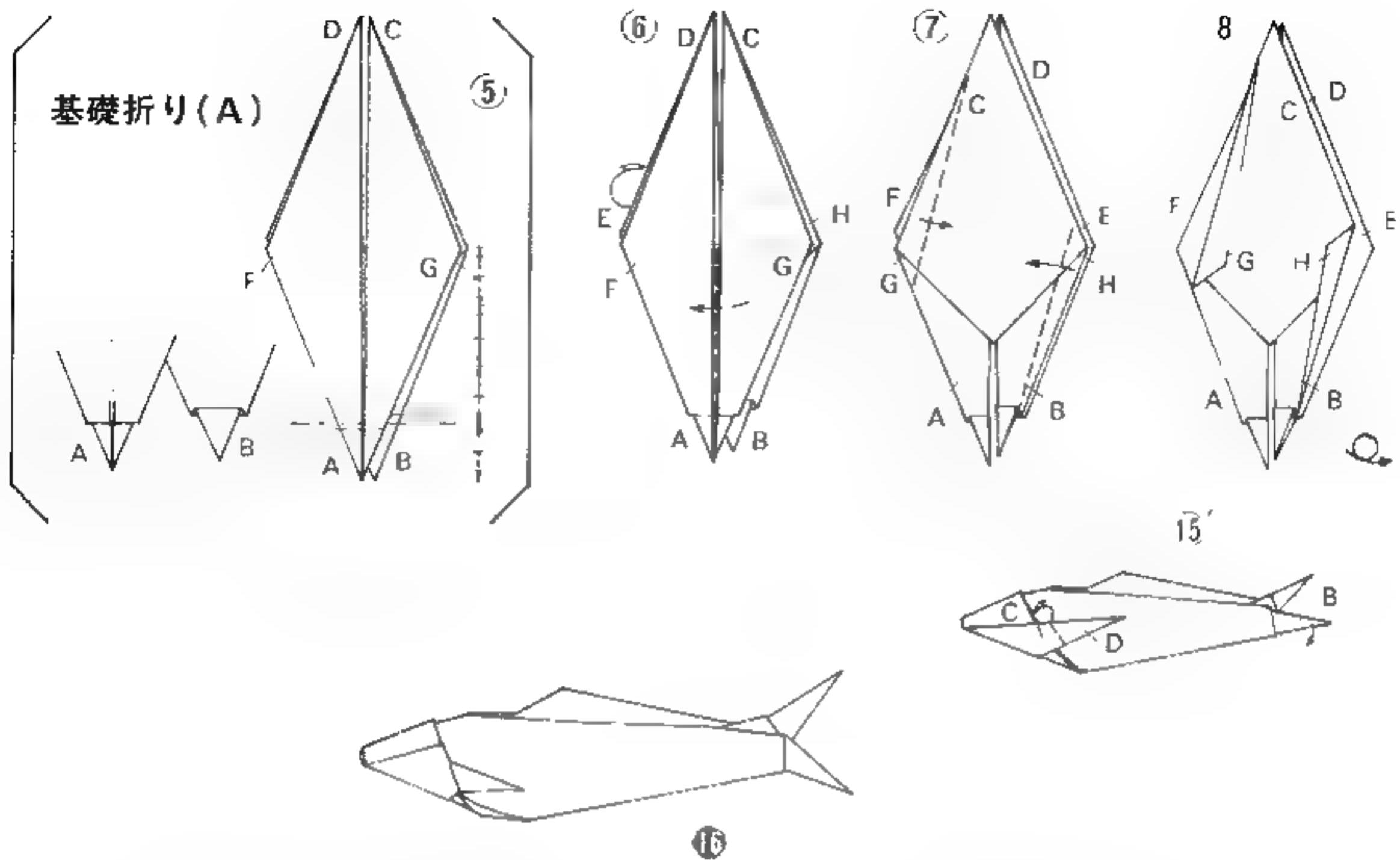
① 正方形の紙のカドを中心に折り、それぞれ記号をつけてから、E、F、G、Hを裏へ折る。② 山線と谷線に折り目をつけて 3.のようになる。(3)

山線の位置からM'、N'、O、Pをそれぞれ中へ入れる。④ Gを点線へ開き出す。⑤ HもGと同様に折り、裏側のE、Fも同様に開き出す。⑥ 谷線で矢印に引き起こしながら、一印の内側を袋状にして、Gを開いて平らにつぶす。⑦ E、F、Hもそれぞれ開きかえて、Gと同様に折る。⑧ 矢印に一枚だけ返す。⑨ 山線と谷線でLを折り上げる。⑩ I、J、Kも、Lと同様に折る。⑪ ⑫ 手と一印を開いて、中から①で折ったBを静かに引き出す。⑬ Bを開く。⑭ O'を折り開く。⑮ O'を折り上げる。

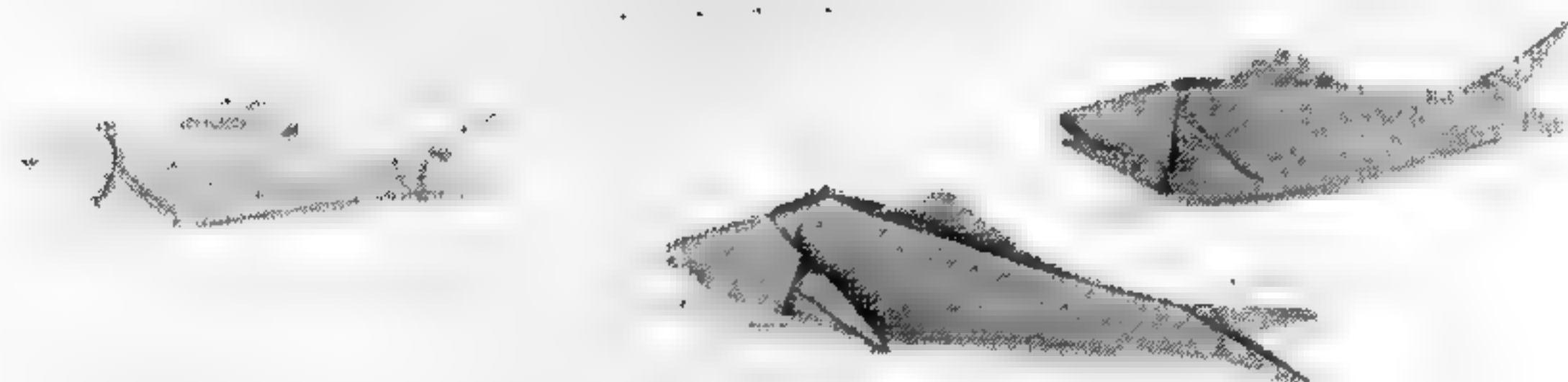


16矢印に返す。17PをO'に向かって折り、A、C、DもBと同様に引き出して、それぞれ13から17の折り方で折り、とがったカットを全部で13作る。18紙の重なりの多いFとEを、山線の位置から一枚ずつ細く間へ折り込み、紙の重なりの少ないDとAを一枚ずつ細く門へ折り、反対側のB、G、C、Hも同様に折る。19LとQで目を作り、IとKをはさみしし、Jを甲羅にする。F、D、E、Aを山線の位置からそれぞれ間へ折り、反対角のB、

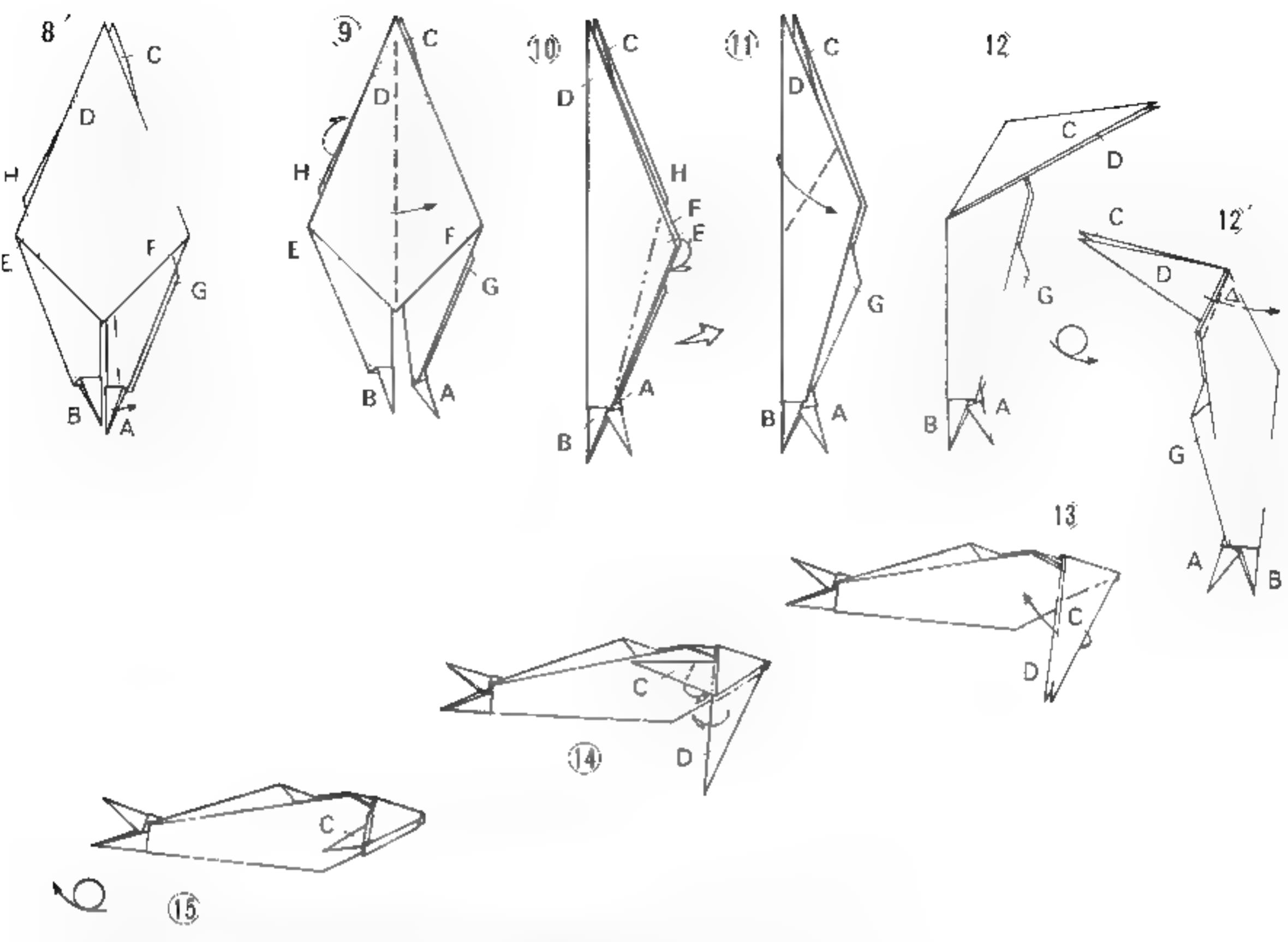
G、C、Hも同様に折り、IとKを元のほうで門へねじって左右に折り下げる。20IとKの丸を斜めに折って開き、Lを山線と谷線でつまみ、21、22のようにして間へ折り込む。22QをLと同様の折り方で間へ入れる。23裏返す。23久印を開いて、背中の下半分を作る。24、25目がはっきり出るように、山線と谷線で一角に小さく打ち込み、Jの先を23のPの間へ差し込んで甲羅の形を整え、足をそれぞれ折る。ひ出来上がり。



あゆ



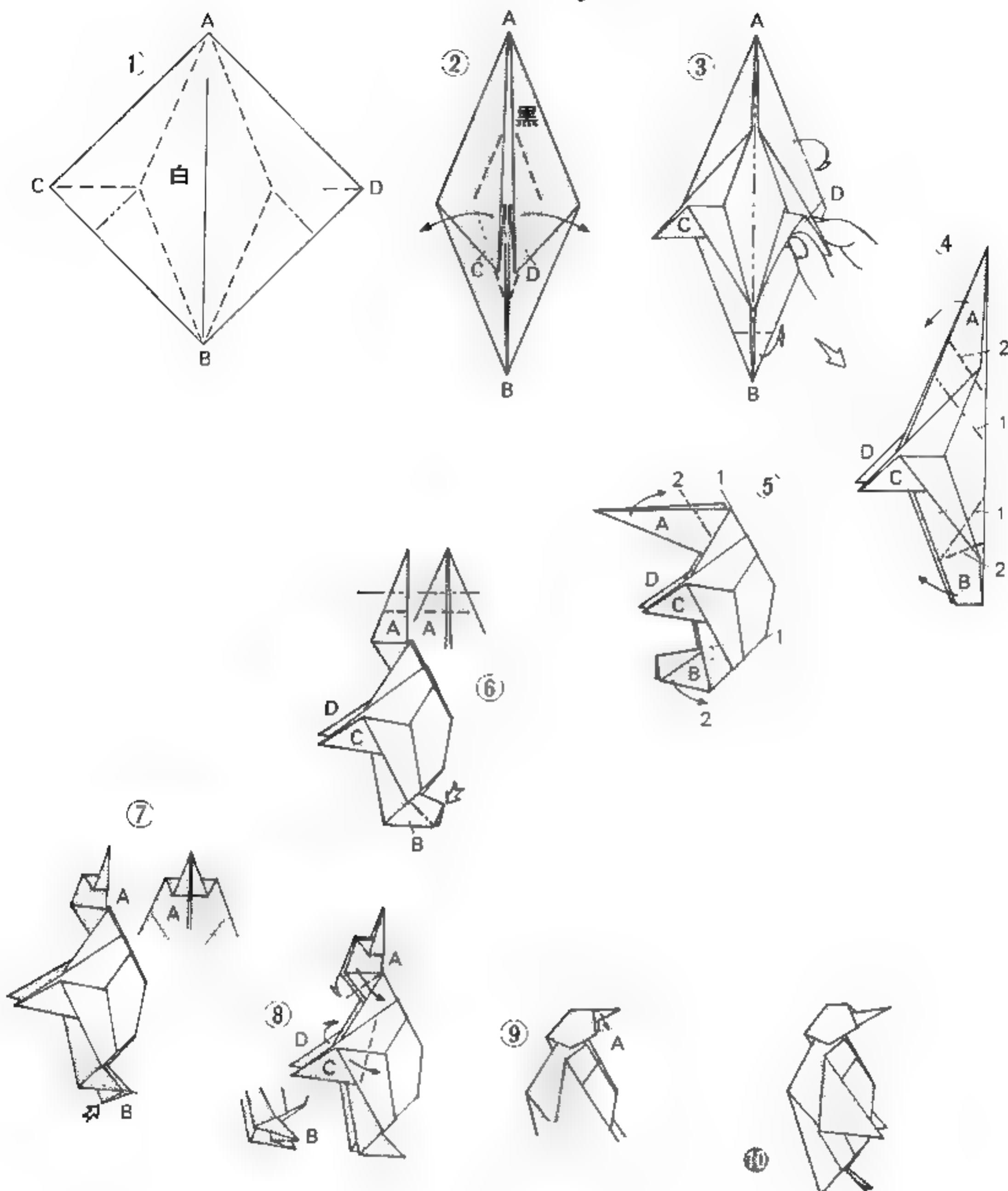
基礎折り(A)から折る。⑤AとBに小さく段をつける。⑥EとGを折り返す。⑦GとHを折る。⑧裏返す。⑨Aの山線から細長い三角にF Gの間へ折り返す。⑩Eを前に、Hを裏へ折る。⑪E Fを重ねたまま間へ折る。⑫C Dを重ねたまま矢印に折る。⑬裏返す。⑭C Dを重ねたまま折る。⑮Cの一枚だけ間に



折る。(⑩Cを谷線と山線でDの下(⑫'の△印とDの間)へ折り込んでから、Dを裏へ折る
⑪裏返す。⑫'Dを山線と谷線でCの間へ折り込み、Bを引き出す。からだにふくらみをもたせて、生き生きした形にとのえる。⑬出来上がり。

小石などを敷いて飾る。

ペンギン

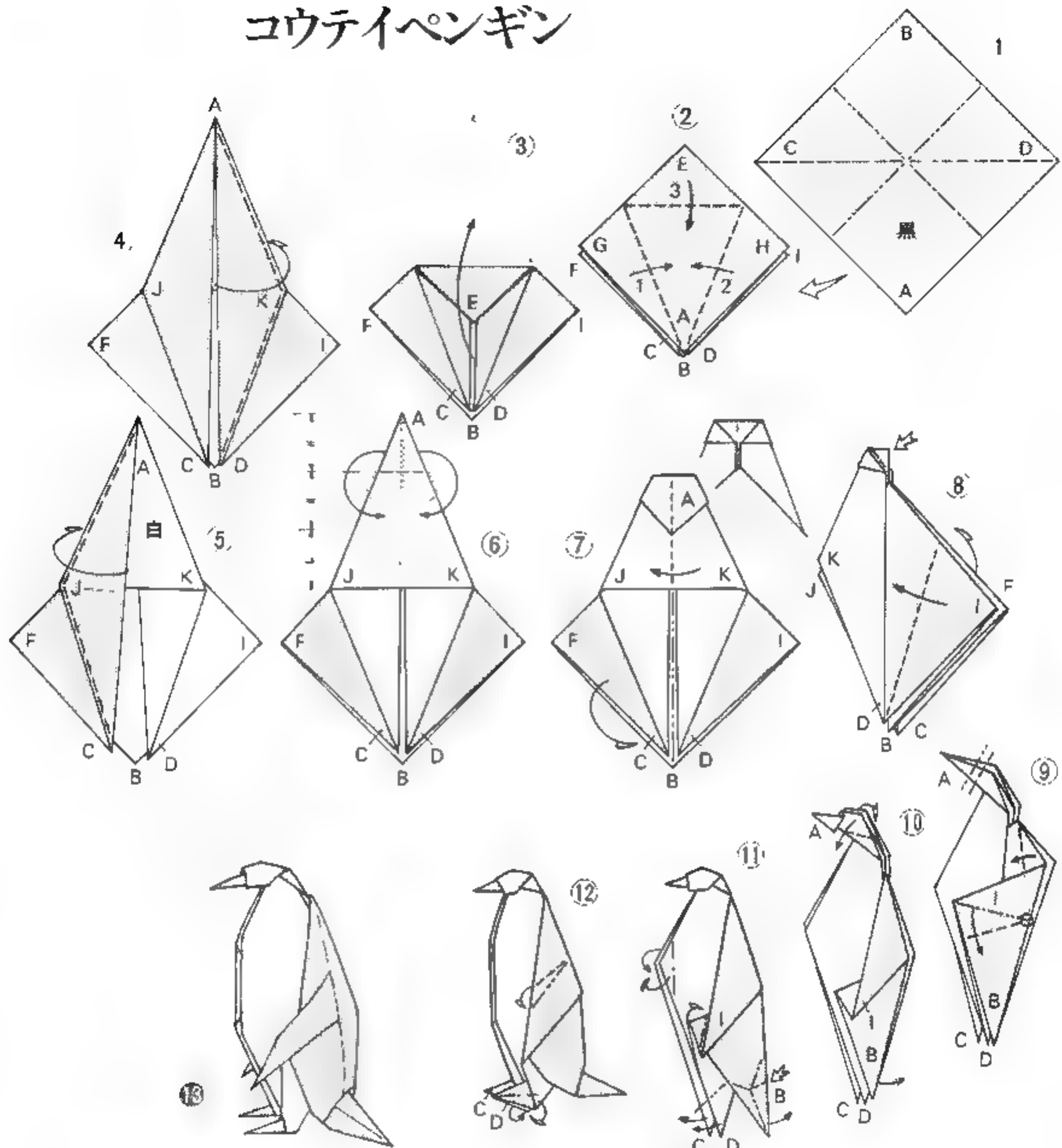


表が黒で裏の白い片側染めの紙を生かして、ペンギンの特徴を表現したもので、黒と白の紙を重ねてもよい。

①正方形の紙の対角線ABに折り目をつけ、その対角線にそれぞれの辺を合わせて折り、CとDをつまんで②のようにする。②CとDをつまんで、③のDのよろにして矢印に開き出す。④Bを裏へ折ってから二つに折る。④

⑤①の山線の位置からAとBを折り込み、②の折り線から折り返す。⑥Aを少し広げ、段をつけてくちばしを作り、Bのカドを斜めに折り込む。⑦Bの下のカドを開へ折り込む。⑧Aを開いて谷線の位置から折りかぶして、頭を作り、CとDを折る。⑨Aを引き上げ、くちばしの位置を決めて、全体の形をととのえる。⑩出来上がり。

コウティペンギン

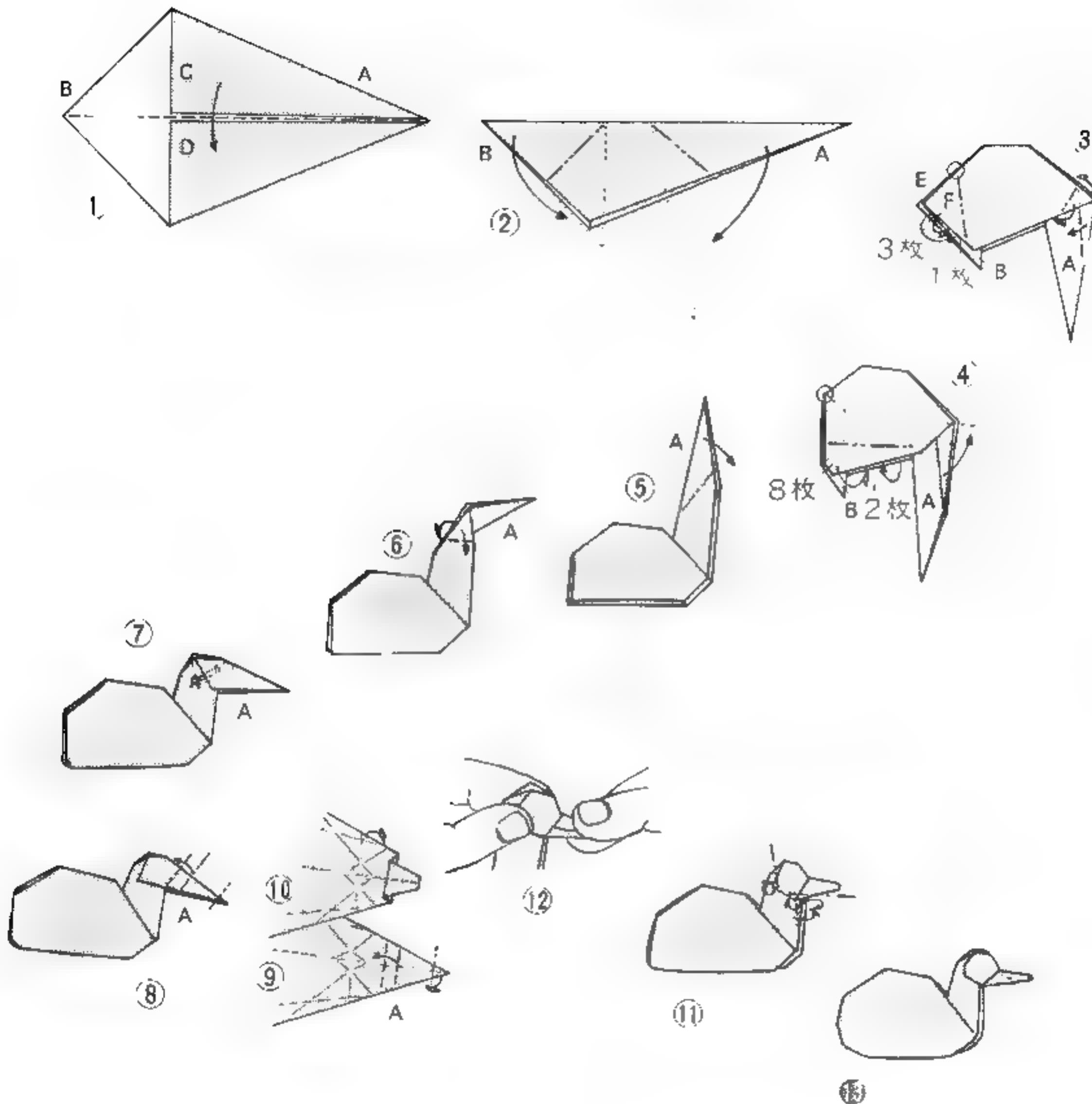


① 正方形の紙を2のようすに折りまとめる。
② ③ ④、⑤の順に折り目をつけて、中からAを点線へ開き出す。⑥⑦矢印に返して裏の白を出す。⑧Aを谷線に折り目をつけ、裏側を開き出す。⑨FとKだけ矢印に返す。⑩Aを中から引き出して、カドを折り込んで⑪のようにし、F↑を折る。⑫○印を支点として、矢印にずらして折り、裏側も同様に折ってから、Aを平らにして段をつける。⑬CD

の上のはうをBの内側でつまんで、⑭のようにBを矢印に引き出し、Aを矢印に折りかぶせる。⑮羽の先と胸を間へ折り、Bを表と裏からつまみ折りにして、中を袋状にしてから矢印に折って、尾を作り、CDを折る。⑯CDをそれぞれ間へ折り、羽に斜めに段をつけて、くちばしを少し引き出しながら、頭を丸やかにして、からだ全体にふくらみを出して形をととのえる。⑰出来上がり。

白鳥

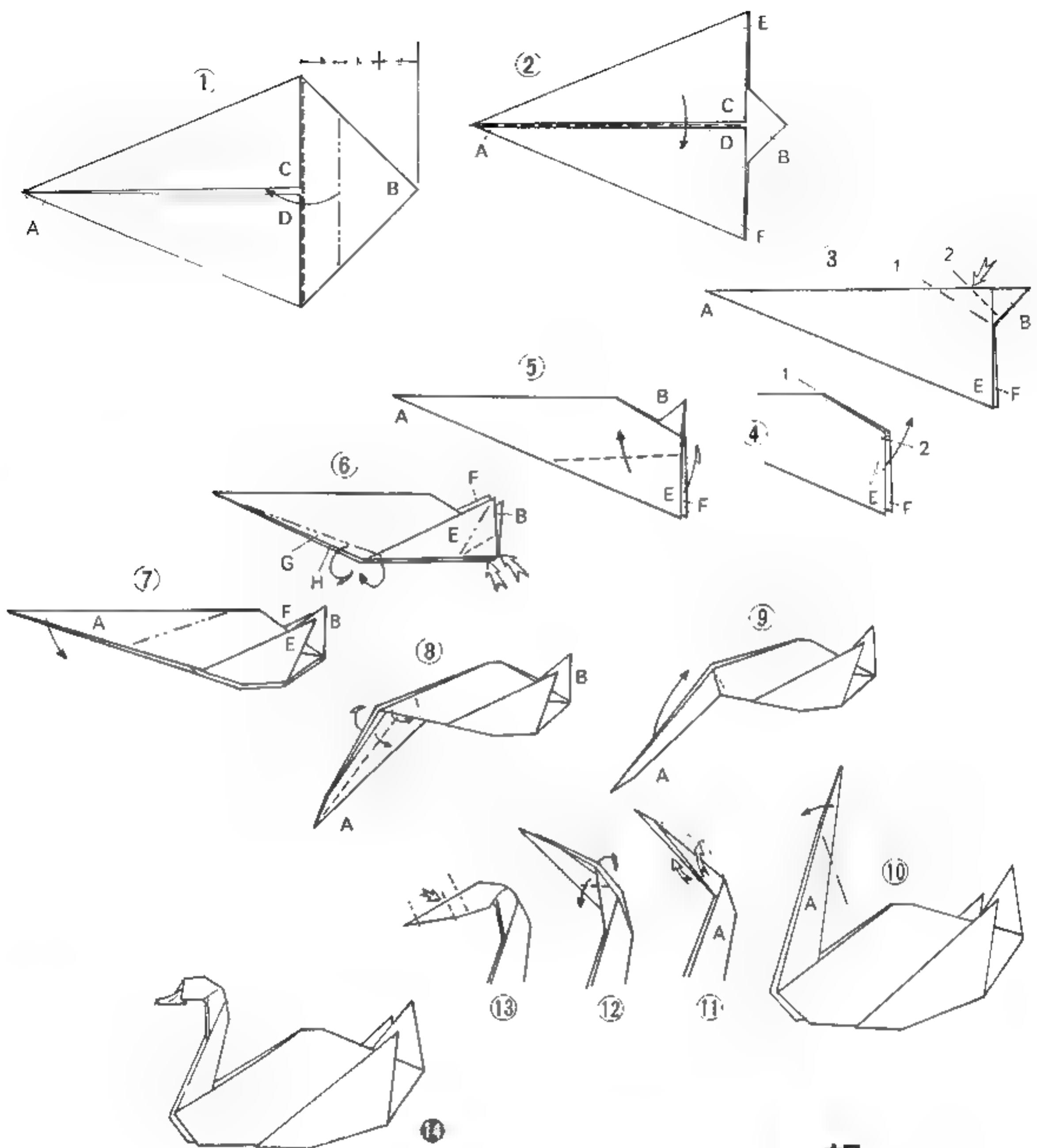
ひな



正方形の紙を①のように折り、さらに二つに折る。②山線からAとBを間へ折る。③Aつまり、首の付け根のところを間へ折り、E側を三枚、F側を一枚にして折れば、△印のところが開かないようになる。④表側のほうを八枚、裏側のほうを二枚にして、中に指を入れ、はずれないように持って、山線の位置から中へ折り、Aを折り上げて首をつくる。

⑤⑥Aを矢印に折る。⑦矢印に中から引き出し、裏側も同様に折る。⑧Aを部分図のように平らにのばし、⑨⑩と折って、前の折り口でもとにもどして⑪のようにする。⑫ほおの後ろ側とくちばしの下を折り込んでから、⑬のように頭をもって、くちばしを平らにつまみ、形をととのえる。⑭出来上がり。

ひなは灰色の紙で小さく作る



親

正方形の紙を①のように折ってから、Bを谷線と山線でC Dの間へ折る。②二つに折る。③④1の山線で、一度中へ折ってから、2の谷線で折り返す。⑤E Fを折り上げる。⑥G Hを中へ折り、F Eの下のカドを折り込む。⑦出来上がりの形をみながら、山線の位置を決めてAを間へ折る。⑧Aを細く外側に折り、付け根のところを中に折り込む。⑨Aを点線

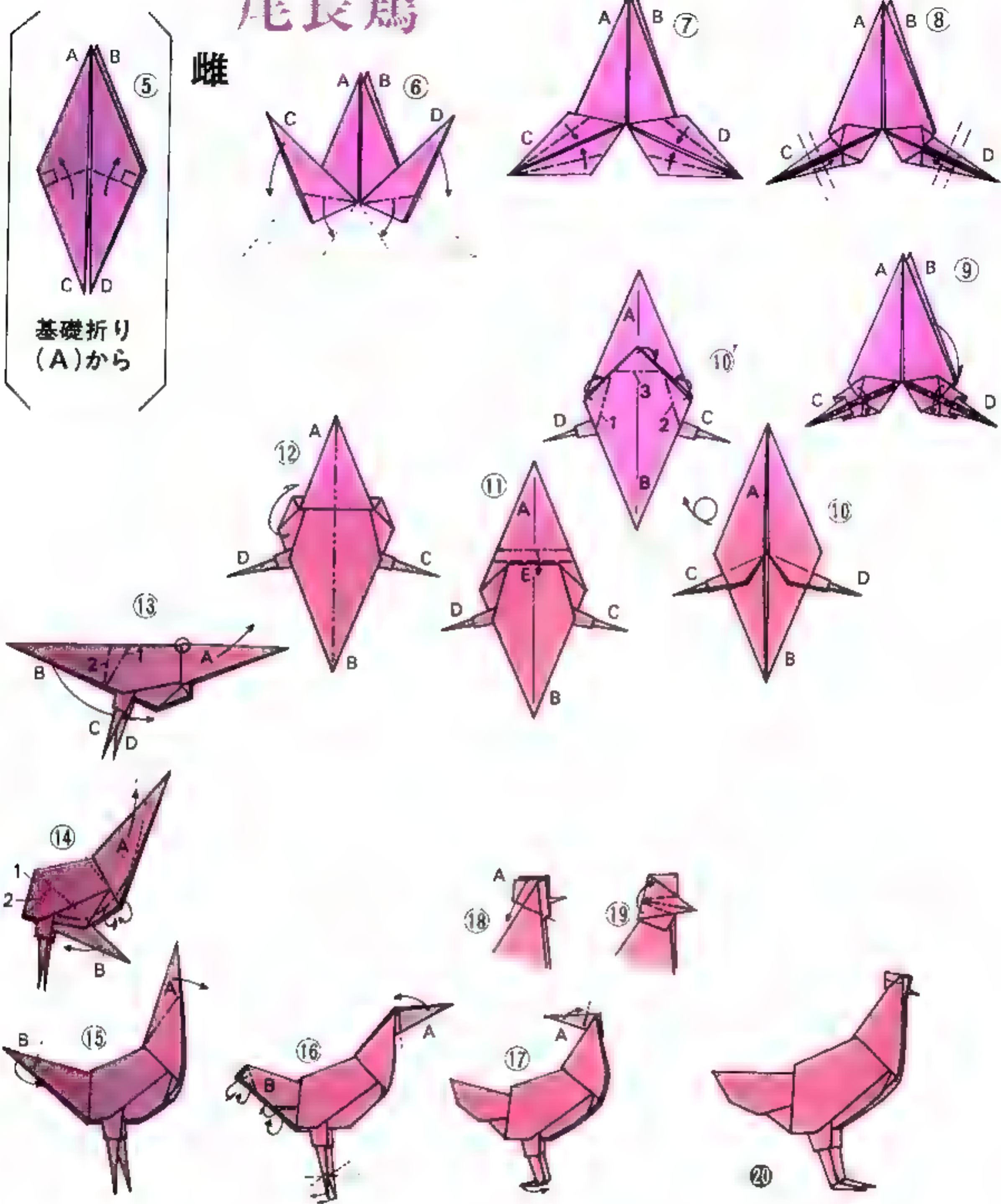
の位置から折り返す。⑩Aを部分図の番号の順に折って頭を作り、中に指を入れてからだを丸やかにととのえる。⑪出来上がり。

首をわずかにねじって頸を斜めに向けたり、ひなをいたわる姿にするには、頸をずっと下に向けたりして表情をつける



尾長鶴

雌

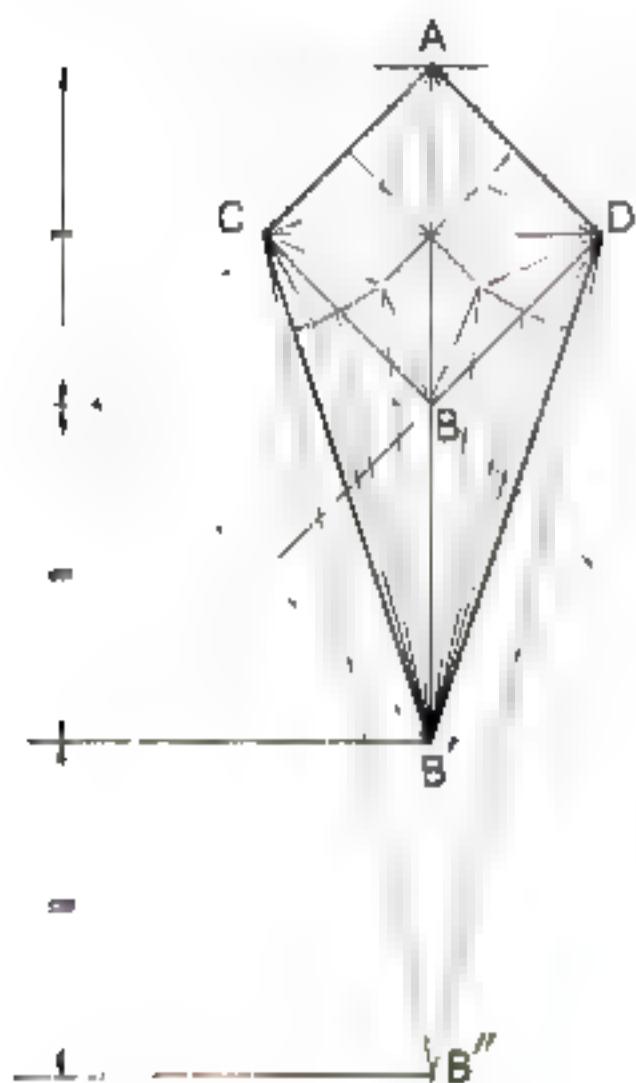
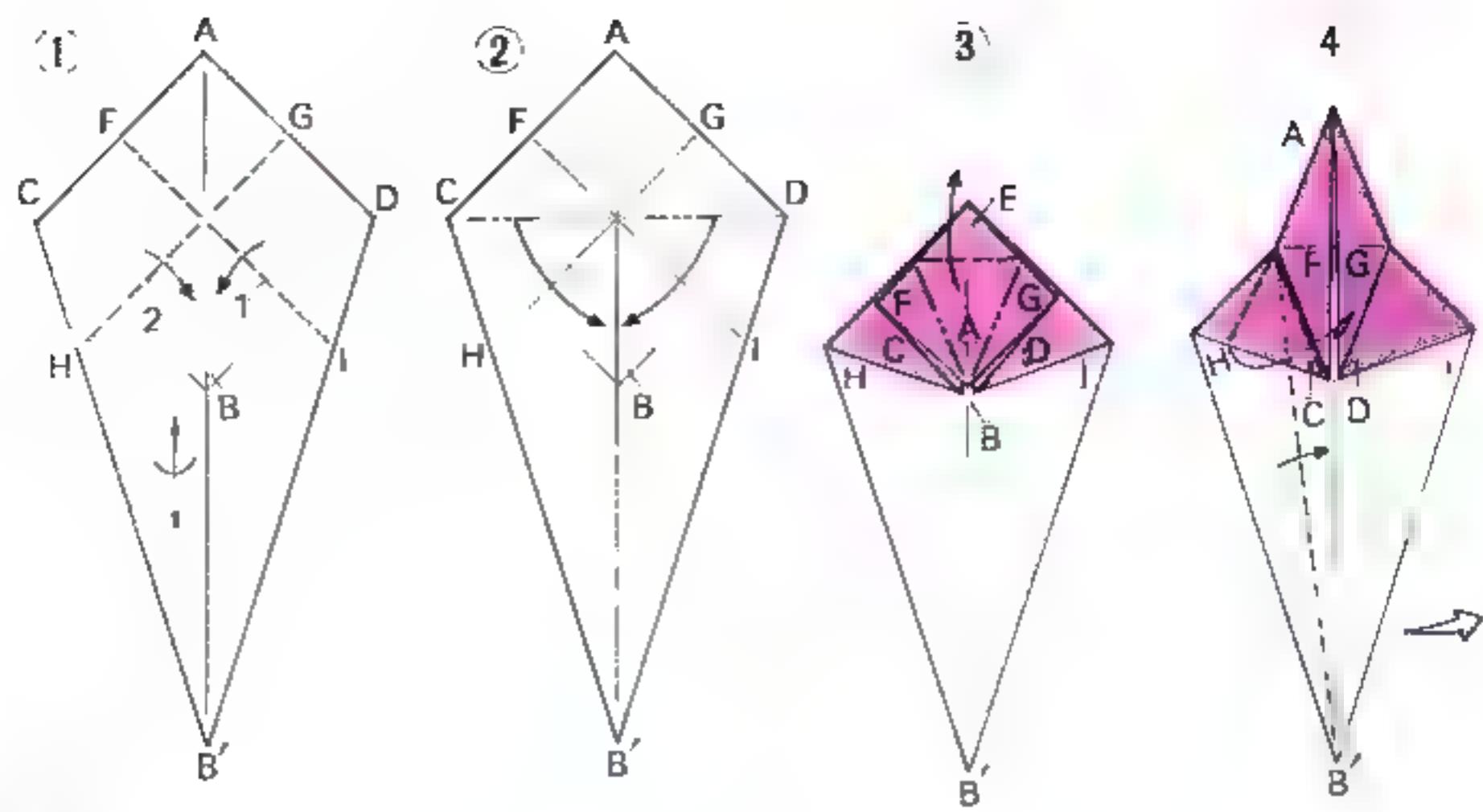


基礎折り(A)から折る。

⑤CDを折り上げる。⑥⑦CDを広げて細く折る。⑧段をつけて足の長さを調節する。⑨それぞれ矢印に折る。⑩裏返す。⑪間へ折り込む。⑫段をつけてEにかぶせる。⑬二つに折る。⑭Aを○印を支点として矢印にずらしてから、さらに点線へ引き出し、Bを1の

山線で折り込み、2の谷線から折り返す。⑮AとBを折り込む。⑯Aを折り返し、⑰⑯⑯のように折って頭を作る。Bの先を折り込み、尾の付け根を細長い三角の段をつけてBの内側へ少し折り込む。足を作つて形をととのえる。⑳出来上がり。

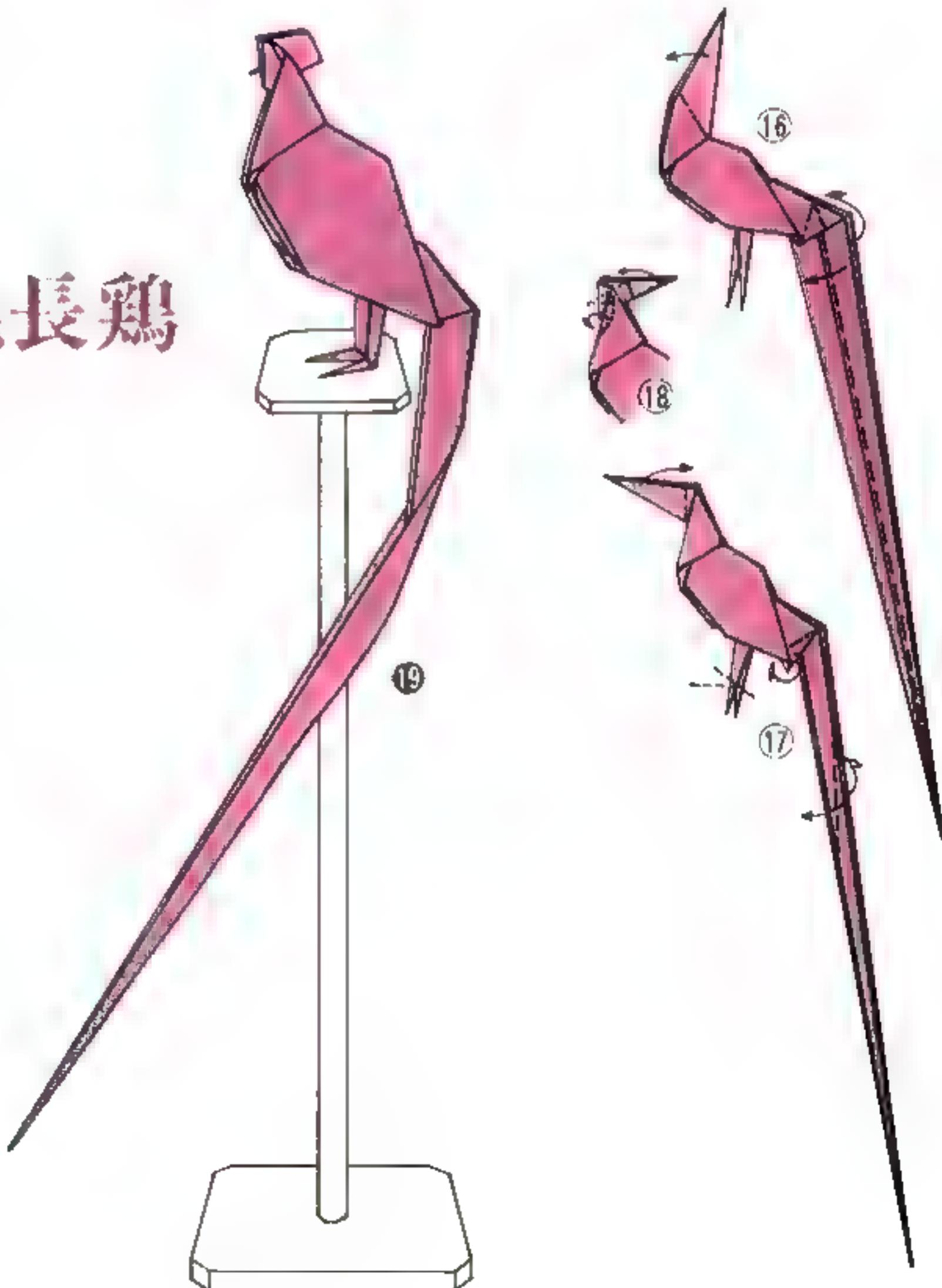
雄

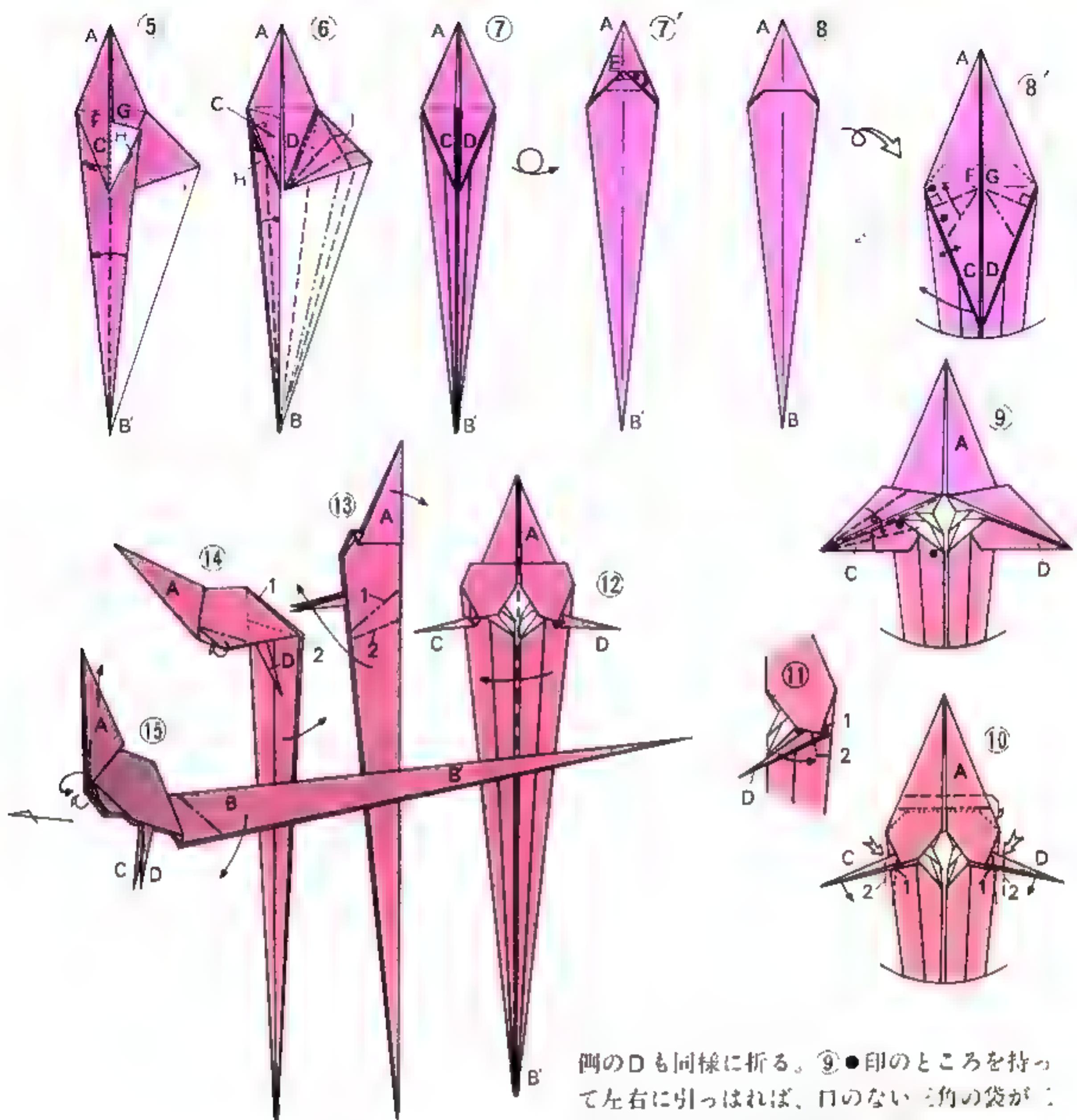


尾長鶴

鶴尾長鶴の用紙の原形の作り方

正方形ACBDの対角線ABを二倍に延長してB'を求め、ACB'Dを結び四角形を作る。B''はABの三倍。足の長さをもっと長くすることも自由であるが、三倍ぐらいいまでが適当である。



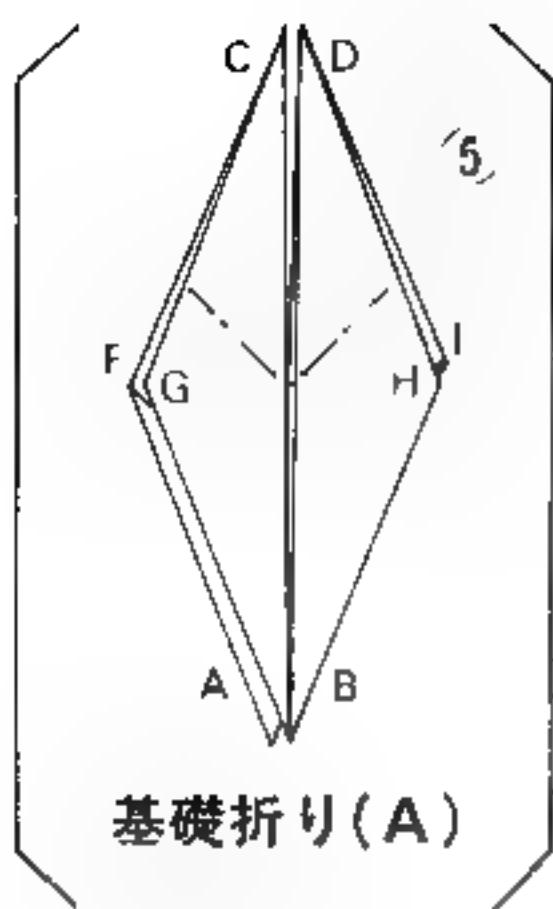


図の割合の用紙を作る。

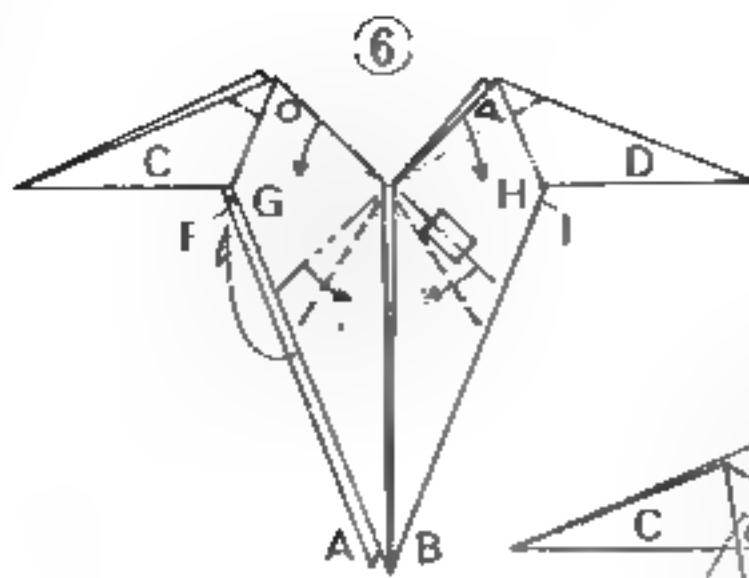
①AのカドをCのカドに合わせて、谷線1に折り目をつけてのばし、AのカドをDのカドに合わせて谷線2をつけてのばす。②Aを山線から裏へ折って折り目をつけてのばし、①でつけた折り目で折りまとめる。③山線と谷線でAを折り上げる。④⑤HをCの間へ折り、中心から折り返す。⑥Hを細く中心へ折り、右側の1もHと同様に折る。⑦表に返す。⑦'Eのカドを間へ折る。⑧裏に返す。⑧'谷線と山線でCを折り広げる。この場合●印を合わせて谷線がヘリに直角になるようにする。右

側の口も同様に折る。⑨●印のところを持って左右に引っければ、口のない三角の袋が二つ出来るから、それを静かに押しつぶして、形をととのえ、Cの下側で一回折り上げ、上から二回折ってかぶせる。Dも同様に折る。⑩Aに段をつけて裏側のEにかぶせ、部分⑪のようにして、CとDを角度に注意して短くする。⑫二つに折る。⑬⑭山線1で尾を間へ折り、2の谷線から折り返し、胸のところを間へ折る。⑮胸から首にかけて外側からつまみ折りにして、中を筒状にして丸印に引き出して、胸を丸やかにする。尾を間へ折り返す。⑯⑰⑱頭と尾、足を矢印に折って形をととのえる。⑲出来上がり。図のように台にのせれば、体と尾のバランスで立つ

雉

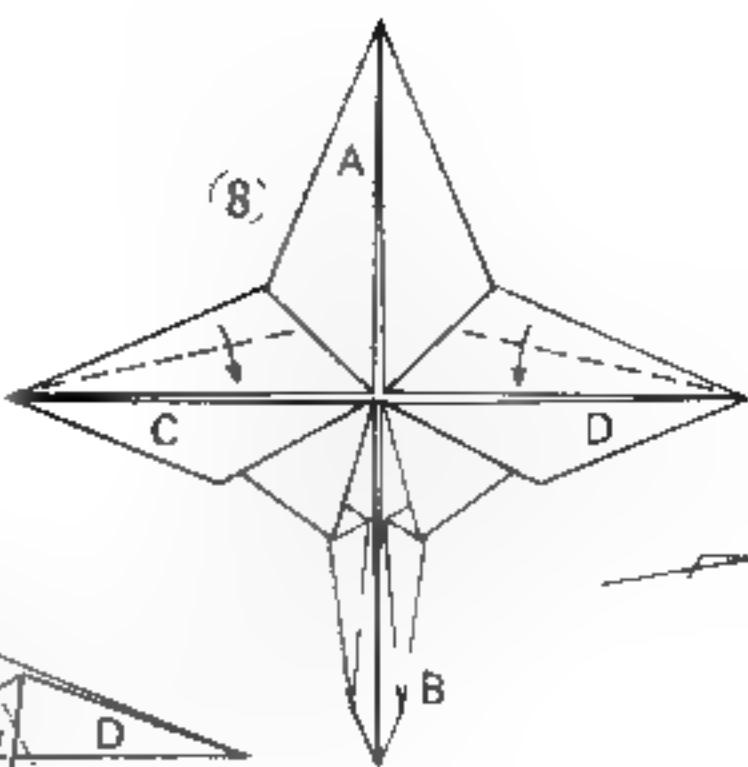


基礎折り(A)

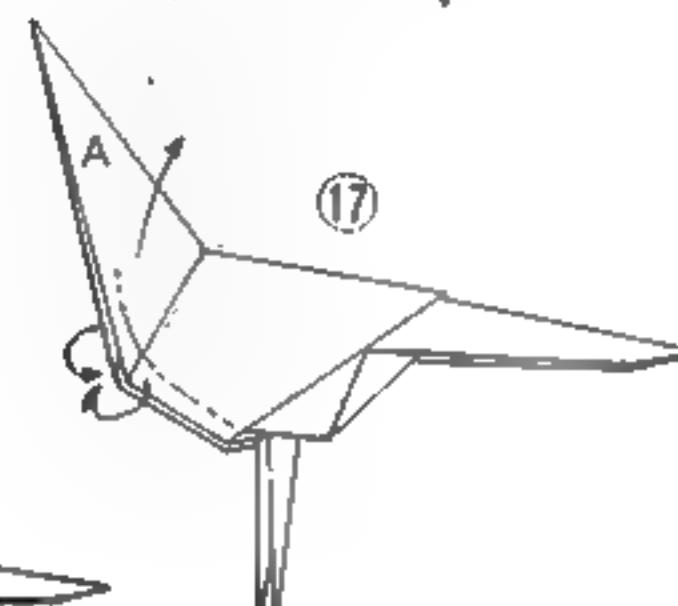


(6)

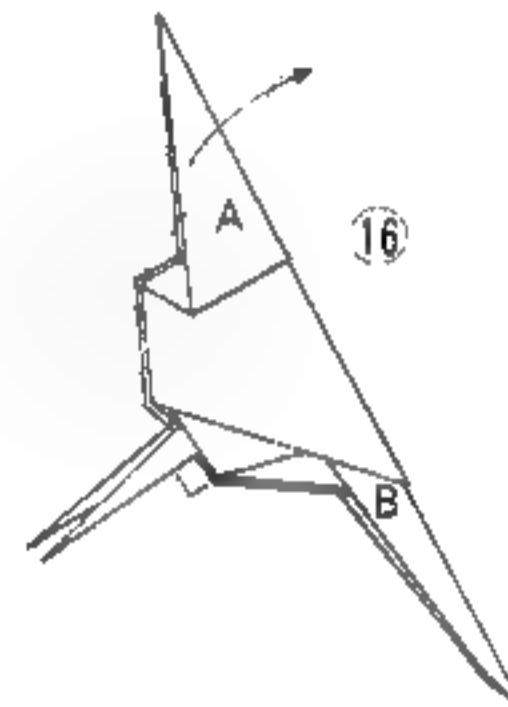
(7)



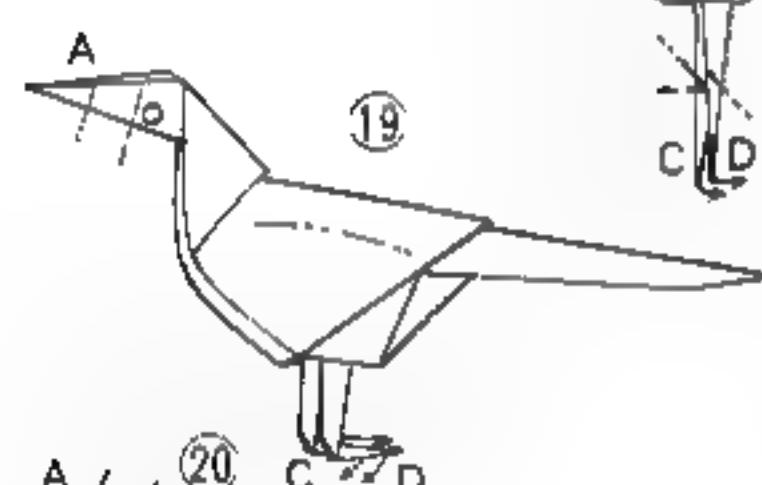
(8)



(17)



(16)



(19)



(20)

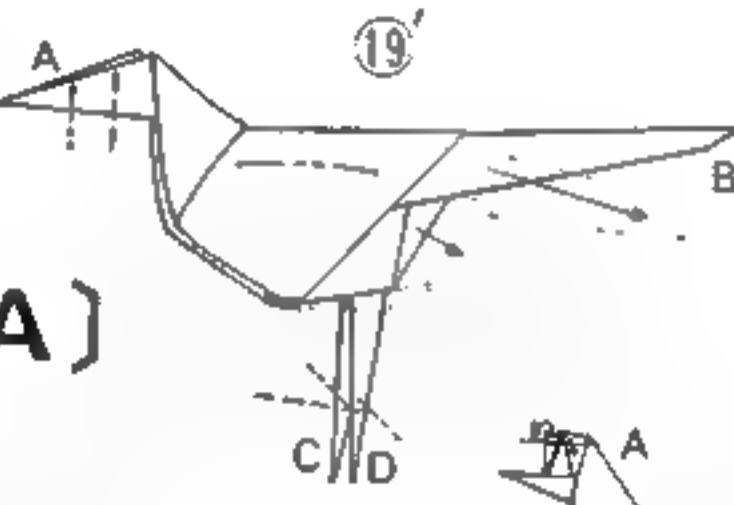


(21)

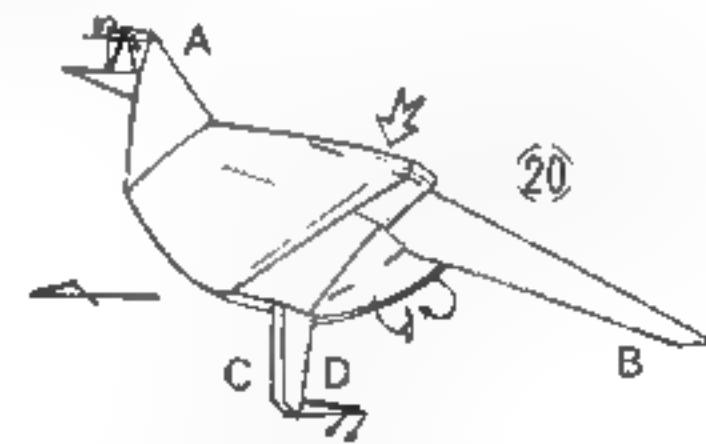
雄(A)



(21)



(19)



(20)

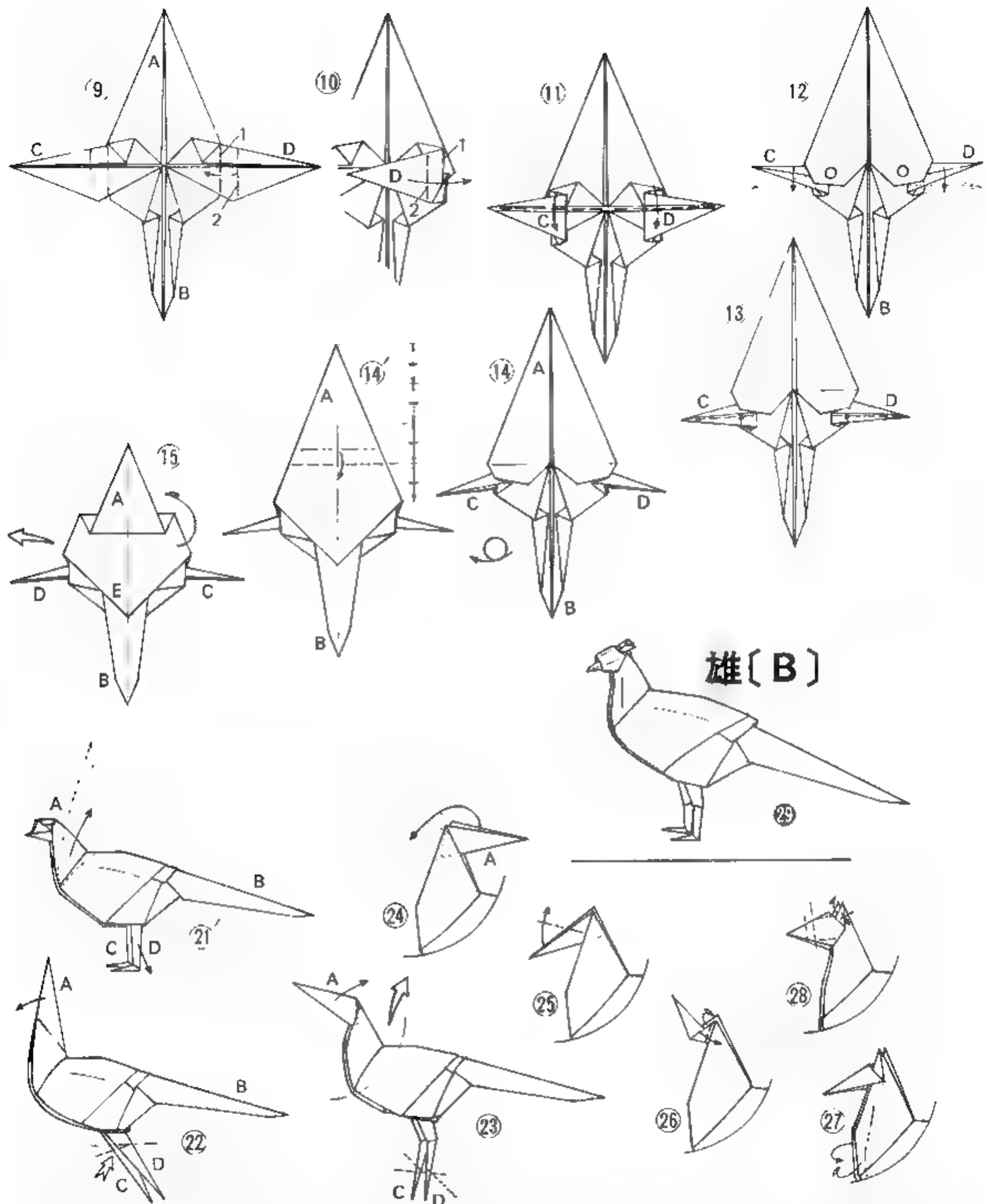
雌



(22)

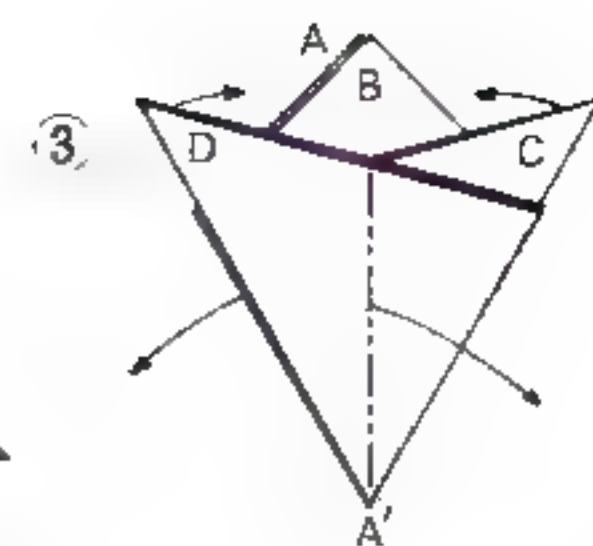
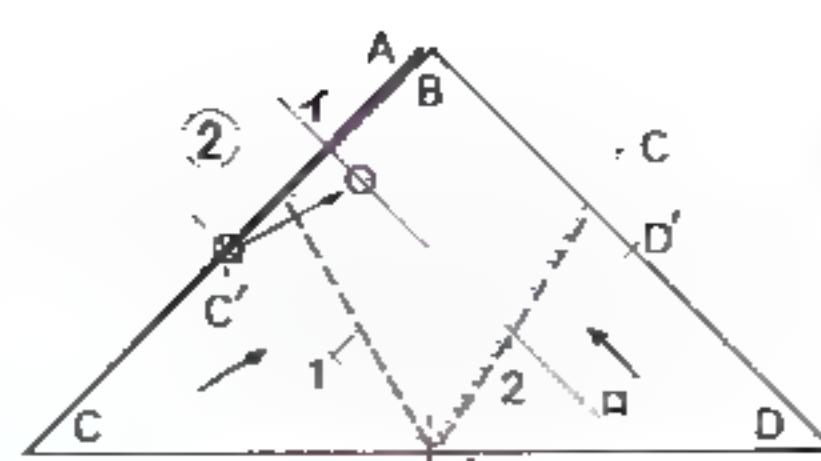
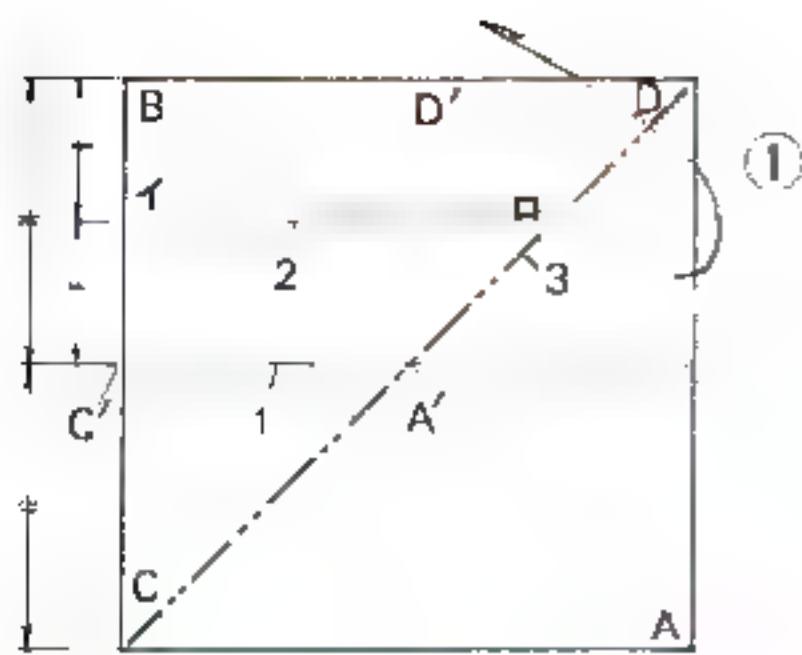
〈雌〉基礎折り(A)から折る。⑤CをFGの間へ、DをHIの間へ折る。⑥Aを裏側へ折り上げ、GとHを谷線と山線で矢印にずらして⑦のようにする。⑦Bを細く折り、GHを矢印に折る。⑧矢印に折る。⑨⑩CDに山線と谷線で段をつける。⑪矢印に折り下げて細くしてから、⑫印を軽く持って点線へ引き

出す。⑬CDを細く間へ折る。⑭裏返す。⑮谷線と山線で段をつける。⑯二つに折る。⑰Aを点線へ引き出す。⑱Aを点線へ静かに引き出して胸を丸やかにする。⑲Aを矢印に折り込み、⑲⑳㉑のように折って頭を作り、足を⑲⑳のように折る。㉒出来上がり。

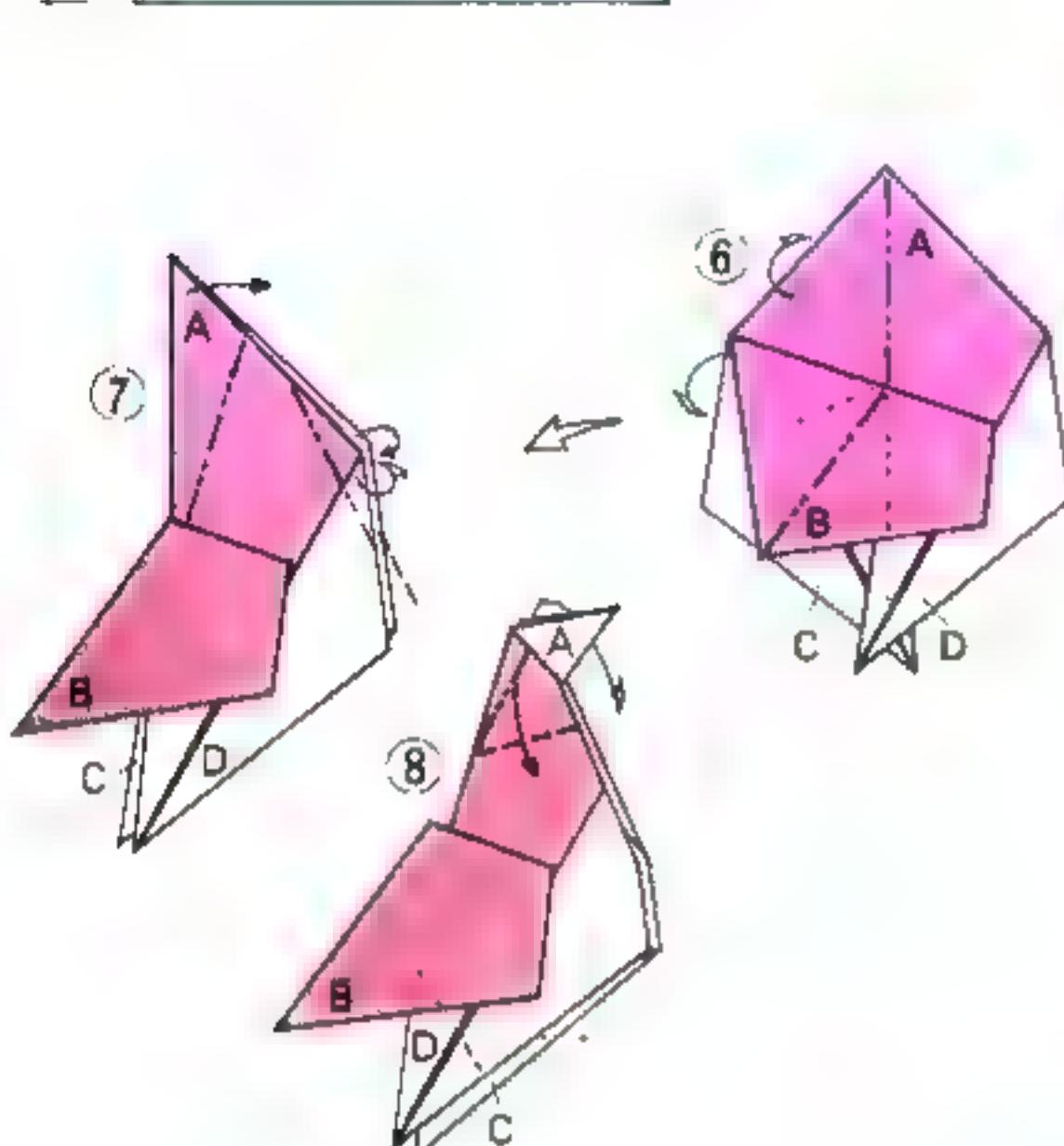


雄[A] 雌の⑨まで同様に折り、⑯からだを持って尾を点線へ思いきって引き出す。⑰頸を折りかぶせ、背中と尾の付け根をそれぞれ矢印に折り込む。㉑出来上がり。

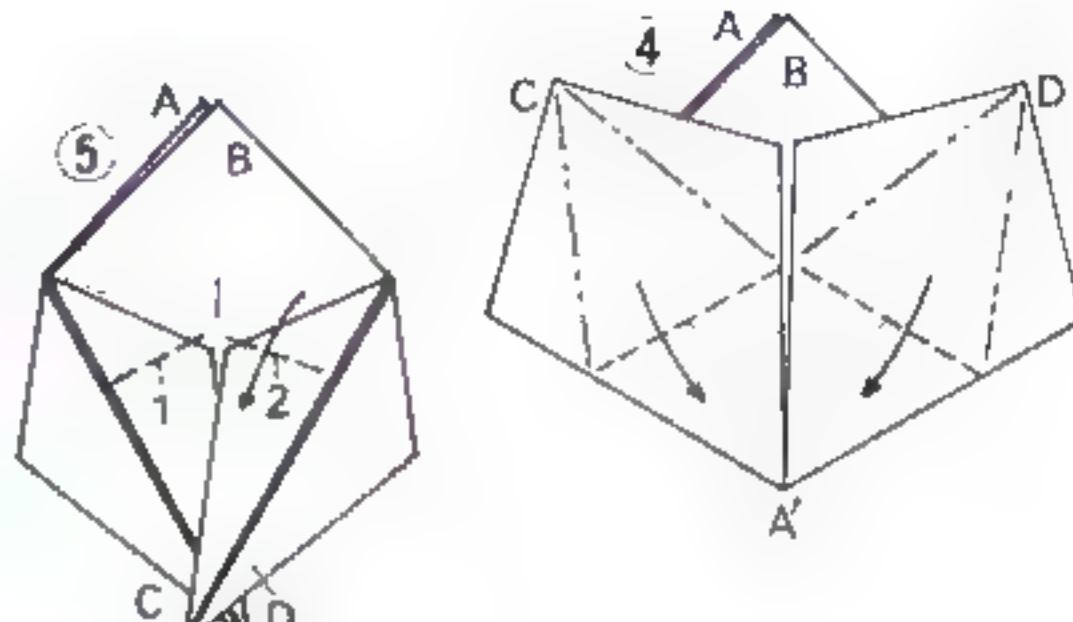
雄[B] 雄[A]の出来上がりの㉑のAをいたん開いて点線まで引き起こし、CDも㉒のように引き出す。㉒㉓ CDを山線と谷線で関節を作つてから足を作り、Aを番号の順に折つて頭を仕上げる。㉔出来上がり。



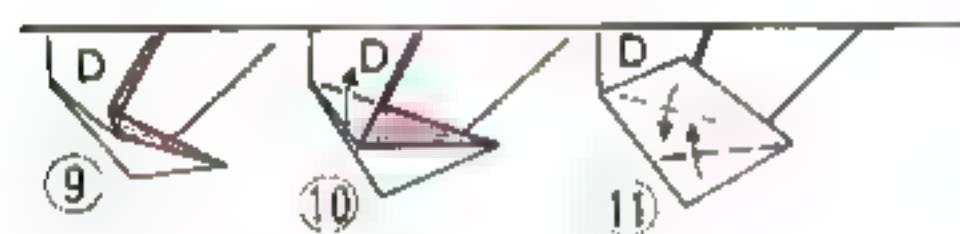
180°を三等分する方法



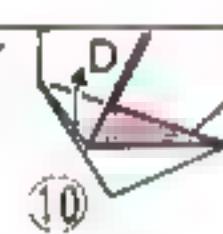
足の折り方



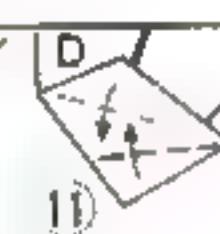
子雀



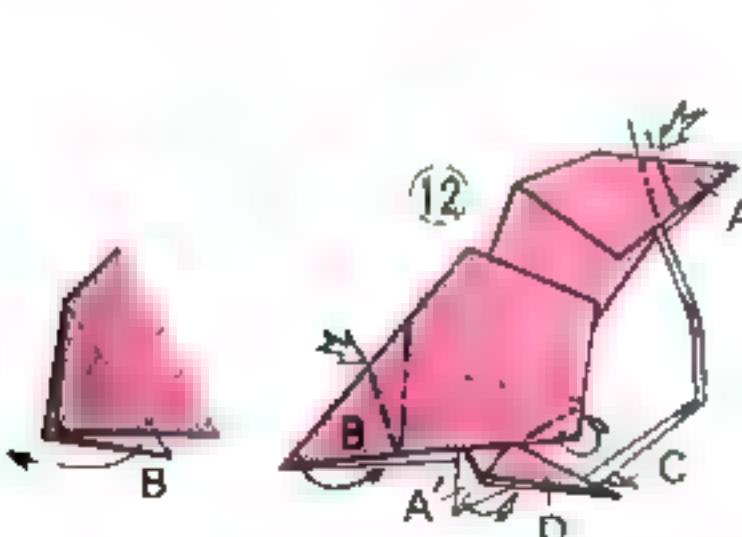
⑨



⑩



⑪



⑫

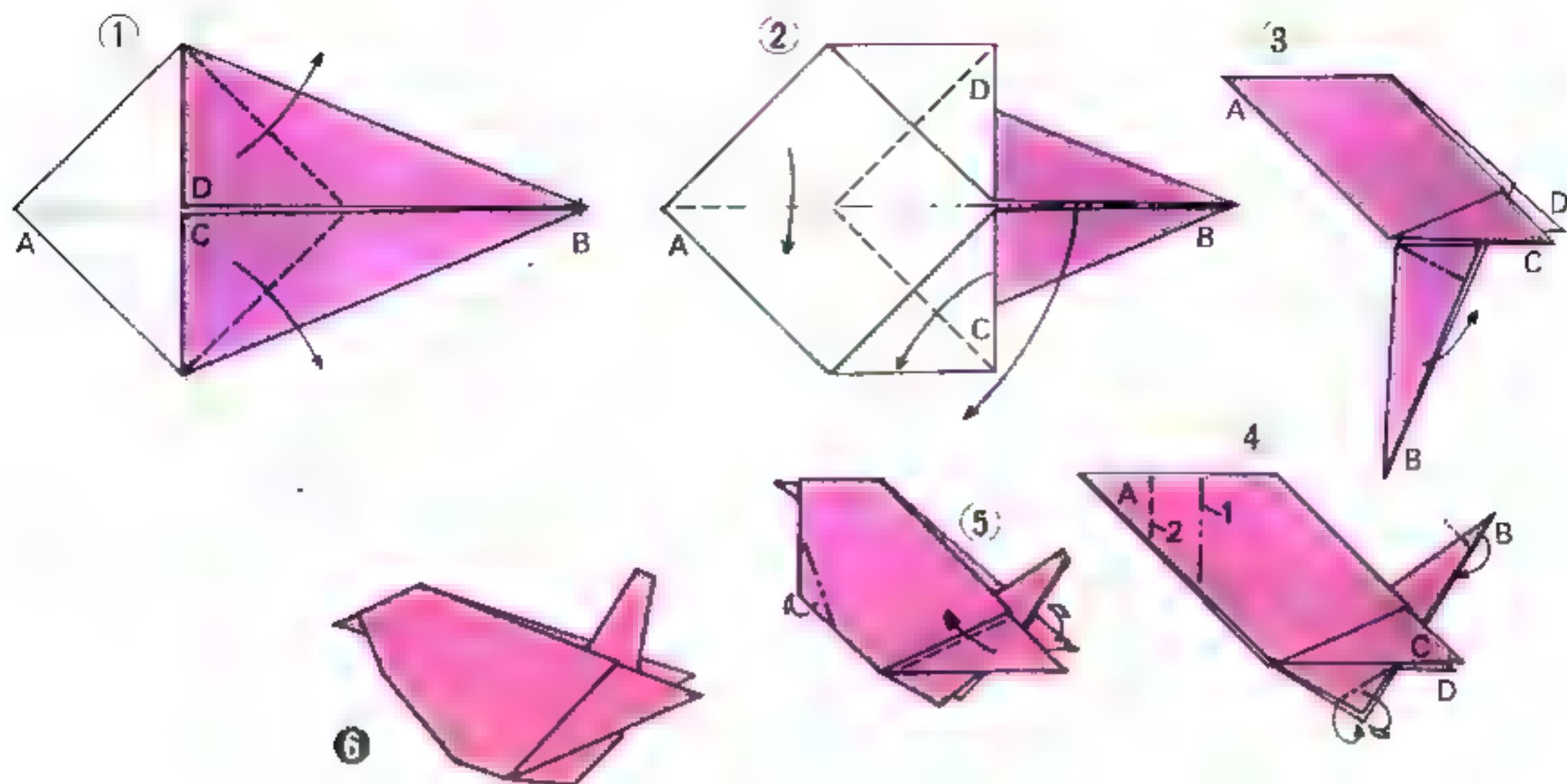


⑬

裏の白い正方形の茶色が黄土色の紙で折る。
①正方形の紙に1、2の折り目をつけてから、
対角線3を折る。②A'を支点としてC'をイロ
の線上に合わせて1の谷線を折り、Cを折っ
て出来た紙のへりに合わせて2の谷線を折る。
③CとDの袋を広げて④のように折る。④谷
線と山線でCDを矢印に折る。⑤谷線1に折
り目をつけてから、2を折る。⑥ABの山線
を折って⑦のようにする(Cの向きがDと同

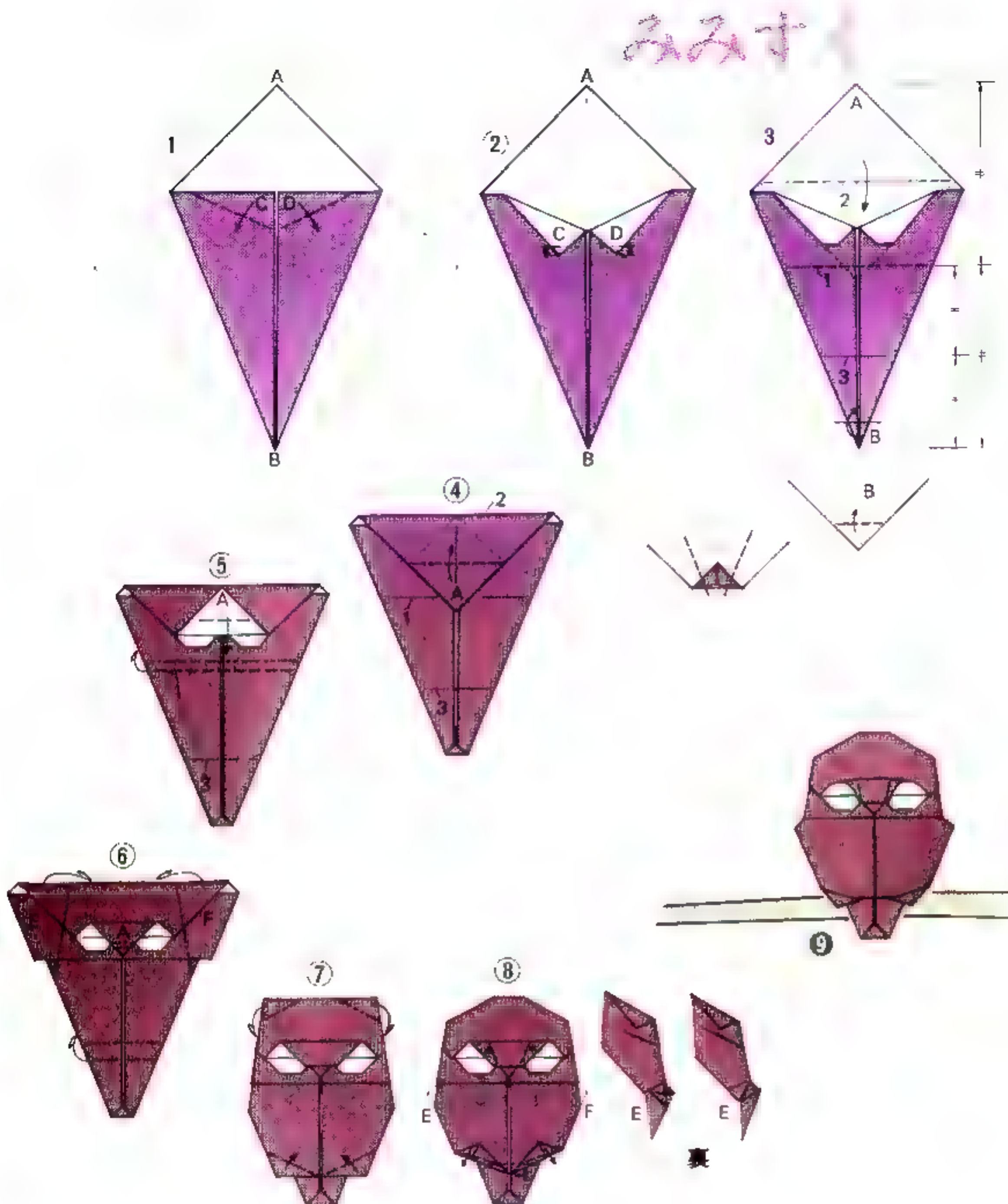
じになる)。⑦矢印にそれぞれ折る。(B'Aを広
げて谷線の位置から折りかぶせ、CDを⑨⑩
⑪のようにして足にする。⑫Aを山線で折り
込み、谷線で折り返してくちばしを作り、A'
を点線の内側で折る。翼のカドを間へ折り、
Bを山線から折り込み、谷線で折り返して尾
を作り、全体の形をととのえる。⑬出来上がり。

みそさざい



鶴鳴はこげ茶色の黒みがかった横縞のある、雀よりずっと小さい鳥です。山の崖や溪流に添って、ジイッジイッと小さな声で鳴いて、地面すれすれに低く飛んで、えさをあさっているのをよく見かけます。この鳥のすずなきの春のさえずりは、小鳥の声では鶯や黄鸝と並んで、昔から知られています。

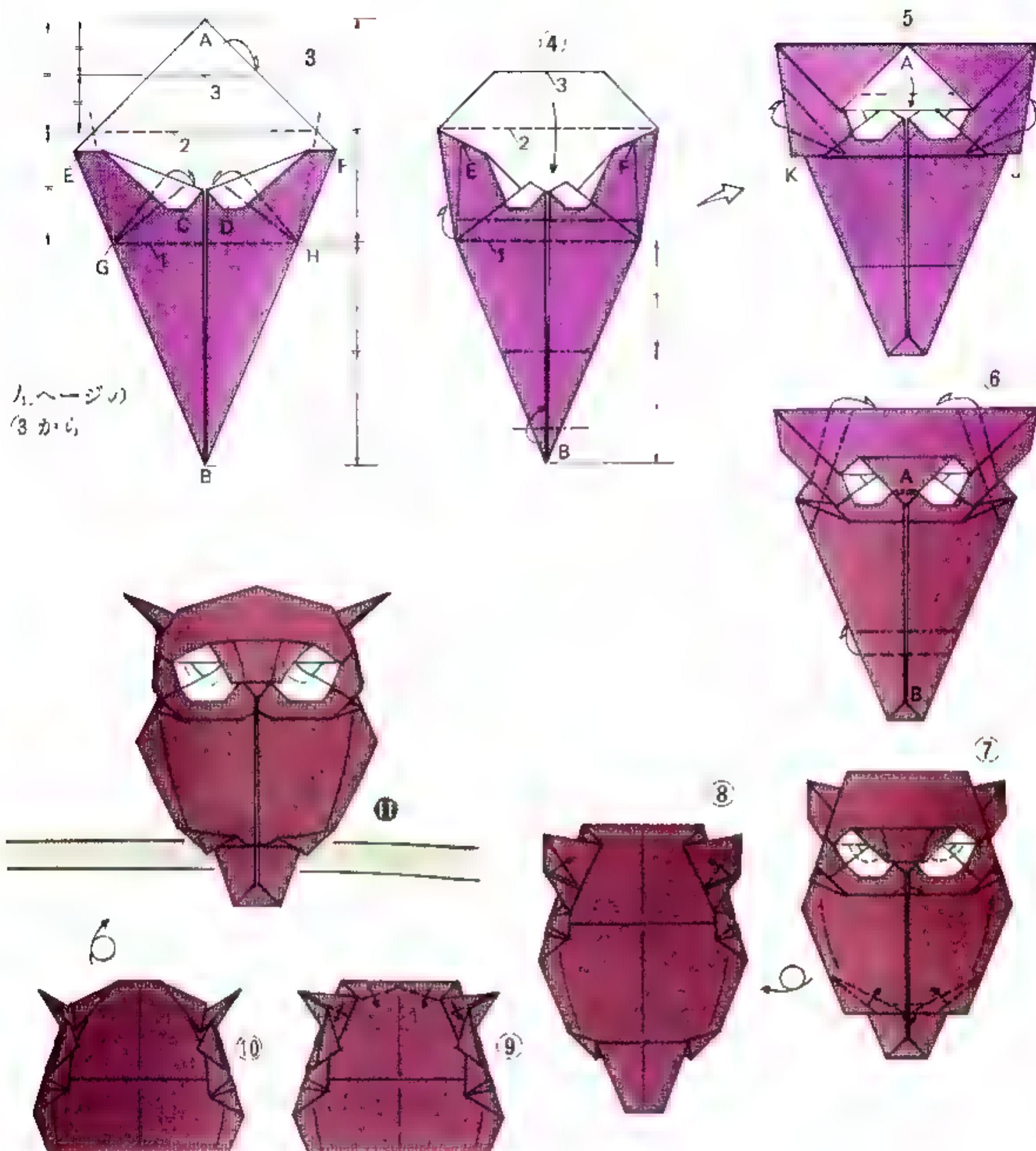
地味な色合いの、かわいい姿を折り紙で表現してみました。簡単な折り線構造の折り方は、俳句にたとえられる感覚そのものです。



子ども

正方形の紙(1)(2)と折る。(3)図の割合に折り目をつけて、Bを部分図のようにして折り込み、Aを折り下げる。(4)Aを折り上げる。(5)は(3)でつけた折り目の位置を基準にして谷線の位置を

決めて段をつけ、Aを折り下げる。(6)(7)(8)矢印に折る。(8)目のところを引き起こして丸みをつけ、E Fのカドを裏側の部分図のようにして引き出し、矢印に折って足を作る。(9)出来上がり。

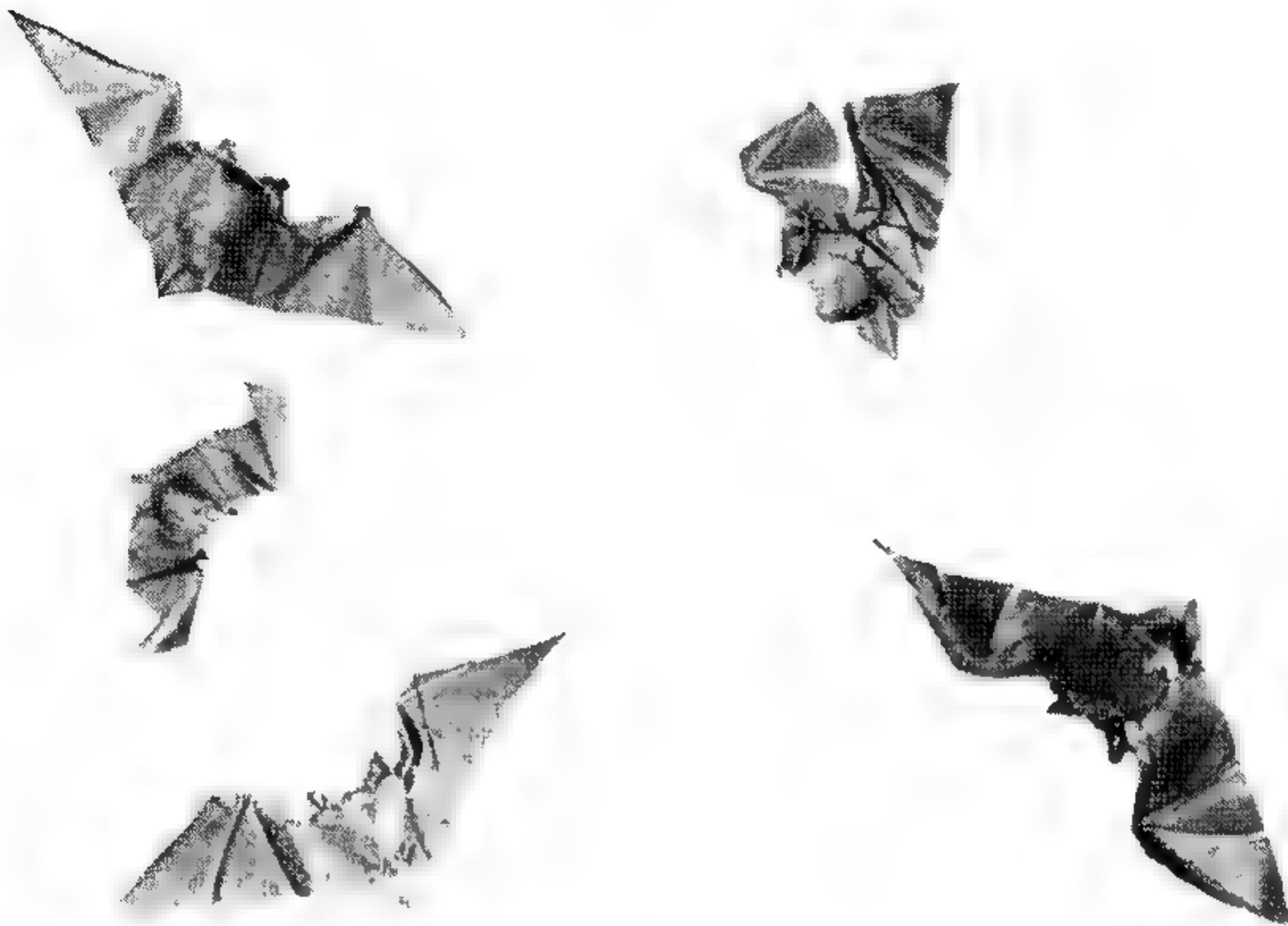


親

[A]①③まで同じに折る。③Gを支点としてCの山線をつまみ折りしながら、左カドのEを2の谷線までずらして折り、右側も同じようにして折る。④Bのカドを折り込み、1の谷線を基準にして山線で段をつける。⑤山線と谷線でK Jのカドを裏

へずらして折り込み、Aを折り下げる。⑥それぞれ山線と谷線で段をつける。⑦目を塗りばしの先などで、丸やかに広げ、足を作り、それぞれの折り線で形をととのえてから、裏返す。⑧⑨⑩耳を作り、表に返す。⑪出来上がり。

こうもり



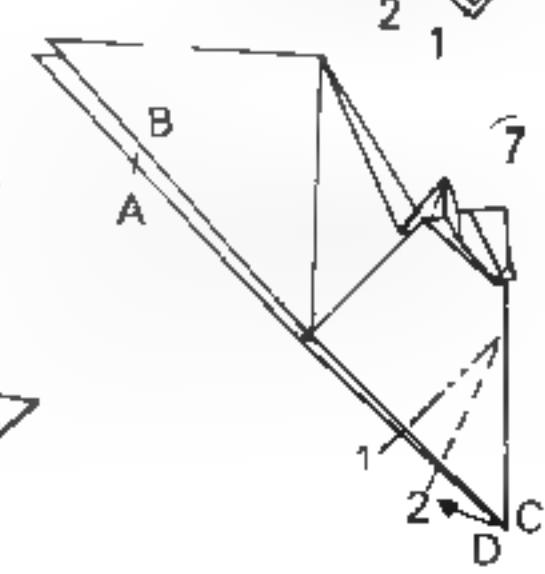
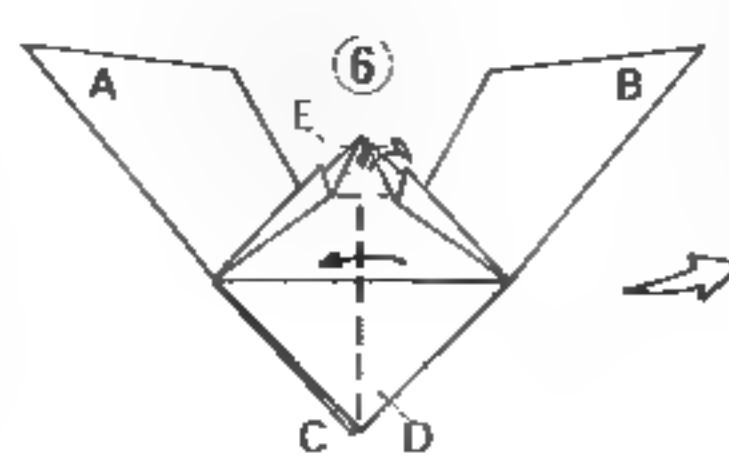
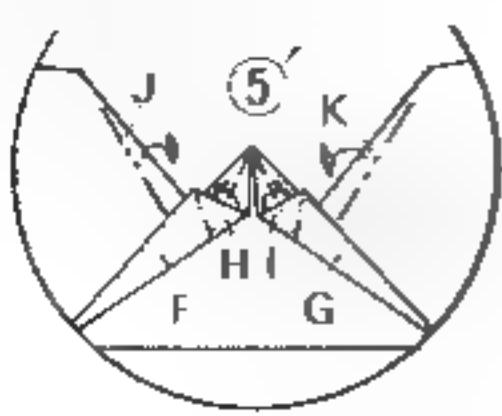
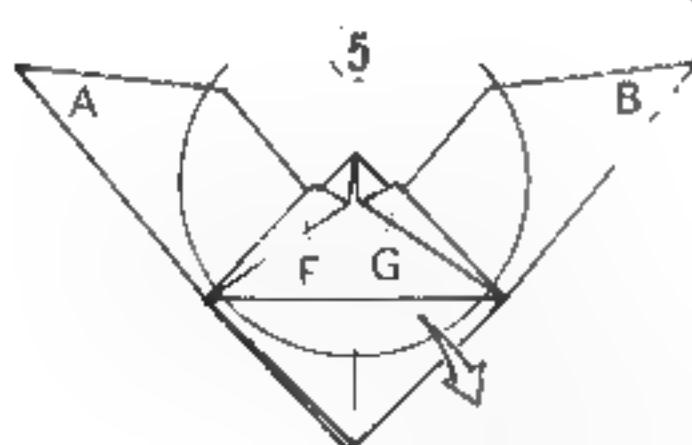
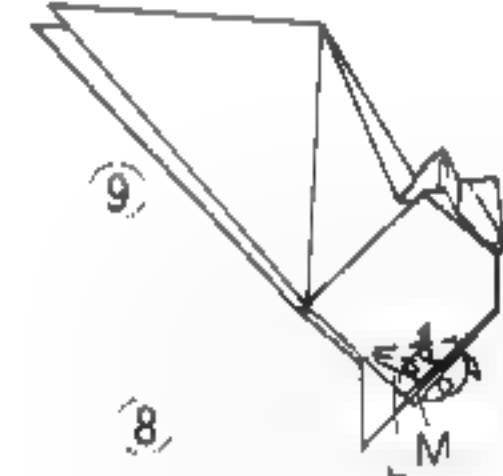
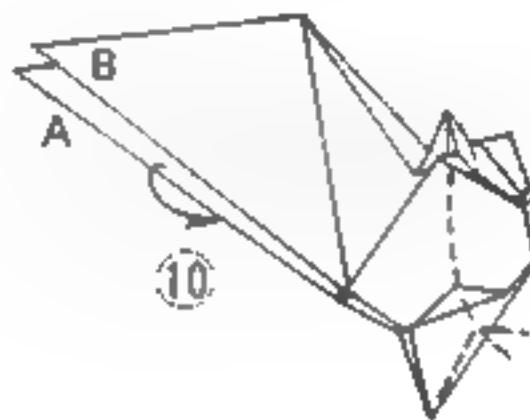
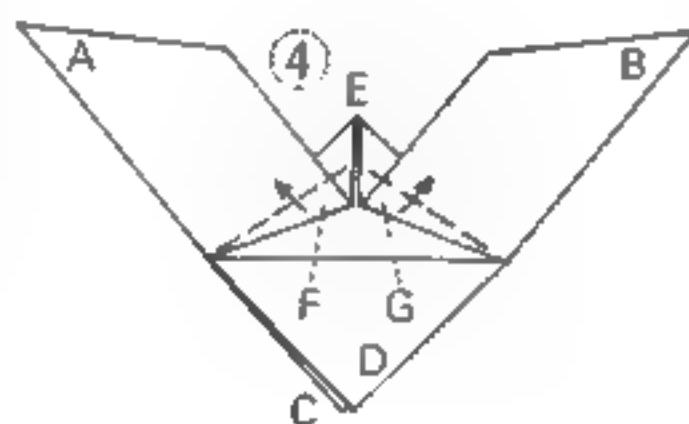
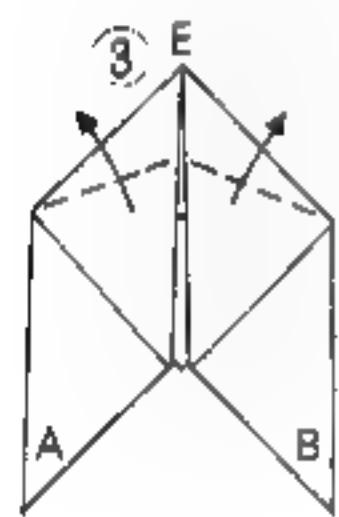
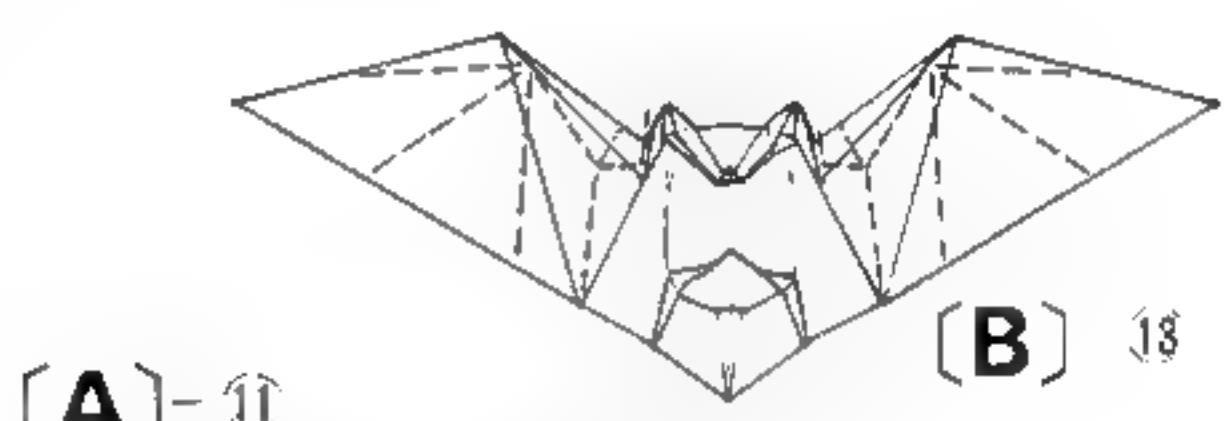
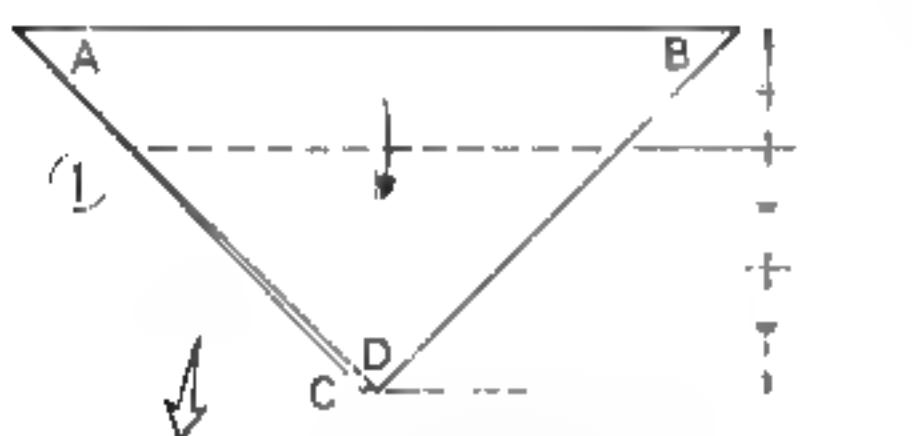
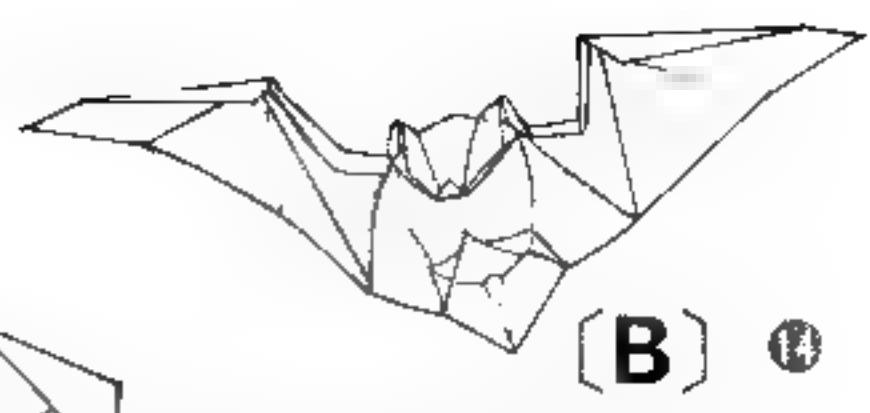
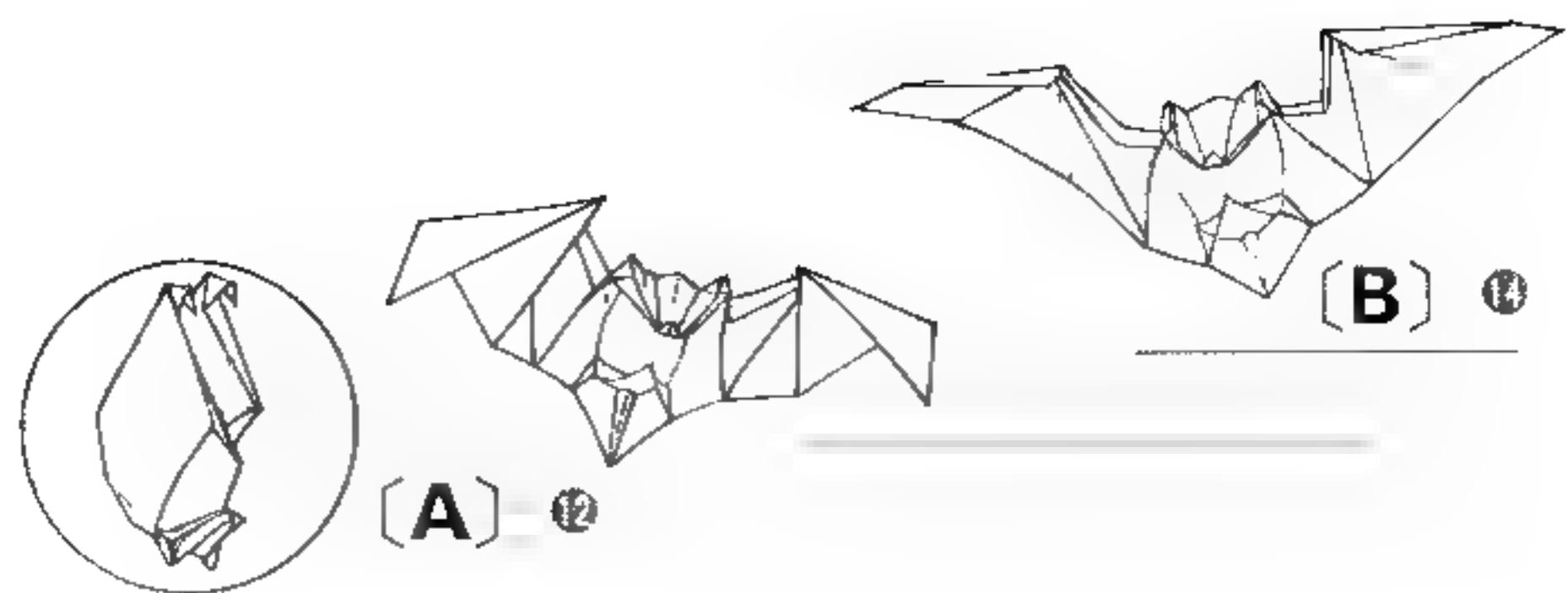
夕陽に舞うこうもりの姿を折りましょう

- 1 正方形の紙を対角線に折り、約 $\frac{1}{3}$ のところから折り下げる
- 2 3矢印に折る ④紙がずれないように注意してFとGを折る。⑤製図拡大、⑤'FとGの下へHとIのカドを折り込み、JとKを向こう側へ折る。
- 6 Eのカドを小さく手前に折り、そのEを向こう側へ折ってから、二つに折る。
- 7 ⑧CとDを重ねたまま、1の山線の位置から折り込み、2の線

から折り返す。⑨しとMのカドをそれぞれ回すつ巻き折りにする。10谷線の位置に折り目をつけながら、11のように胸、足、尾をとのえる。

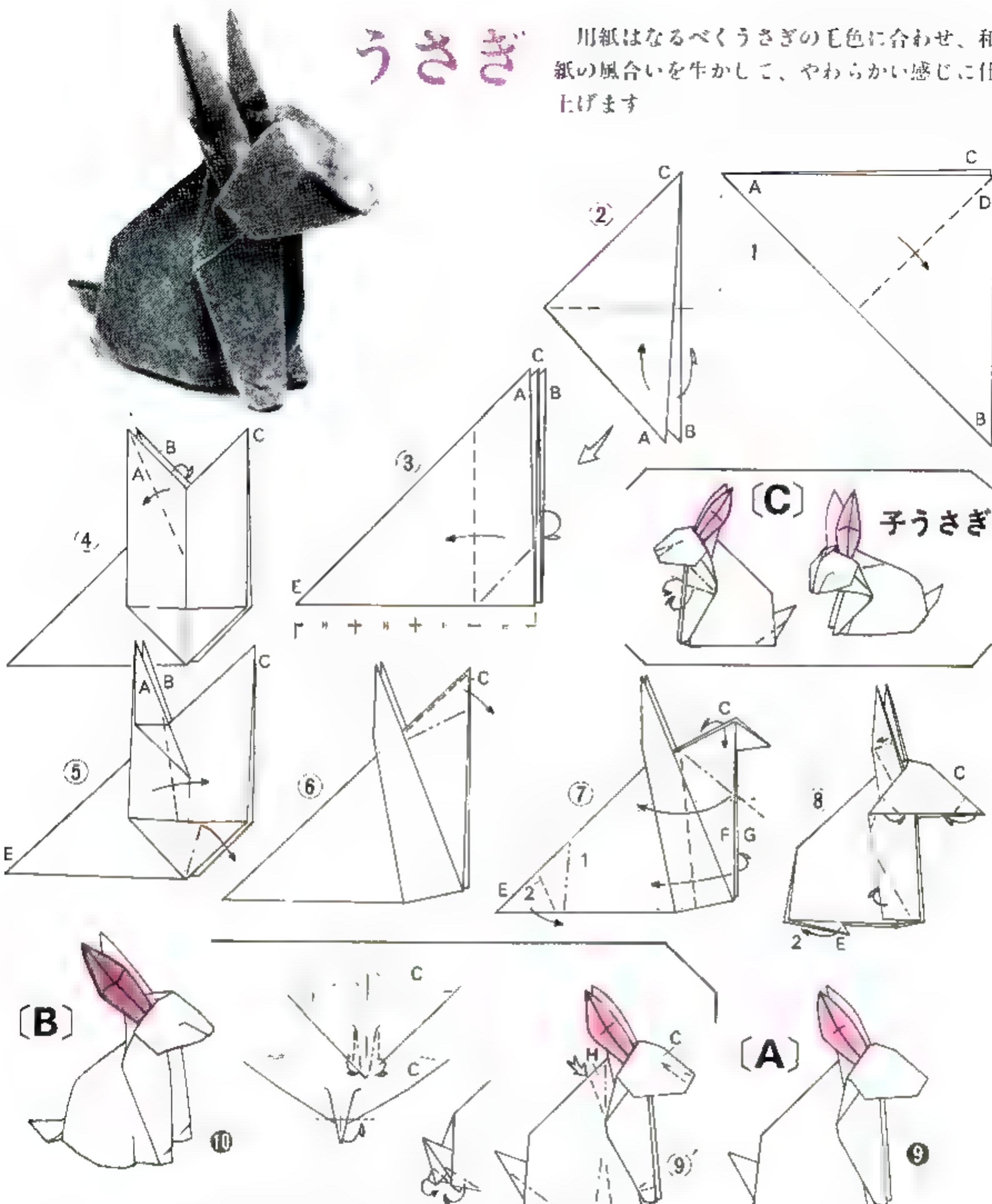
〔A〕 11の折り線で羽を仕上げ、〔A〕—⑫出来上がり。

〔B〕 13の折り線で羽を仕上げ、〔B〕—⑭出来上がり。



うさぎ

用紙はなるべくうさぎの毛色に合わせ、和紙の風合いを生かして、やわらかい感じに仕上げます



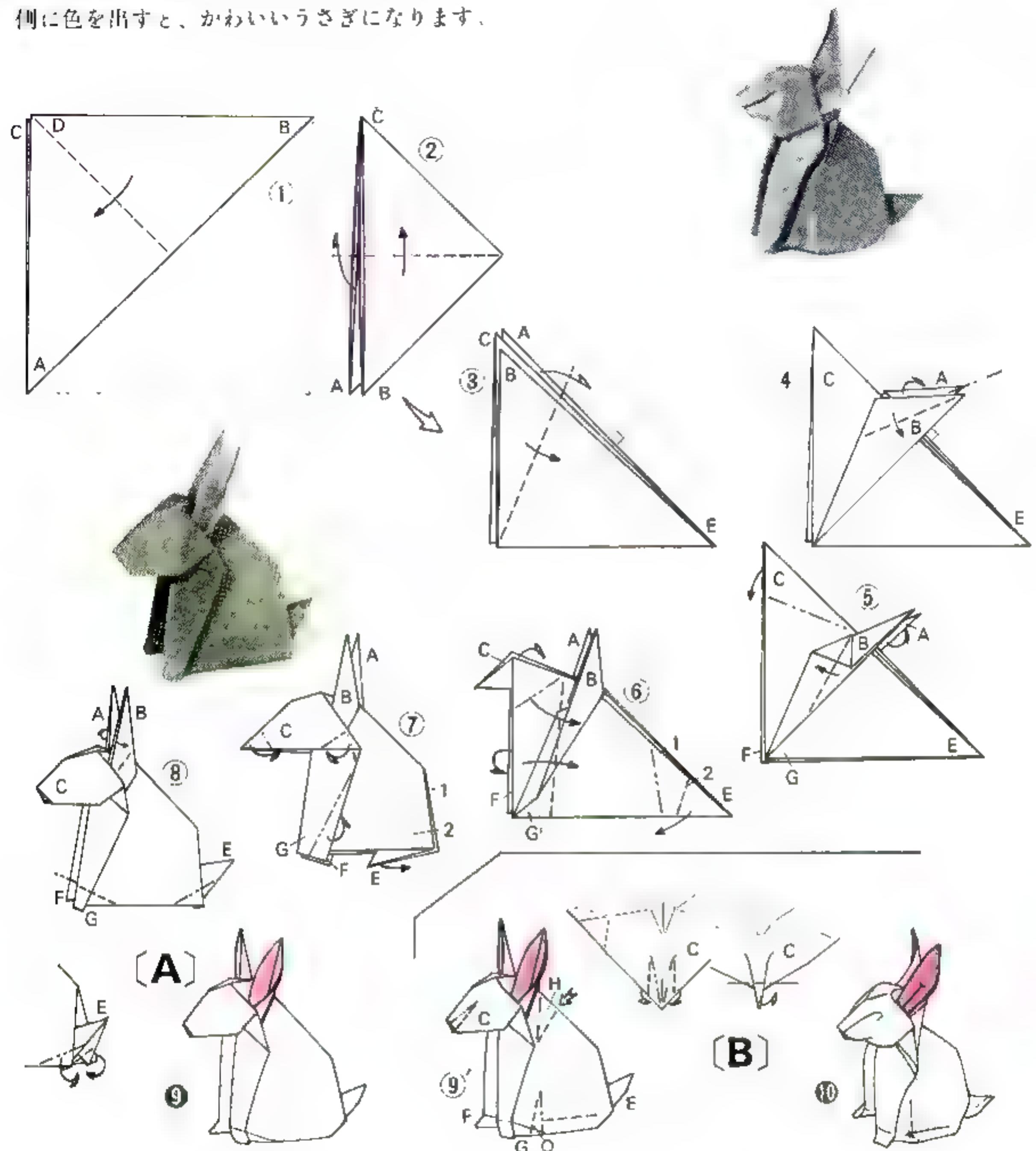
(A) 正方形の紙を①②③と折る。③約 $\frac{1}{4}$ のところに縦に折り口をつけて、ABを外へ折り返す。④ABを外へ折る。⑤Aの下のほうを矢印に返し、裏側も同様に折る。⑥Cを間へ折る。⑦FGを谷線と山線でそれぞれ左右に折り広げて、Cを折りかぶせ、Eを1の山線から折り込む。⑧2の点線の位置からEを折り返して尾を作り、鼻、あご、前足を矢印にそれぞれ折り、耳を広げて形をととのえる。

⑨出来上がり。

(B) は (A) の⑨まで同じに折り、Cをいったん広げて部分図のようにして鼻づらを作り、尾の下を折り込んでから、つまんで下に引き下げ、Hの部分を押し込んで形をととのえる。

(C) 子うさぎ (A) の⑨まで同じに折り、鼻づらと尾を作ってから、胸のところを大きく折り込んで形をととのえる。

白うさぎは裏の白いうす赤の紙や、もも色と白い紙を重ね、白を表にして折り、耳の内側に色を出すと、かわいいうさぎになります。



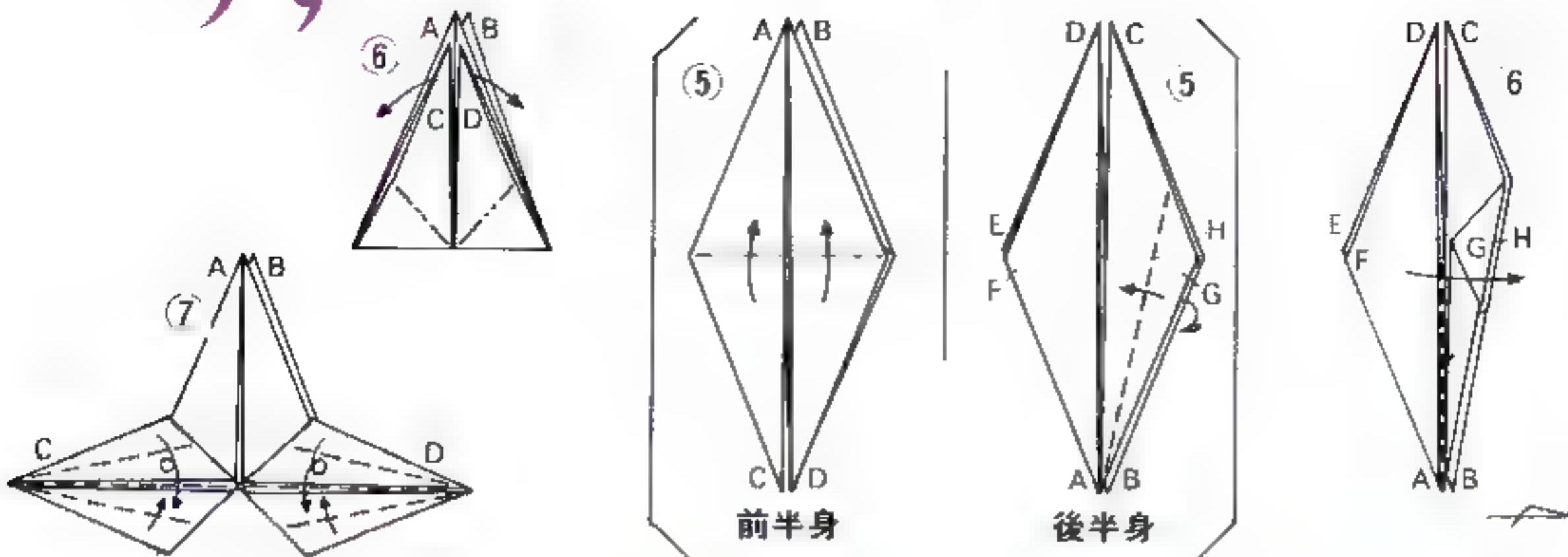
(A) 正方形の紙を①②③④の順に折る。⑤
AとBを谷線の位置から折り、Cを間へ折る。
⑥F、Gを山線と谷線で表と裏に折り返して、
Cを折りかぶせ、Eを1の山線から折り込む。
⑦Cの先を折り込み、耳の下を間へずらして
折り、F、Gを細く折り、Eを2の点線から
折り返す。⑧A、Bを開いて耳を作り、Eの
下を折って尾を細くし、F、Gを外へ折り、

内側に指を入れて胴体にふくらみをもたせる。
⑨出来上がり。

(B) は(A)の⑨まで同じに折る。⑨'Cを
いったん開いて部分図のようにして耳づらを
作り、Hの部分を押し込み、Iの部分をそ
れぞれ外側からつまみ折りにして段をつけ、
横の谷線で後足を作り、尾を引き下げる、全
体の形をととのえる。⑩出来上がり。

りす

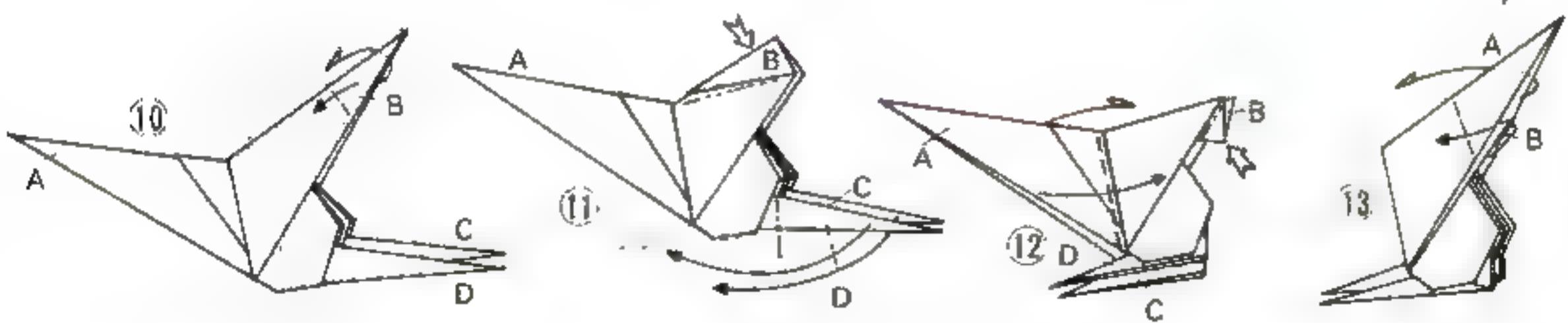
基礎折り(A)



組み合わせ方



前半身⑯のCDを⑮のよう広げて、後半身⑰のDを⑯線まで引き出して輪を広げ、前半身⑯の山線のようにかぶせ、後半身⑰の△印を、前半身の○印の中へ差し込み、⑰'の谷線を折ってはずれないようにして形をととのえる

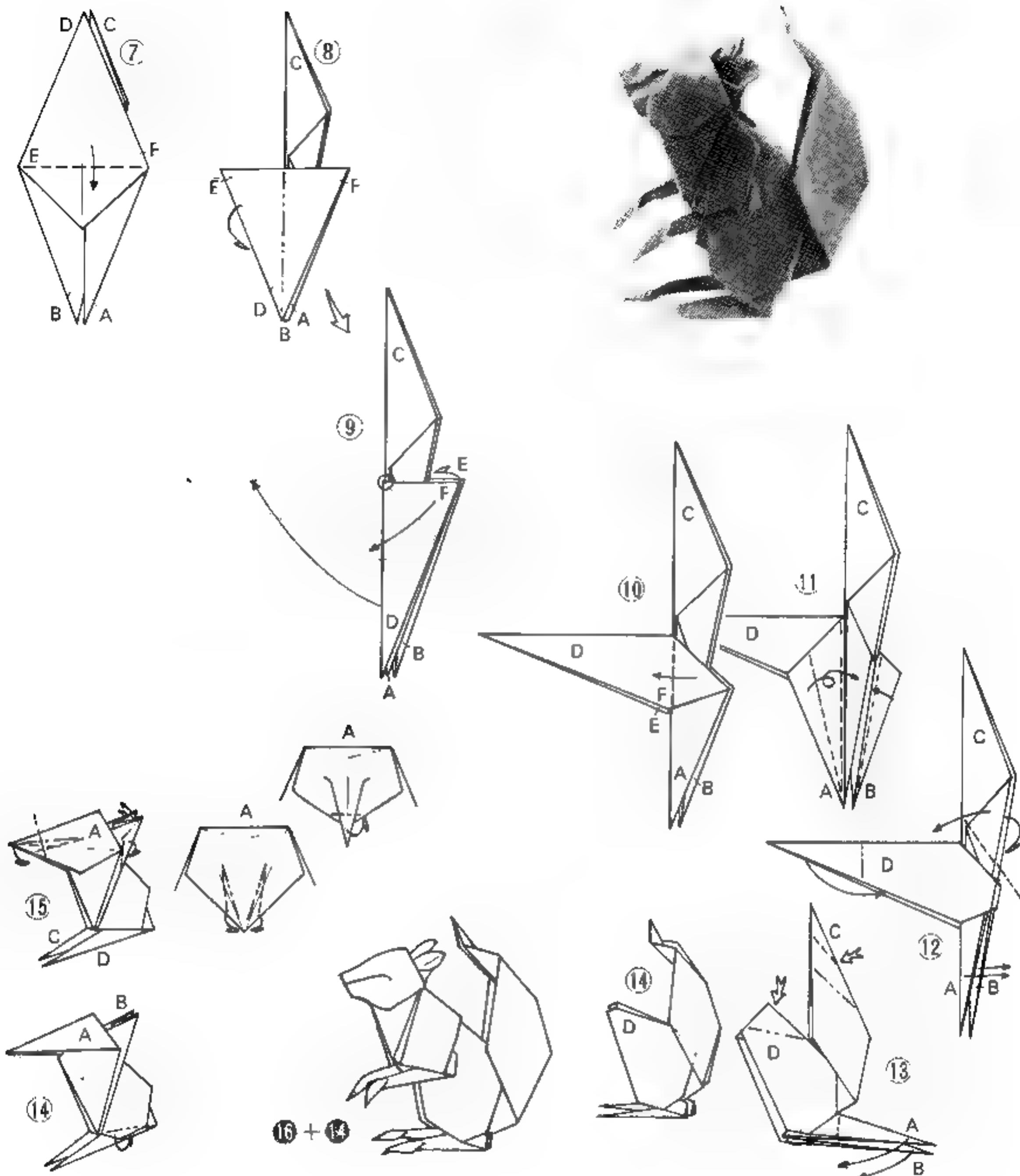


正方形の紙二枚で基礎折り(A)から、前半身と後半身を折って作る。

〈前半身〉 ⑤CとDを折り上げる。⑥CとDの袋を開いて折る。⑦CとDを細く折る。⑧二つに折る。⑨AとBを少し広げて谷線の位置からBだけ点線へ折り返し、CとDを点線へ折る。⑩Bの先だけ平らにして矢印に折る。⑪Bを矢印に押し込み、CとDを折り返す。⑫Bのカドを山線から折り込み、

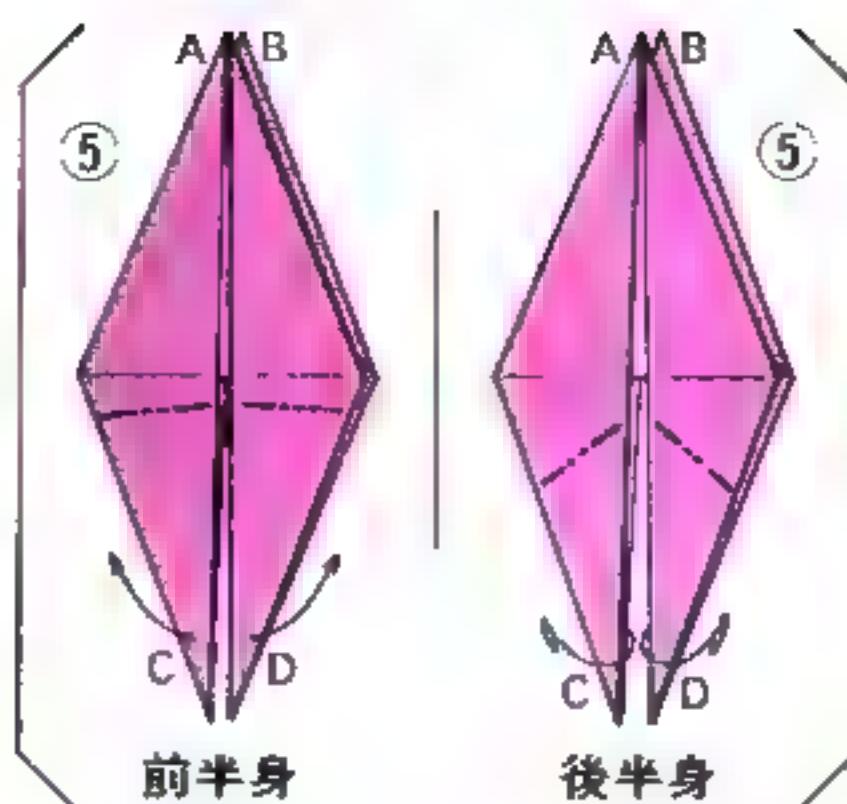
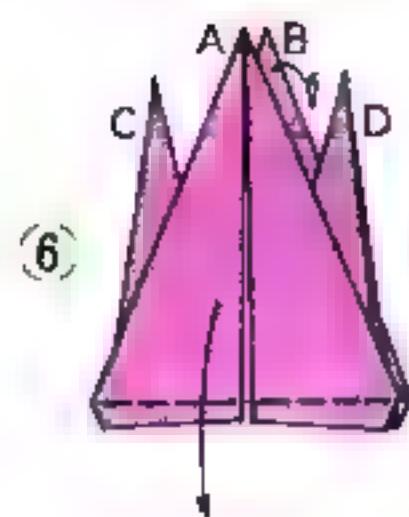
Aを⑨のときと同じようにして折りかぶせる。⑬Aを谷線の位置から折り返す。⑭Aの袋の中から点線へ開き出し、手の付け根のところを間へ折り込む。⑮耳の付け根を頭の内側へ押しつけてから、耳の中の重なっているところを引き出して丸やかに開き、Aを部分図のようにして顔を作る⑯。

〈後半身〉 ⑤GとHをそれぞれ矢印に折る。⑥Fを矢印に返す。⑦Dを折り下げる。⑧E

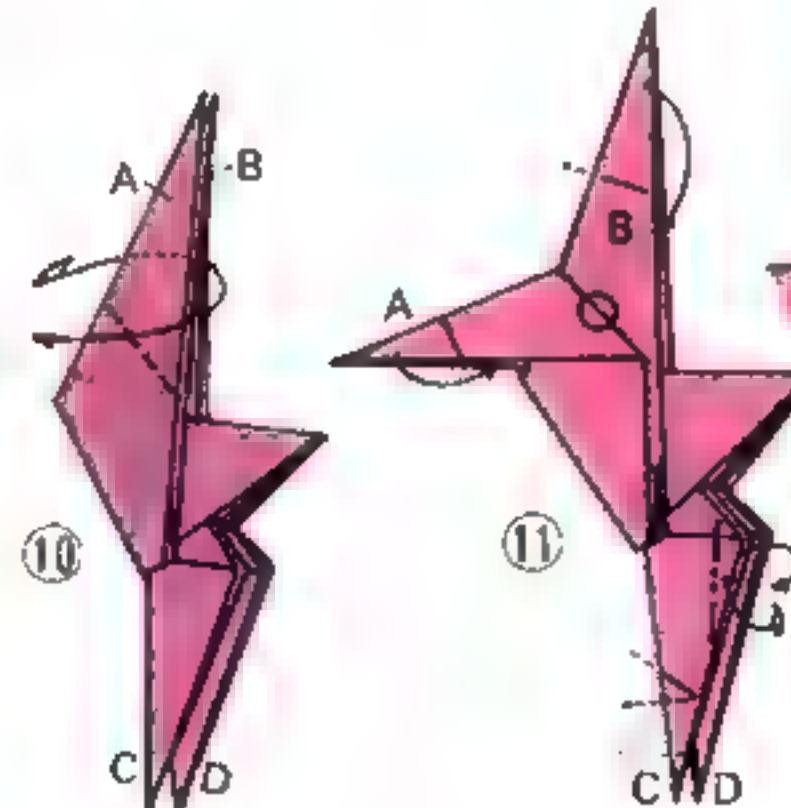
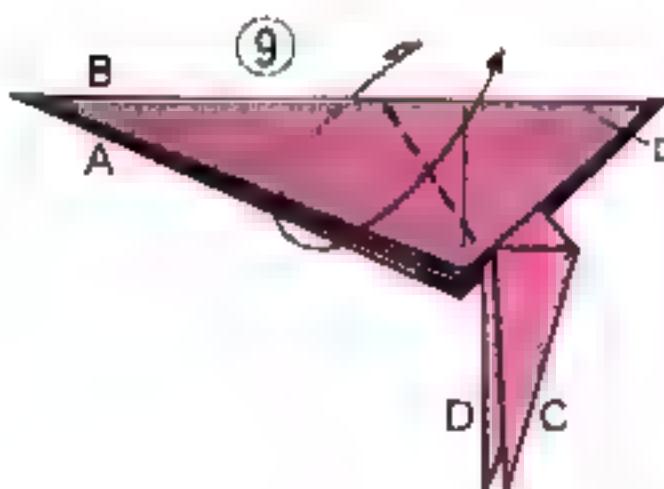
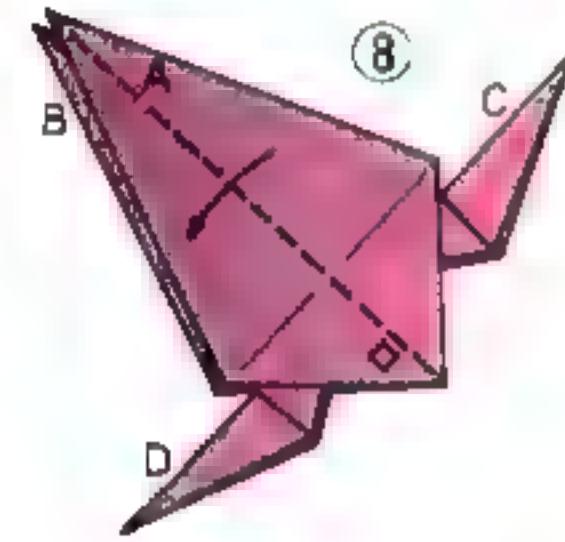
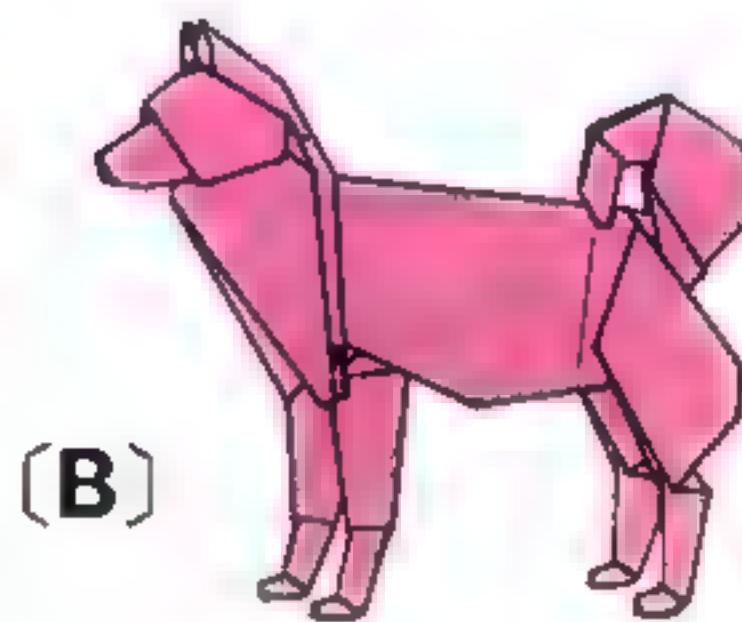
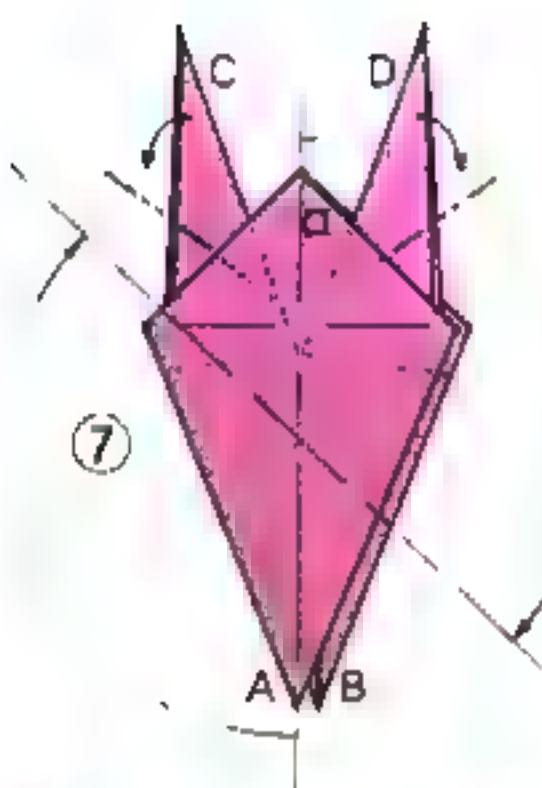


を裏へ折る。⑨○印を支点としてEFをずらし、Dを点線へ引き出す。⑩矢印に上側だけ返す。⑪AとBをそれぞれ細く折る。⑫Dの先を間へ折り、Cを開いて折り返し、AとBを矢印に折る。⑬それぞれ矢印に折って、⑭Dの部分を前半身の⑮の間に入れてのりでつけ、手と足の先を平らに広げて、形をととのえる。⑯ + ⑰出来上がり。

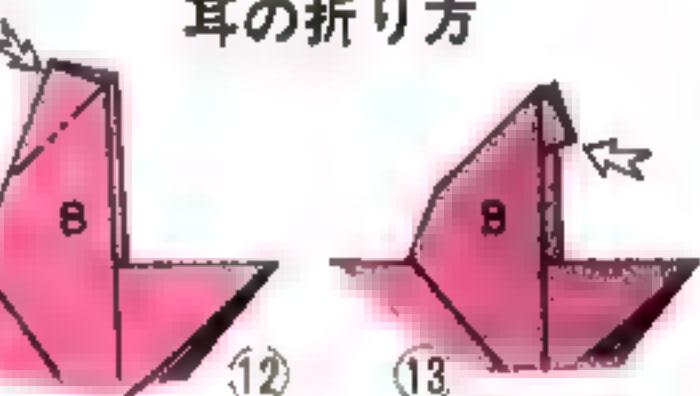
日本犬



基礎折り(A)



耳の折り方



足の折り方

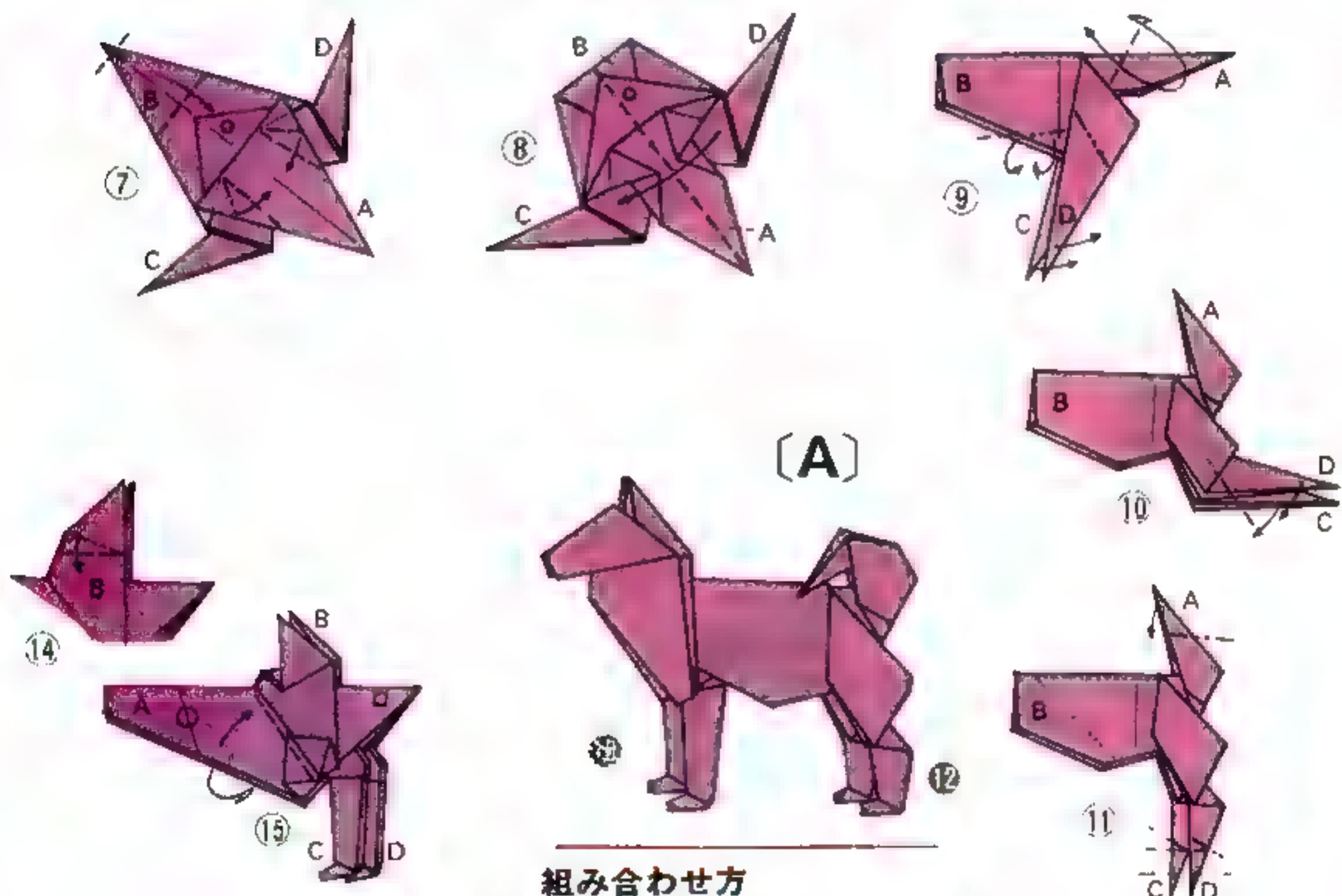
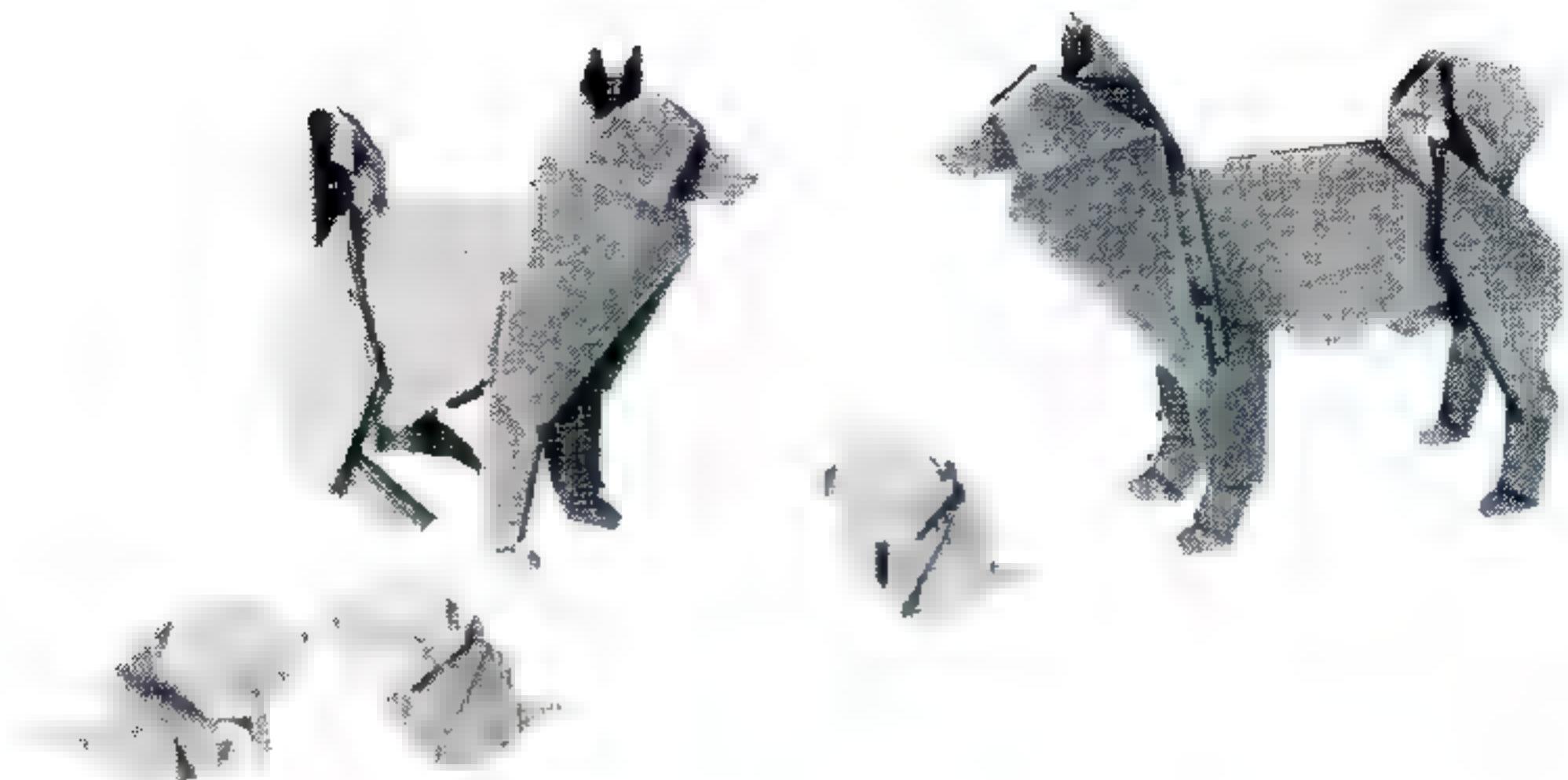


正方形の紙二枚で基礎折り(A)から、前半身と後半身を折って作る。

〈前半身〉⑤CとDをA Bの間へ折る。⑥A Bを折り下げる。⑦CDを横に折る。⑧二つに折る。⑨A Bを重ねたまま折り返す。⑩Aだけ折り返す。⑪Aの先を折って△印を⑫のようにのばし、Bを⑬⑭と折って耳の形にしてから、CDを折って足を作る。⑯Aを折

りかぶせる⑯。

〈後半身〉⑤CDを山線から裏へ折る。⑥Aを折り下げる。⑦⑧Bを○印の裏へ折り、Aを細く折ってから二つに折る。⑨⑩Aの先を広げて折り返し、腹の下を折ってから、CDを折る。⑪Aを折り、CDを「足の折り方」で折る⑫。



組み合わせ方

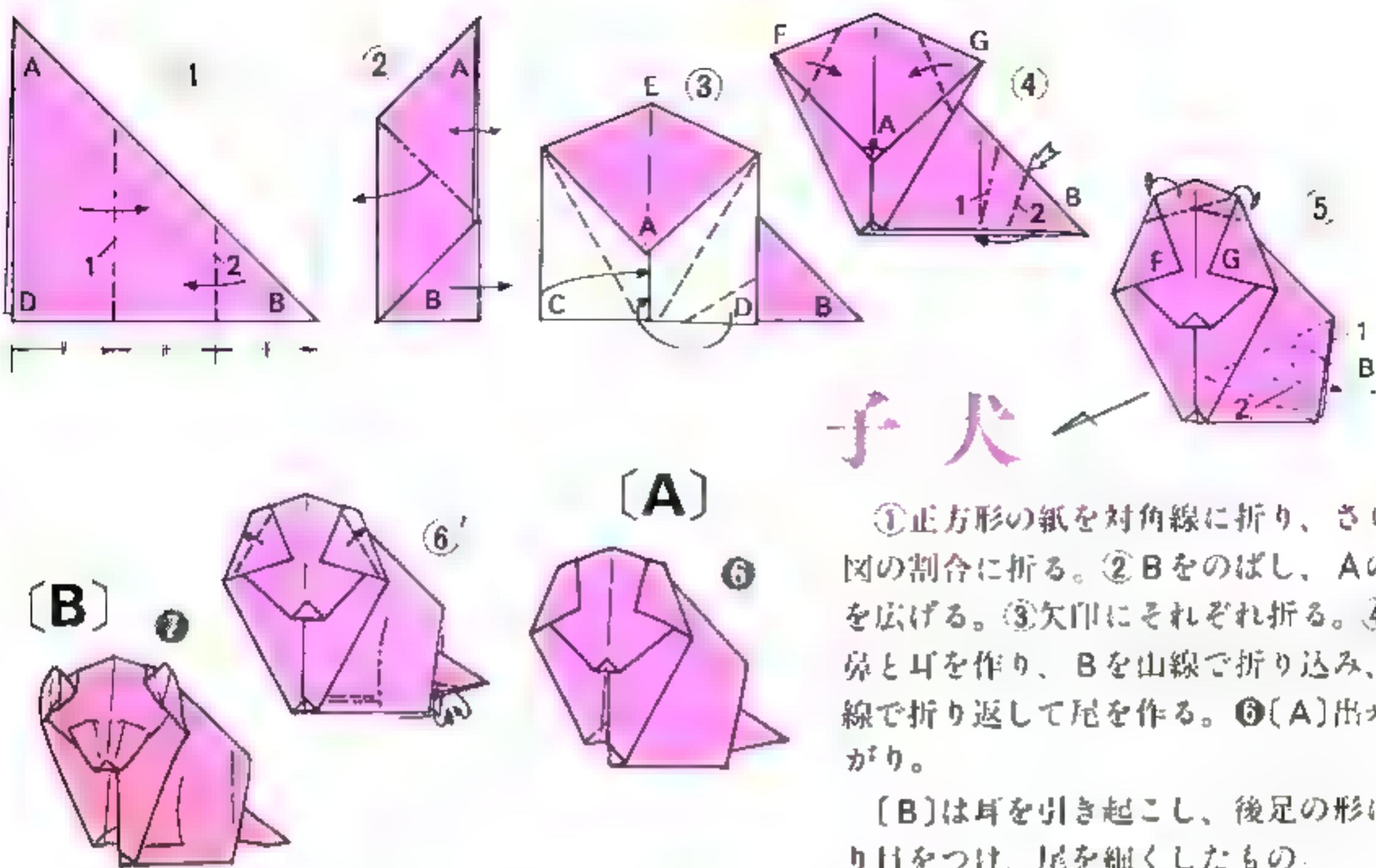
後半身の⑫を⑬のように平らにして、前半身を□印の部分だけ⑭のようにやや平らにして、後半身の⑮の△印とBの間へ深く差し込んでから、もとの折り目で形をととのえる。

〔A〕⑩+⑫出来上がり。

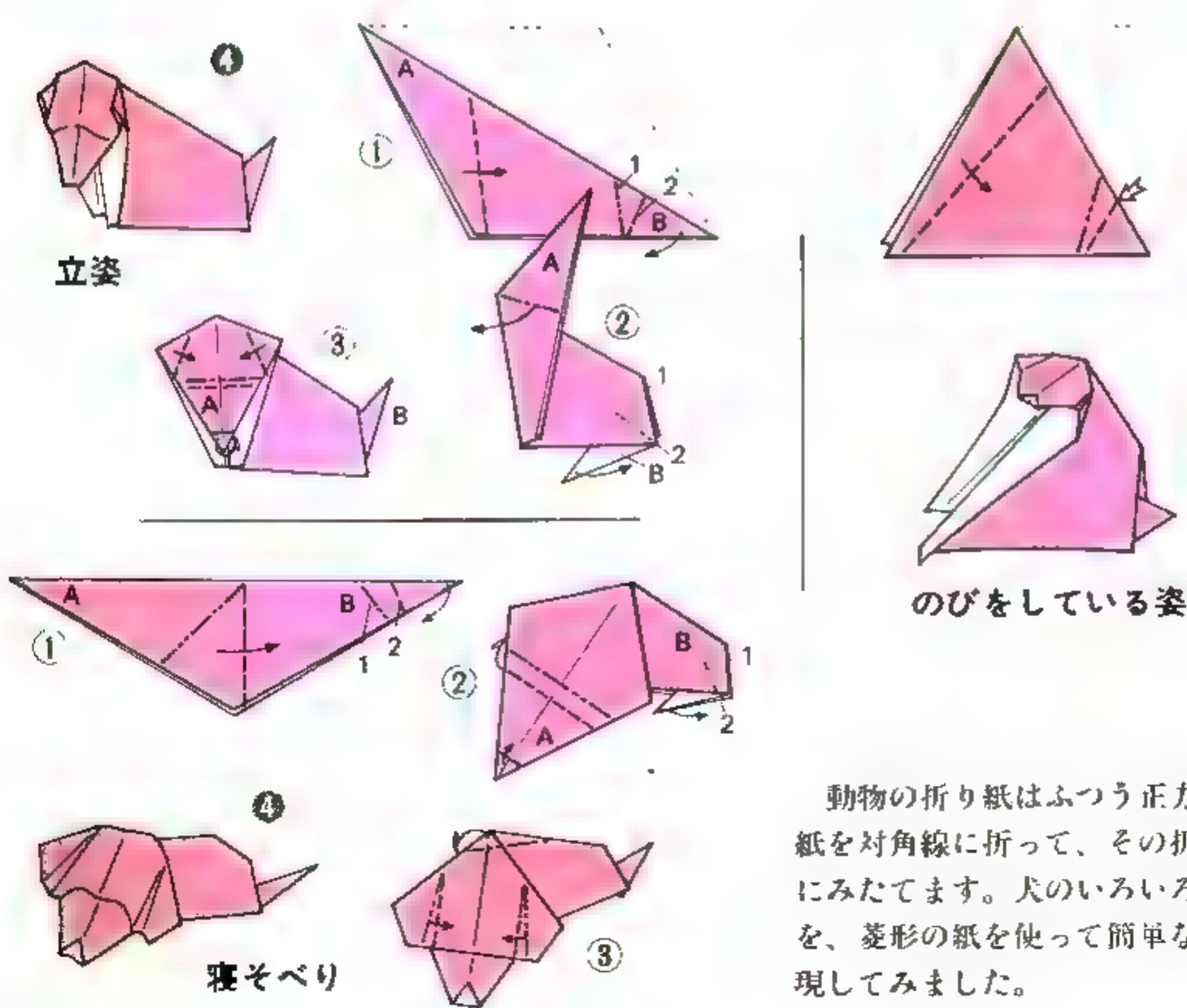
〔B〕は〔A〕に額の段をつけ、尾の先を広げて太くし、前足を写実的にしたもの。

座り姿は後足を折りかえて作る。

形を少しずつかえて工夫すると、テリアやシェハードにもなる。

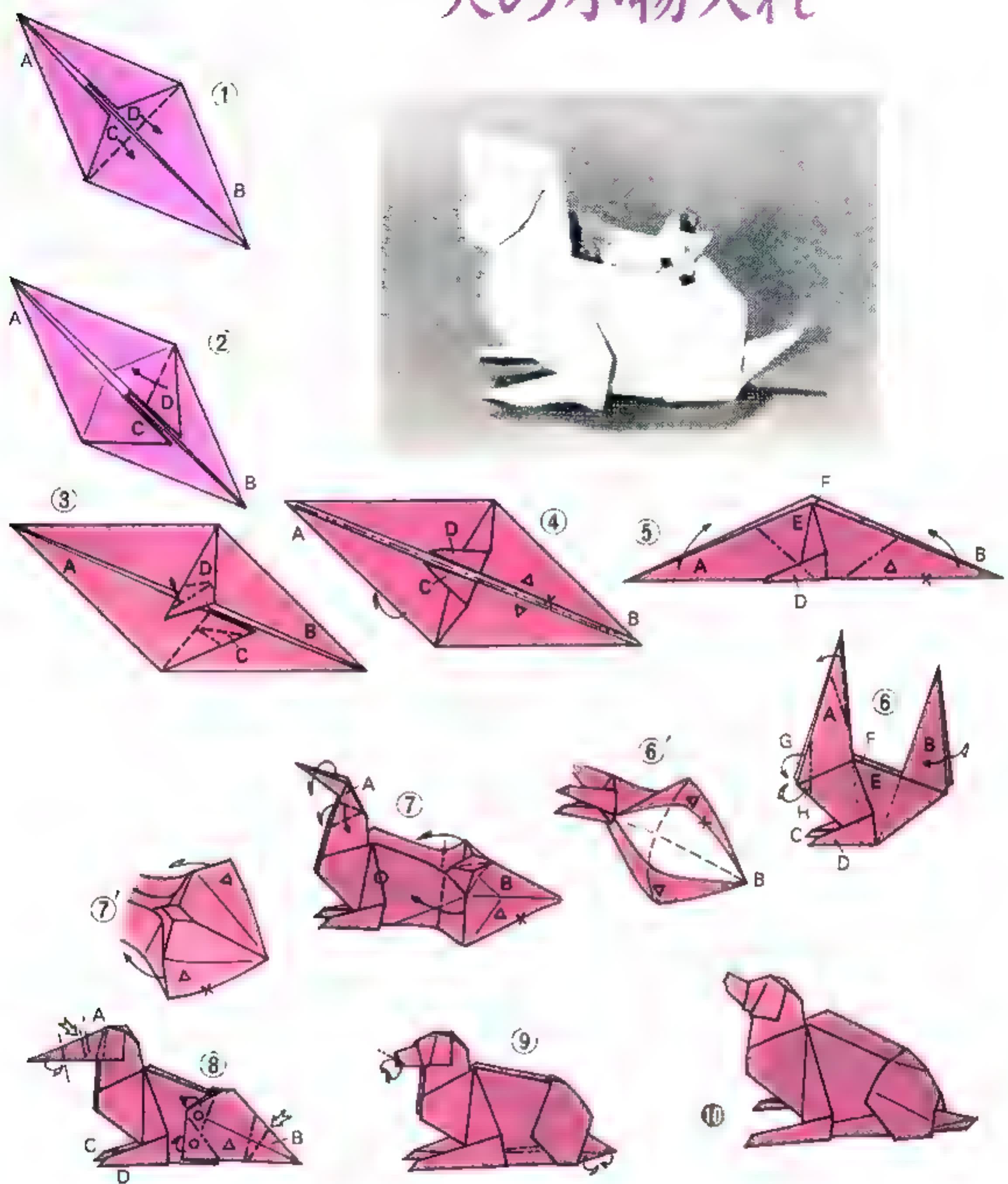


菱形からの犬



動物の折り紙はふつう正方形や菱形の紙を対角線に折って、その折り目を背骨にみたてます。犬のいろいろな姿の特徴を、菱形の紙を使って簡単な折り線で表現してみました。

犬の小物入れ



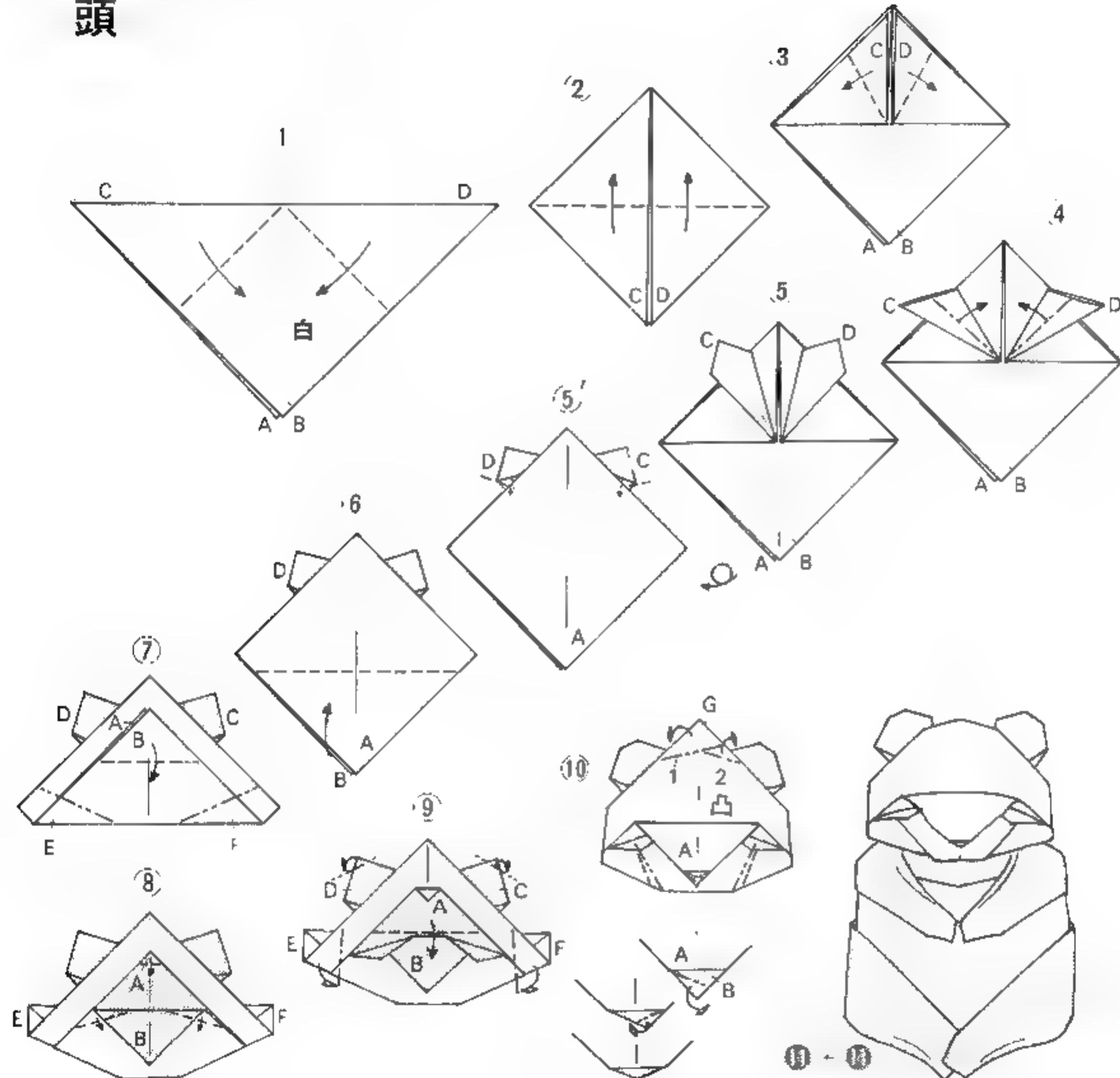
正方形の紙を①のように折り、CDを引き出す。②③と折ってCDを細くする。④二つに折る。⑤ABを山線の位置からEFの間へ折る。⑥GHを折り、Aを山線から折り、Bを開いて中から④⑤の△印の部分を⑥'のように引き出す。⑦Aを折りかぶせ、○印をもって⑦'のようにして、谷線から矢印に折って平ら

にする。⑧Aの耳と額の位置に段をつけて先を折り、頭の形にととのえ、Bで尾を作り、△印を間へ折る。⑨あごの先を小さく折り、後足の形に折り目をつけ、腹の部分を静かに広げて箱状に形をととのえる。⑩出来上がり写真は頭を半開きにして、内側から紙を引き出して耳を大きくしたもの。

パンダ

パンダのように丸みのある動物は、輪郭や折り目が直角や平行線にならないようにして、特徴を出します。ふくらみややわらかさは、紙をそらして部分的に曲面をつけます。

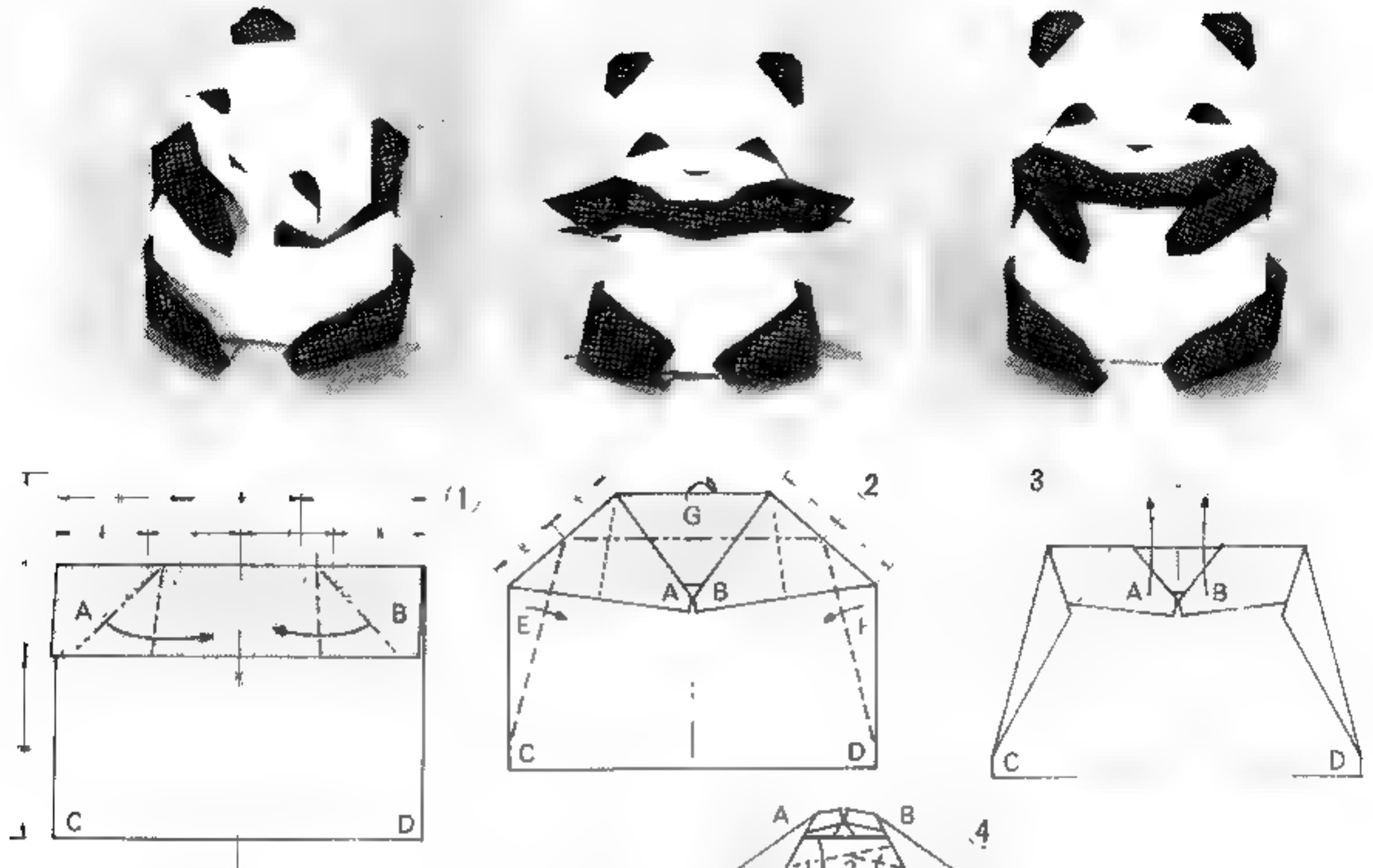
頭



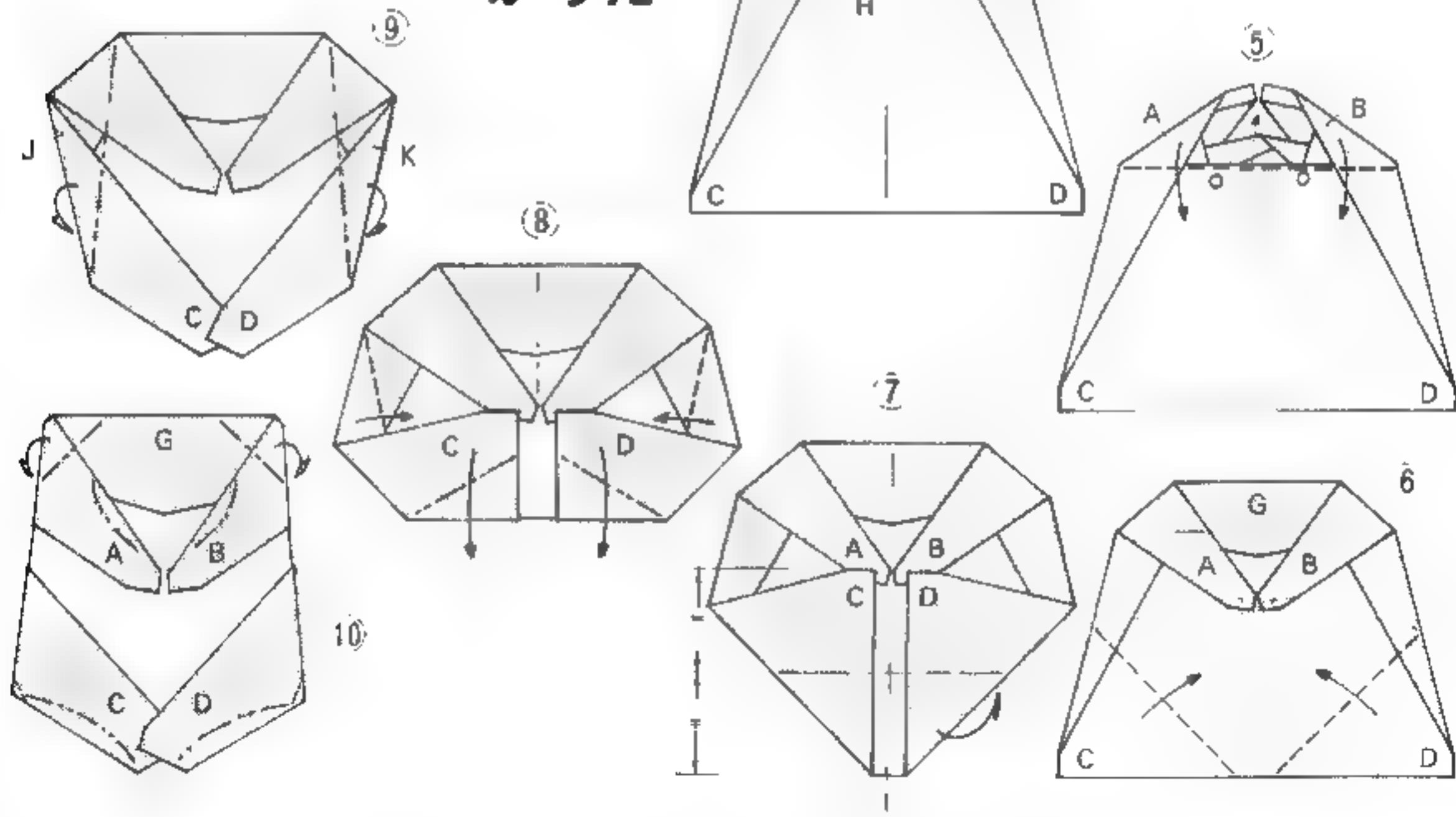
裏の白い黒の紙二枚で、頭とからだをそれぞれ作り、組み合わせる。

〈頭〉① 正方形の紙を白を外にして三角に折る。② ③ 次印に折る。④ CとDを開いて平らにつぶす。⑤ 裏返す。⑥ CとDの白く見える部分を間へ折り込む。⑦ 出来上がりの顔の輪郭と目の位置を考えながら、Bを折り上げ、EとFを裏へ折る。

⑧ 目の形を考えてBの左右のカドを折り、Aの先を鼻の大きさに折り返す。⑨ AをBの上に重ねて目を作り、CとD、EとFを山線から裏へ折る。⑩ Gを1、2の順に折り、鼻の先の黒いところを折って小さくし、目の下からあごにかけて斜めに山線と谷線で段をつけてから、顔を皿状にそらして形をととのえ、目の上のふちを少し引き起こして曲線にする。⑪ 出来上がり。

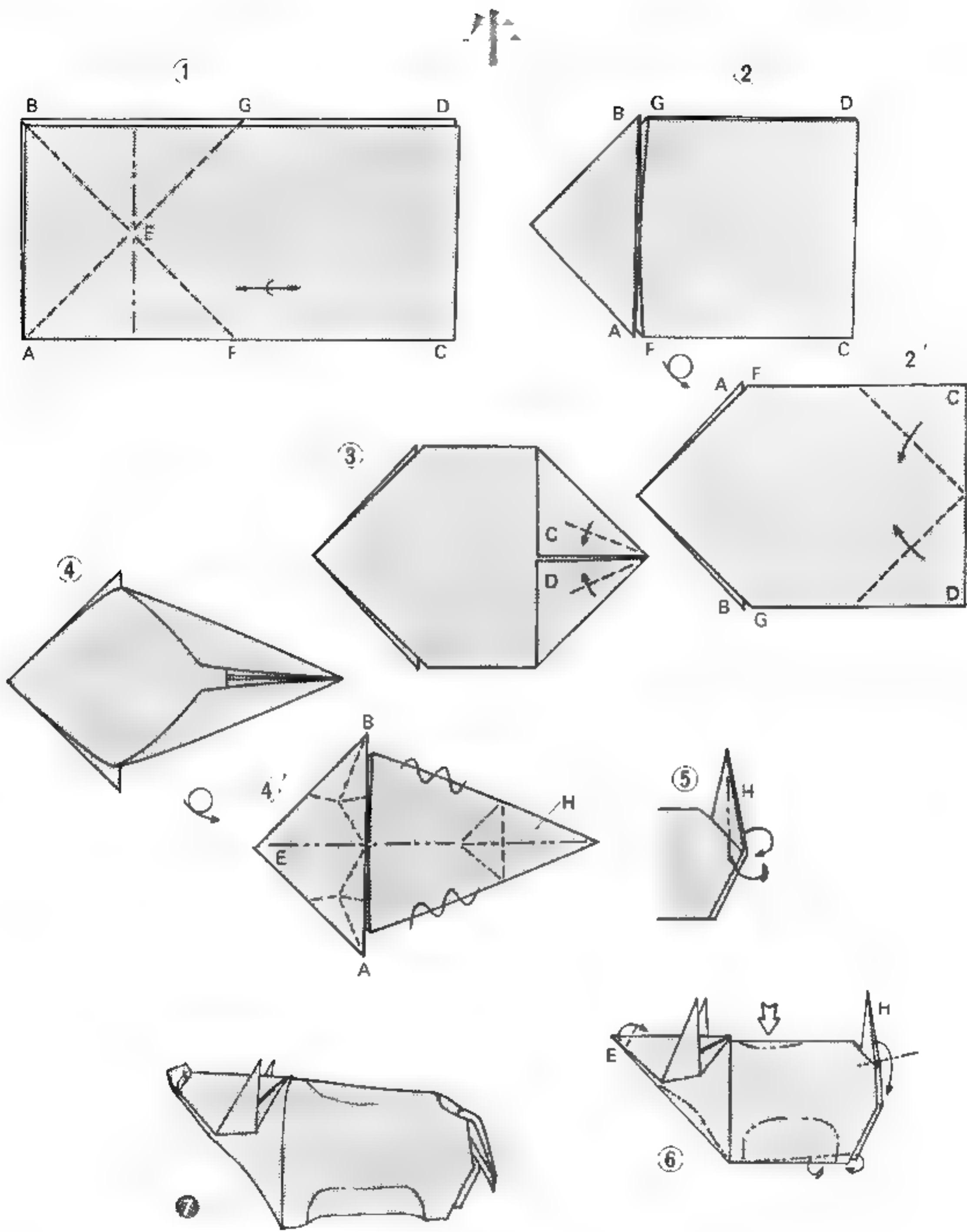


からだ

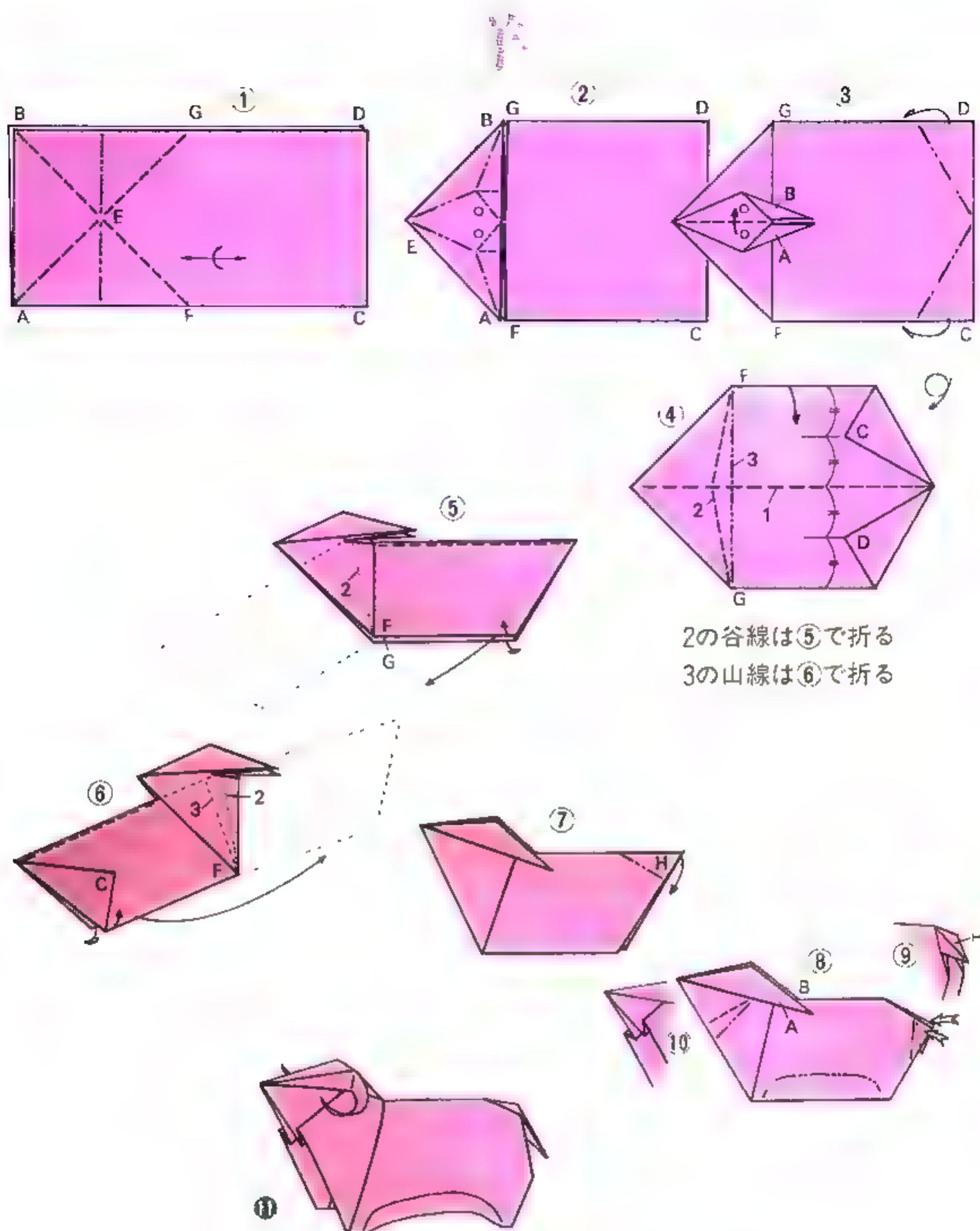


〈からだ〉正方形の紙を①のように折り、 $\frac{1}{3}$ と $\frac{1}{4}$ の間にところに印をつけ、AとBを山線谷線で矢印にずらして折る。②左右の斜めの線の半分のところに印をつけ、山線と谷線の位置を求めてEとFを前に、Gを裏へ折る。③AとBを点線へ引き出す。④Hを(印)の裏側へ入れる。⑤AとBを折り下げる、裏側のGを引き起こす。⑥

CとDを点線へ折る。⑦Iを裏へ折る。⑧山線と谷線でCとDを引き下げる。⑨JとKを裏へ折る。⑩上のカドを裏へ折ってから、AとB、CとDを山線につまみ折りにして手と足の形をととのえ、頭の出来上がり(1)をGの上にかぶせる。⑪出来上がり。裏のおしりの部分をつまんで、すこし引っぱり、おしつけて立たせる。

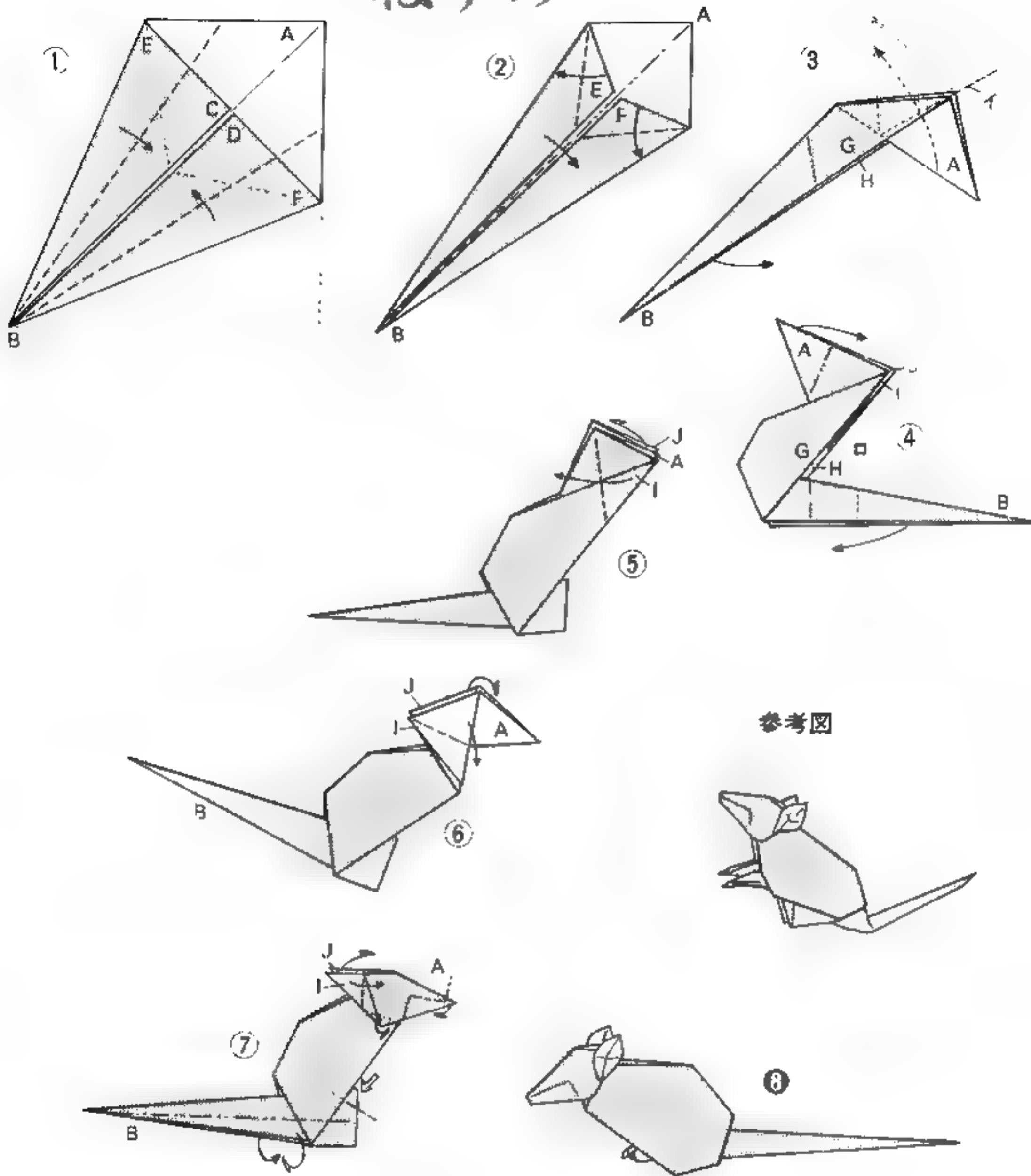


1 正方形の紙を縦紙に二つに折ってから、山線と谷線に折り目をつけて2のよう折りまとめる。2裏返す。2/C Dを折る
 3先のほうだけ折る。4裏返す。4' A Bを折って角を作り、横に半分に軽く折り曲げ、Hをつまんで5のように引き上げる。
 5 Hを細く折る。6 Eの先を少し広げて矢印に折り返して鼻を作る。矢印にそれぞれ折り、胸と腹の部分はつまみ折りにし、首のところを持って背中を軽く押し込んで、形をととのえる
 7上向き。



① 正方形の紙を縦紙に二つに折ってから、山線と谷線に折り目をつけて②のように折りまとめる。②ABの先のはうを山線でつまみ折りにして、元のはうを印の内側に折る。③④Aを折り上げ、CDを④の割合で折り、二つに軽く折る。⑤2の点線の内側で折り返す。⑥3の点線のところから折り返す。⑦Hを折り込む。⑧尾の左右を折り込みながらしりの形を作り⑨、首のところに段をつけ⑩、ABを角の形に丸みをつける。胴は外からつまみ折りにして形をととのえる。⑪出来上がり。

ねずみ

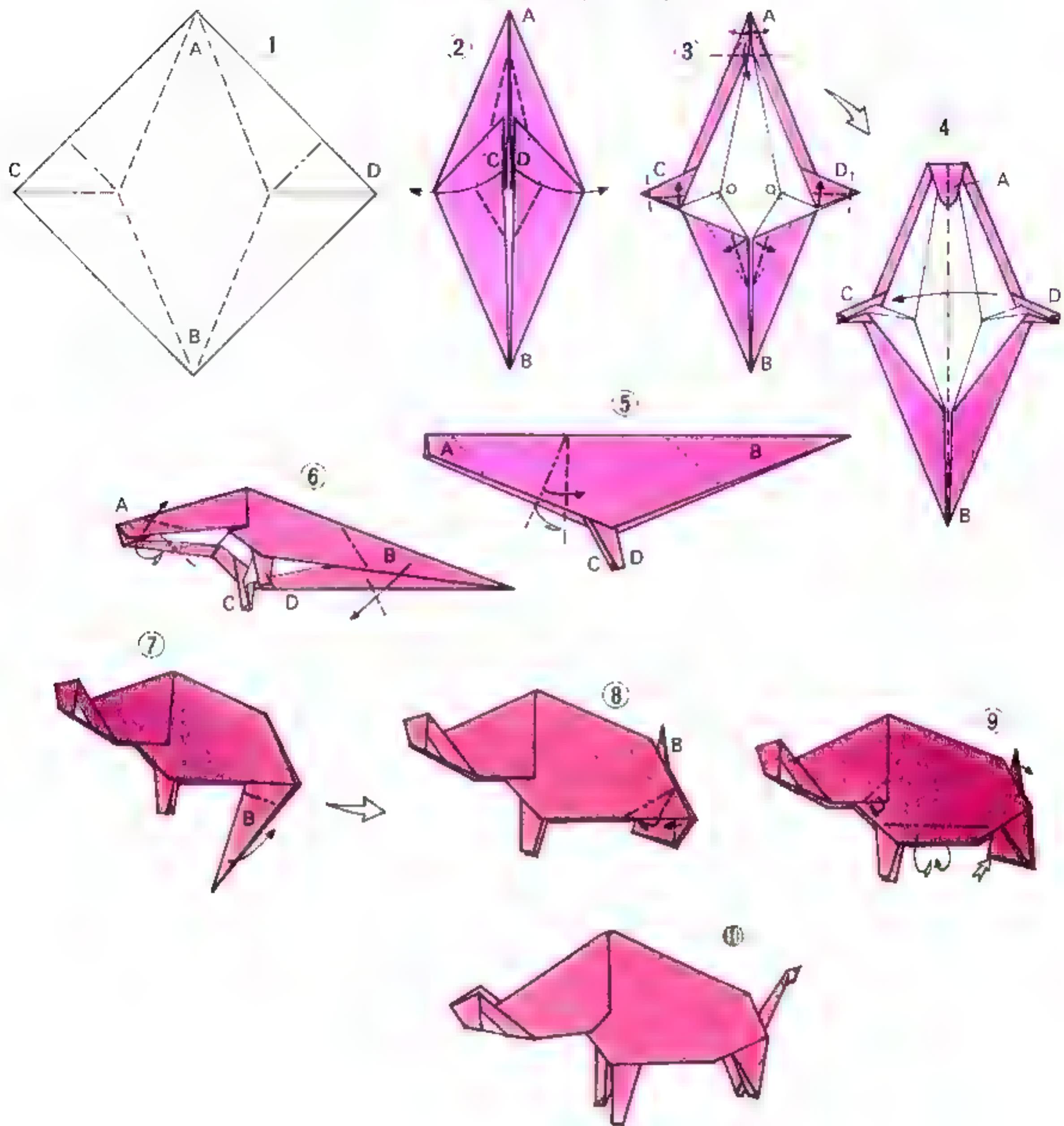


正方形の紙の対角線ABに折り目をつけてから①のように折り、さらに細く折る。②EFを矢印に折りながら、対角線の山線と谷線を折って③のようになる。③イの折り線の内側でAを点線へ折り返し、BをGHの間へ折る。④AとBを折り返す。⑤Iを手前に、Jを向こう側へ折る。⑥Aを矢印に開いて折りかぶせて頬を作る。鼻づらを小さく折り込み、鼻すじとほおのところを外側からつまんで顔の形をととのえ、あごのところを間へ折り、IJをいったん矢印に折ってから丸みを持

たせるようにして広げ、耳を作る。尾を細く折り込み、腹のところを矢印に押し込んでから、尾を引き下げながら足を腹の中へ押し込んで形をととのえる。⑧出来上がり。

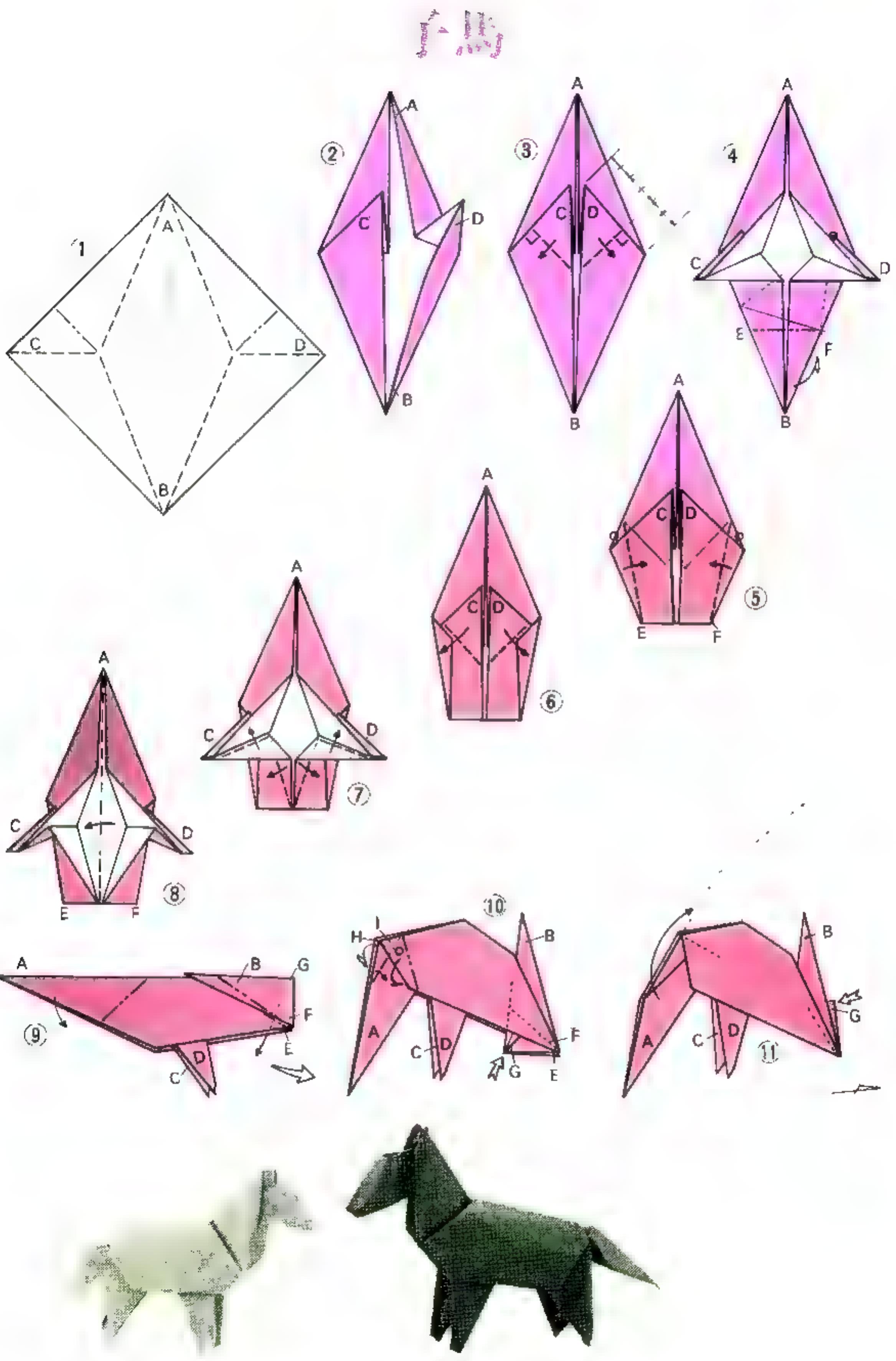
このねずみは首を細く、尾を長くして家ねずみの特徴を出したが、④図でBを折り返すところを点線口の位置で折り返せば、参考図のように前足を作ることが出来る。①図の谷線を折らないで、点線のところから折って同様に仕上げれば、胴が太くなつて子ねずみになる。

いのしし



裏の白いこげ茶色の紙で作り、牙を白く出す

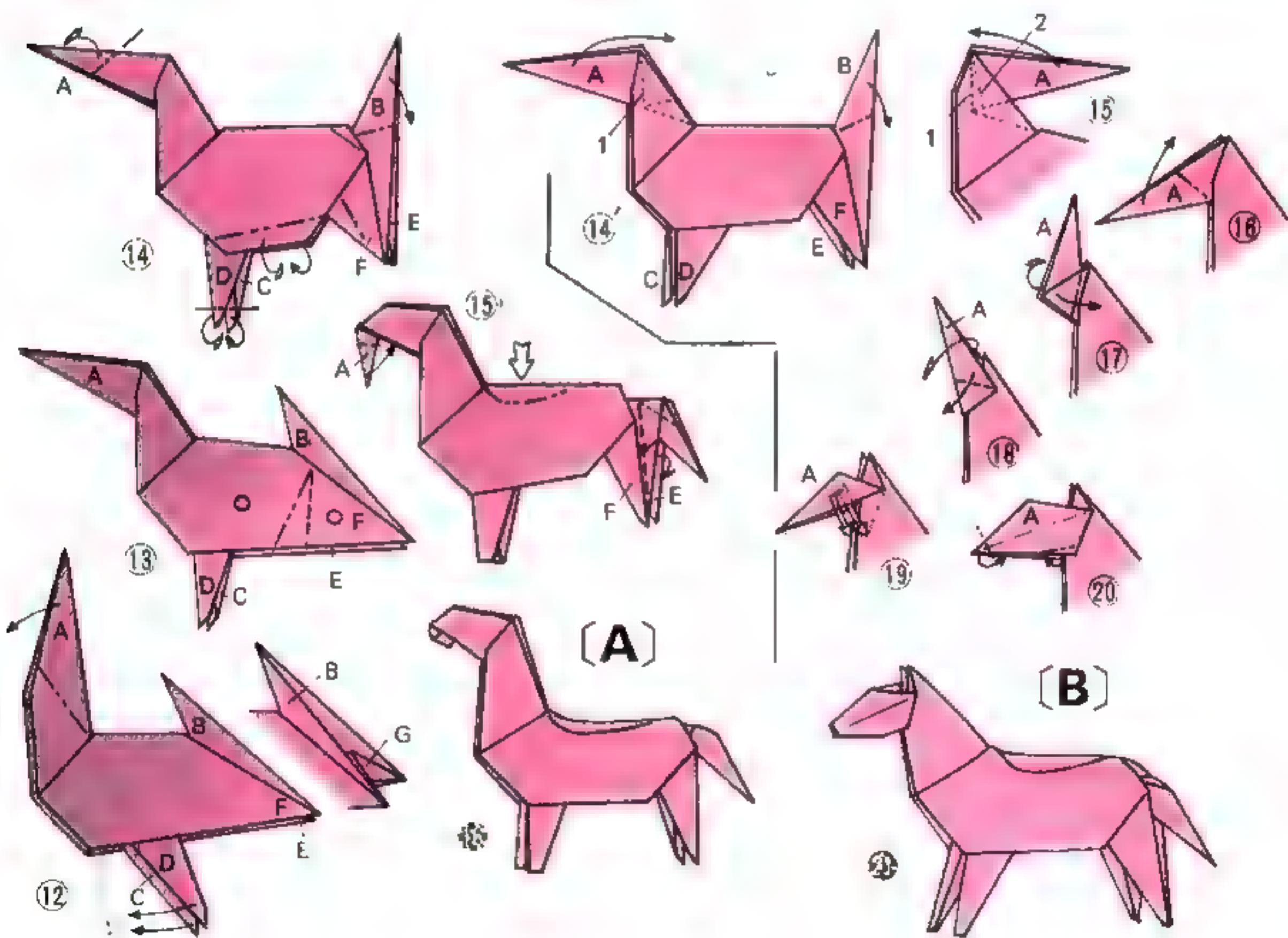
- 1 正方形の紙のA Bの対角線に軽く折り目をつけてから、切り口をそれぞれ半分ずつに合わせて谷線を折り、CとDをつまみ上げる。2 CとDをねじるようにして左右に折る。3 Aを谷線から折って、小さい山線で先を少し広げ、CDを矢印を支点として矢印に折ってぎらし細くする。4 つに折る。5 谷線と山線を二、三回折って折り目をやわらかくしてから、6のように、折りかぶせる。6 Aを左右に折り返して鼻を作り、Bを間へ折る。7 Bを折る。8 山線と谷線で腹の下へぎらして折り、裏側も同様に折る。9 矢印にそれぞれ折って形をととのえる。10出来上がり。



口絵の作品(16ページ)は技術的に高度のものですが、これは素朴な味わいのあるやさしい折り方です。従来の折り紙とは違って、この折り方のように美術造形としての折り紙では、折り線は絵の場合のデッサンと同じですから、たいへん個性的な表現が出来ます。

(A)(1)(2)正方形の紙の対角線ABに折り目をつけてから、それぞれの切り口を対角線に合わせて(3)のように折る。(4)右のカドからそのところを折りながら、CとDの内側を開いて(5)のように折る。(6)Bのカドを○印に合わせてF点を求め、

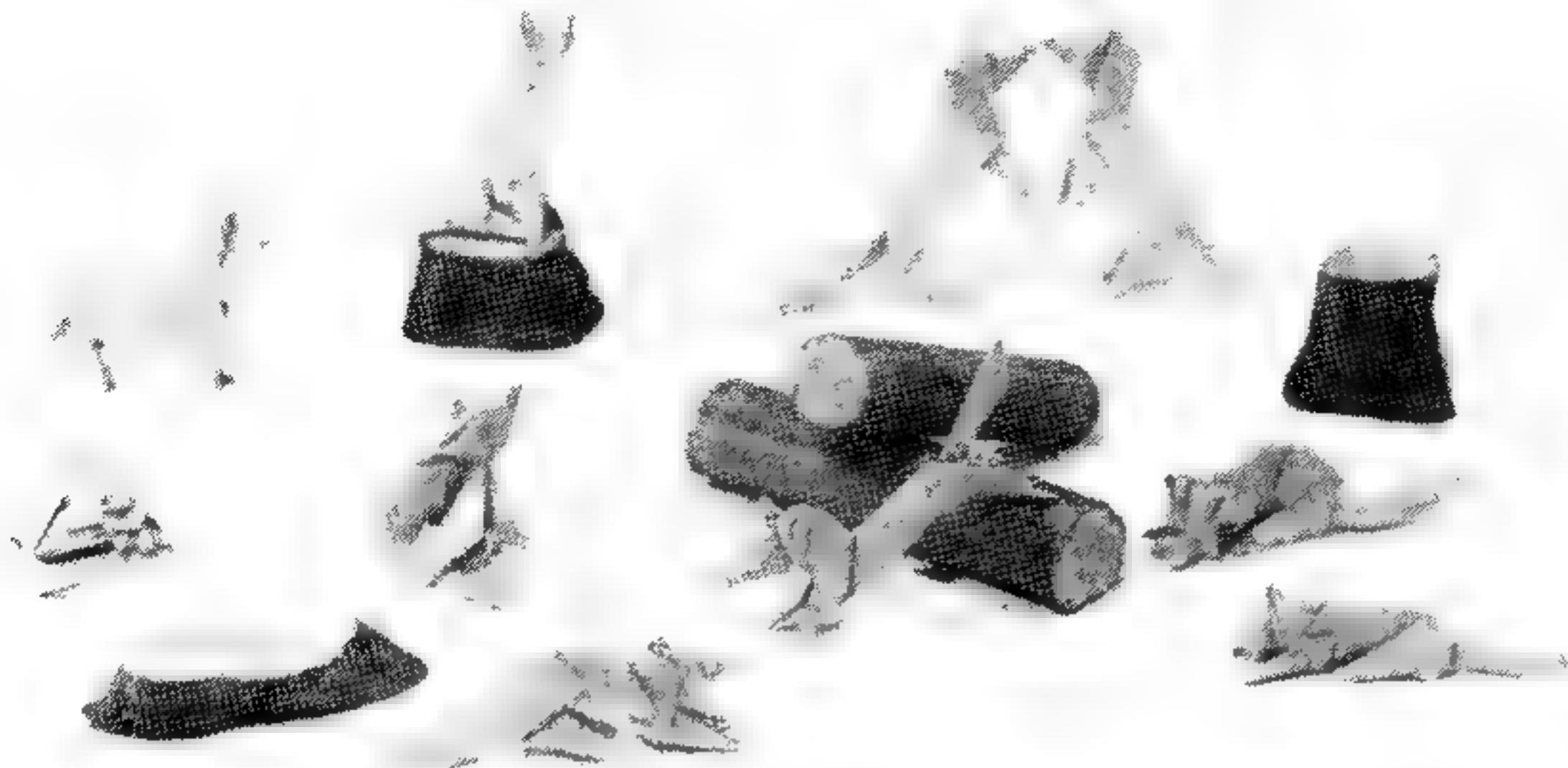
山線の位置を決めてBを裏へ折り、CとDをひとまず上へのばす。(7)CとDの折り目に△印のへりを合わせて谷線を折る。(8)CとDを前の折り目で開く。(9)矢印に折ってCとDを細くする。(10)山線の位置からAとGを間へ折り、Bのカドを出す。(11)Gを点線から間へ折り込み、HとIを谷線から外へ折って△印の部分を中へ入れる。(12)点線の内側でAを折り返し、Gを中へ折る。(13)CとDを点線へ静かにずらして折り、Aを山線から間へ折る。(14)左手で胸のほうから△印の内側へ入さし指を入れ、基側に中指を、



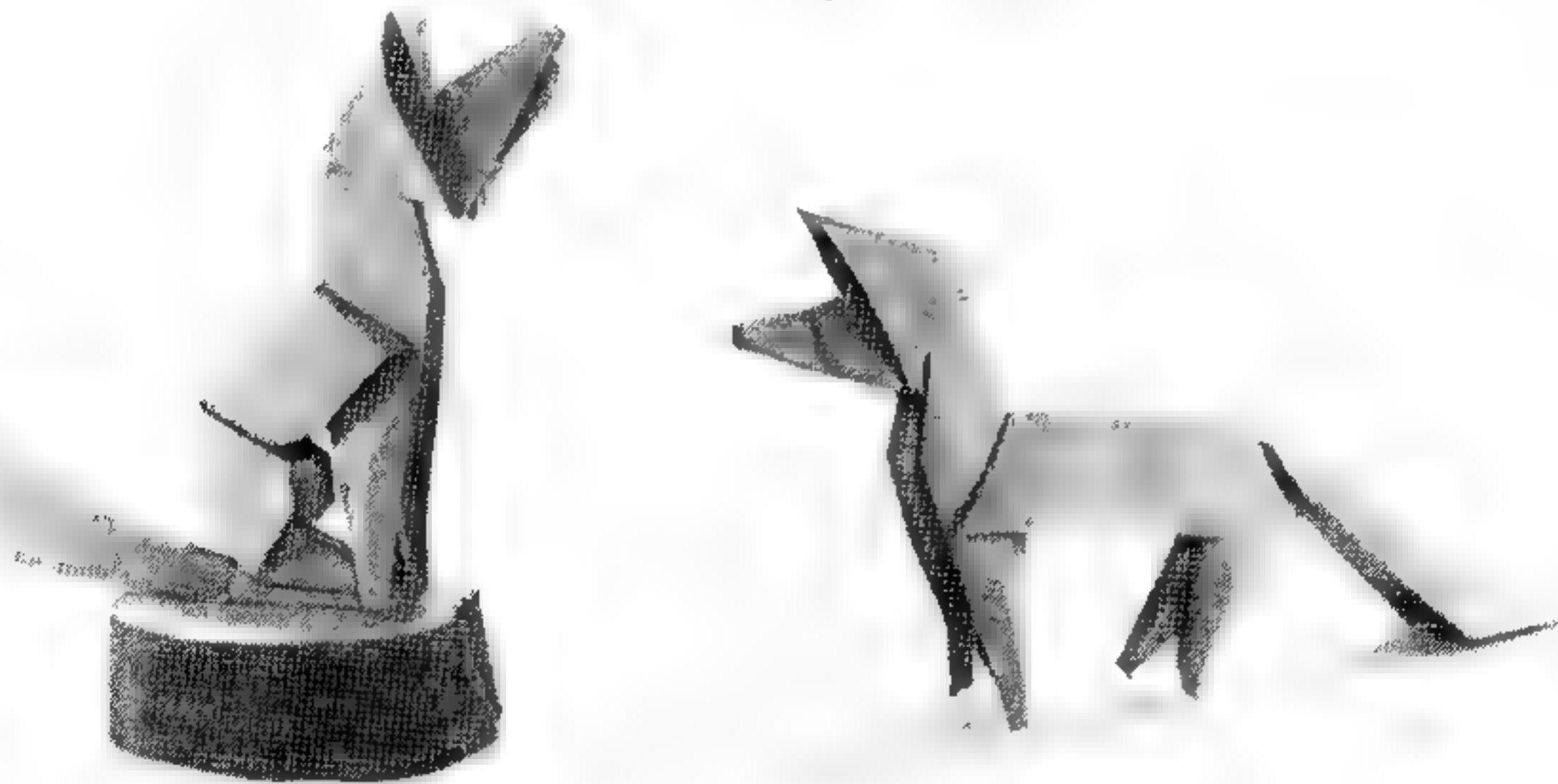
表側に親指を当てて持ち、右手でEとFをそろえて押し込む。(14)それぞれ矢印に折る。(15)Aの先を矢印に差し込み、EとFを間へ折り込んで足と尾を細く折り、背の部分を矢印に押し込んで形をととのえる。(16)出来上がり。

[B] [A]の⑯まで同じに折り、頭の折り方を部分図のように折って仕上げる。

大腿部をこの折り方では腹の下に折り込んでいるが、口絵の写真のように外側に出し、飛節を作るとさらによい形になる



きつね

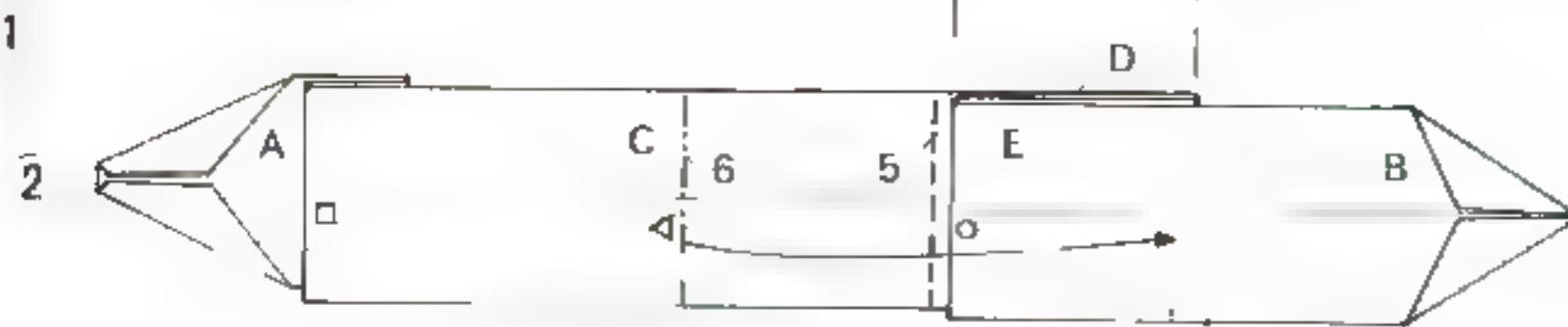
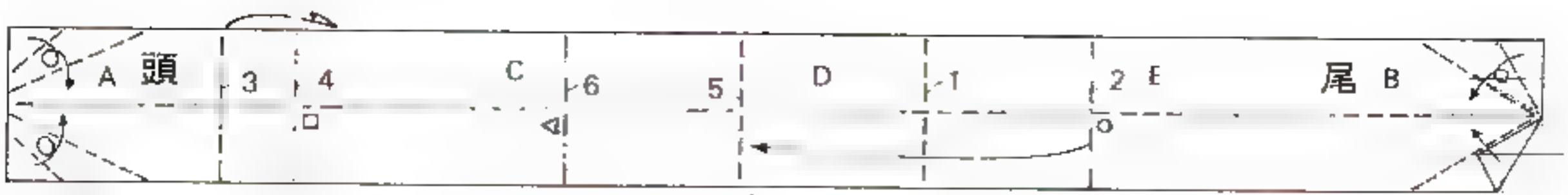


用紙は幅1、長さ10の割合の長方形の紙を用いる。裏表が同じ色の紙がよい。

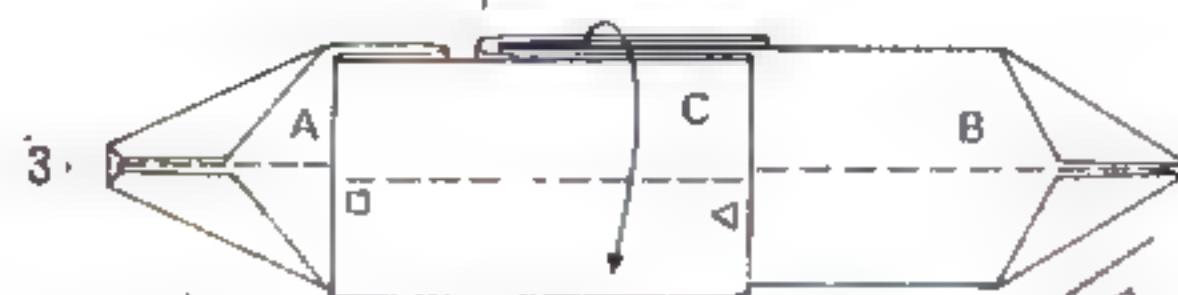
① AとBのカドを図のように折ってから、後足と尾の長さとの割合を決めて、1の谷線と2の山線でBをDの上に重ねる。Aは頭と耳を考えて、3の谷線と4の山線で裏側へ重ねる。②5と6を折ってCをEに重ねる。③つに折る。4印を支点として、AとBを矢印1、2の順に点線へ引き出す。④CとEの内側のカドを側面から見えないように足の

間へ折りたたみ、Aを一印を支点として矢印にすらす、Bを山線の位置から間へ折り下げる。⑤それぞれ矢印に折る。⑥耳と首のところを折り込み、顔、腹、足、尾の山線をそれぞれ外側からつまみ折りして形をととのえる。
⑦出来上がり。

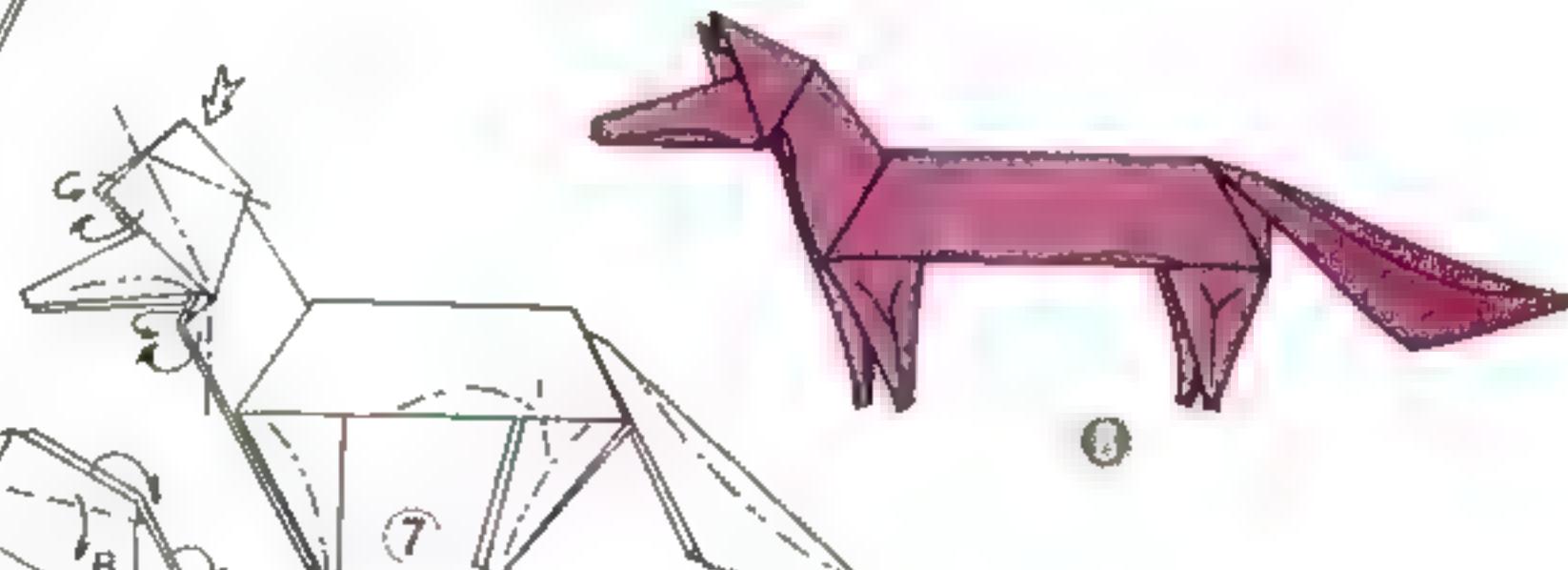
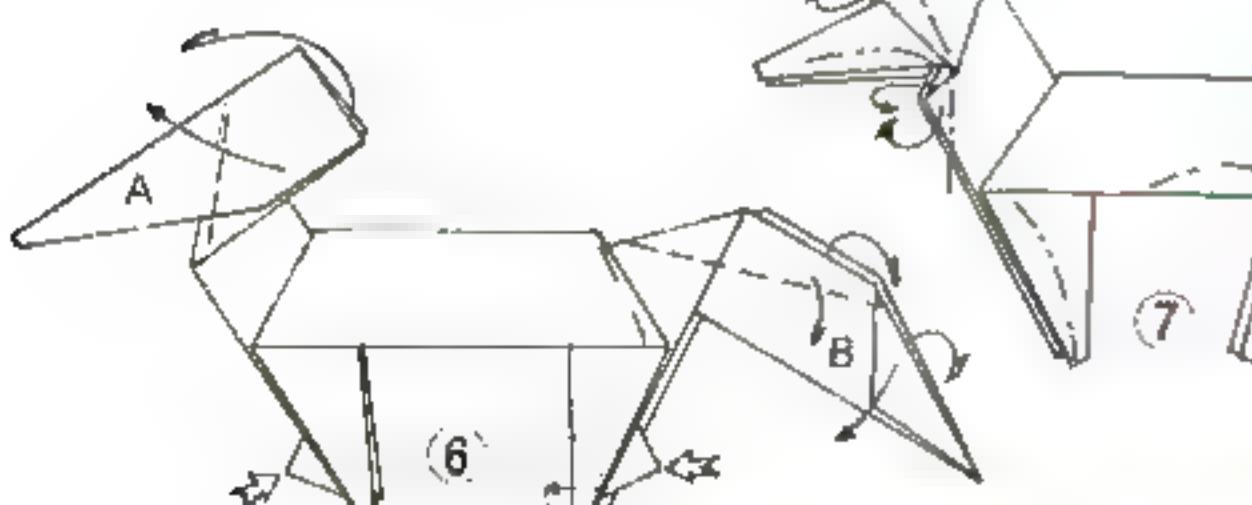
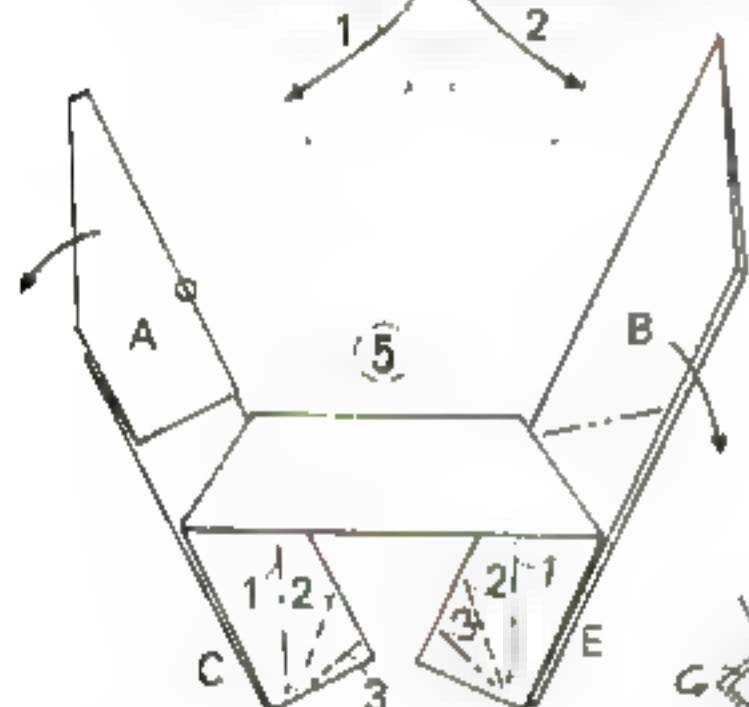
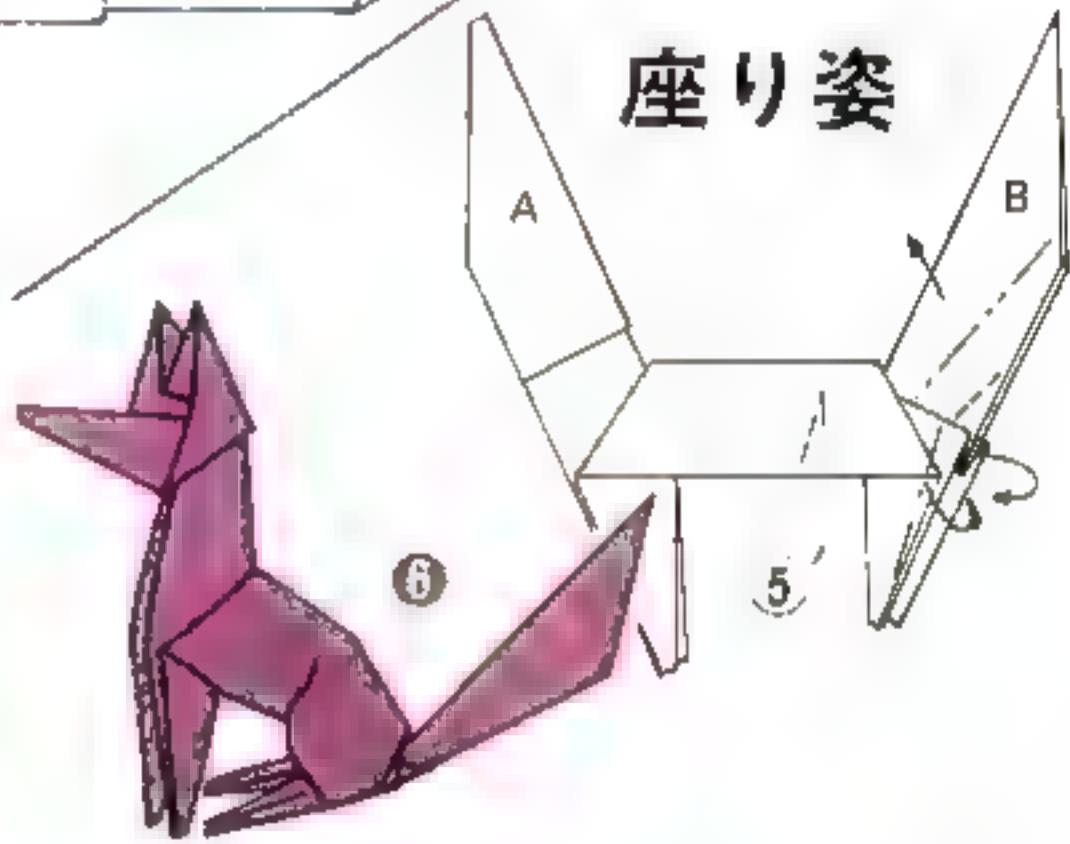
座り姿は⑤までの折り方から、後足の長さを短くして、尾の付け根に段をつけ、⑥としてから形をととのえたもの。
⑧出来上がり



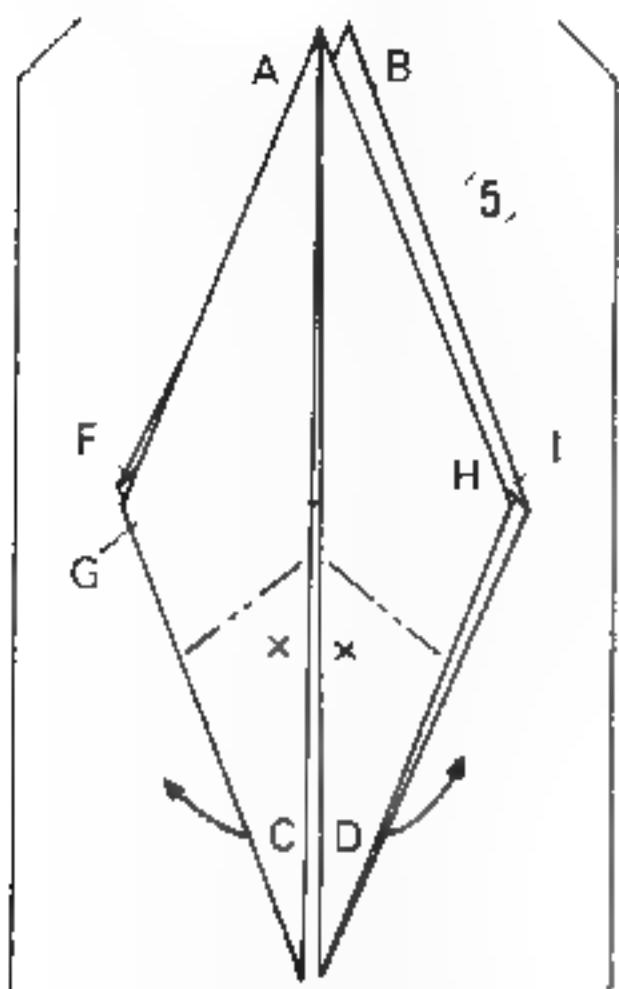
立姿



座り姿

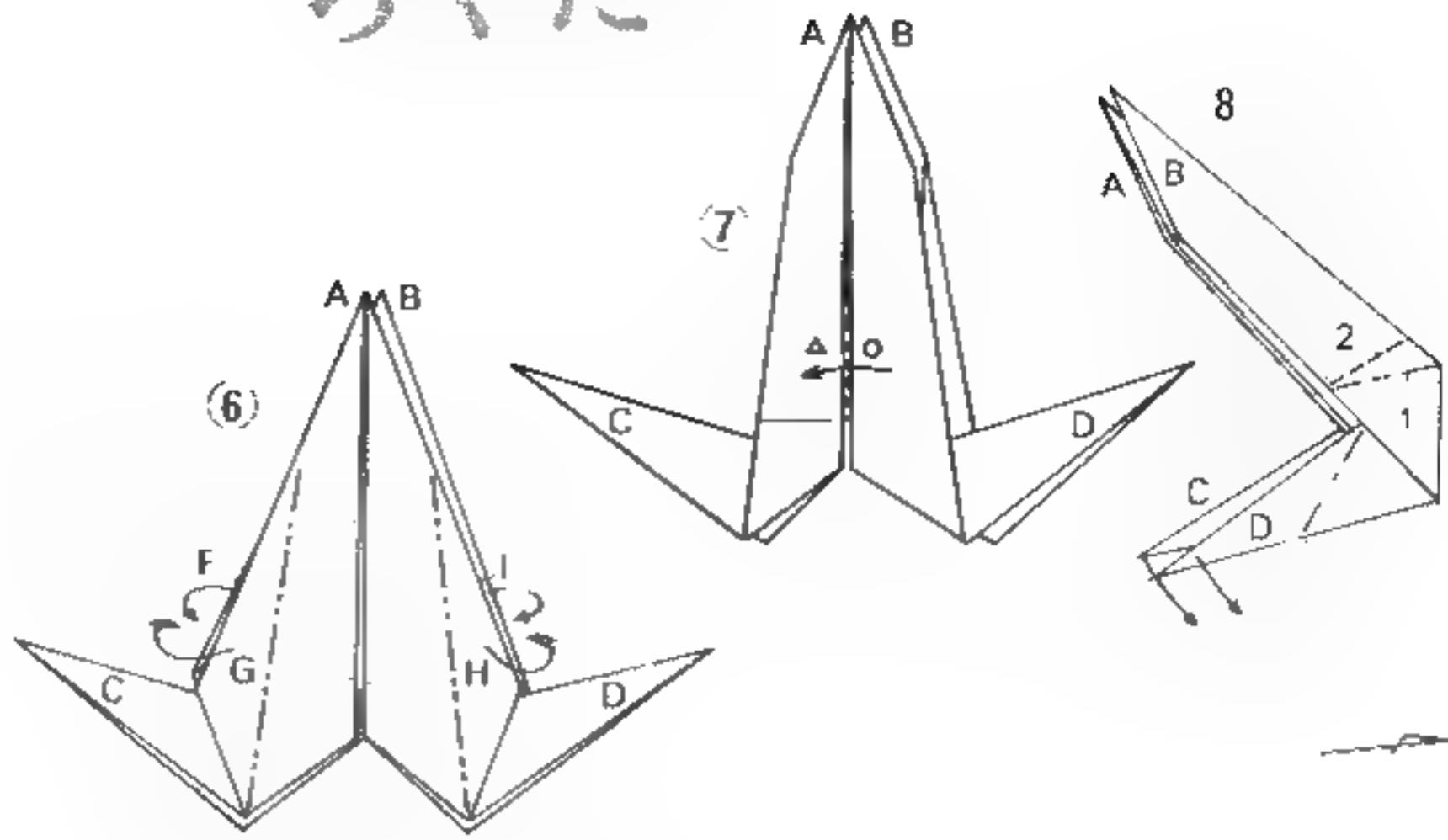


基礎折り(A)

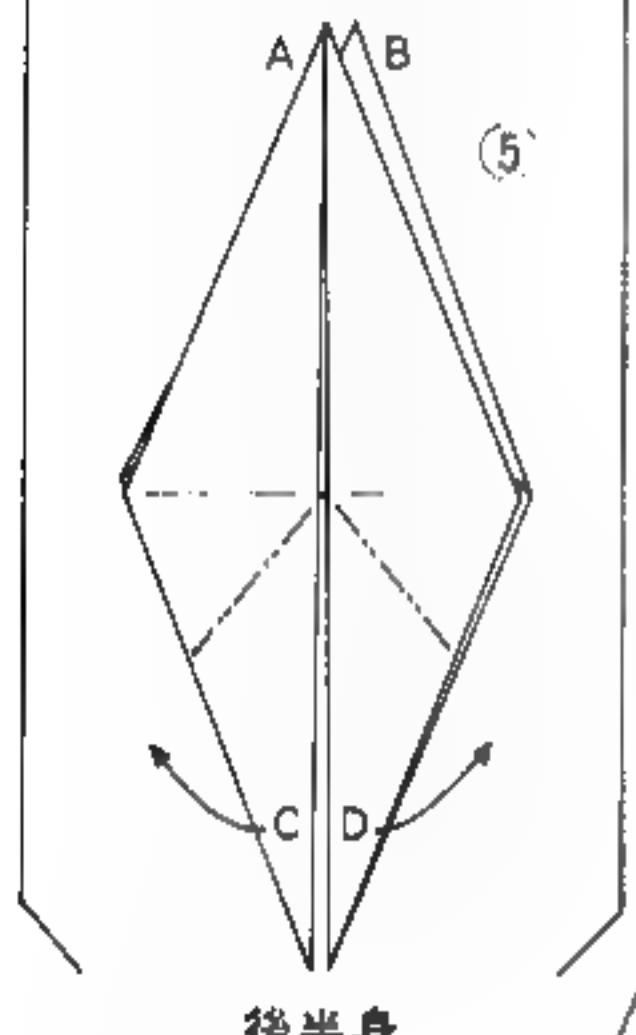


前半身

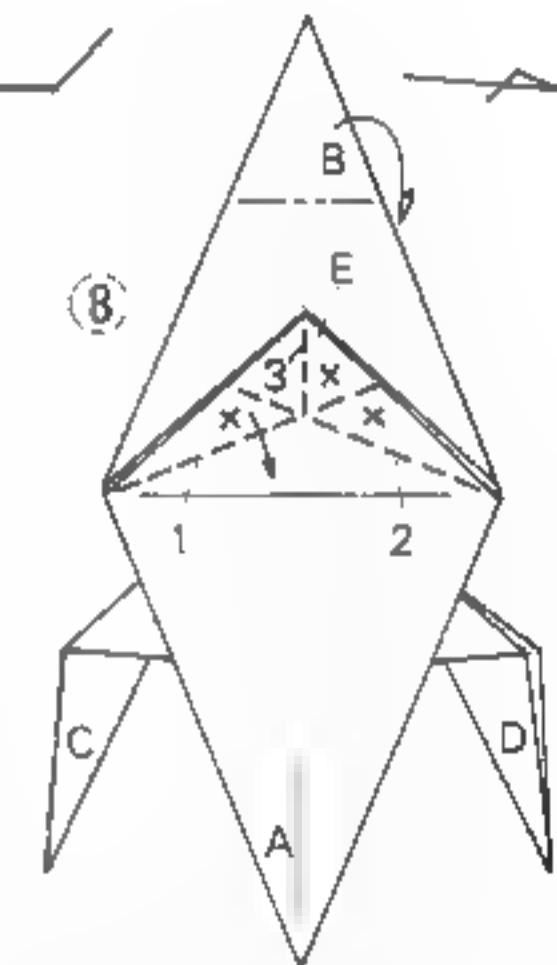
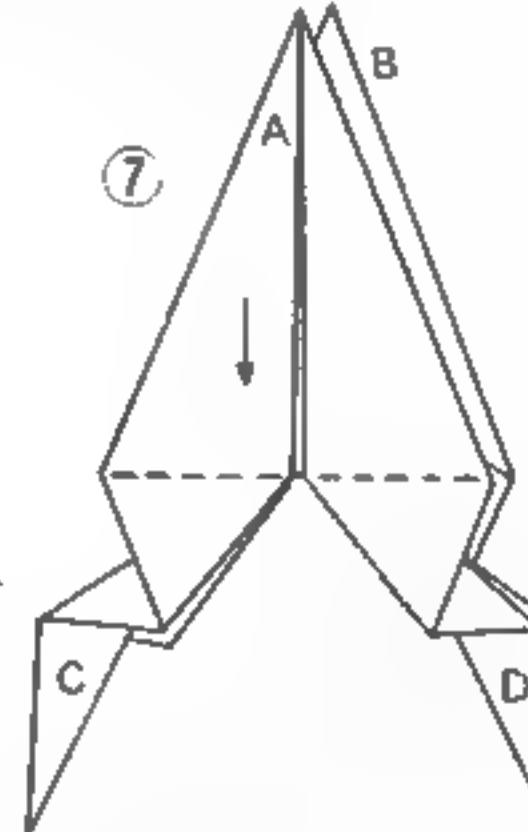
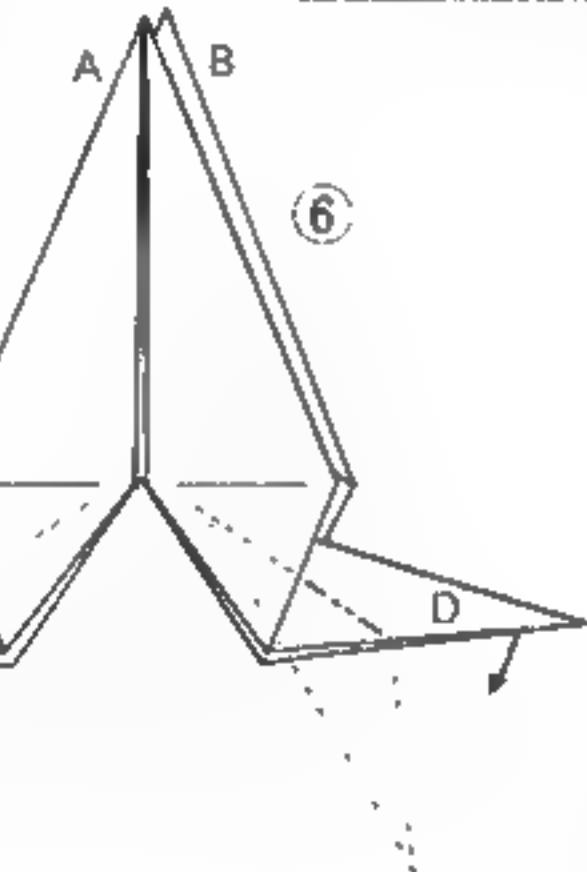
らくだ



組み合わせ方



後半身

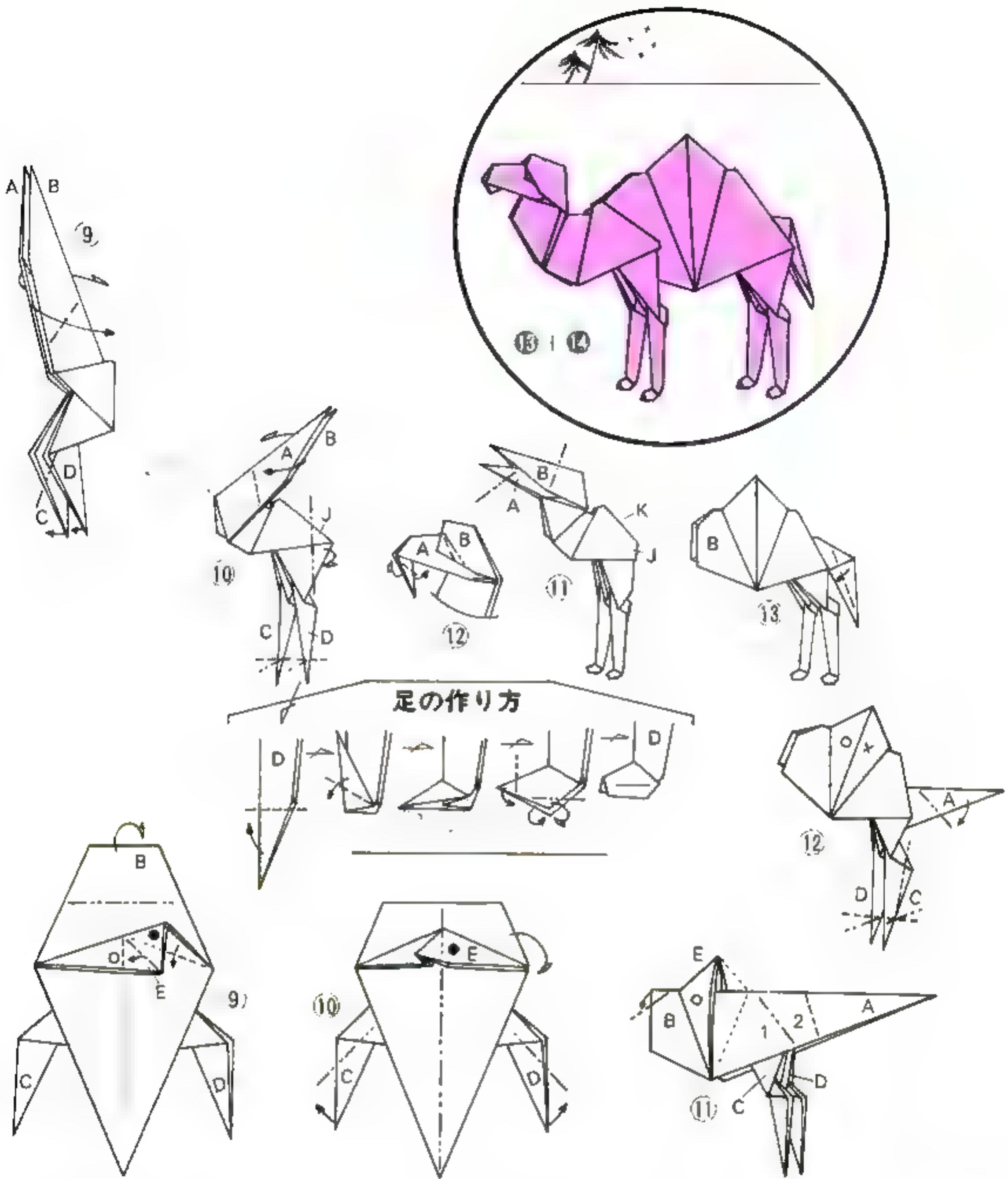


正方形の紙一枚で基礎折り(A)から前半身と後半身を折って作る。

〈前半身〉⑤CをFGの間へ、DをHIの間へ斜めに折り上げる。⑥山線でFGとHIをABの間へ折る。⑦二つに折る。⑧ABを重ねたまま1の山線で折り込み、斜めに2の谷線で折り返し、CDを折り返す。⑨ABを重ねたまま、広げて折りかぶせ、CDをそれぞれの間へ少し残して折り返す。⑩ABを重ねたまま折り返し、Jを間へ折り、

裏側も同様に折る。CDを部分図のように折って足を作る。⑪Bの先を深く折り込み、Aを折り返し、顔を⑫のようにして作る。⑬前半身出来上がり。

〈後半身〉⑤CDを角度に注意して⑥のように折る。⑥CDを点線へ折る。⑦Aを折り下げる。⑧Bを裏へ折り、Eを123の順に折り口をつける。⑨Bを裏へ折り、Eのカドをつまみ上げる。⑩二つに折り、CDを折り返す。⑪半開きにしてEの



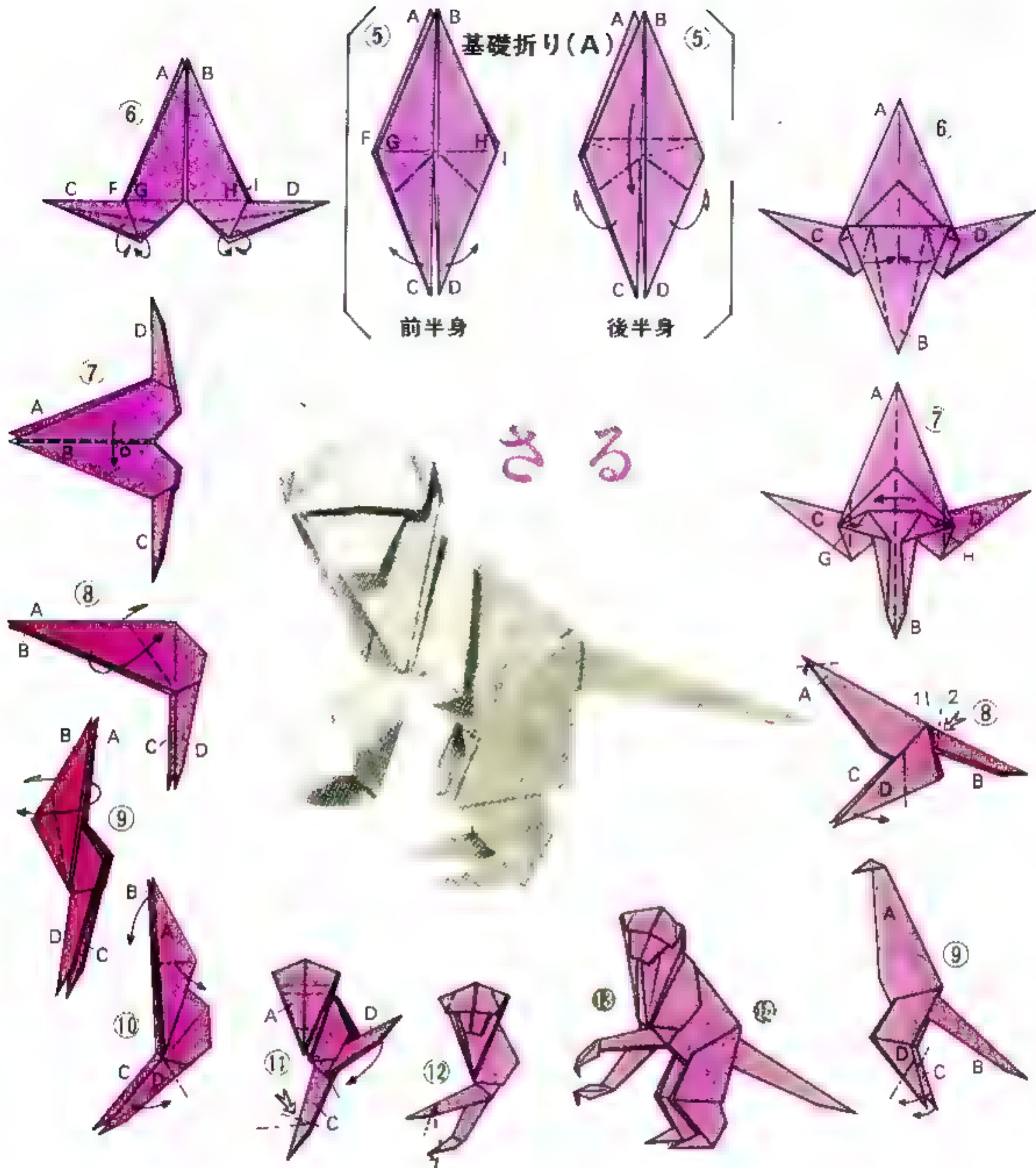
内側から、(8)の×印の部分を点線へ引き出して、Bのカドを折り込む。Aを1の山線でCDの間へ折り、2の谷線で折り返す。(9)Aを折り下げる、CDを細く折って、足を部分図のように折る。(10)尾を細く折って後半身出来上がり(11)。

前半身(13)のK Jの間へ後半身のBを差し込んでのりではり合わせる (13)+(14)出来上がり。

〈組み合わせて仕上げる方法〉折り線をよく理解してから組み合わせる。後半身⑬のBの中から⑧

⑨で折ったBの先を引き出して右ページの15のようにする。(16) 線と折って、Bの一辺と△印を前半身の首の部分を少し平らにして、前半身⑦のご印と△印の間へ差し込んで固定してから、もと通りの形にとのえる。

らくだの姿によっては、後半身⑬のBを左下のほうへ、中から引き出して、それぞれのカドを前半身⑪のJ Kを広げて、5のC Dの×印の間へ差し込んで固定することも出来る。

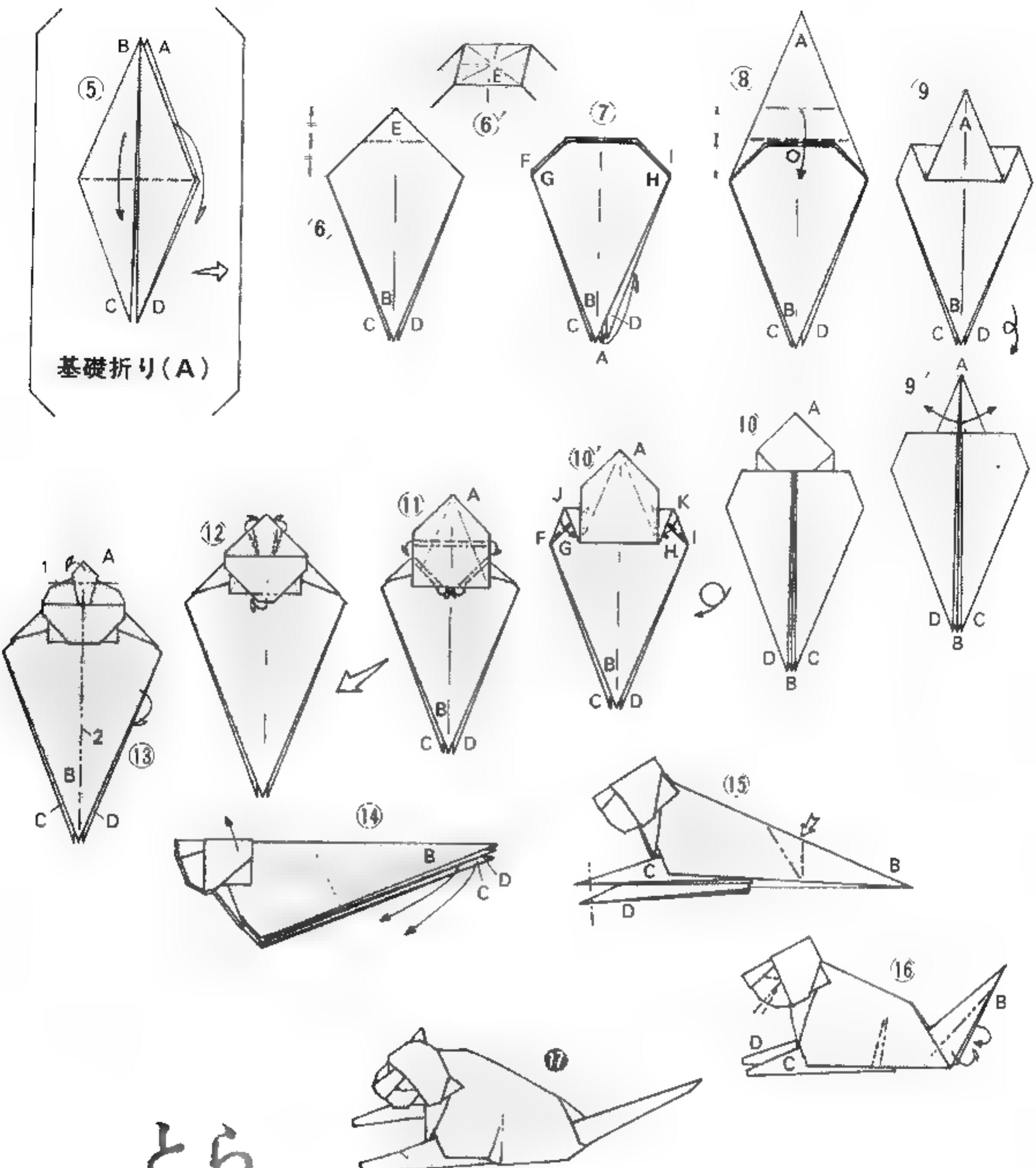


正方形の紙一枚で基礎折り(A)から、前半身と後半身を折って作る。

〈前半身〉⑤CをFGの間へ、DをHIの間へ折り上げる。⑥CとDを細く折る。⑦二つに折る。⑧の点線は後半身のつけ方。⑨ABを重ねたまま谷線の位置から広げて折りかぶせる。⑩は⑨と同じ折り方で折る。⑪ABを重ねたまま⑫のようにする。⑬⑭それぞれの折り線で頭と前足を折りといえる。

〈後半身〉⑤山線の位置からCとDをそのまま裏へ折り、Bを中心より少し上から折り下げる。⑥Bを細く折る。⑦GHを中へ折ってから二つに折る。⑧⑨Bを1の山線で中へ折り、2の谷線で折り返して尾を作る。Aの先を小さく折り、CDを矢印にそれぞれ折って足を作る。

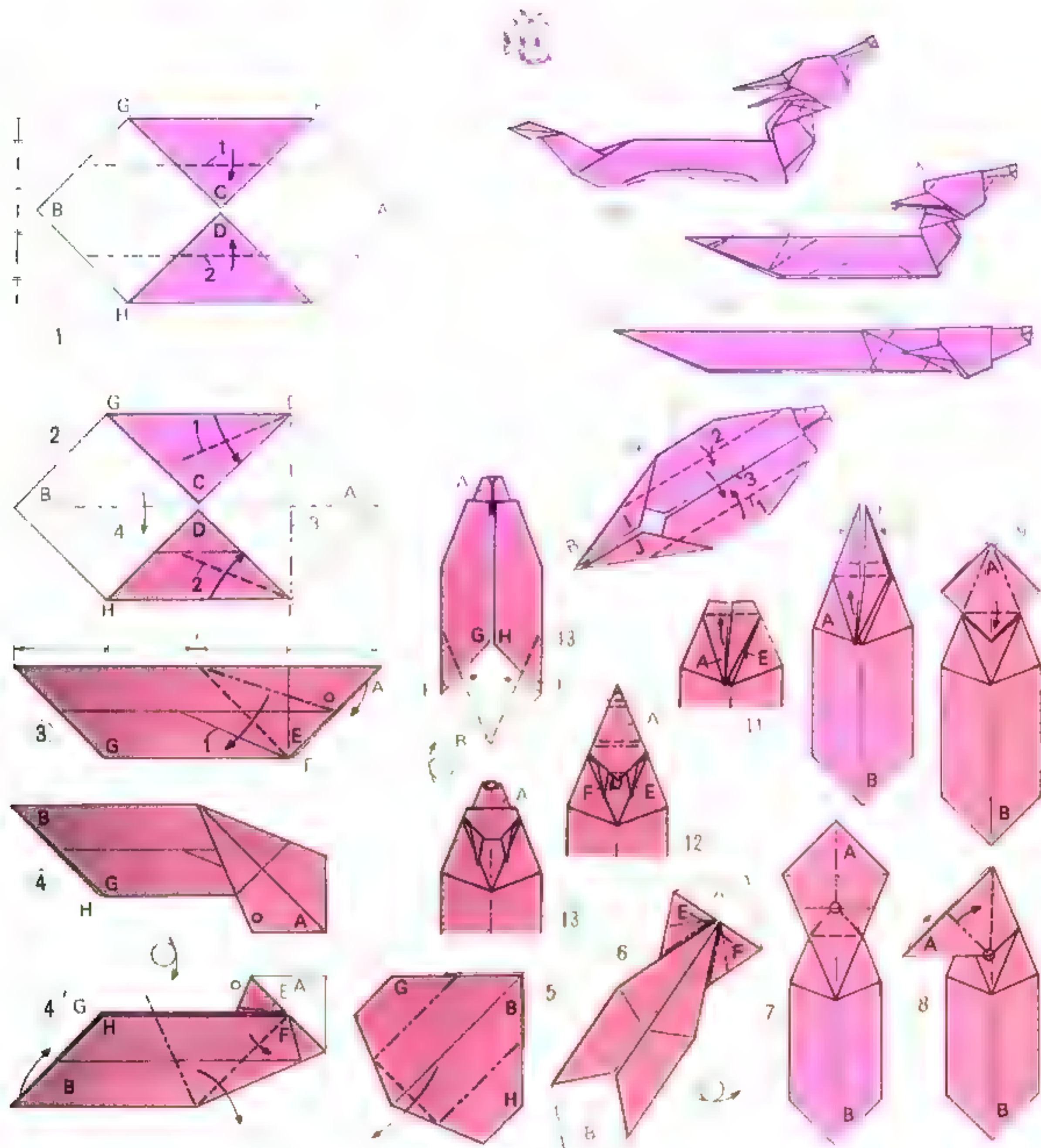
〈組み合わせ方〉前半身の肩と胸の部分を⑦のように広げ、後半身の⑨を○印の内側へ差し込み、元の折り目で折りととのえて、⑬・⑭出来上がり。



とら

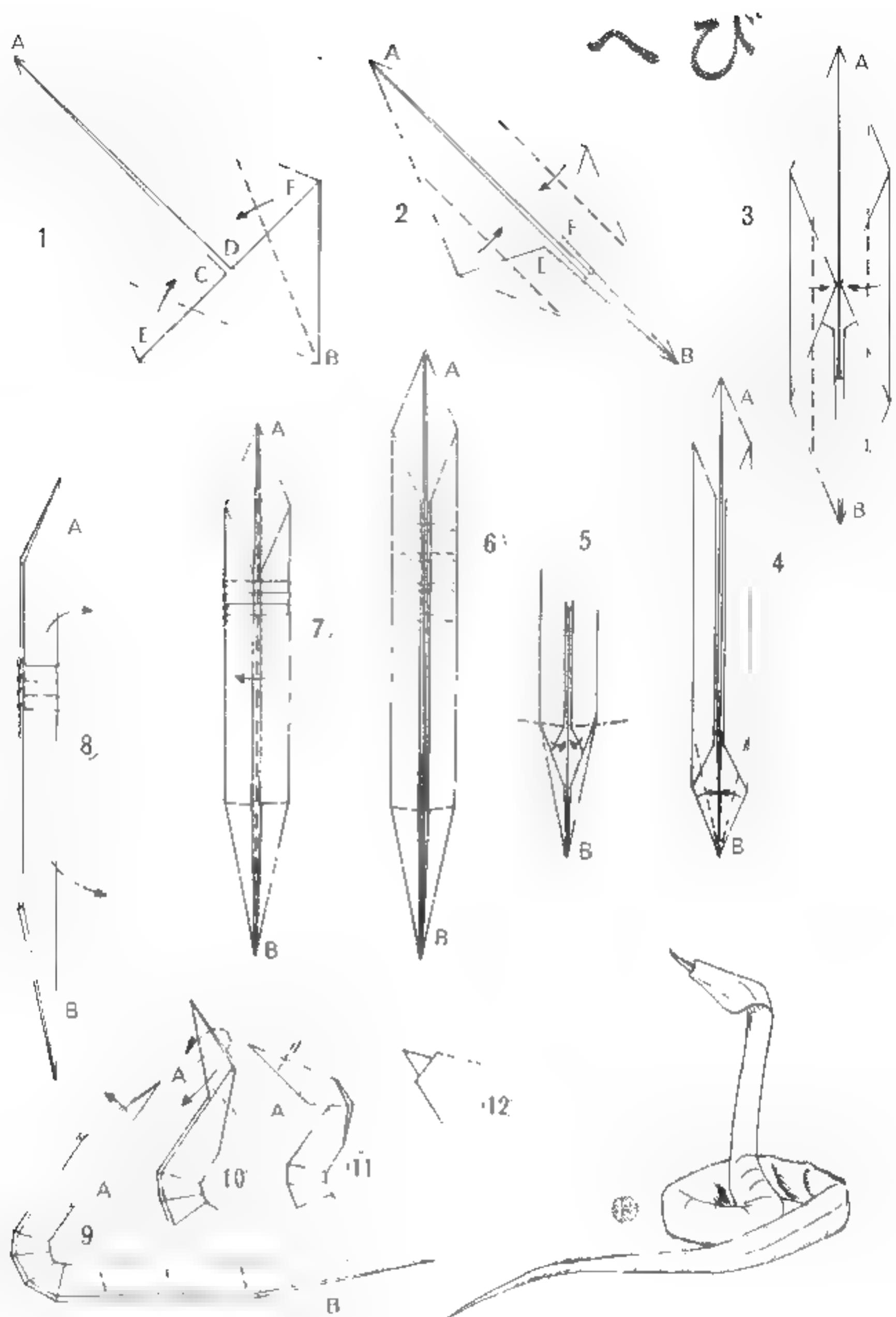
基礎折り(A)から折る。(5)A
Bを折り下げる。(6)山線を二
回折って折り目をやわらかく
してから、(6')のようにしてカドを
折り込む。(7)裏側のAを折り上
げる。(8)谷線と山線で○印に折
りかぶせる。(9)(9')Aを点線へ開
き出す。(10)裏返す。(10')J Kを間
へ折る。(11)それぞれに段をつけ

る。(12)鼻の大きさを考えて斜め
に段をつけ、頭のところを裏へ
折る。(13)Aの先を折ってから一
つに折る。(14)頭を矢印に引き出
し、Bの点線の内側でCDを折
る。(15)(16)を折って形をととのえ
る。(17)出来上がり。



正方形の紙の対角線ABの折り目をつけ、から、ABの中心に印をつけ、CDを中心し合わせてから、谷線1、2に折り目をつける。2 1と2の谷線の部分にだけ折り目をつけてから、3の山線でAを一度裏へ折って、折り目をつけてのばし、4を折る。3 Aを谷線から一度折ってから、山線を折って、中を袋状に広げてひらす。4裏返す。4' GHを開いて点線へ折る。(5 山線と谷線でBを矢印に返せば、①、2でつけた折り目で(6)のように出来る。6 EFの山線をそれぞれ一枚だけつまみ折りにして、折り目をつけてから裏返す。(7) Aの山

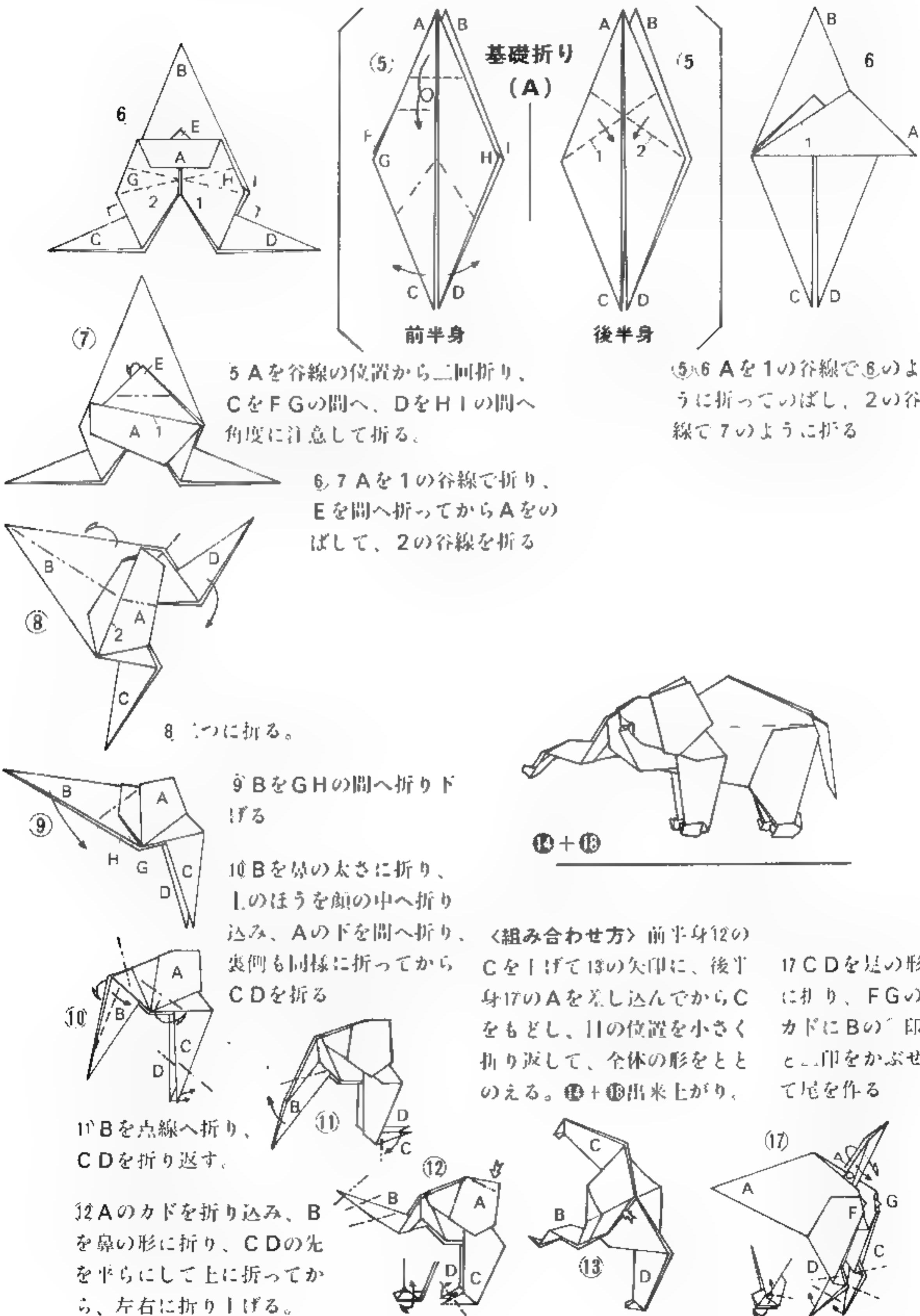
線をつまんで、印をカットにして、8のようにする。(8) Aの袋を開いて、半らにする。(9) Aを山線と谷線で矢印に返す。(10) EFを山線の位置から裏返して、それこれで(11)にする。(場合(11)は間へ折る)。(11) Eを折り返す。(12) それぞれ山線と谷線で折って(13)のようにする。(13)裏返す。(13) I, Jを折る。(14) 1, 2の谷線で中心に合わせて折りてから、2つに折る。(15) 1の山線で首のところを頭の下へ折ってから、2の谷線で折り返す。(16) 折り線記号にとらわれないで、生き生きとした形になるように全体をととのえる。毒舌未上り

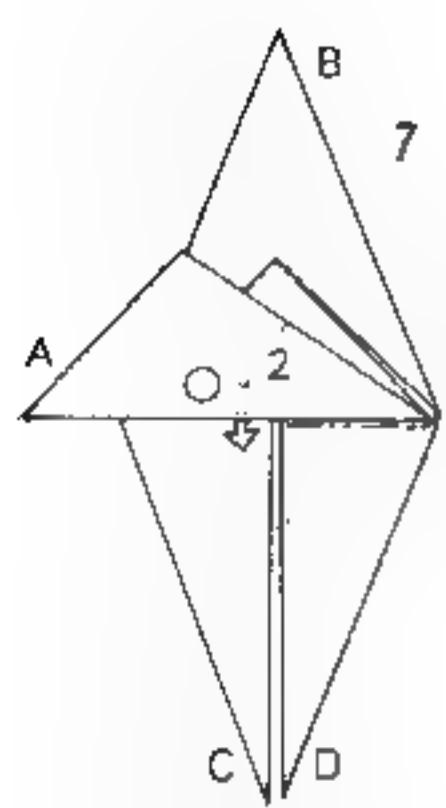


正方形の紙の対角線A-Bに折り目をつけ、1-2と折る。3細く折る。(4)Bを折ってから、(5)先のほうに重なっている部分をのばし、(6)線のところから中へ入れる。(7)山線と谷線で段をつける。(8)つに折る。(9)久印に一段ずつ引き出して丸やかにする。(10)Aを久印に折る。(11)谷線の位置から久印に開いて折りかぶせる。(12)Aの菱形

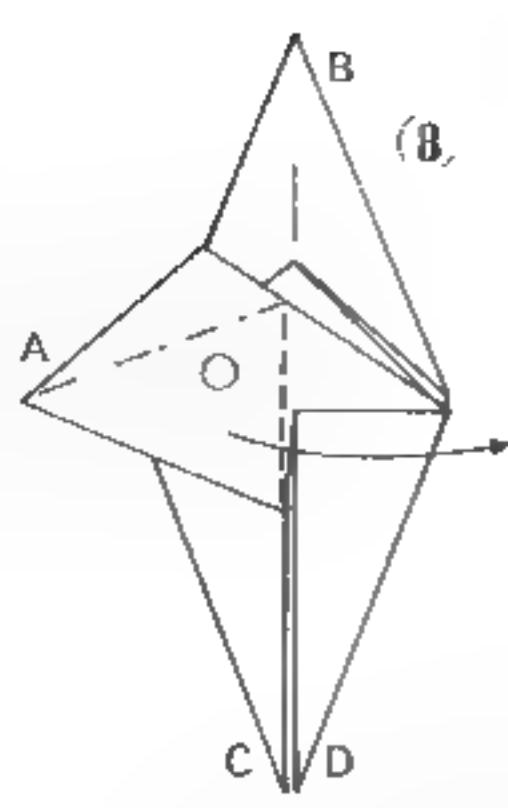
の下の点線へ中から引き出し、先のほうに段をつける。(A)の先を細くしてそらし、舌にしてから、頭を丸やかに左右から押さえて形をととのえ、首の付け根を上下につぶして平らにし、首は内側へ折り込むようにしてととのえる。からだは(9)の谷線を折って平仮名の「い」の字のように丸める。(13)出来上がり。

正方形の紙一枚で基礎折り(A)から、前半身と後半身を折って作る

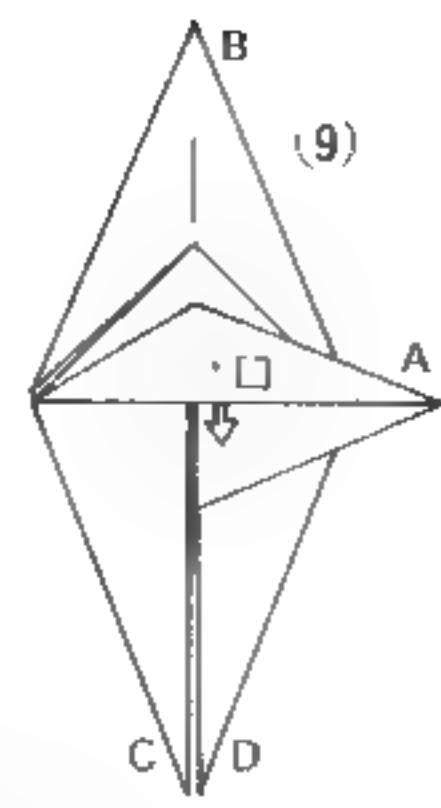




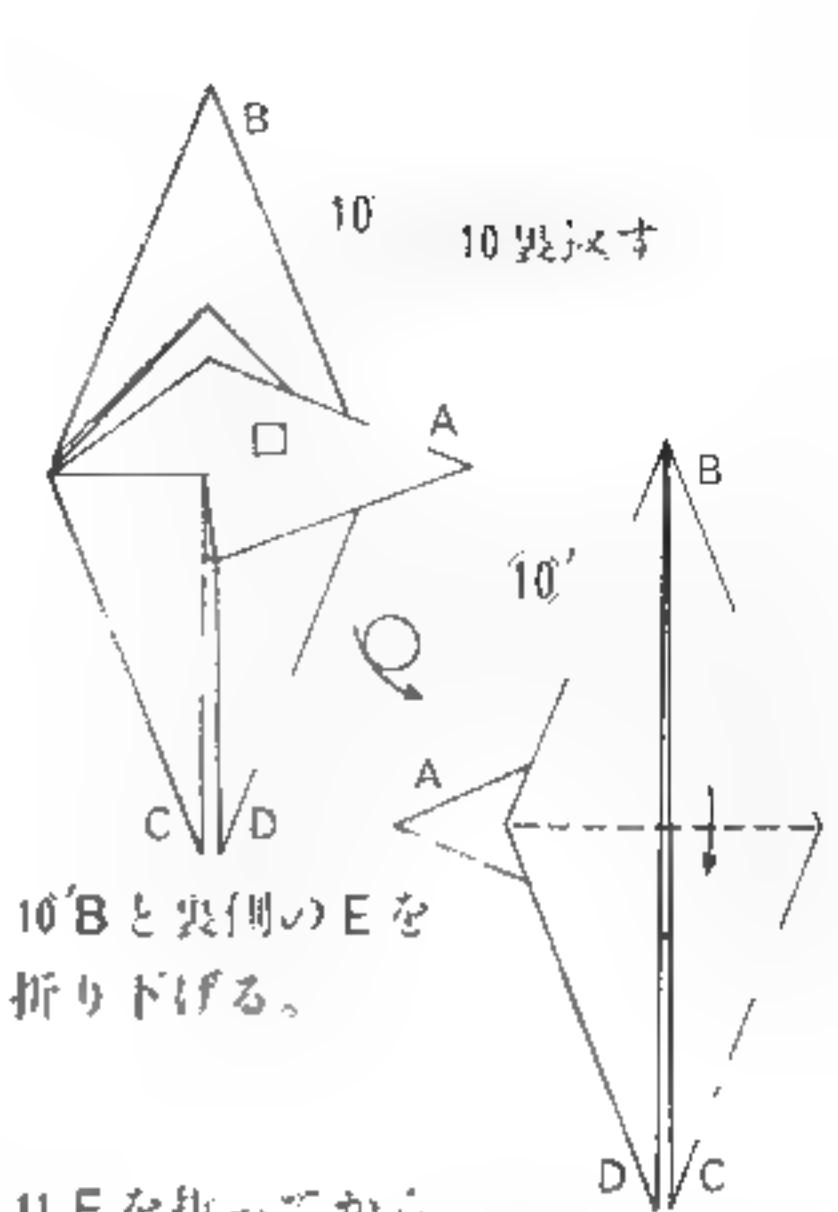
7 □印の内側から
同じように開き出
す。



8 Aを右側へ返す

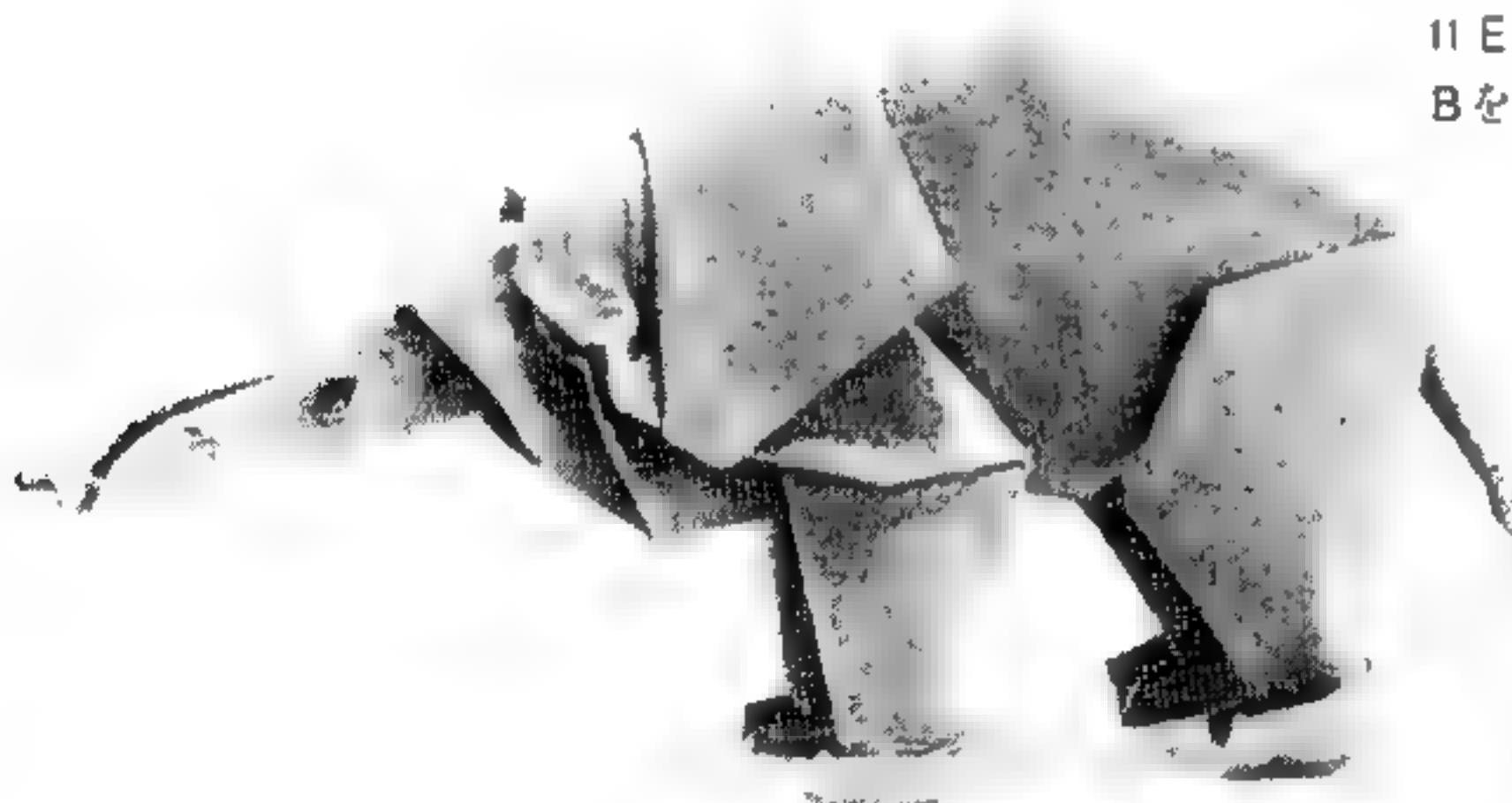
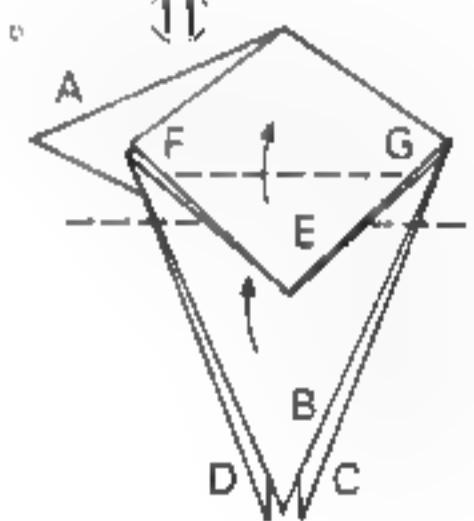


9・7と同じよう
に□印の内側から
開き出す。



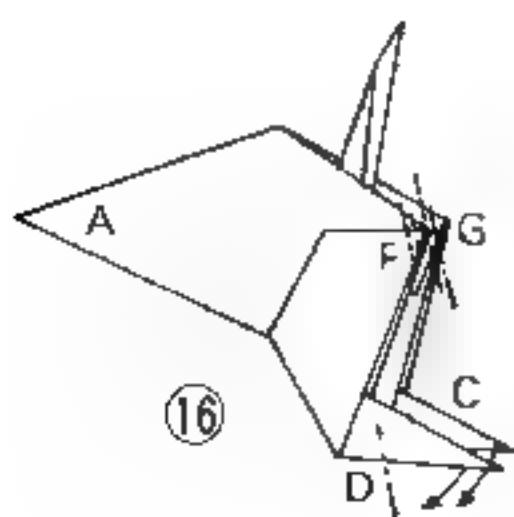
10' Bと裏側のEを
折り下げる。

11 Eを折ってから
Bを折り上げる。

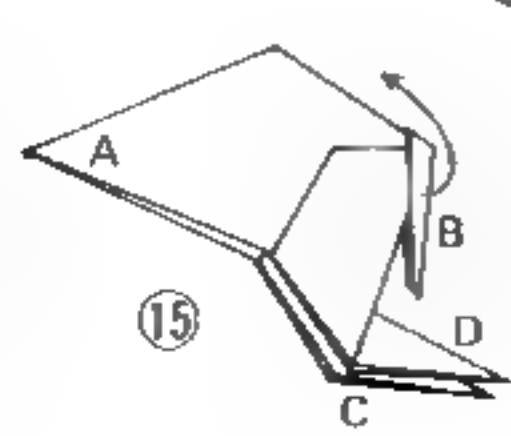


象

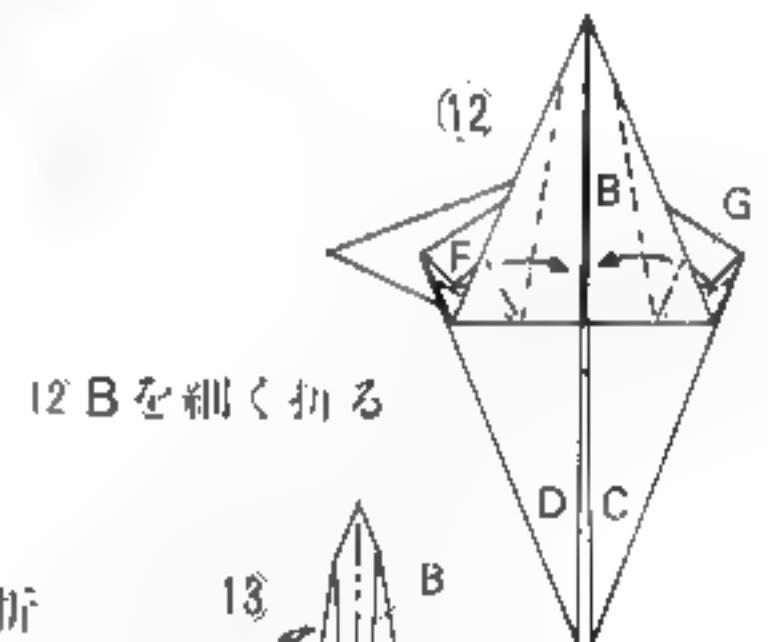
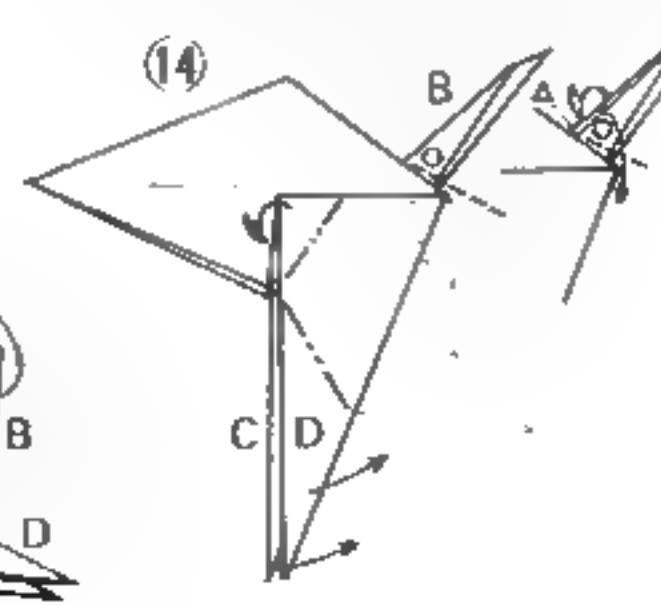
16 FGのカドに小さく
段をつけ、CDを折る。



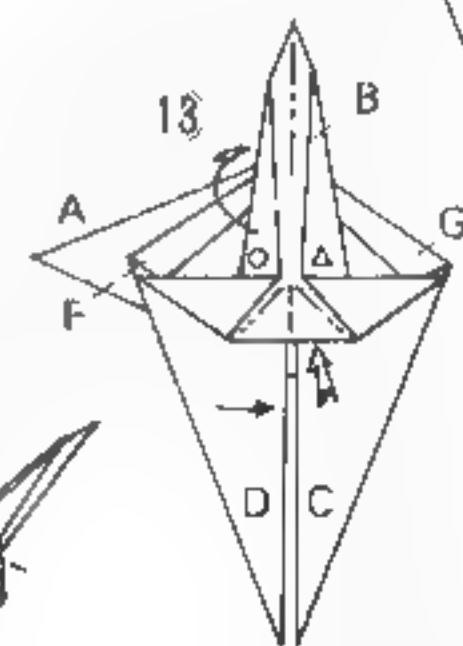
15 Bをいったん
引き上げる。



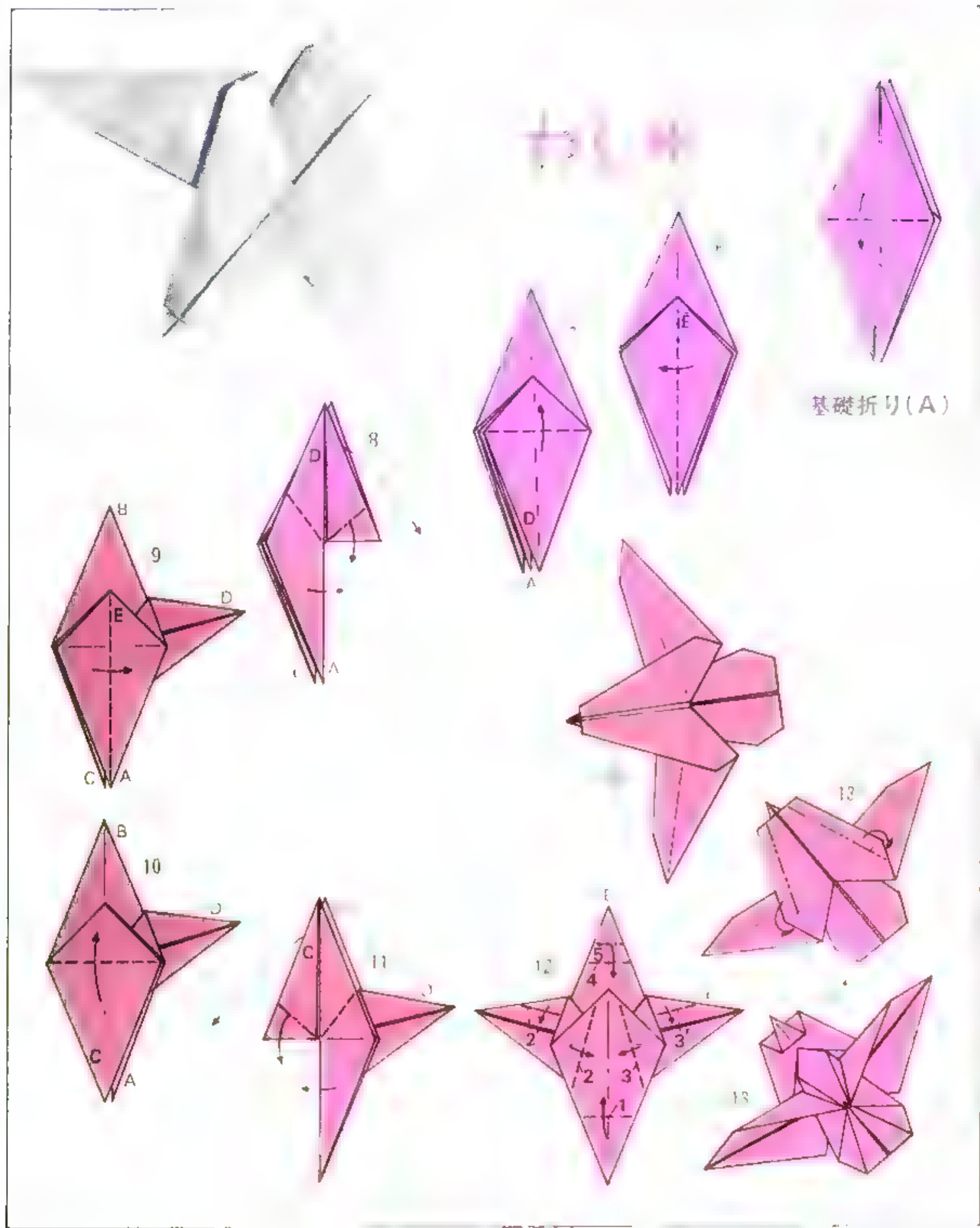
14 Bを矢印に開いて折
りかぶせ、尾の角度に
たらして折り目をつけ、
CDを矢印に折る。



12 Bを細く折る

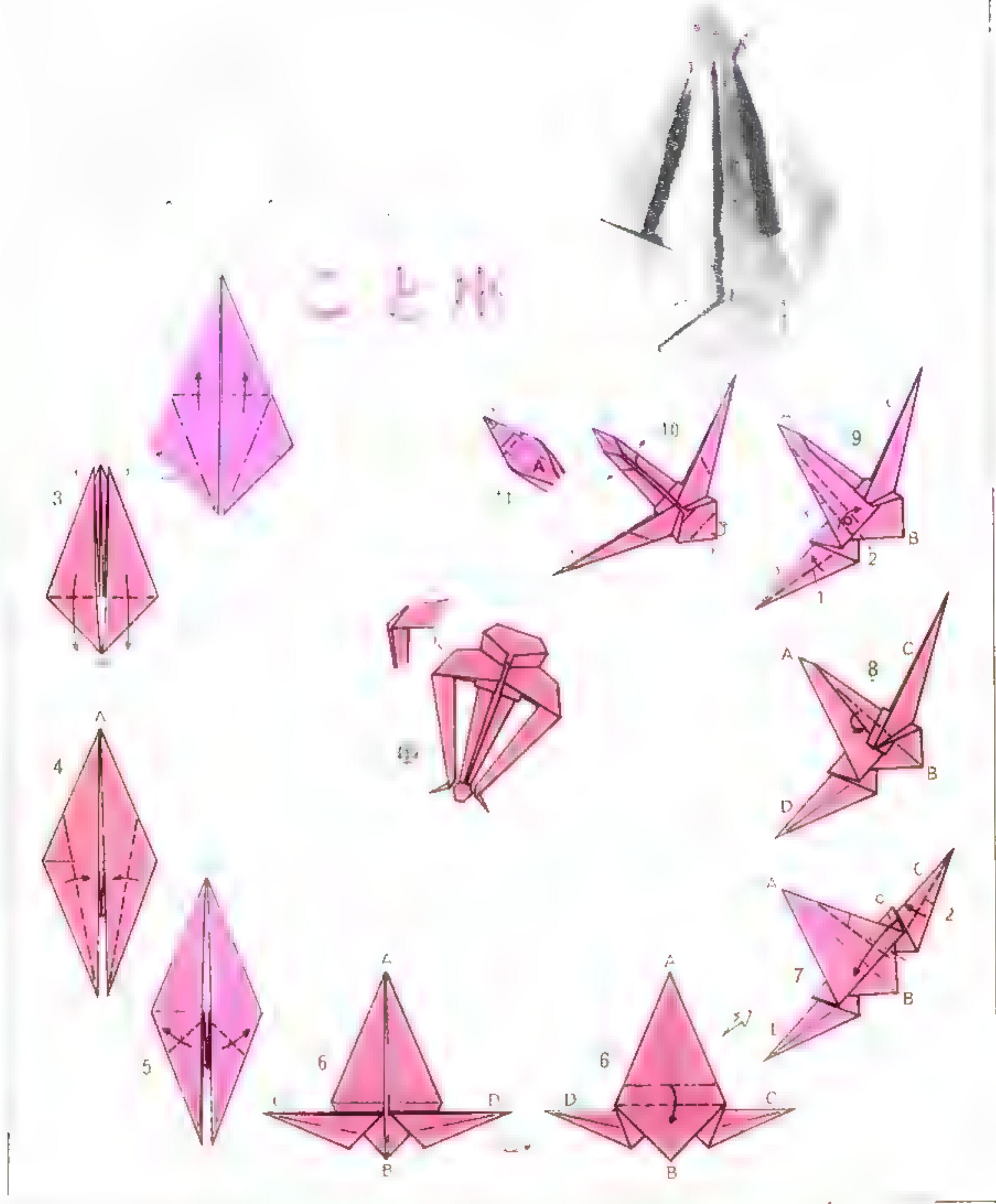


13 Bの山線を折りなが
ら、下の三角を矢印に
押し込んで、DをCの
上に重ねて平らにする。



基礎折り(A)から折る

5 6 7を打る。8 Dを右縦と左縦の中線へ
下ろして行ひながら、Aを表す。9 10 11左側
のCをDと同様に折る。12矢印にそれぞれ折
る。13裏返す。13矢印に間へ折る。出来上
がり

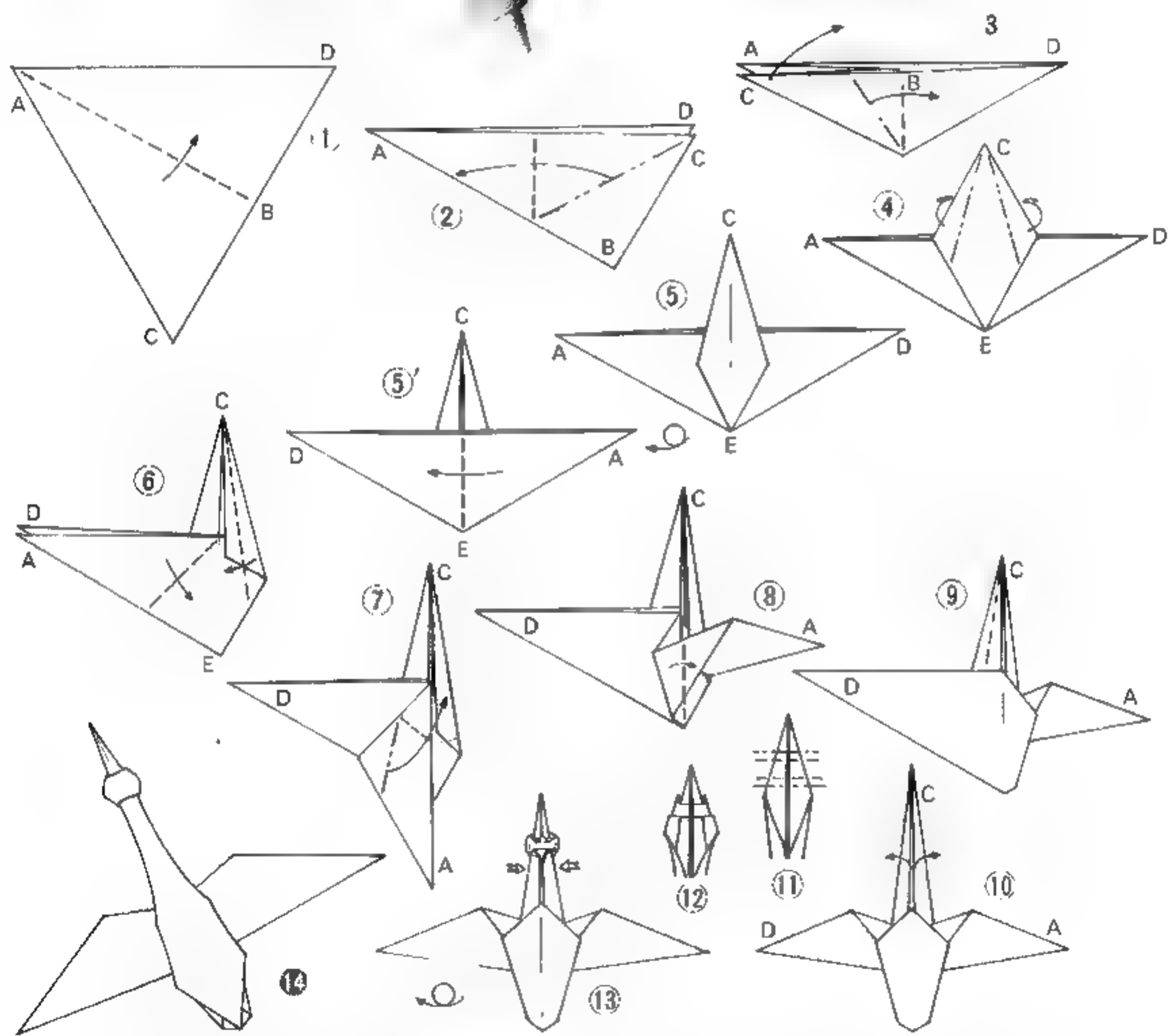


山角、等邊、角形の紙を用いる
(正方形の、全対角線が引かれた
その一枚)。1-2-3を折る。4谷
線に折り目をつける。5矢印に折
る。6裏返す。6段をつける。7)
谷線1、2と折って、矢印の部分
を矢印に返しなじませる。8山線

かられて、(1)のように、左へ入れる。(9)左側も右側と同様に折る。(10)Aを(11)のように開いて段をつけ、からくりよしめ、CとDを上線、右線で折り、Bを折る。巻き上げり。



白鳥座

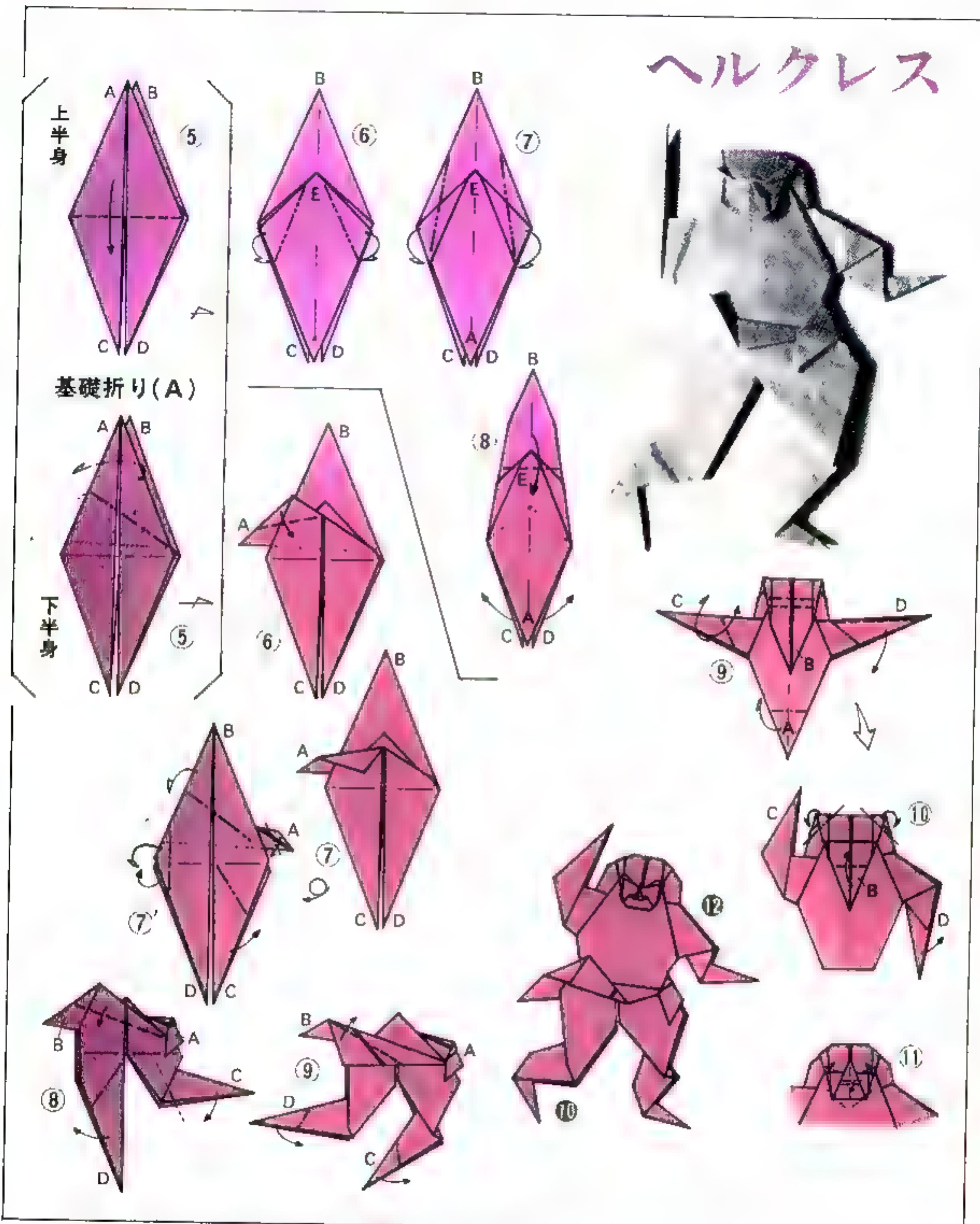


正三角形の紙を用いる（用紙の作り方は37ページ参照）。

(1)~(3)を折る。(4)矢印に間へ折る。
(5)裏返す。(6)を折る。(7)山線と谷線でAを点線へずらして折る。
(8)上だけ矢印に折る。(9)DをAの

折り方で折りまとめる。(10)Cの先を広げて段をつけ、(12)(13)のように、首のところを左右から矢印に押しつぶして、首を細く折りととのえて、表に返す。(14)出来上がり。

ヘルクレス



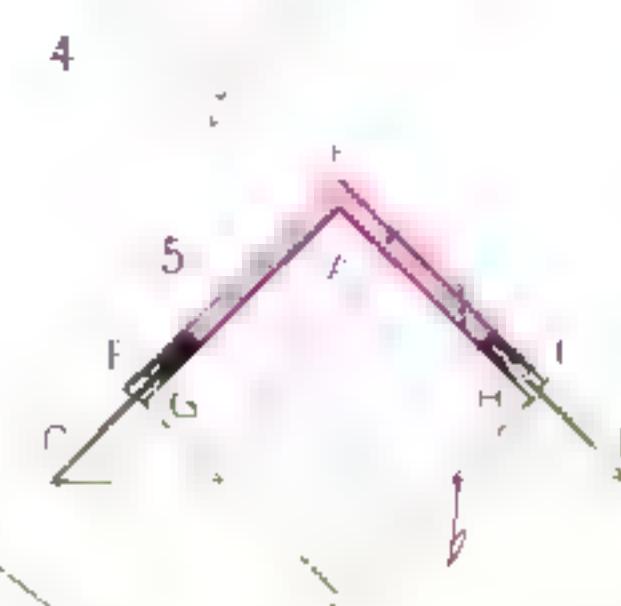
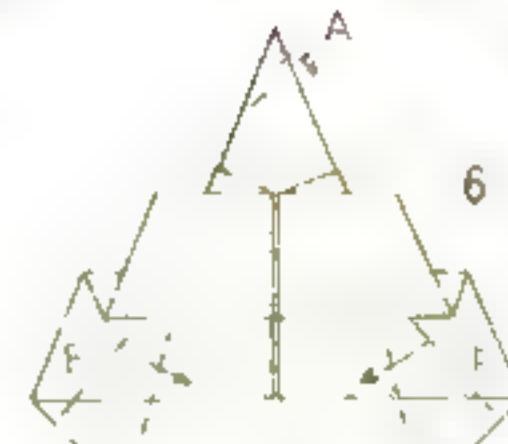
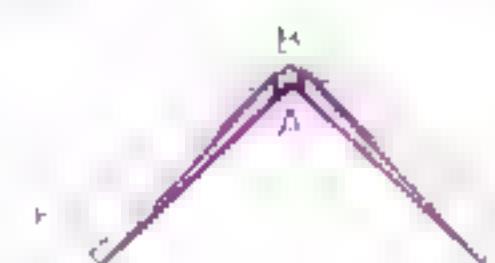
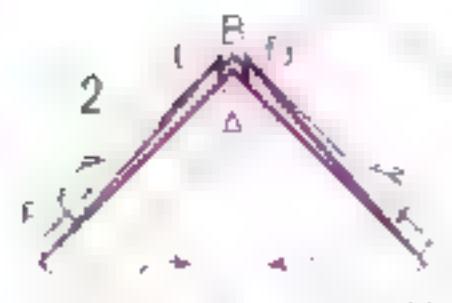
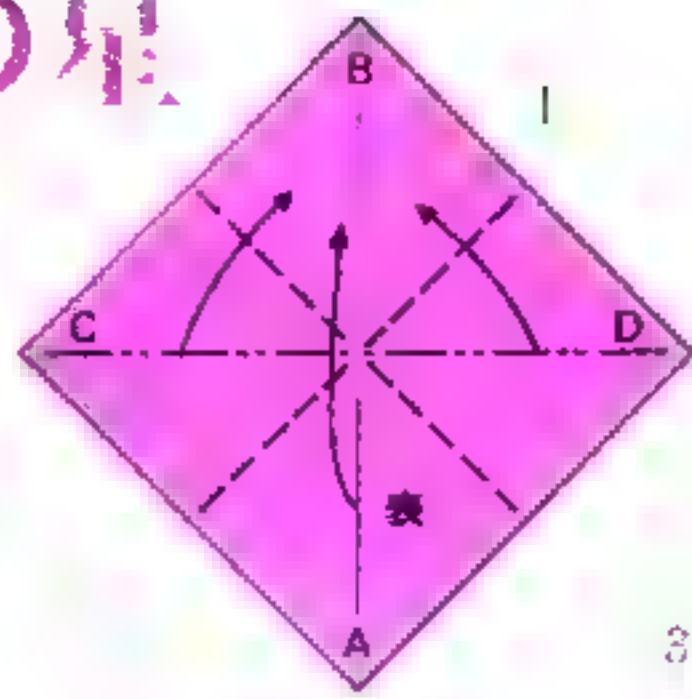
正方形の紙二枚で基礎折り(A)から上半身と下半身を折って作る

〈上半身〉⑤⑥⑦を折る。⑧CとDを点線の内側から左右に折り上げ、Bを谷線から折る。⑨Bに段をつけ、Cの先を広げて折りかぶせ、Dを間へ折り、Aを裏へ折る。⑩を折り、部分図⑪のよう

に折って上半身の出来上がり⑫。

〈下半身〉⑤Aをねじって間へ折る。⑥矢印に折る。⑦裏返す。⑦'Bを間へ折り、それぞれ矢印に折る。⑧⑨矢印に折り、下半身の出来上がり。上半身を下半身の間へ差し込んで形をととのえる⑫+⑬出来上がり。

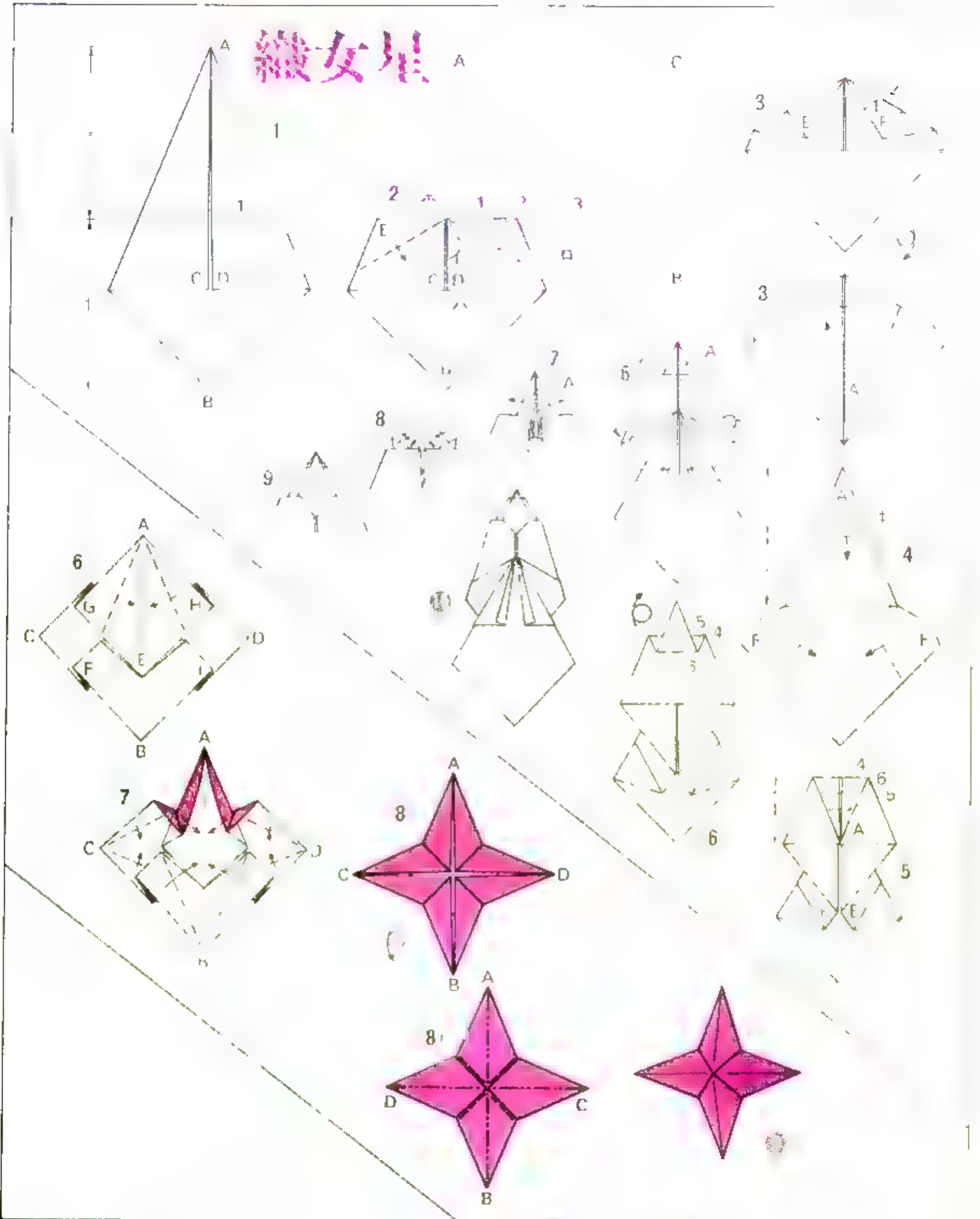
十字の星



牽牛星

〈牽牛星〉 正方形の紙を①のように折ってから、AとBのカドを合わせて1の山線で折り目をつけてのばし、2の山線を折って裏返す。2 Aのカドを2の折り目に合わせて3の折り目をつけ、3の折り目を2の折り目に合わせて4を折る。3を表に返して、

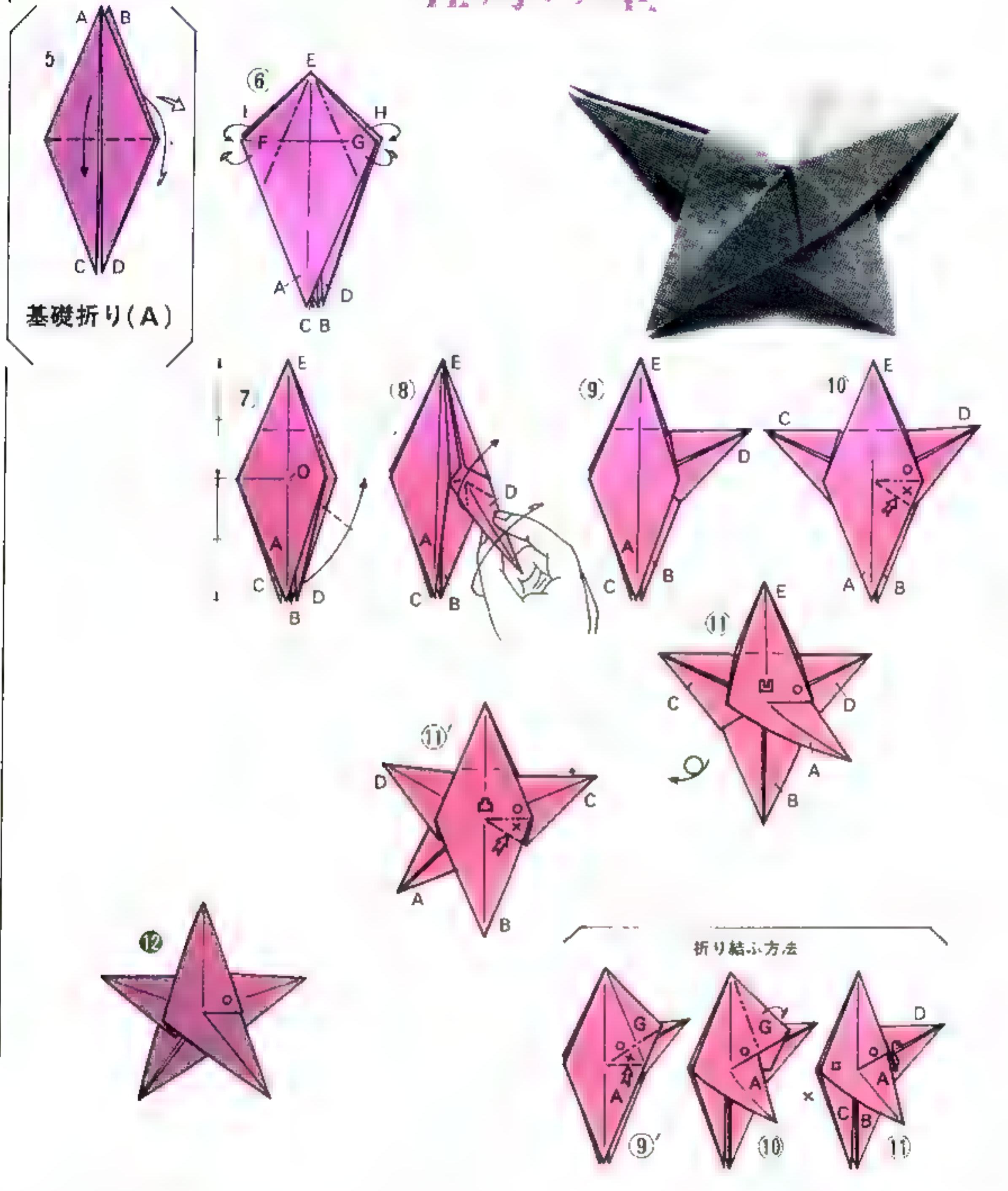
いったん広げ、4のようにならみかえる4 Aを点線に引き出す。5 Aの左右のカドを裏へ折り、1の山線と5の谷線を打って6のようにしてから、EとFを内側へするとして折り「手を作る」。Aの先を折ってかぶりものの感じを出す。⑦出来上がり。



〈織女星〉 正方形の紙を1のように折り、Aを裏へ折ってBに合わせる。2 EFを折る。この場合、等分(30度)に折るには点線のように広げて、ハニの線を1の折り目に合わせ、イロの印の部分に軽く折り目をつけ、手のカドを支点として、Dのカドをイロの線上に合わせ、3を折って、2の折り線を求

める。実際には目測で折ってもよい。3裏返す。4を折る。5 Aを上のところに折り目をつけ、その折り目を上の4の折り目に合わせて折る。6表に返す。6'Aをのばして開き、7のようにならみかえてから、8,9と折って頭を作り、6'の両わざと前を折って、⑩出来上がり

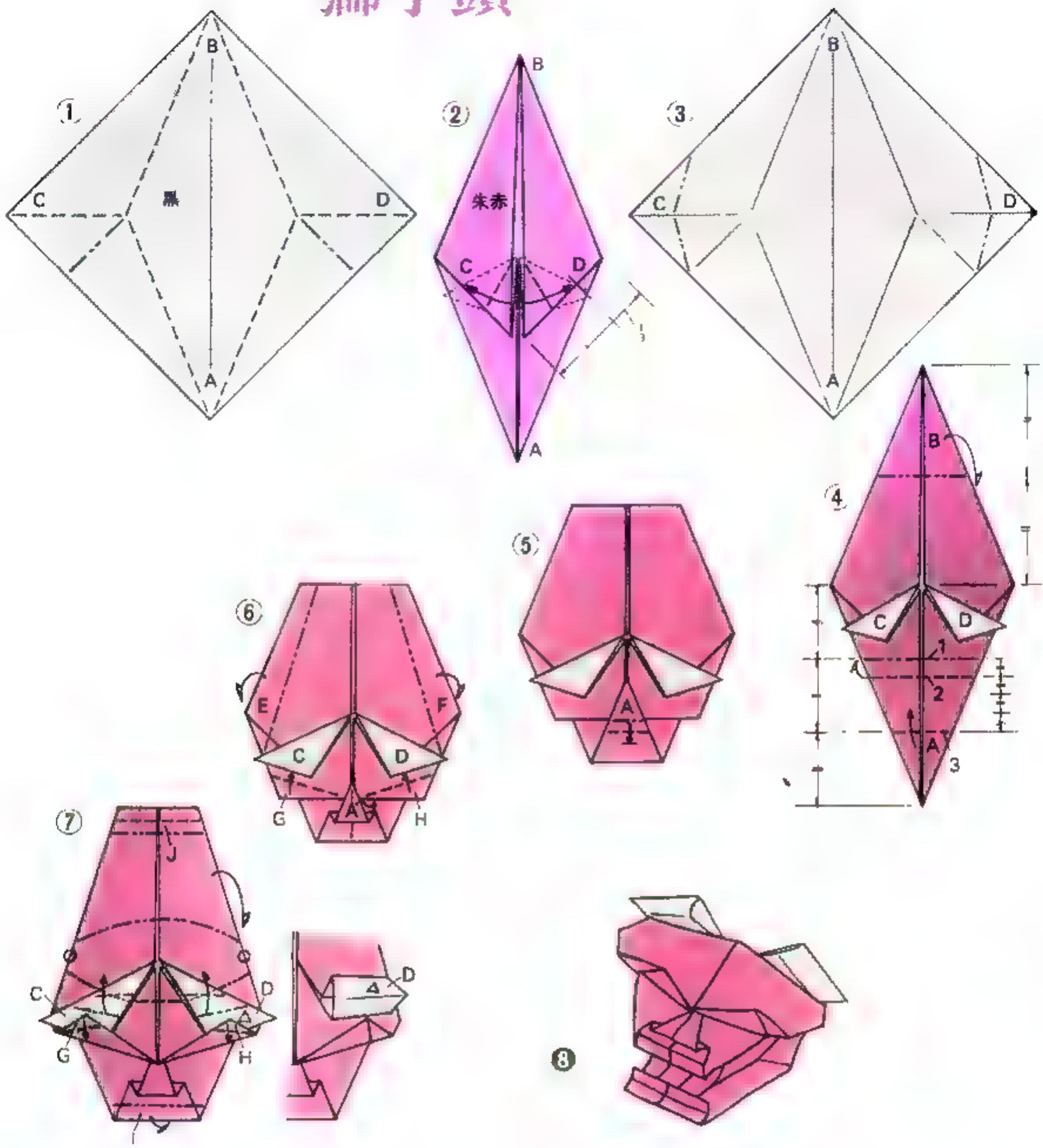
五角の星



基礎折り(A)から折る。⑤AとBを折り下げる。
 ⑥FGHのカドを、それぞれ左右の間へ折り込む。
 ⑦Oを支点(星の中心)として、Dを点線へ⑧のよう
 にしてねじりながら折り広げる。⑨CもDと同様に
 左側へ折る。⑩Aの×印を○印の内側へ押し込む。
 ⑪裏返す。⑫BをAの折り方と同様に折って形をと

とのえる。⑫出来上がり。
〈折り結ぶ方法〉 ⑨のEの中から、⑥で折ったGを
 引き出し⑨'。⑩を折り、⑩Aの裏のカドをDの袋へ
 入れる。CとBを右側と同様に折れば、Cの×印の
 部分がひだになるから、○印の裏へ差し込む。中心
 に親指をあてて持ち、Aを引っぱって密着させる。

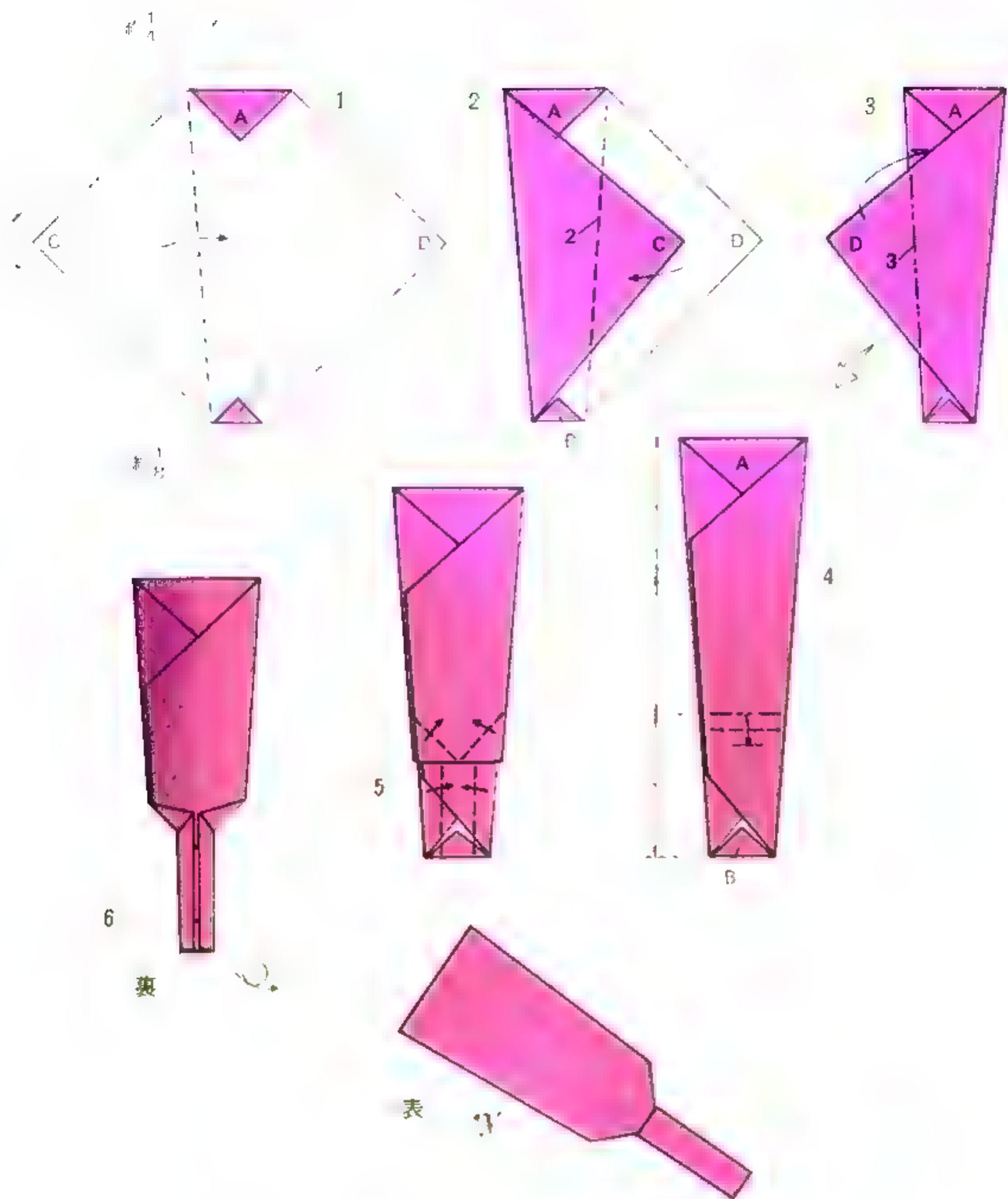
獅子頭



朱赤と黒の色紙を重ねて、表を朱赤、裏を黒にして折る。

(1)山線と谷線で(2)のように折り、CとDの折り目をつけてから広げる。(3)CとDを(2)で折った折り目で、黒のほうを山線に折りながら、(1)でつけた折り目でまとめる。(4)Aの1、2の折り線で段をつけ、3で先を折り上げ、Bを裏へ折る。(5)Aに段をつける。(6)Aの先を間に入れ、GとHを折り返し、EとFを裏

へ折る。(7)GとHのカドを折り下げて口を作り、1を折って上あごを作り、CとDを袋状に広げて耳を作り、Jを折って、下あごにする。曲線の山線の裏側に、左手の人さし指の先を当て、右手の親指と人さし指で押しつけるようにして折り目をつけて、(8)のように形をととのえる。耳の下のところ(7図の「印」)を左右から指先で持って、パクパクと口を動かす。

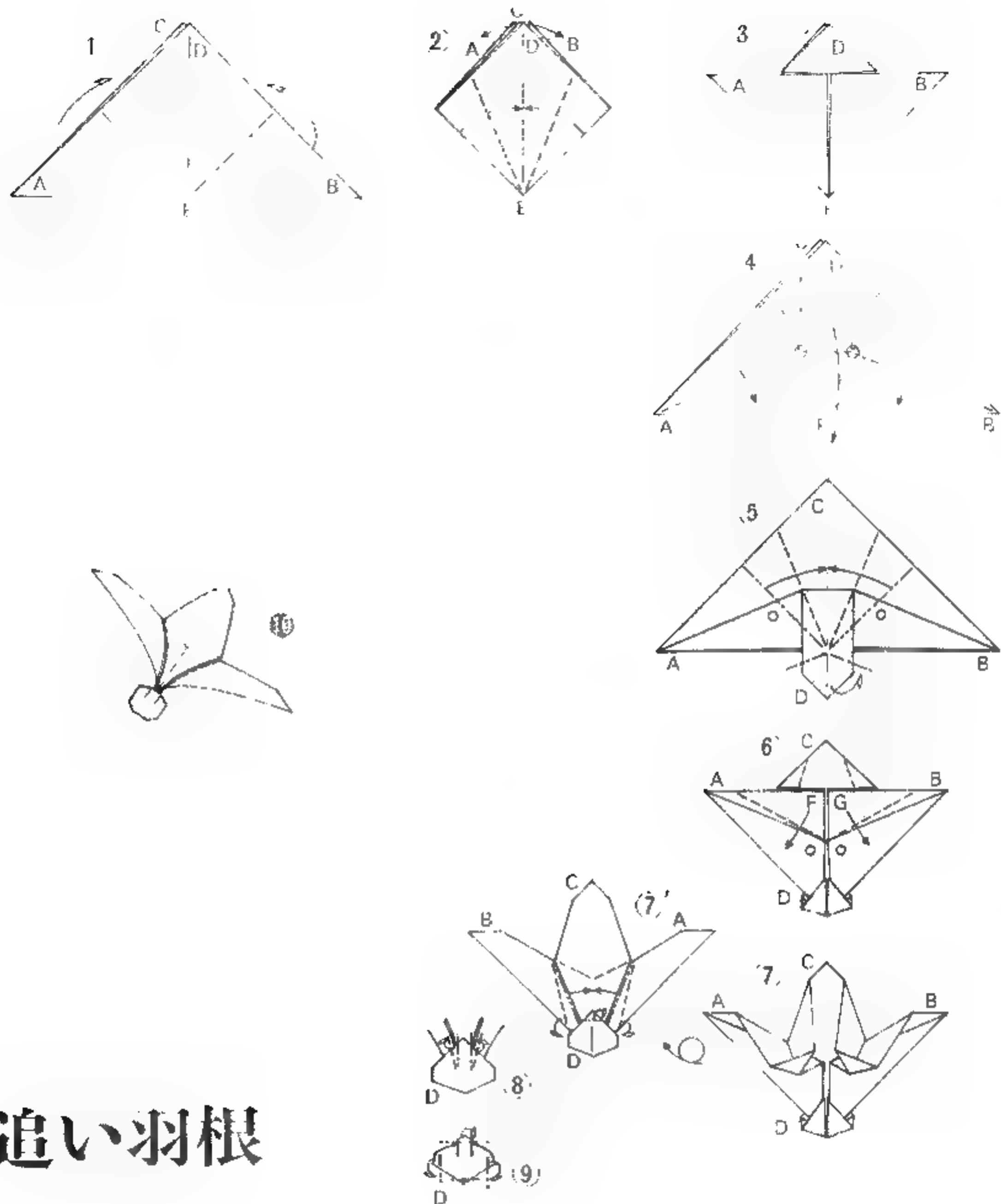


羽子板

1 正方形の紙のAとBを図のように折り、羽子板の形を考えてCを折る。
 2 C Dを2の折り線で折る。(3)裏側の1で折った折り目に合わせてDを間へ折る。この場合、少し内側へひかえて

折る。(4)4の割合に段をつける。(5)次印にそれぞれ折って柄を作る。(6)出来上がり。

お年玉を入れるのし袋や友たちへの年賀のこあいさつなどに使えます



追い羽根

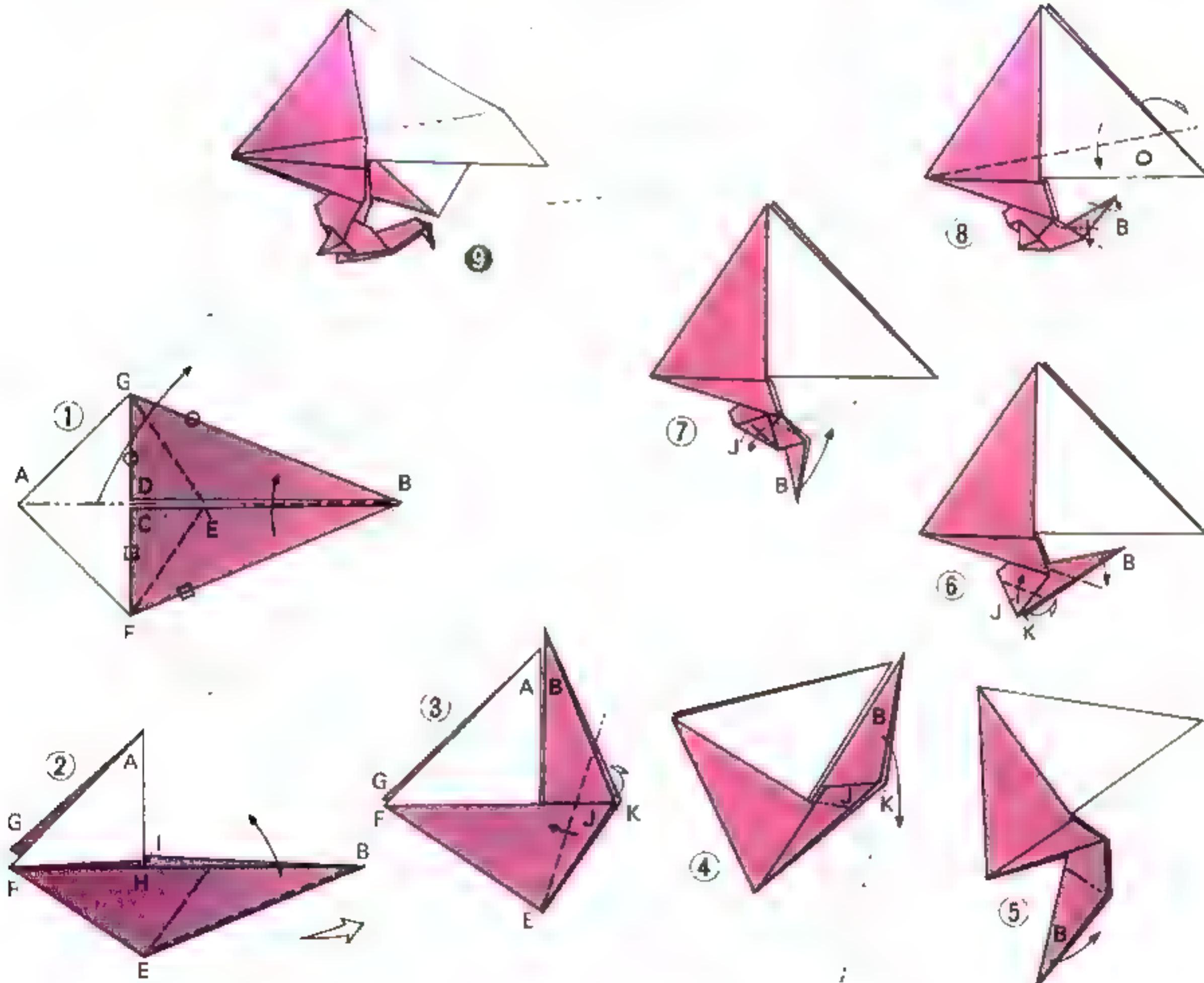
1 正方形の紙を対角線に折ってから、さらにABを裏へ折る。2 次印に中心に折って、裏側からABを開き出す。(3)を(4)の形まで広げる。4 ABCの上側だけ、それぞれの切り口を底辺に合わせて谷線の折り目をつけ、(2)で折った折り目(Eからの放射線の折り目)との交点一印から、中心の綫の線に平行に谷線の折り目をつけて、それぞれの折り目を折って5のようにする。(5)は(2)でつけた折り目に従って山線を中心に合わせ、Dを表へ折る。6)FGを次印に折りながらCを細くする。7)裏返す。7)ABの下のほうを山線と谷線で中心に折りまとめ、Cの谷線に折り目をつけて羽の形をととのえ、Dを部分図8'9'のように折って丸やかにする。巻出しがり

に従って山線を中心に合わせ、Dを表へ折る。6)FGを次印に折りながらCを細くする。7)裏返す。7)ABの下のほうを山線と谷線で中心に折りまとめ、Cの谷線に折り目をつけて羽の形をととのえ、Dを部分図8'9'のように折って丸やかにする。巻出しがり

羽子板と追い羽根をセットにする場合、大きさの割合は羽子板を折る紙の、一边の長さの1/4ぐらいの正方形が適当です。

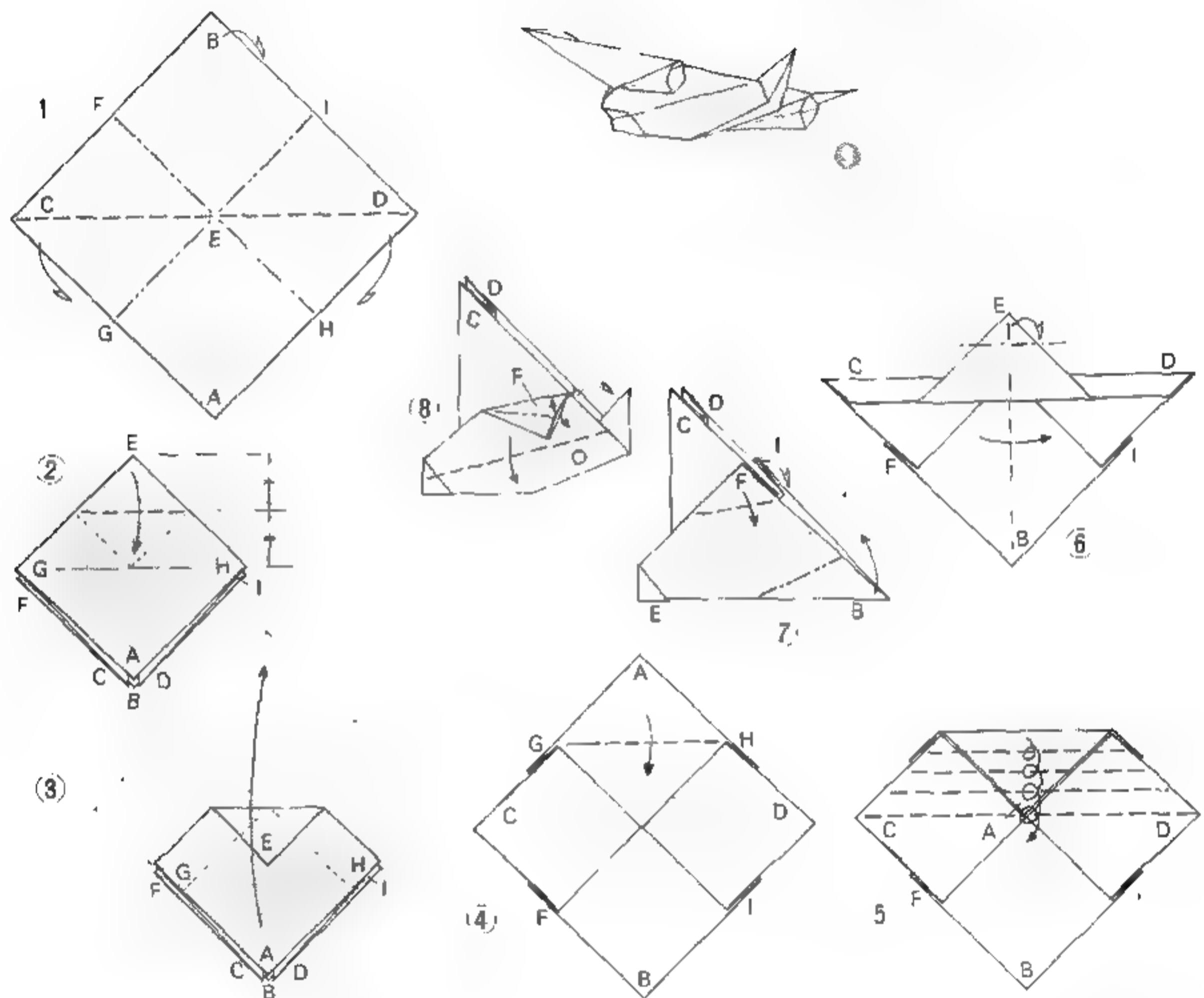
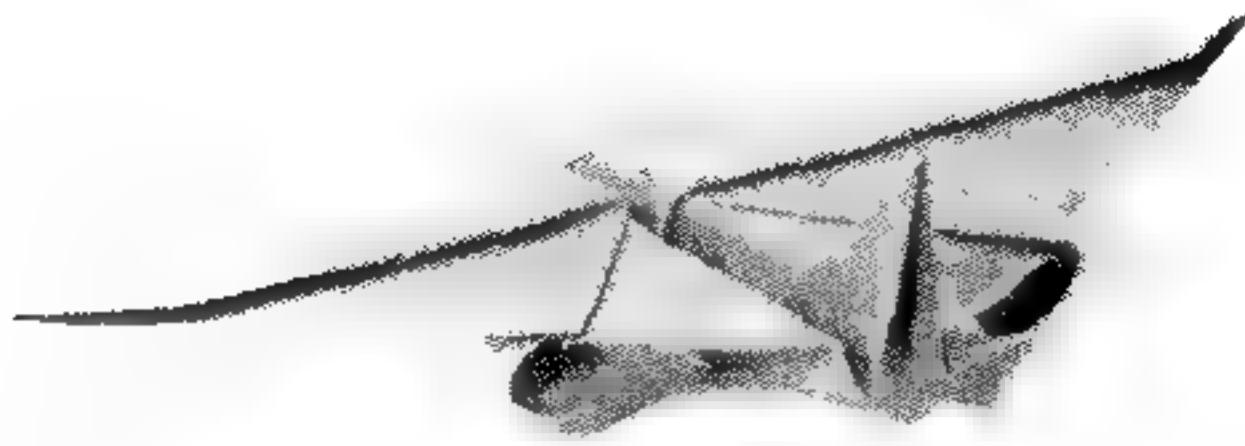
正方形の紙を上のように折ってから、印を△印に合わせ、□印を□印に合わせて折り目をつけてから、Aの山線とBの谷線を折って②のようにする。③BをH-Iの間へ折る。④⑤久留に折る。⑥Bを折り上げ、JKを折る。⑦Bを点線へ折り返し、JKを折る。⑧点線へBを引き下げる足の先を折り、主翼を谷線から左右に折って形をととのえる。⑨出来上がり。(8)の○印を持って軽く投げて飛ばす。なお、主翼の下側の三角の袋状のところを開けるとよく飛ぶ。

ハンググライダー



ハンググライダーは新しいスポーツの一つですが、折り紙のグライダーに人間の姿を折って重心のバランスを計算して作った作品です。飛ばすときに、翼を平らにととのえ、数回飛ばしてみて、気流の関係によって人体の位置を前後に加減してください。

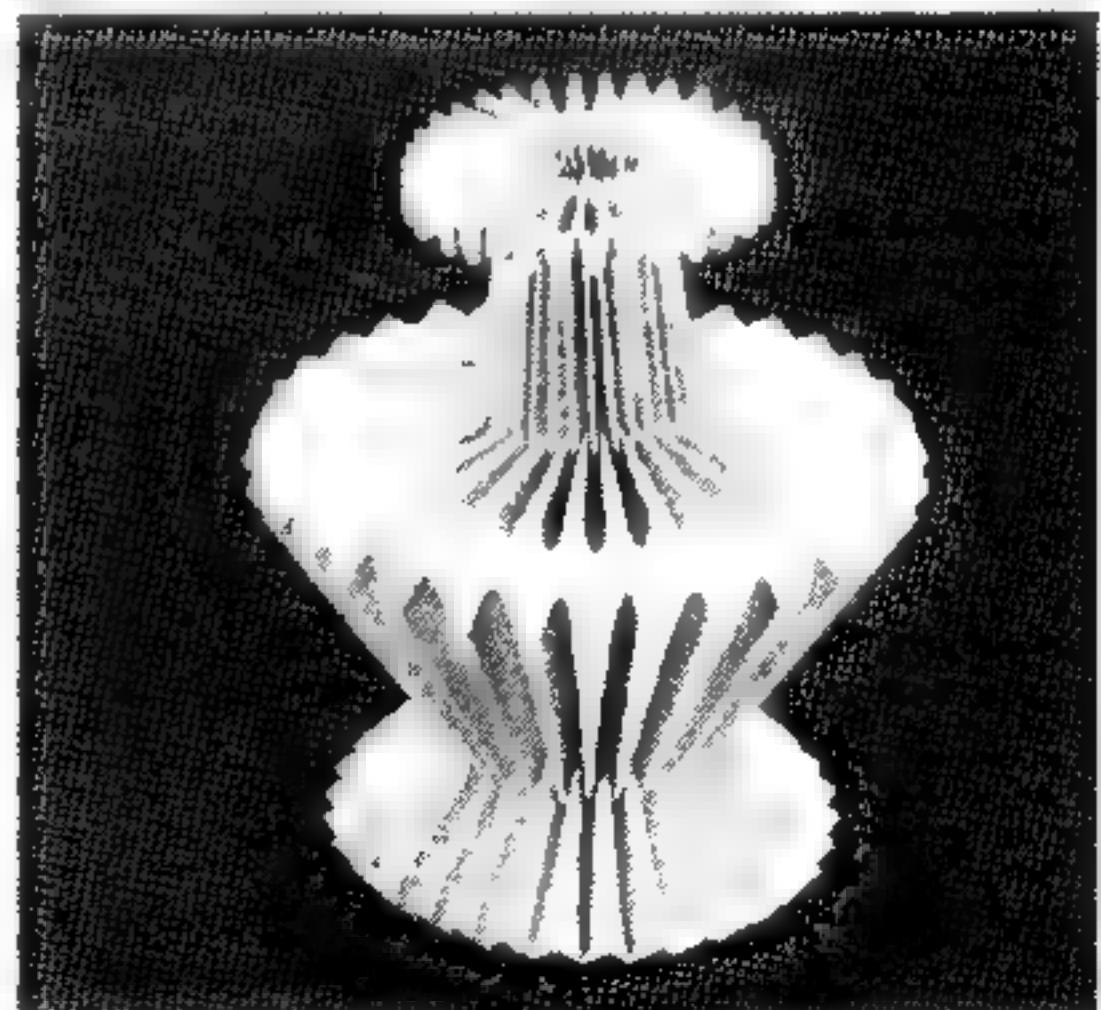
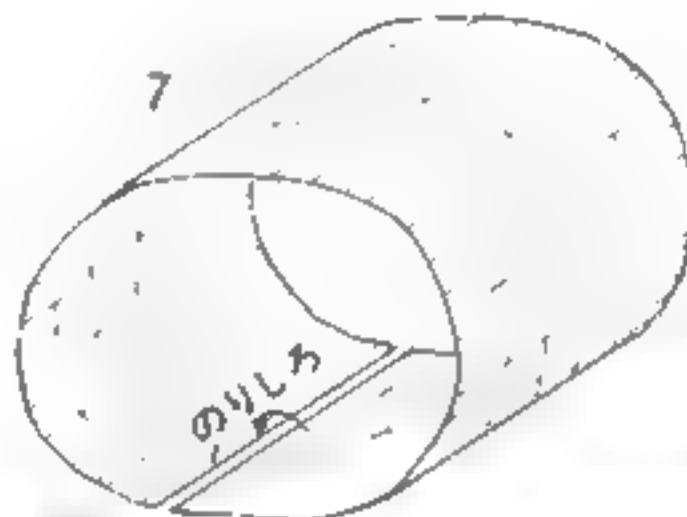
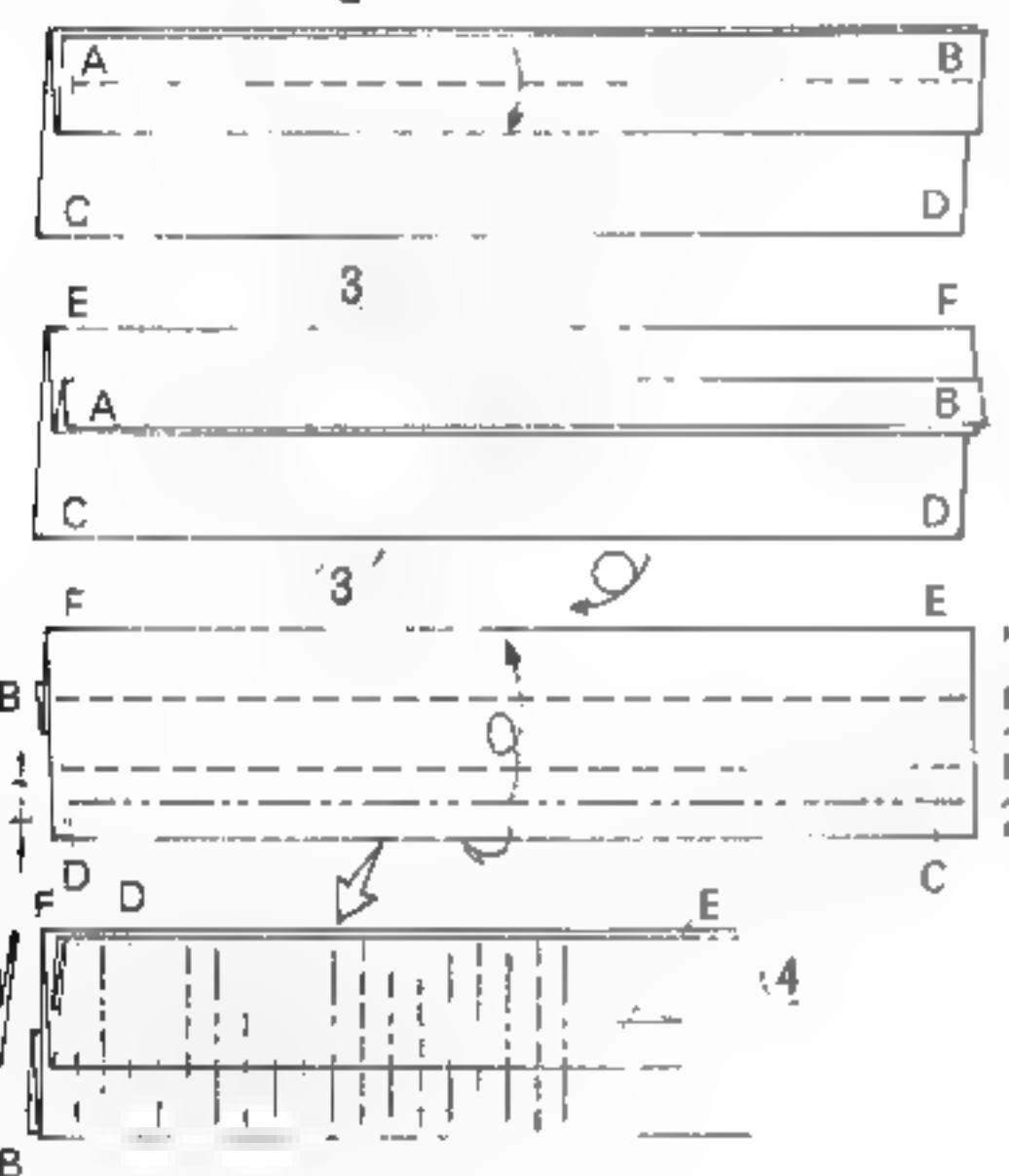
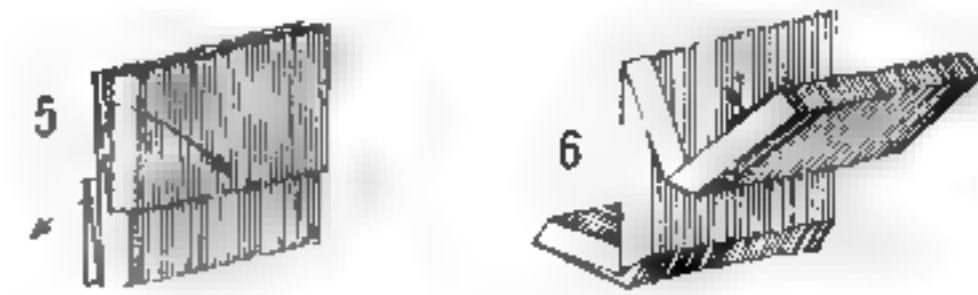
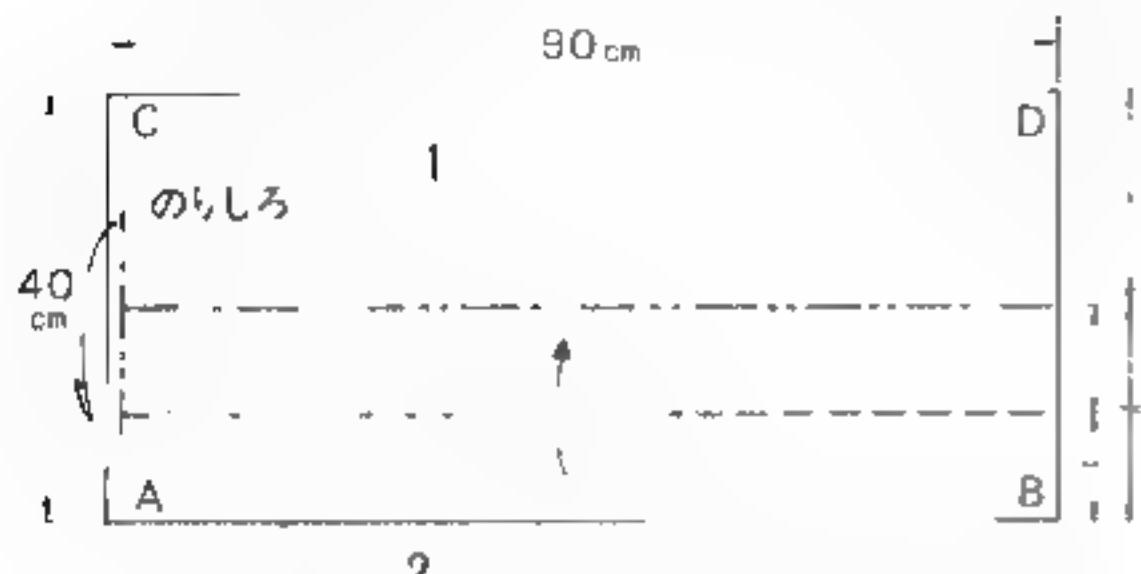
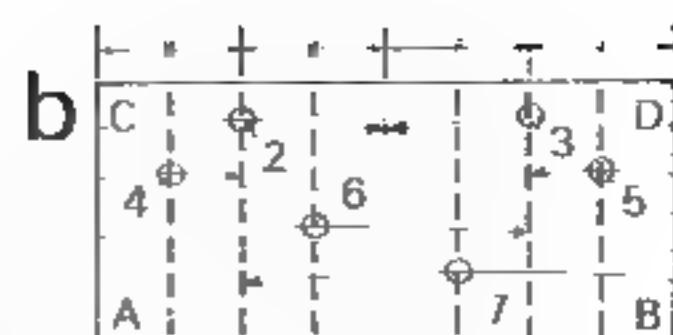
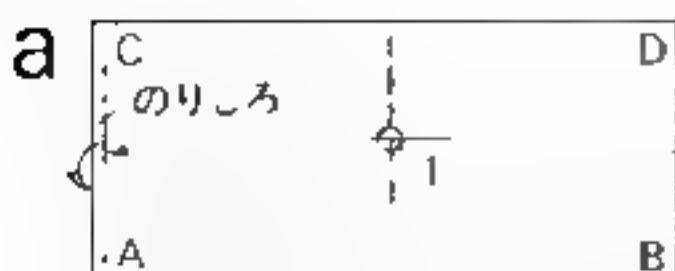
ジェット機型 グライダー



1 正方形の紙を山線と谷線に折り目をつけて、2)のように折りまとめる。②Eを中心にならわせて折る。3 FGHIの点線の位置に折り目をつけて、AとCDを開き出して4)のようにする。4 Aを折る。5 半分まで巻き折りにする。6 Eを裏側へ折ってから一つに折る。

7 Bを山線から間へ折り、F-Iを谷線から折り返す。8 谷線の位置から七翼を左右に折り返し、Fと裏側のIの三角の袋を広げてジェットエンジンの形にする。⑨出来上がり。8の○印を持って軽く投げて飛ばす。

敵折り



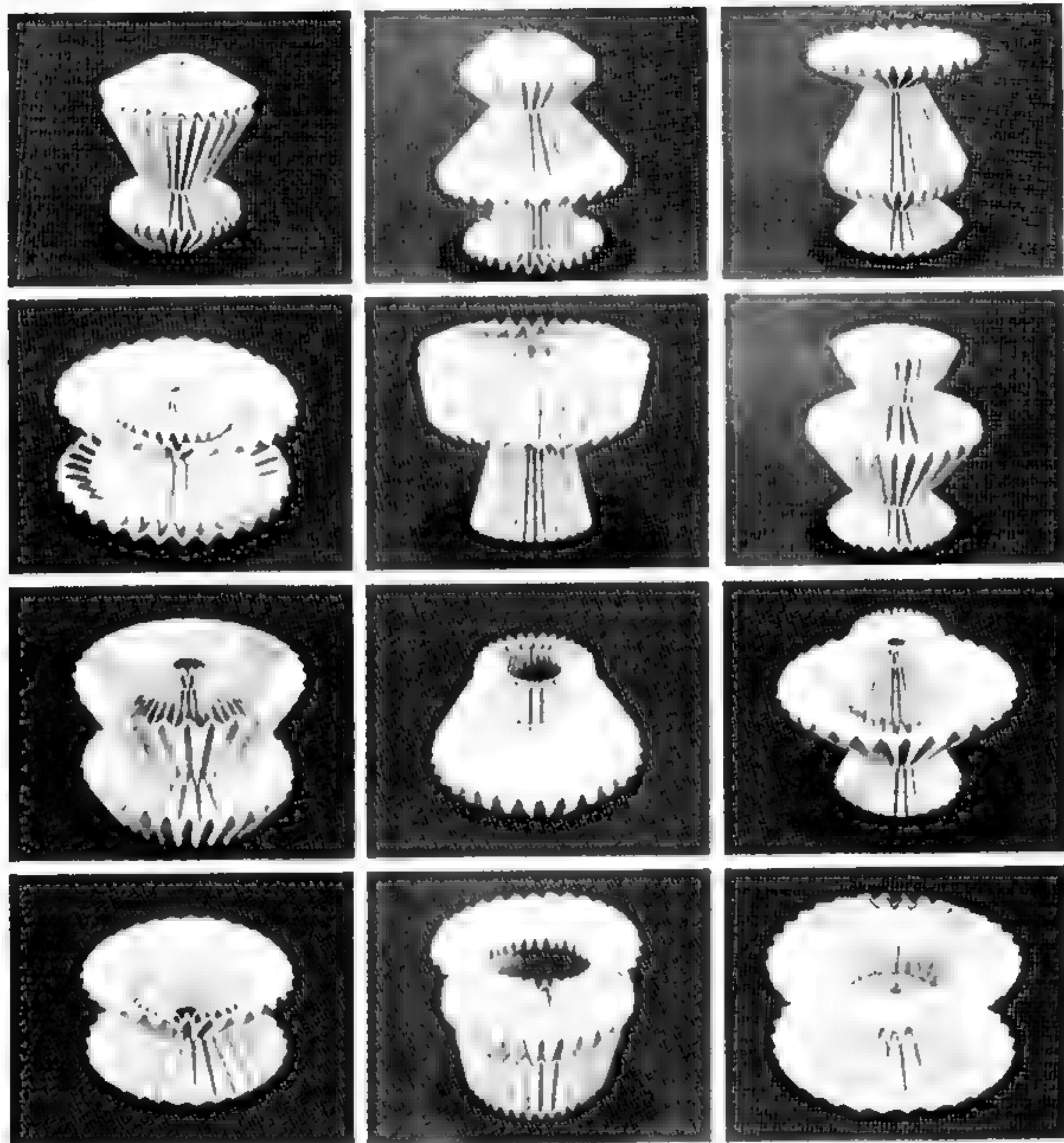
を折り返す。③裏返す。④山線と谷線の割合で折る。⑤このままで、はじめにつけた〈敵折り〉を折る。⑥七、八山ぐらいを持って矢印に引き出し、順に全部引き出す。それぞれを⑦のように引き出して押しつけておく。⑧いったん広げて⑨のようにして、のりしろをはり合わせる。つけてある折り目に従って、さまざまな形に変化させる。

魔法の壺

用紙は丈夫で弾力のあるハトロン紙などが適当である

〈敵折り〉長方形の紙の端にのりしろを細く折ってから、a b cの同じ面に半分半分に32等分まで折る。次に裏返して、その折り目(山線と山線)を一つずつ合わせて62等分に折る。

162等分の折り目をつけてのばしたものとする。山線と谷線で2のよに折る。(2)AB



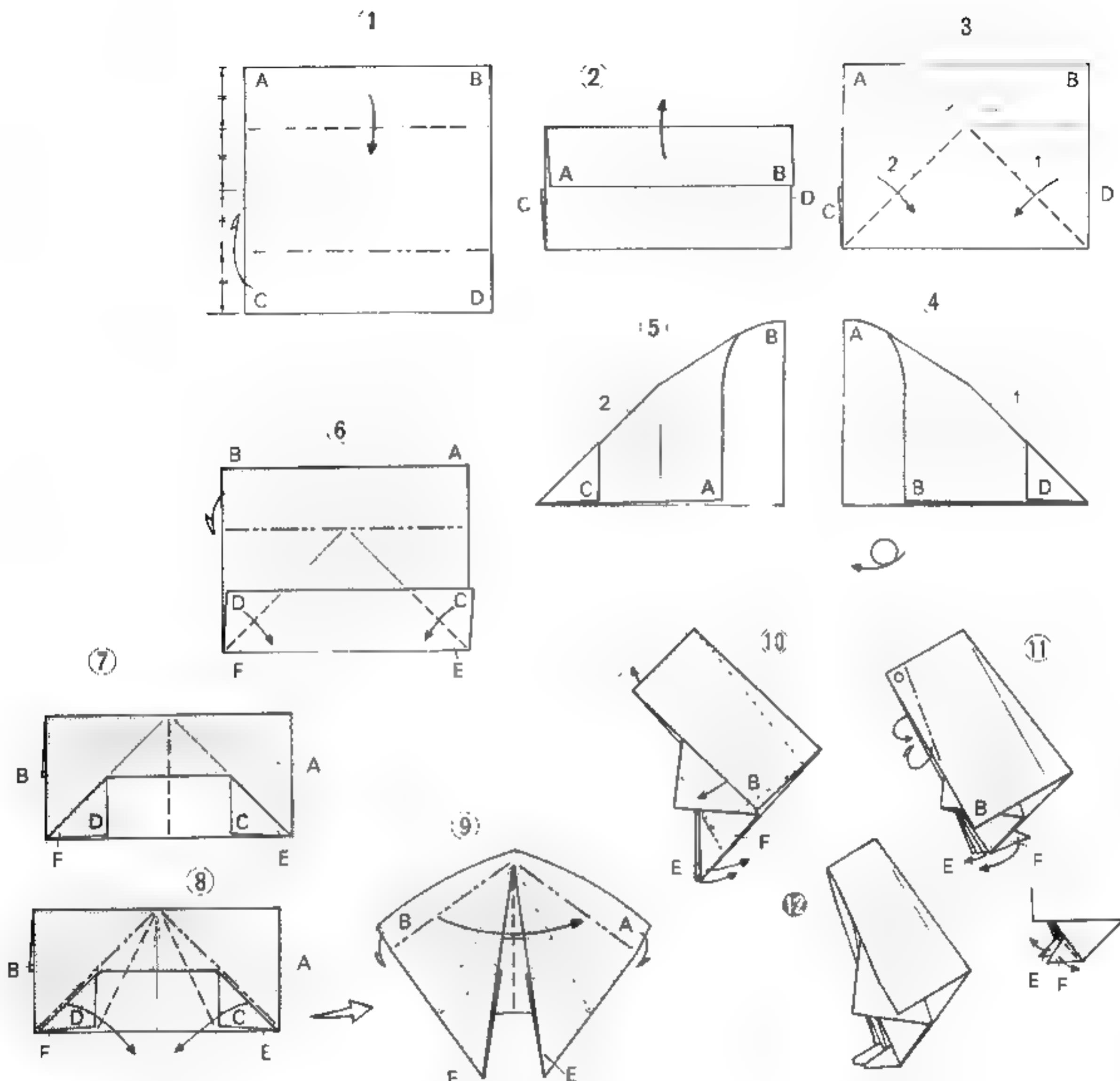
この折りは単純であるが、工夫すると限りない樂しさが秘められている。

平行線の敵折りに対して、直角や適当な角度の折り目を引くことによって出来る折り線で、伸び縮みする「ジャバラ折り」は生活のいろいろの面に応用されている。紙の彈力で引き出したり、折し込んだりできる面白さを「魔法のぼうし」として摺者にすでに発表してあるが、柄ひだの分割を工夫して整理したのがこの「魔法の壺」である。かつて朝日新聞『遊びの博物誌』欄において「そのシル

エットの首や胸や腰、脚などに相当する部分の広がりを加減することで、……およそ一軒対称型のかたちなら何でも作り出せるほどである。あるいは、この帶状の構造を、一匁たけひっくり返してゆがみをつけ、人間や動物の顔の表情に似せることまでできる。

と紹介されている。さらに、その分割を人体の各部分に比例させたものや、自然界の生物、洗練された生活の中の器物などに現れた形と対比させて作り、さまざまな形に変化させたものの一部を紹介してみた。

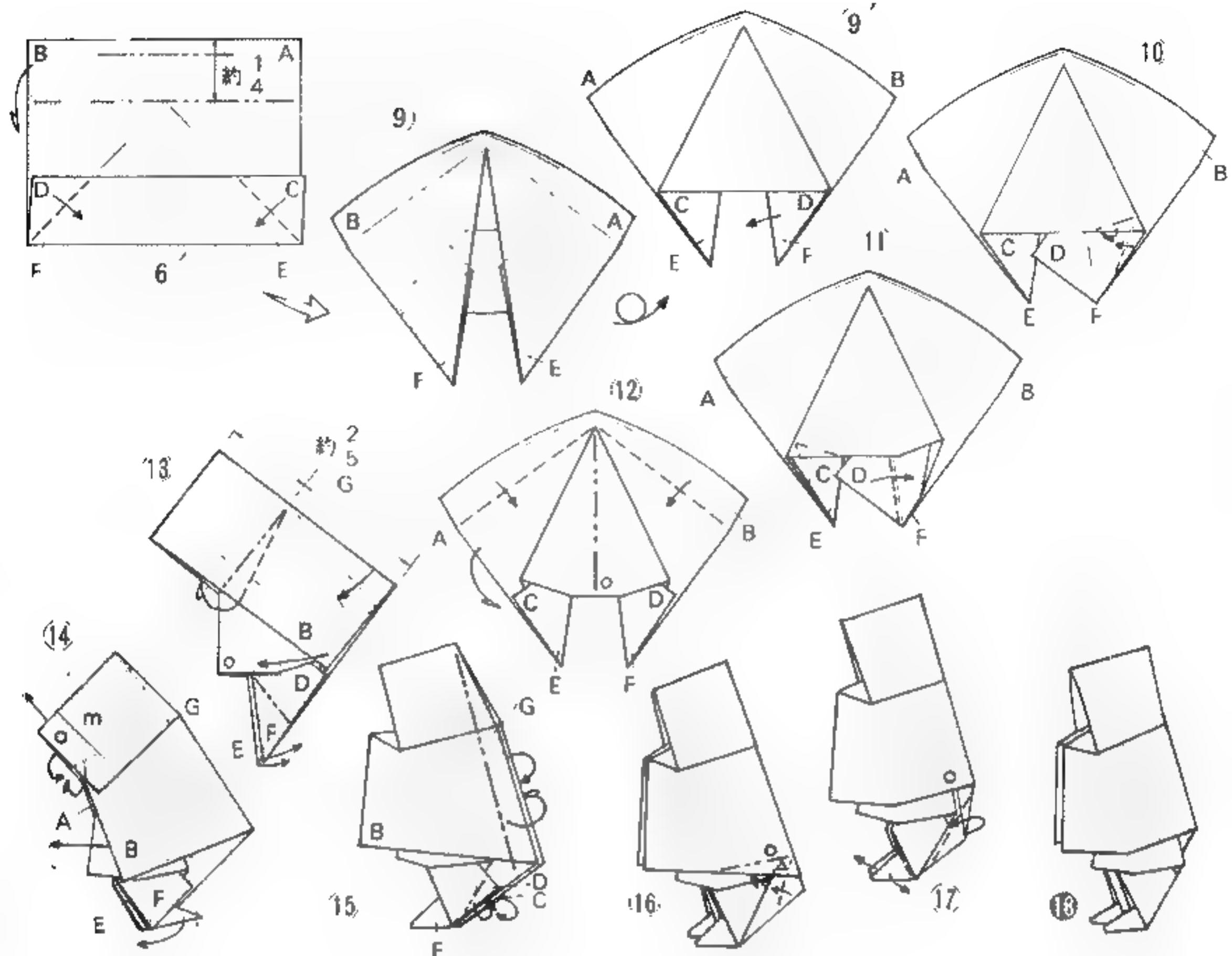
雪国の人々



その(一)

1 正方形の紙を図の割合に、AとBを表に、CとDを裏へ折る
2 AとBを開く 3. 印のところは折らないようにして、1と2の谷線を(4)(5)のようにして折り目をつけてから裏返す。(6) AとBを裏へ折り、CとDを折る 7 中心に折り目をつける。8は(4)5でつけた折り目をつまみ上げて、AとBには折り目をつけないようにして点線

へ折る。(9) 中心で折る。(10) EとFを持って、AとBを点線へずらして折って“みのぼっち”を作つてから、EとFを山線から折り返す。(11) 印の部分を山線から折り込み、EとFを折り返し、先を小さく折り込んで雪ぐつの形にして、先を左右に少し開く。(12) 出来上がり。
雪ぐつの中心に重心がゆくようすればよく立つ。



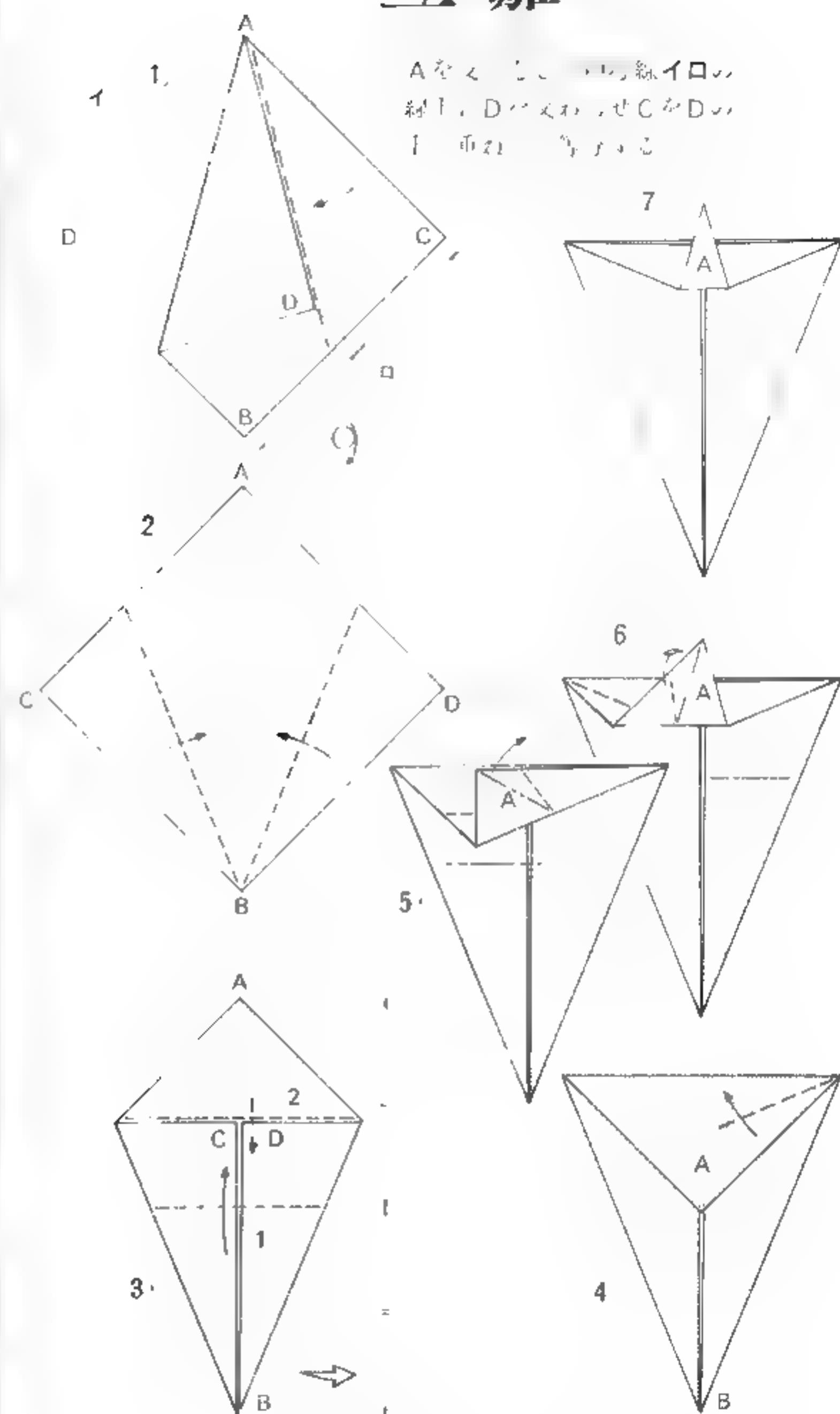
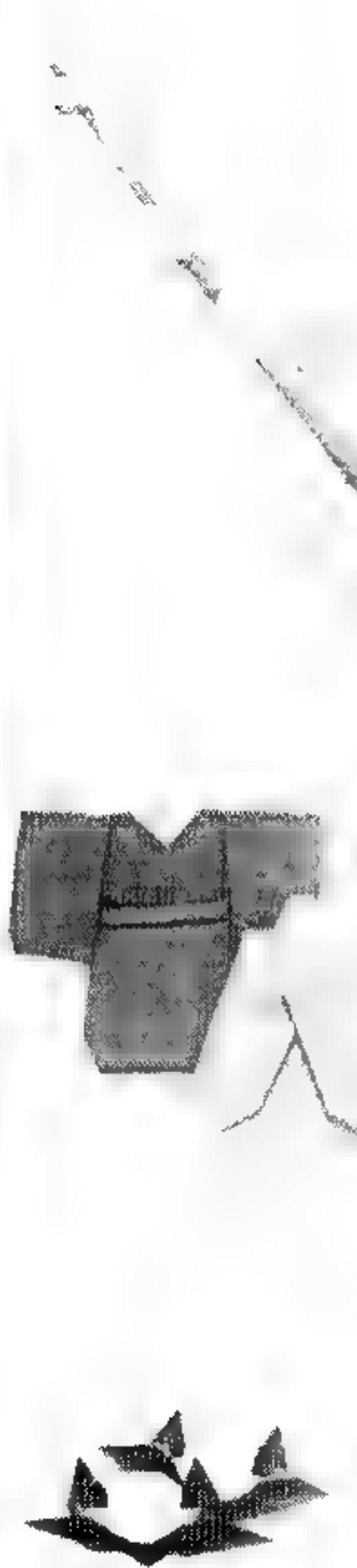
その(二)

「その(一)」の折り方で6まで折り、⁶AとBの間の山線の部分だけ折り目をつけ、9まで同じに折って裏返す。9'Dを久印に返す。10山線と谷線で間へ折り込む。11Dを久印にもどし、左側も同様に折る。12二つに折って平らにする。13Gを支点として山線と谷線に折り目をつけてBを欠印にずらし、裏側のAも同様に折り、EとFを折る。14EとFを持ってAとBを点線へずらし、折り目を押しつけて固定する。○印の部分を折り込

み、EとFを折って雪ぐつを作る。15Dと裏側のCを間へ折り込んでから、Gの部分をB側と裏のA側のそれぞれ山線から間へ折り込む。16山線と谷線で△印を△印の下へ折り込み、裏側も同様に折り込む。17後ろを折り込み、雪ぐつの下を左右に広げる。⑩出来上がり。

この折り方は紙の表と裏で、みのぼっちと着物の感じが出るようにしてありますから、それぞれの色を選んで重ねて折れば、男の子と女の子のかわいい姿になります。

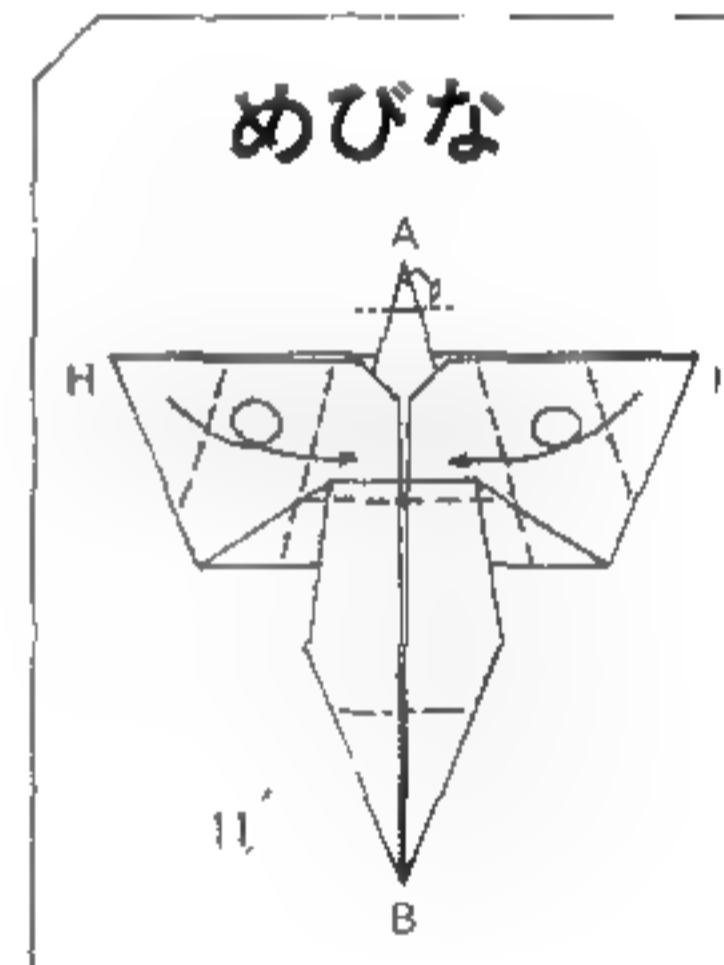
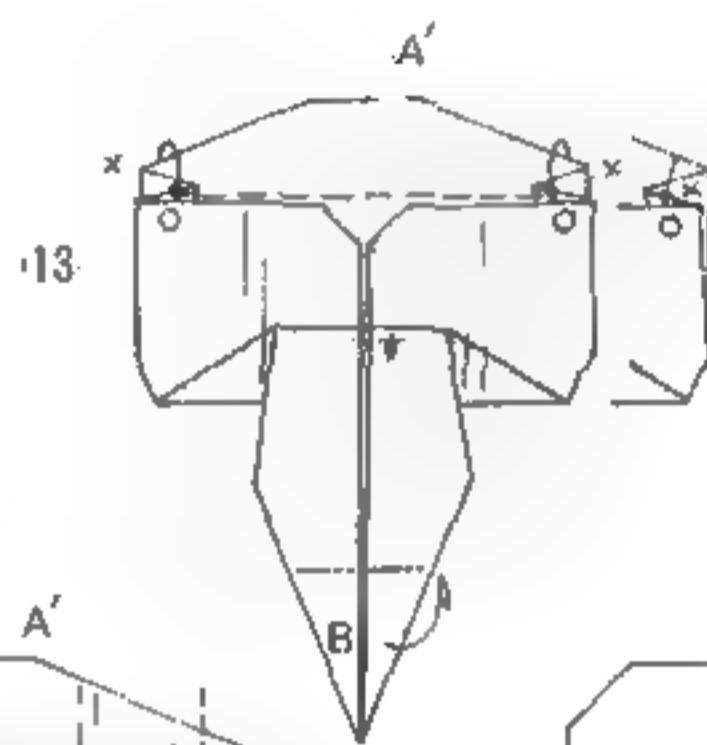
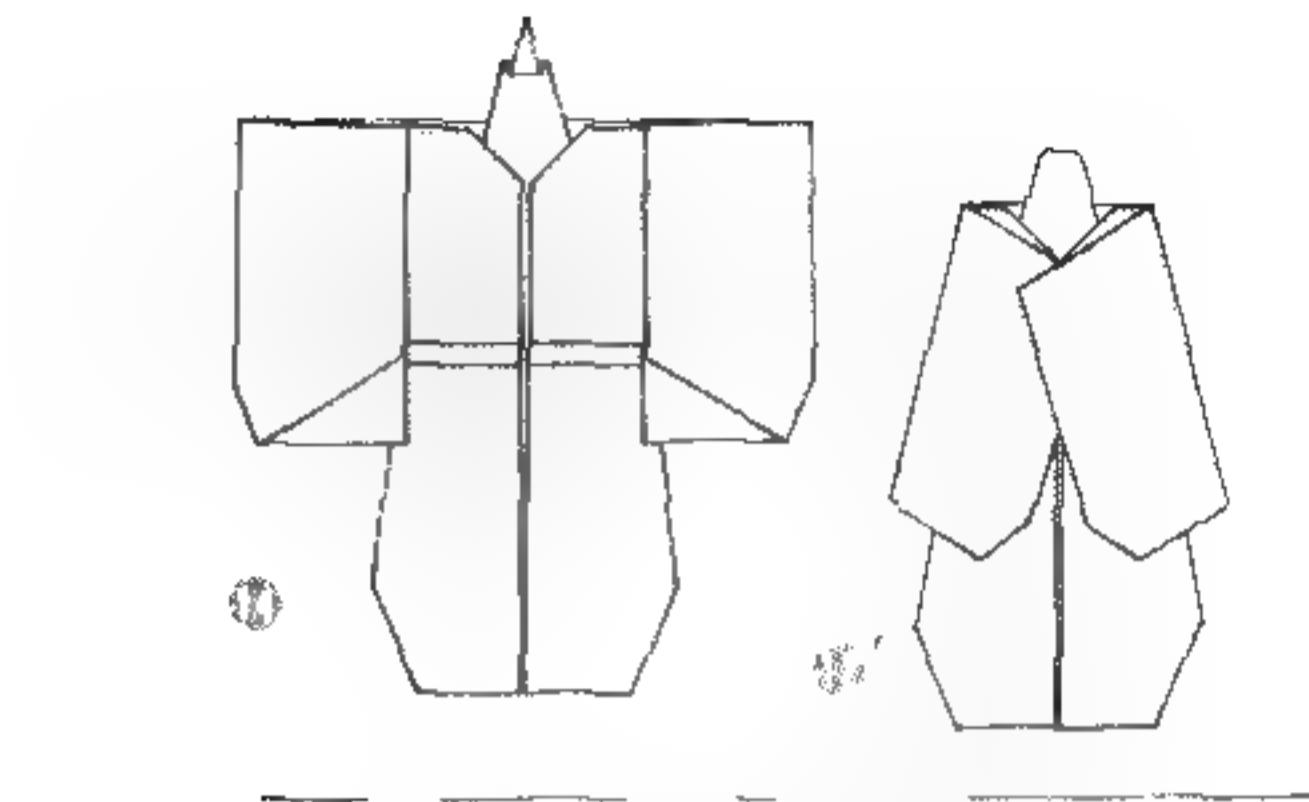
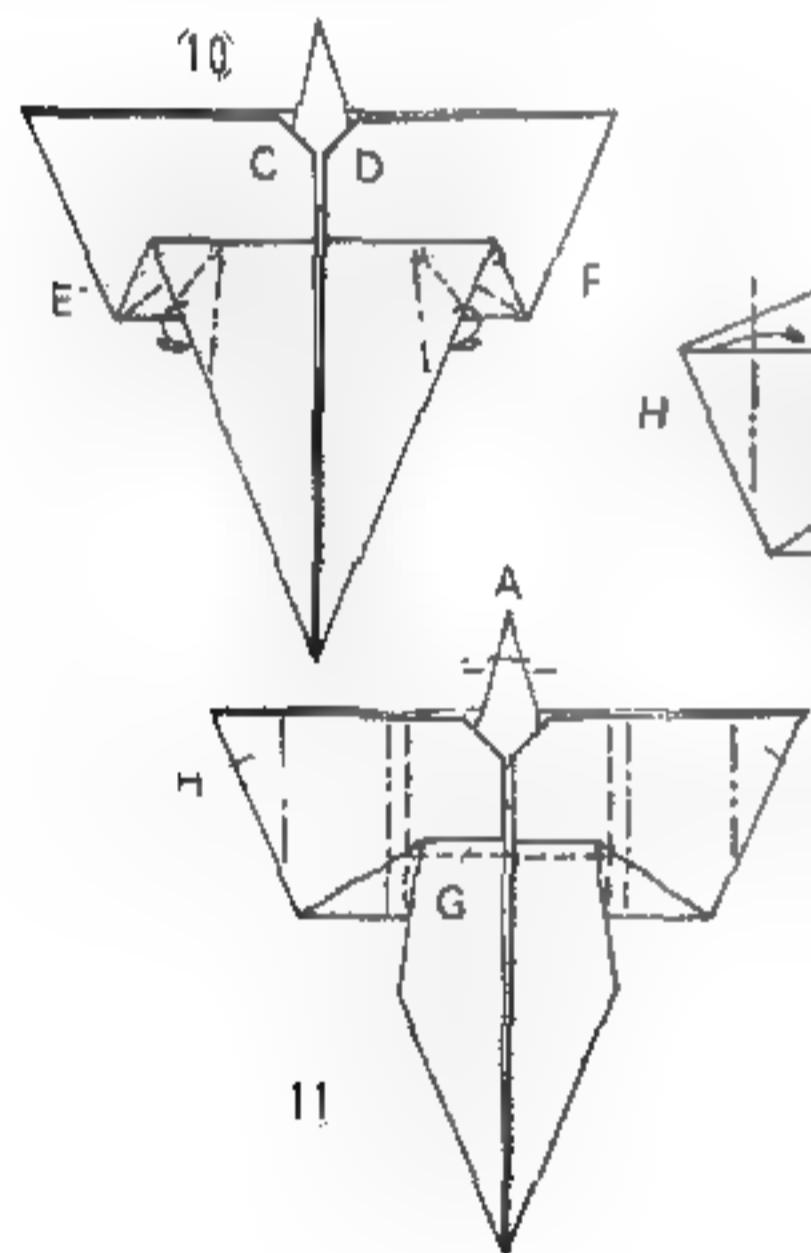
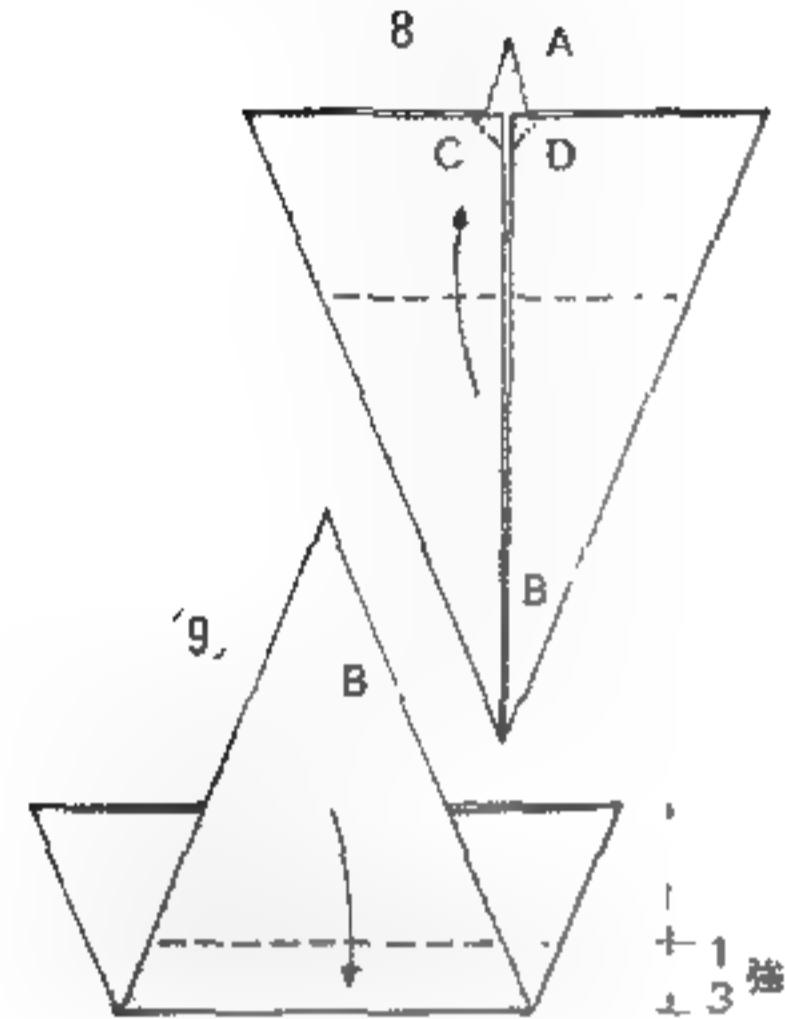
立雛



千代紙で作る場合は、柄の小さい上品な模様を選びます。厚紙を支えにして立てたり、色紙や短冊につけて飾ります。参考作品の短冊には桜と桃を配しました(折り方は44ページ)。古くは右近の桜、左近の桜といいましたが、ひな祭りはまた桃の節句とも呼んで、桃の花をそえるようになりました。

〈おびな〉(1裏の白い正方形のいろ紙を用い、Aのカドに二等分の折り目を、先のはうにだけつけ

おびな

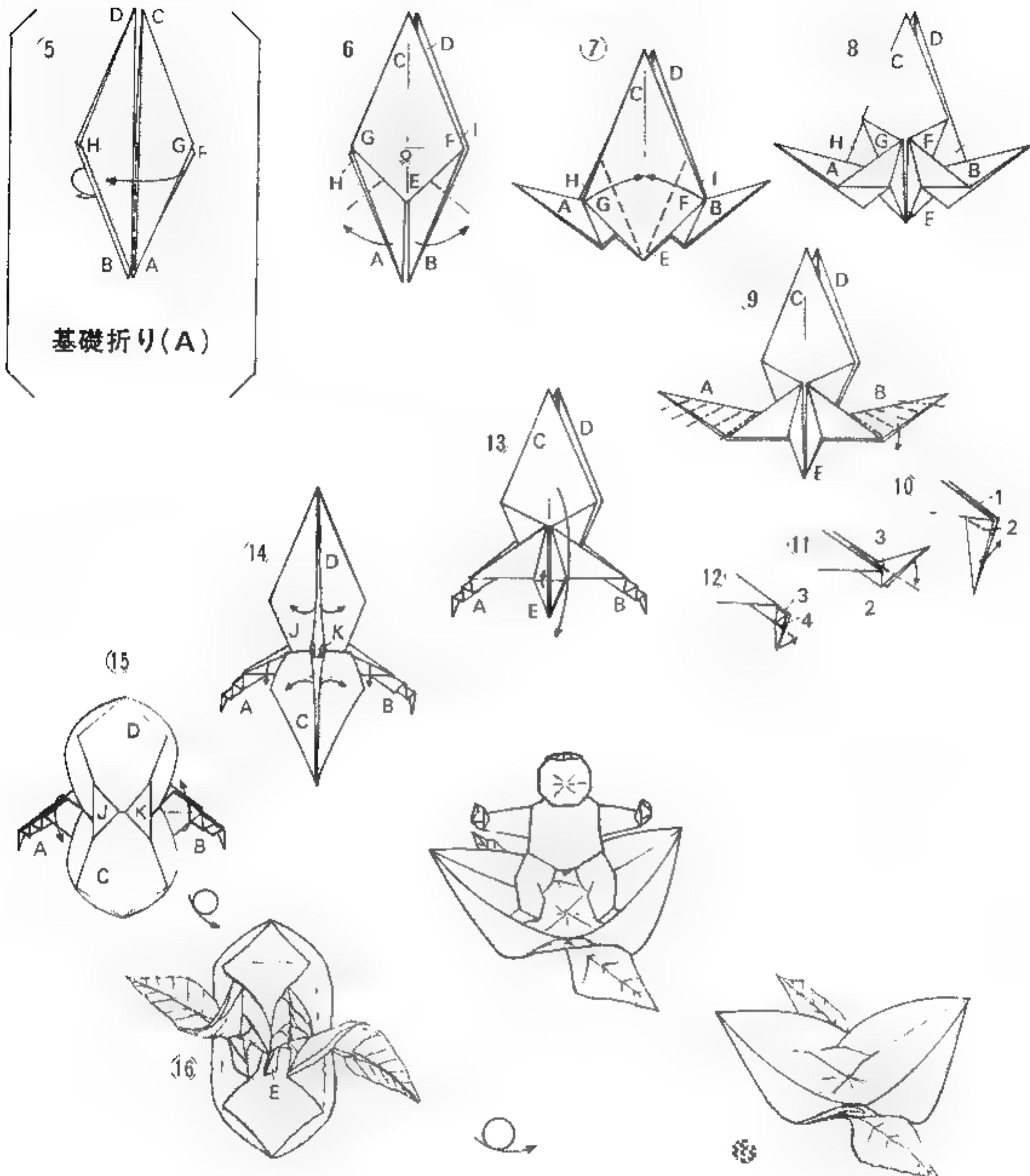


てのぼし、裏返す。2対角線ABに軽く折り目をつけ、CとDを対角線に合わせて折る。3 1の谷線に折り目をつけてのぼし、2の谷線を折る。(4) Aを斜めに折る。5 山線と谷線でAを立てる。(6) Aの左側を右側と同様に折って、Aの裏側に重ねる。(7) Aの裏側からCとDを引き出す。(8) CとDのカドを小さく間へ折って衿の形にととのえ、(9) で折った折り目でBを折り上げる。(10) Bを主強の高さから折り下げる。(11) 山線と谷線でEとFを折

り込む。山線と谷線でそれぞれに折り目をつけてから、衿の下から12のように開き出す。(12) HとIを中心に折り込む。(13) Hの内側に×印を差し込み、AをHの形にもどし、Bを裏へ折って形をととのえる。(14) 出来上がり

「めびな」 「おびな」 の11まで折り、11'AとB、HとIのカドを折って形をととのえる。(15) 出来上がり。「めびな」は「おびな」より小ぶりに仕上げるために、それぞれの折り込む分量を加減する。

桃太郎の桃

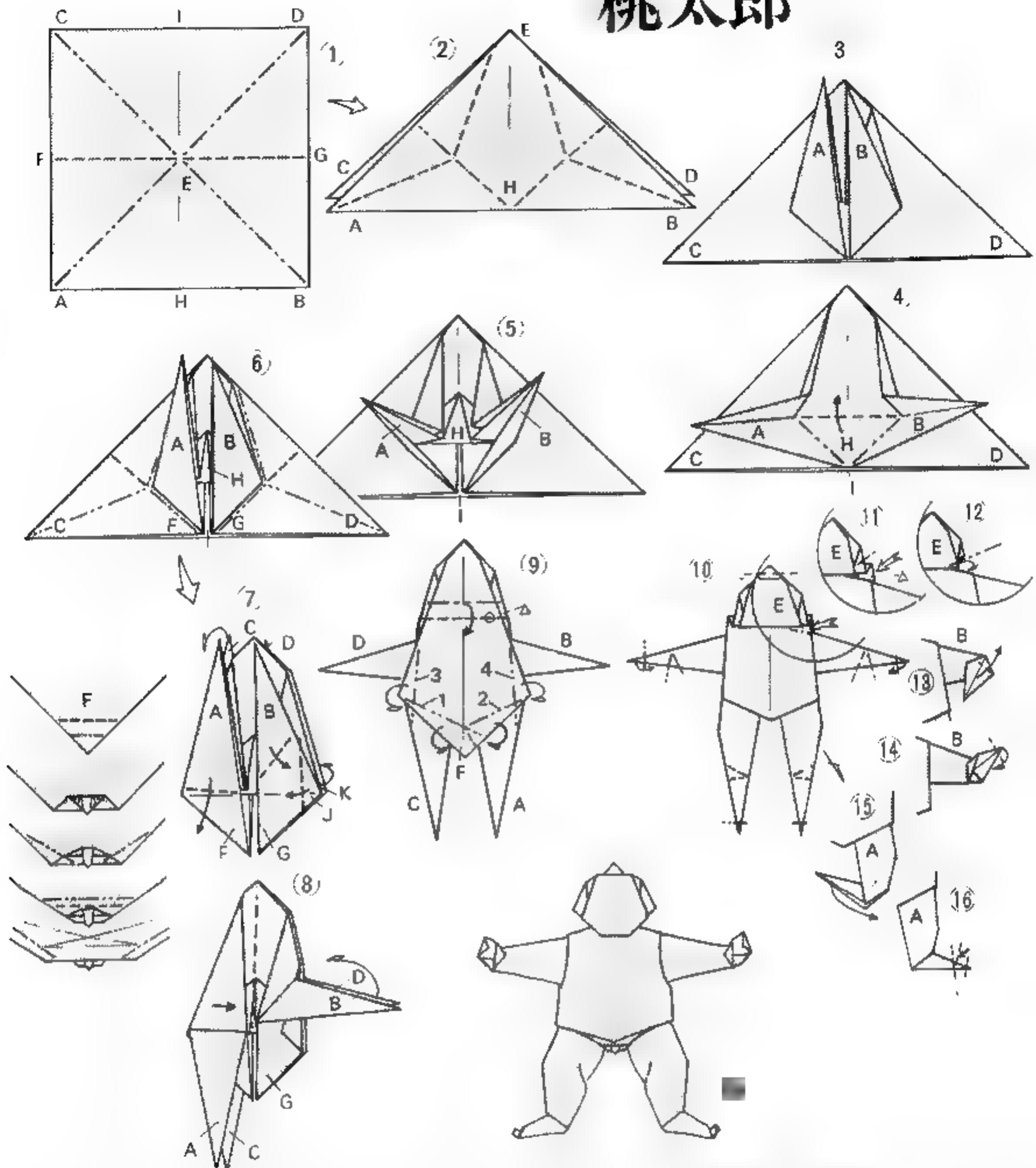


基礎折り(A)から折る。(5)↑を裏へ、Gを表に返す。(6)AをGHの間へ、BをFIの間へ折る。ABの付け根は△印の部分を残して、Eの袋の内側で折る。(7)FGを中心へ折る。(8)裏側のHIもFGと同様に折る。(9)ABを部分⑩⑪⑫のように折る。(10)Eを折り上げてから、Cを折り下げる。(11)CDを矢印に大きく開きながら、JKを下のほうまで広げて

平らにする。(12)ABの付け根を、丸のほうでねじって葉の形に広げ、Eをつまんで折り元の柄にする。(13)出来上がり

桃の中の赤ちゃんは右ページの桃太郎の折り方で、Eの袋状になっているところを丸やかに広げてから、↑のほうを少しつまんで前に折り、芥子坊主にして赤ちゃんの産毛にみたてたものです。

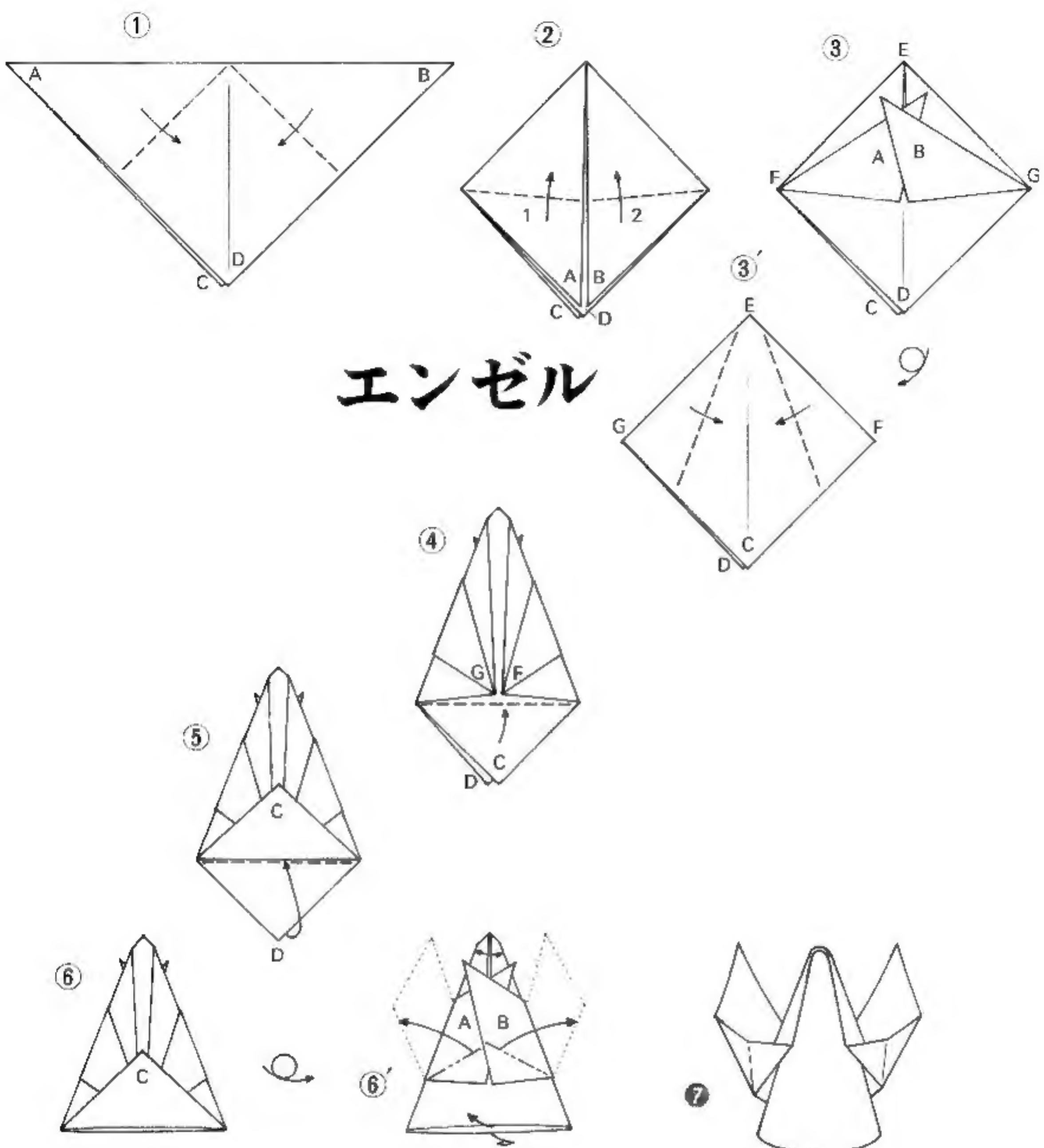
桃太郎



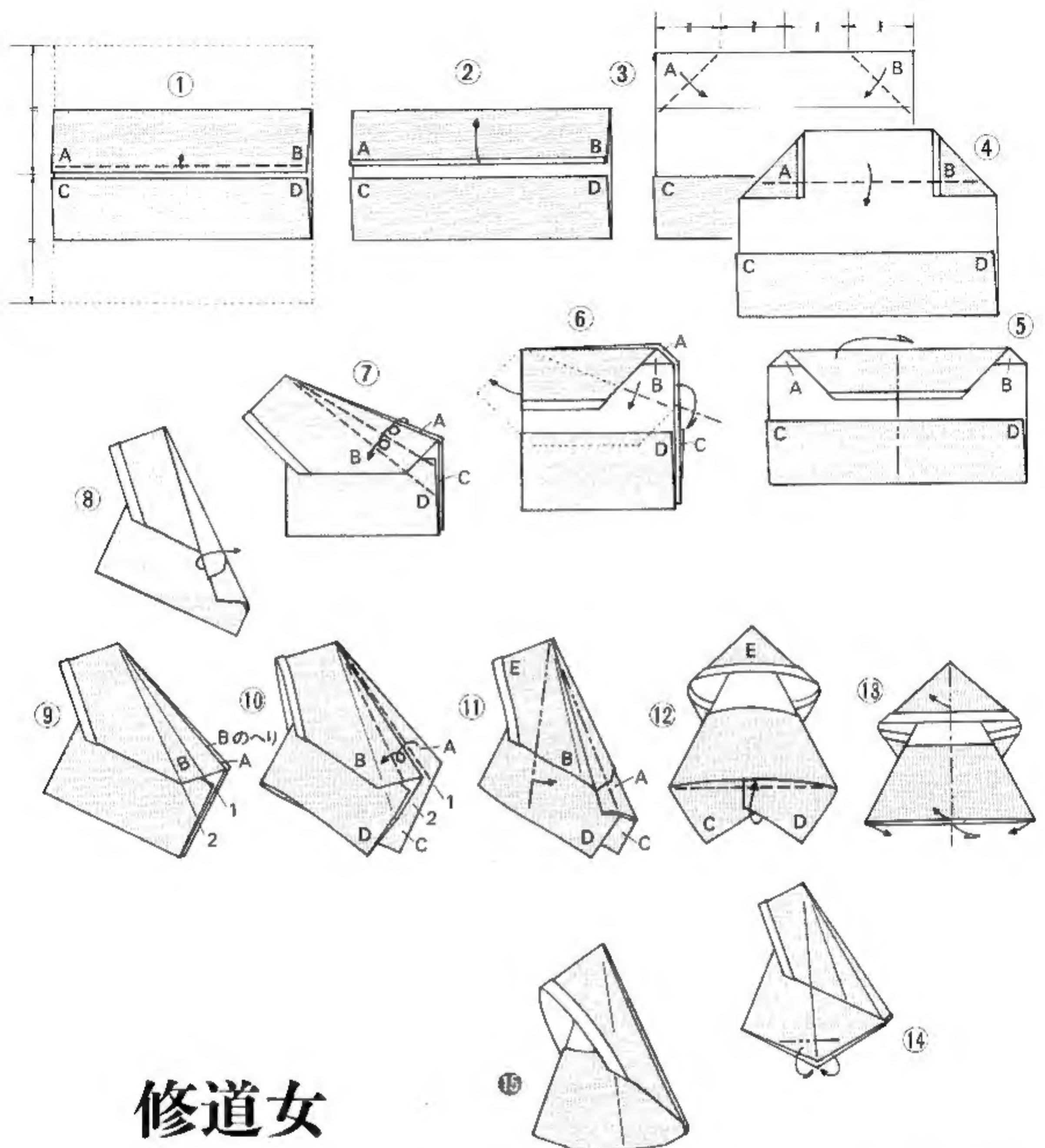
日本の男の子を象徴したもので、ただかわいらしさだけでなく、力強さを表現します

1 正方形の紙を山線と谷線で折りまとめる。
2 AとBをそれぞれつまみ上げる。3 半開きにして4~5のようにしてHを折り上げる。6 CD+を裏側へABHと同様に折る。7 JKを折ってから、BDを横に折り、ACを少し斜めに折り下げる。8 開きかえる。9 腹の部分を1~4の順に折り込んでから、首の部分に段をつける。10 首の付け根を一枚だけ欠

印に折り込む(9図の印の部分)つづいて11を欠印に折り込む(9図の△印の部分)。12頬の下を折り込んで顔の輪郭を作る。この場合、折り込んだ紙が首すじや肩から見えないように折る(見えない小さな部分でも、きれいに折る)。13~14で手、15~16で足を作り、腕の付け根を袖ぐりの曲線につまみ折りにして、腹掛けをかけた感じにして、形をととのえる。17出来上がり。



①正方形の紙を対角線に折り、A
Bを折り下げる。②1、2の順に折
る。③裏返す。③'上方を少し残し
てFGを折る。④Cを折り上げる。
⑤DをCの下のへりに合わせて谷線
に折り目をつけてから、中へ入れる。
⑥裏返す。⑥'ABを矢印に開き出し、
上のカドを頭の形にととのえる。⑦
出来上がり。



修道女

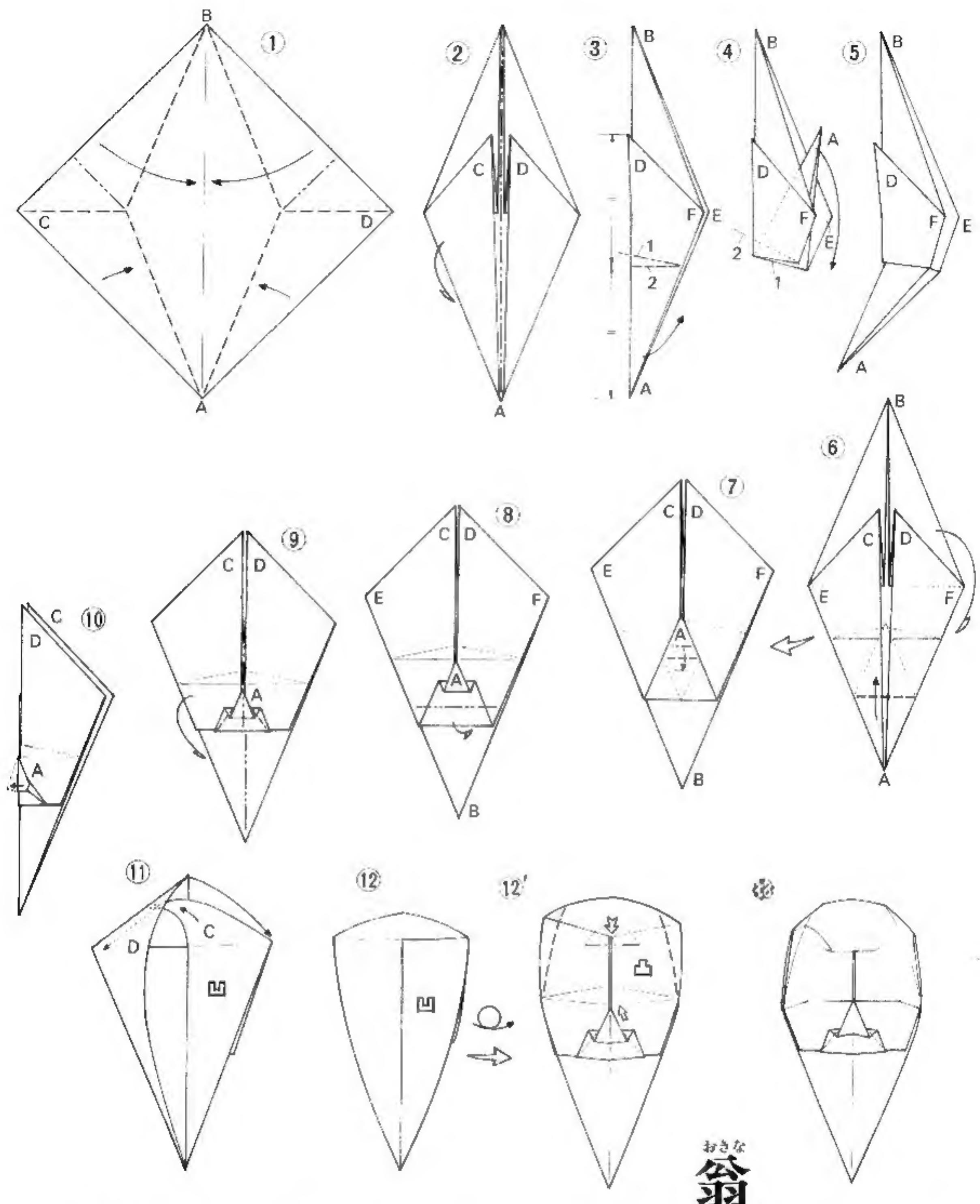
人の姿を造形の対象として、単純な折り線構造で敬虔な祈り、静かでしかも親しみのある姿に表現しました。

かぶりものの縁の分量や、折り目のつけ方で感じが違ってきます。

〈折り方〉

裏の白い黒の紙を用いる。①正方形の紙の $\frac{1}{2}$ の線にCDを合わせて折り、ABは $\frac{1}{2}$ の線より少しあけて折ってから、細く折り返す。②上側だけ開く。③④⑤それぞれ矢印に折る。

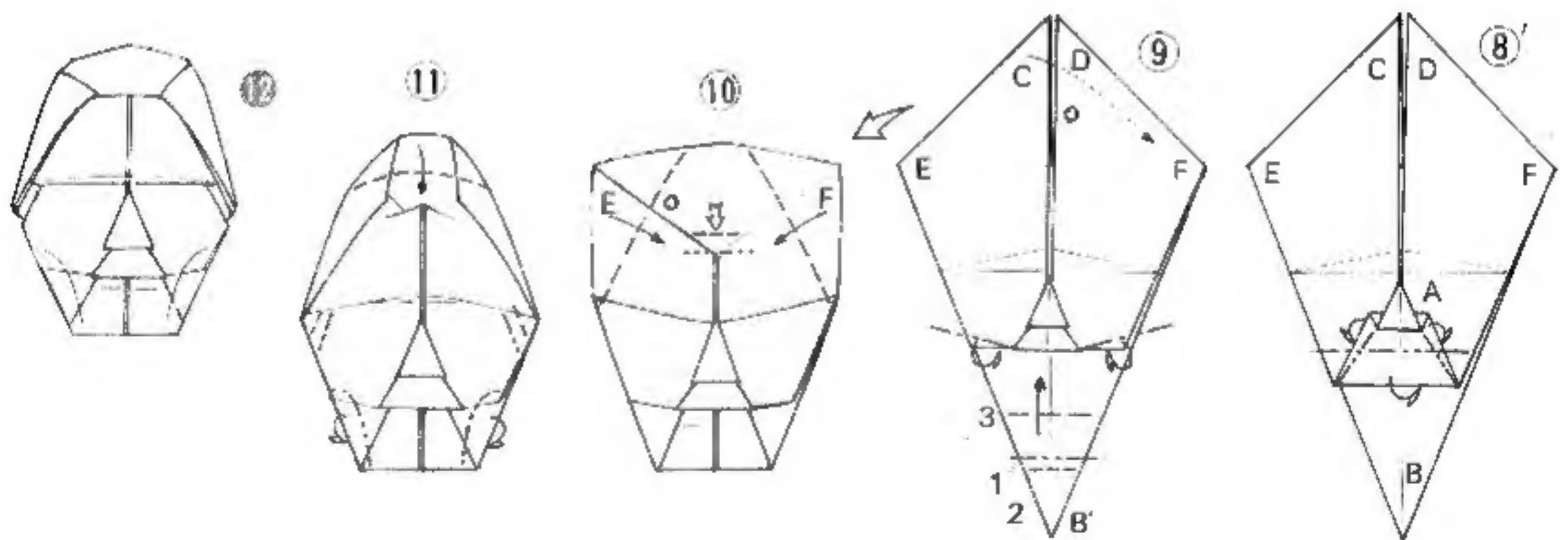
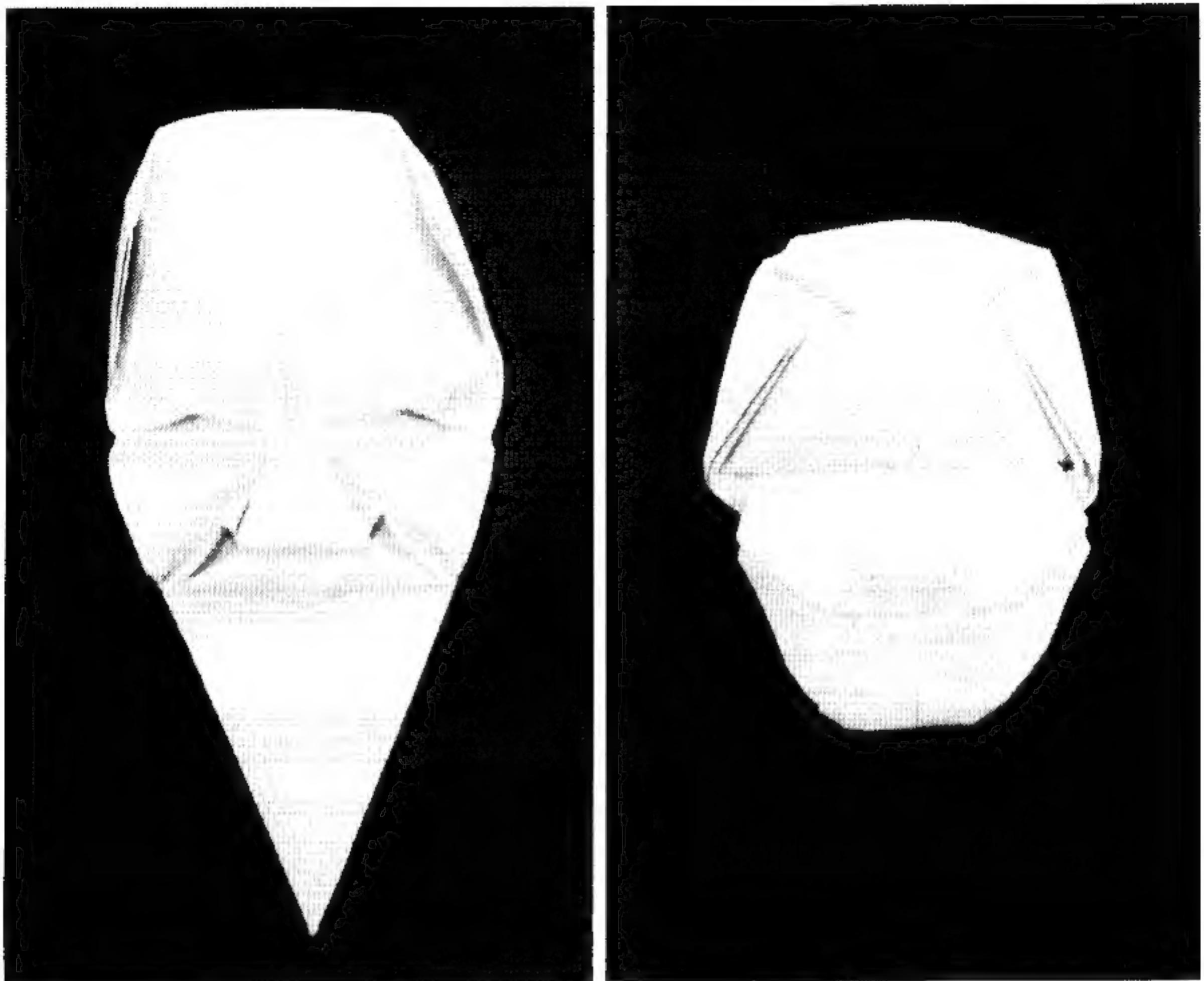
⑥Bの谷線を（その延長の点線の下を袋の内側で）折り、Aも裏側へ同様に折る。⑦⑧折り目をつけてもどす。⑨Aの1の折り目に、Bのへりをずらして合わせる。⑩AをBにかぶせてから、重ねたままもう一度折る。⑪A・Bをはずれないように持って、中を袋状にして⑫のようにする。⑫CDを中へ折る。⑬開いて折りかえる。⑭下のカドを折り込んでから、丸みをもたせて形をととのえる。⑮出来上がり。



①正方形の紙を山線と谷線で②のように折ってから二つに折る。③④Aを1の山線でE-Fの間へ折り、2の谷線で折り返す。⑤を平らにする。⑥Bを折り下げる、Aを点線へ折る。⑦鼻の大きさを考えてAに段をつける。⑧矢印に間へ折る。⑨⑩Aの左右のカドを折ってから二つに折り、Aを引き出してから、⑪の

ようにしてDの袋へCを入れると、裏側が舟底のようにひっこむ⑫。⑫裏返す。⑫'額の矢印に押し込んで平らに押しつぶし、左右のカドを折ってから、目のところを③～⑤で折った折り目で折り込み、目と目の間を少し平らにして形をととのえる。⑬出来上がり。

おきな 翁



おうな
鳩

翁の⑧まで同じように折り、⑧'Aの左右を折ってから、その下を間へ折る。⑨上あごの左右のカドを間へ折り、Bの1の山線と2の谷線に折り口をつけてのばしてから、3の谷

線で上あごの下へ入れ、Dの袋へCを入れる。⑩額の矢印に押し込んでから、E Fを折る。⑪額の左右に斜めに段をつけ、それぞれ矢印に折って形をととのえる。⑫出来上がり。